

青森市障がい福祉計画及び
(仮称) 青森市障がい者総合プラン策定に係る
アンケート調査報告書

令和5年12月 青森市

目 次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	2
II	調査結果	3
1	障がいのある方の調査	4
1-1	記入者・年齢について	4
	◇ お答えいただくのは、どなたですか。	4
	◇ あなたの年齢をお答えください。	4
	◇ あなたの性別をお答えください。	5
	◇ あなたがお住まいの地域をお答えください。	5
1-2	日常生活・介助などについて	6
	問 1 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。	6
	問 2 あなたの介助や介護は、主にどなたが行っていますか。	10
	問 2-2 あなたの主な介護者のかたの年齢、健康状態、仕事の有無などをお答えください。	11
1-3	障がいの状況について	18
	問 3 あなたがお持ちの手帳の種類と等級を教えてください。	18
	問 4 あなたは難病（原因が不明で治療方法が確立していない病気）にかかっていると診断 されていますか。	20
	問 5 あなたは発達障がいと診断されたことがありますか。	20
	問 6 あなたは強度行動障がいと言われたことがありますか。	21
	問 7 あなたは高次脳機能障がいと診断されたことがありますか。	21
	問 7-2 【問 7 で「はい」と答えたかたにお聞きします】その関連障がいをお答えください。	22
	問 8 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。	22
1-4	住まいや暮らしについて	23
	問 9 あなたは現在どこにお住まいですか。	23
	問 9-2 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。	24
	問 10 あなたは将来（今後 3 年以内に）、どのような暮らしをしたいと思いますか。 ...	25
	問 11 希望する暮らしを送るために、どのような支援があればよいと思いますか。	27
1-5	サービスの利用状況や今後の利用動向などについて	31
	問 12 あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。	31

問 13	あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。	33
問 13-2	該当する要介護度はどれですか。	34
問 13-3	利用している介護保険サービスはどれですか。	35
問 14	次の障がい福祉サービスの中に、あなたが利用しているものがありますか。	36
問 14-2	市外にある事業所を利用している場合、そのサービスの番号をお書きください。	42
問 15	現在利用している障がい福祉サービスも含めて、今後 3 年以内に利用したいと思う サービスをお答えください。	43
問 16	あなたは介護保険サービスや障がい福祉サービスに関する情報を、どこから得るこ とが多いですか。	53
1 - 6	外出や移動手段について	57
問 17	あなたは、1 週間にどの程度外出しますか。	57
問 18	あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。	58
問 19	あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。	59
問 20	あなたは、どのような手段で外出することが多いですか。	60
問 21	外出時に困ることは何ですか。	61
1 - 7	日中活動や就労・就学について	63
問 22	あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。	63
問 22-2	あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。	67
問 22-3	収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたと思いますか。	67
問 23	あなたは、障がいのあるかたの就労支援として、どのようなことが必要だと思いま すか。	68
問 24	あなたは、障がいのあるかたの教育や、学校生活について、さらに充実させるべき と思う点がありますか。	72
1 - 8	相談相手について	76
問 25	あなたは現在、どのような悩みごとや心配ごとがありますか。	76
問 26	あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。	80
1 - 9	権利擁護について	84
問 27	あなたは、障がい者差別解消法が改正され、令和 6 年 4 月から事業者による障がい のあるかたへの合理的配慮が義務化されることを知っていますか。	84
問 28	あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験があります か。	85
問 28-2	あなたは、どのようなとき・場所で差別を受けたり、いやな思いをしましたか。	86
問 28-3	あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした際にどこに相 談しましたか。	90

問 29 障がいのあるかたへの差別がなくなるために、障がいや障がいのあるかたに対する理解啓発が今以上に進むとよいと思う先はどこですか。	94
問 30 あなたは、平成 29 年 4 月 1 日に施行された「青森市障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」をご存じですか。	98
問 31 あなたは、障がいや障がいのあるかたへの理解を深めるためにどういった取り組みが必要だと思いますか。	99
問 32 あなたは、令和 2 年 4 月 1 日に施行された「青森市手話言語の普及及び多様な意思疎通の促進に関する条例」をご存じですか。	103
問 33 あなたは、手話や多様な意思疎通の普及・啓発を促進するために、どういった取組が必要だと思いますか。	104
問 34 あなたは成年後見制度をご存じですか。	108
1 - 1 0 災害時の避難等について	109
問 35 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。	109
問 36 火事や地震等の災害時に、家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。	110
問 37 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。	111
問 38 災害時の支援体制について、どのようなことを希望しますか。	115
1 - 1 1 その他の事項について	119
問 39 あなたは、青森市は障がいのあるかたにとって暮らしやすいまちだと思いますか。	119
問 40 障がいのあるかたが地域で自立して生活を送るために、重要だと思うことは何ですか。	120
2 事業所調査	124
問 1 基本情報について	124
問 2 運営状況について	124
問 3 利用者数及び今後の動向等について	128
問 4 地域生活への移行について	130
問 5 貴事業所からの一般就労への移行について	132
問 6 貴事業所の重症心身障がい児（重度の肢体不自由と重度の知的障がい重複した障がい児）の受け入れについて	134
問 7 貴事業所の医療的ケア（痰吸引や経管栄養など）児の受け入れについて	135

I 調査概要

1 調査目的

青森市障がい福祉計画第7期計画（障がい児福祉計画を含む）策定及び（仮称）青森市障がい者総合プラン策定に先立ち、障がいのある方のニーズや意見を幅広く把握し、また、指定障害福祉サービス事業所等におけるサービスの提供体制を把握し、計画に反映させるための基礎資料とするためアンケート調査を実施しました。

2 調査設計

（1）調査対象者

①障がいのある方

身体障害者手帳、愛護手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳所持者 計 2,500 人

②事業者

青森市内に指定障害福祉サービス事業所等を有する法人 計 176 法人 363 事業所

（2）調査期間

令和5年10月1日～10月20日

（3）抽出方法

①障がいのある方

市内に住所を有する身体障害者手帳、愛護手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳所持者のうち、年齢等を考慮し、手帳所持者数の割合で按分して無作為抽出。

②事業者

全ての事業者を対象

（4）調査方法

①障がいのある方

郵送配布・郵送回収により実施しました。

②事業者

メール配布・メール回収により実施しました。

3 回収結果

区分	障がいのある方	事業所
配付数	2,500	363
回収数	1,293	184
回収率	51.7%	50.7%

4 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。
- (2) 基数となるべき実数は、件数または調査数として掲載しました。比率は、この件数を100%として算出しています。
- (3) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数を回答数（その項目を選び○印をつけた数）としています。
- (4) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、簡略化して掲載している場合があります。
- (5) 2種類以上の障がい者手帳を所持している方は「重複障がい」として算出しています。
- (6) 「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」「重複障がい」のいずれにも該当しないものや、障がい者手帳の所持の有無について「無回答」と回答した方は「無回答等」として算出しています。

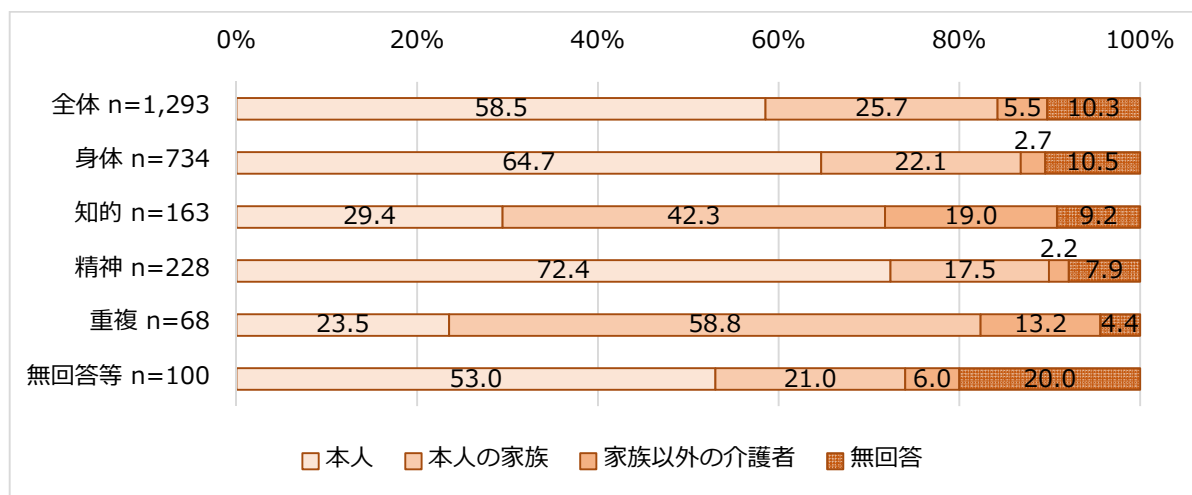
Ⅱ 調査結果

1 障がいのある方の調査

1-1 記入者・年齢について

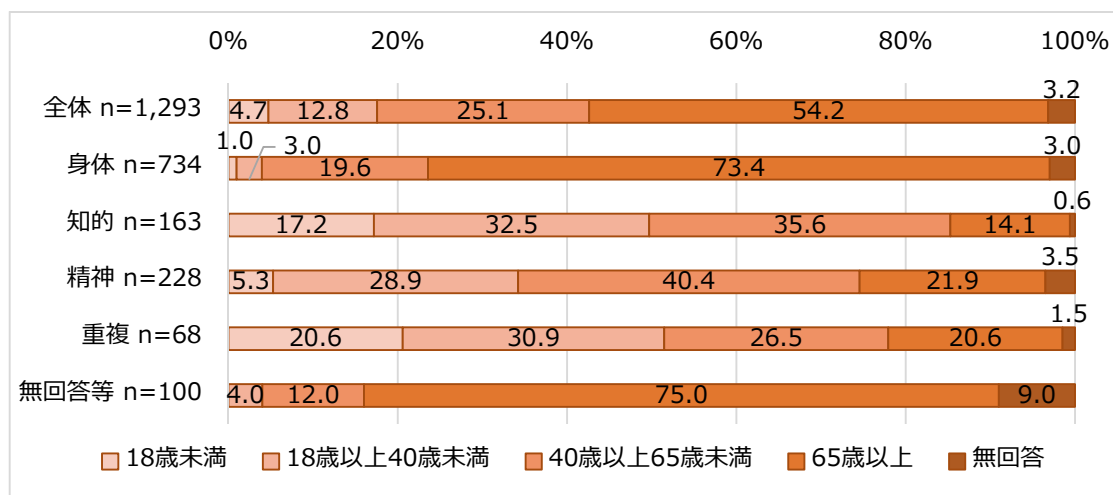
◇ お答えいただくのは、どなたですか。

- 調査票の記入者については、「ご本人」が 58.5%と最も多く、次いで「本人の家族」が 25.7%、「家族以外の介護者」が 5.5%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「ご本人」が最も多くなっています。知的障がい、重複障がいでは「本人の家族」が最も多くなっています。



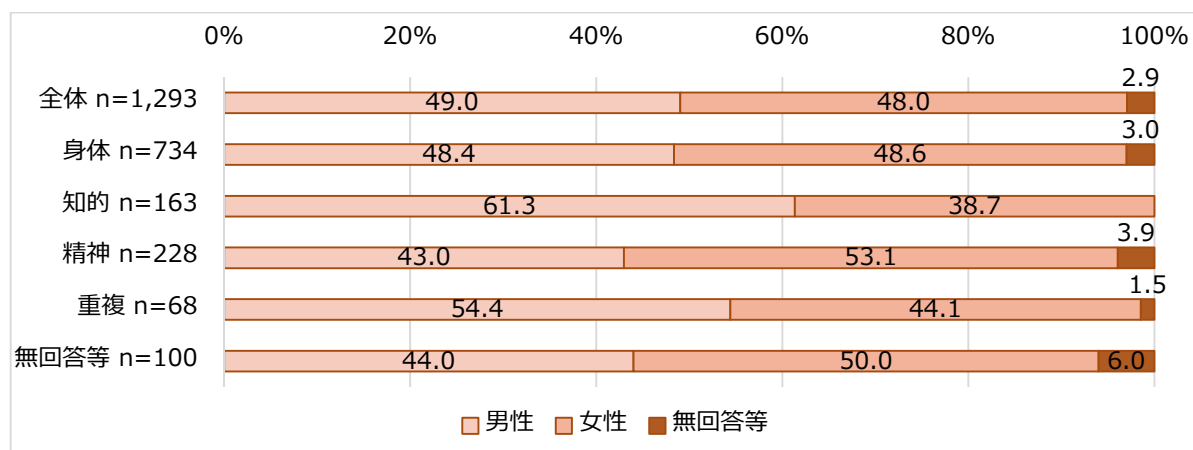
◇ あなたの年齢をお答えください。

- 回答者の年齢については、「65 歳以上」が 54.2%と最も多く、次いで、「40 歳以上 65 歳未満」が 25.1%、「18 歳以上 40 歳未満」が 12.8%となっています。
- 障がい別にみると、最も多い年齢層は、身体障がいでは「65 歳以上」が 73.4%、知的障がいでは「40 歳以上 65 歳未満」が 35.6%、精神障がいでは「40 歳以上 65 歳未満」が 40.4%、重複障がいでは「65 歳以上」が 20.6%となっています。



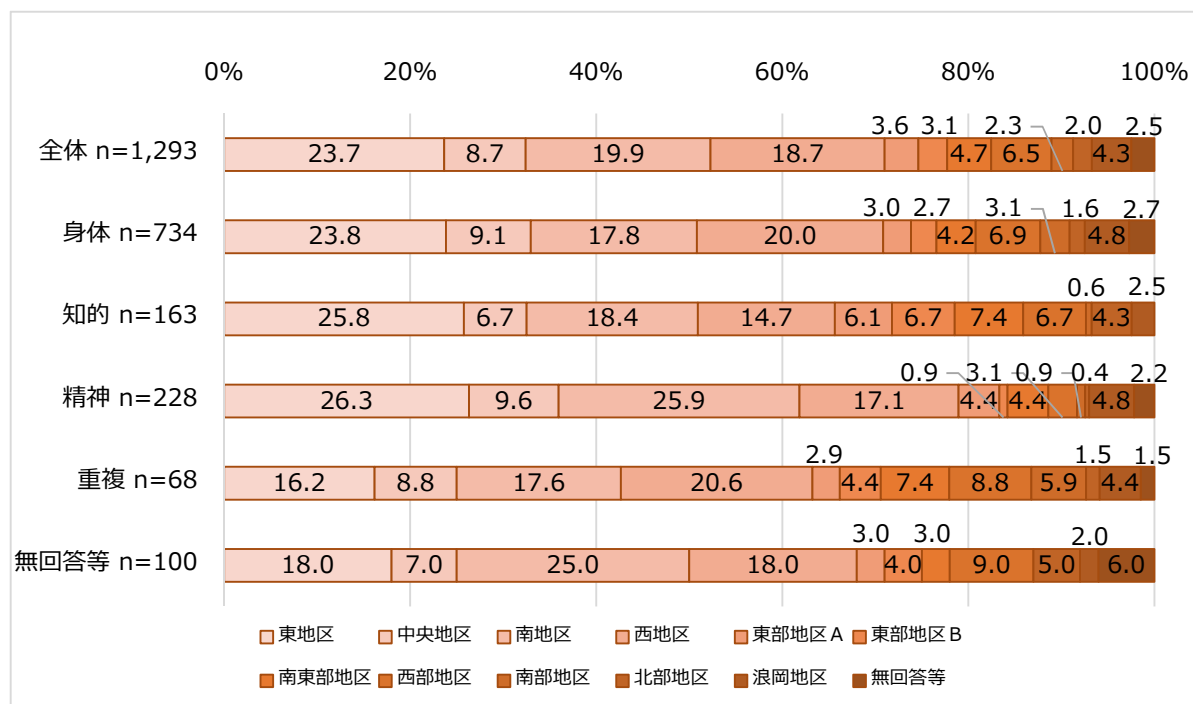
◇ あなたの性別をお答えください。

- 性別については、「男性」が49.0%と最も多く、「女性」が48.0%、「無回答等」が2.9%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がい、重複障がいでは「男性」が最も多くなっています。身体障がい、精神障がいでは「女性」が最も多くなっています。



◇ あなたがお住まいの地域をお答えください。

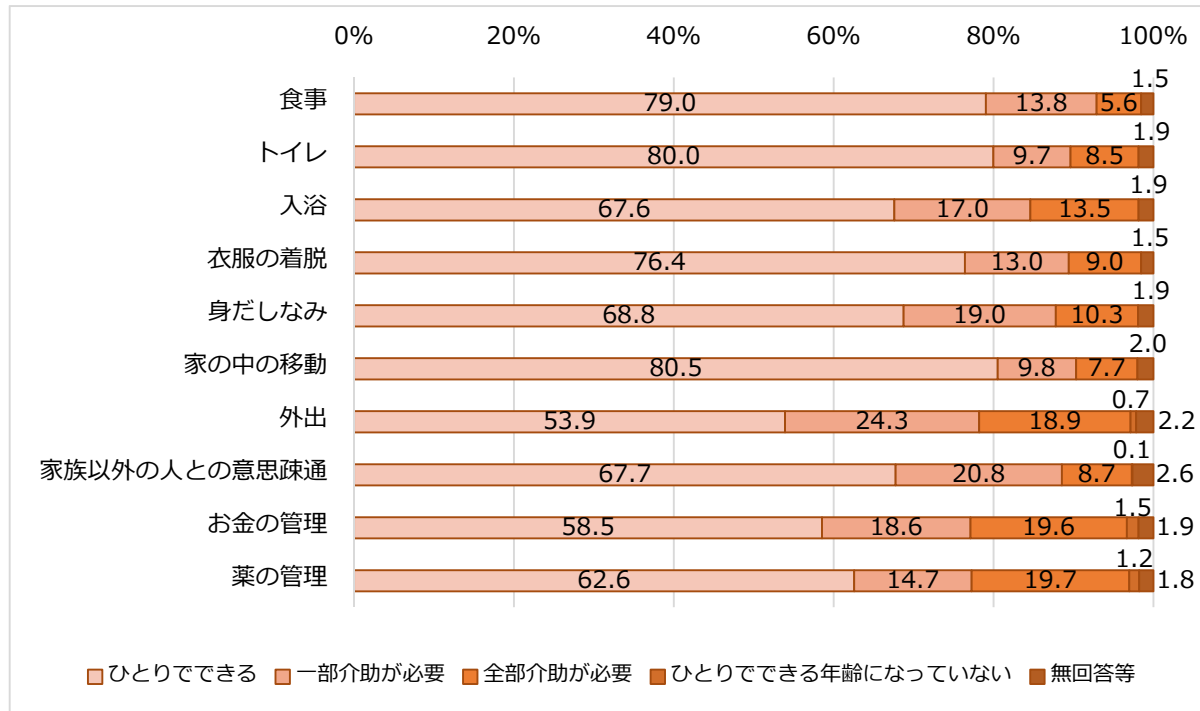
- お住まいの地域については、「東地区」が23.7%と最も多く、次いで「南地区」が19.9%、「西地区」が18.7%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がい、知的障がい、精神障がいでは「東地区」が最も多くなっています。重複障がいでは「南地区」が最も多くなっています。



1-2 日常生活・介助などについて

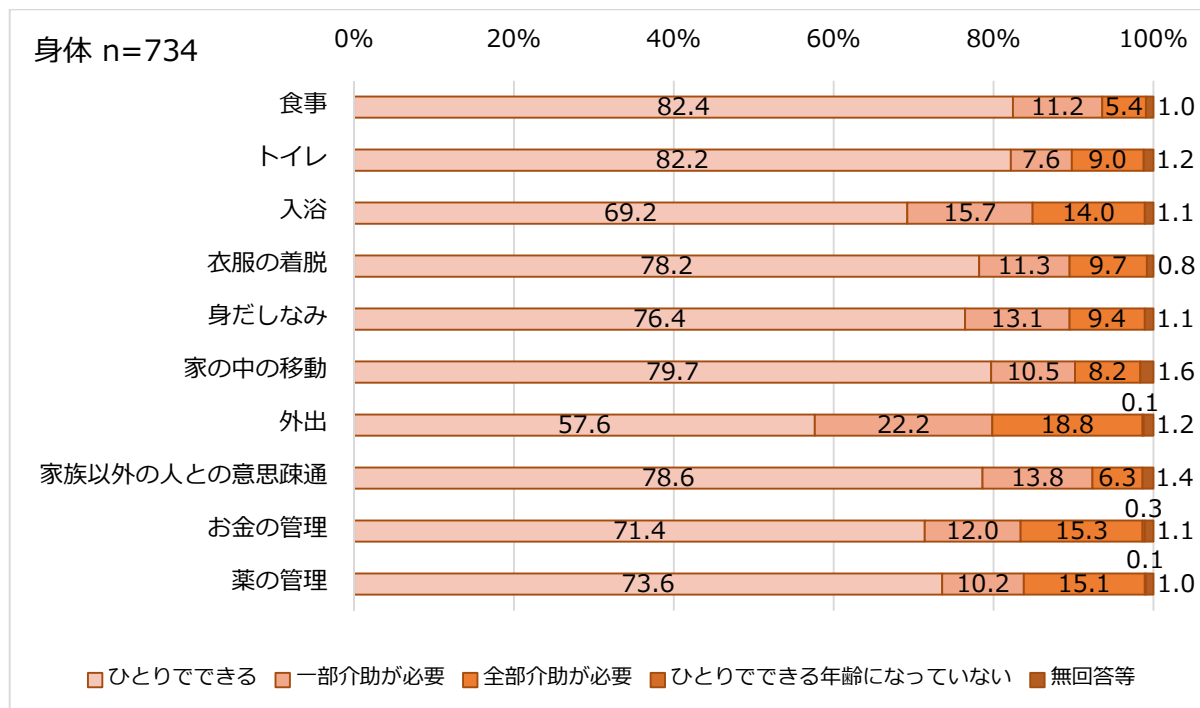
問1 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

- 障がい者の日常生活動作の介助の必要性については、「一部介助が必要」「全部介助が必要」を合わせた“介助を必要とする人”の割合が、「外出」「お金の管理」「薬の管理」「入浴」で多くなっています。



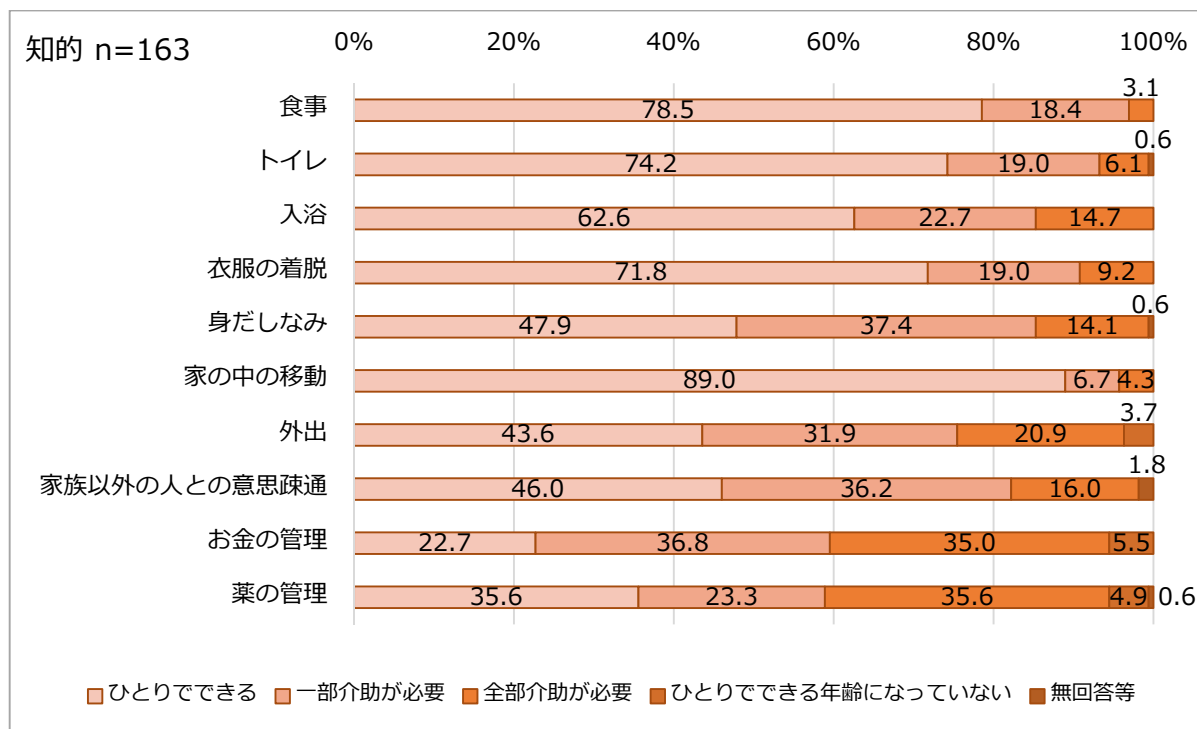
《身体障がい》

- 身体障がいでは、「外出」で“介助を必要とする人”が4割程度と多くなっています。



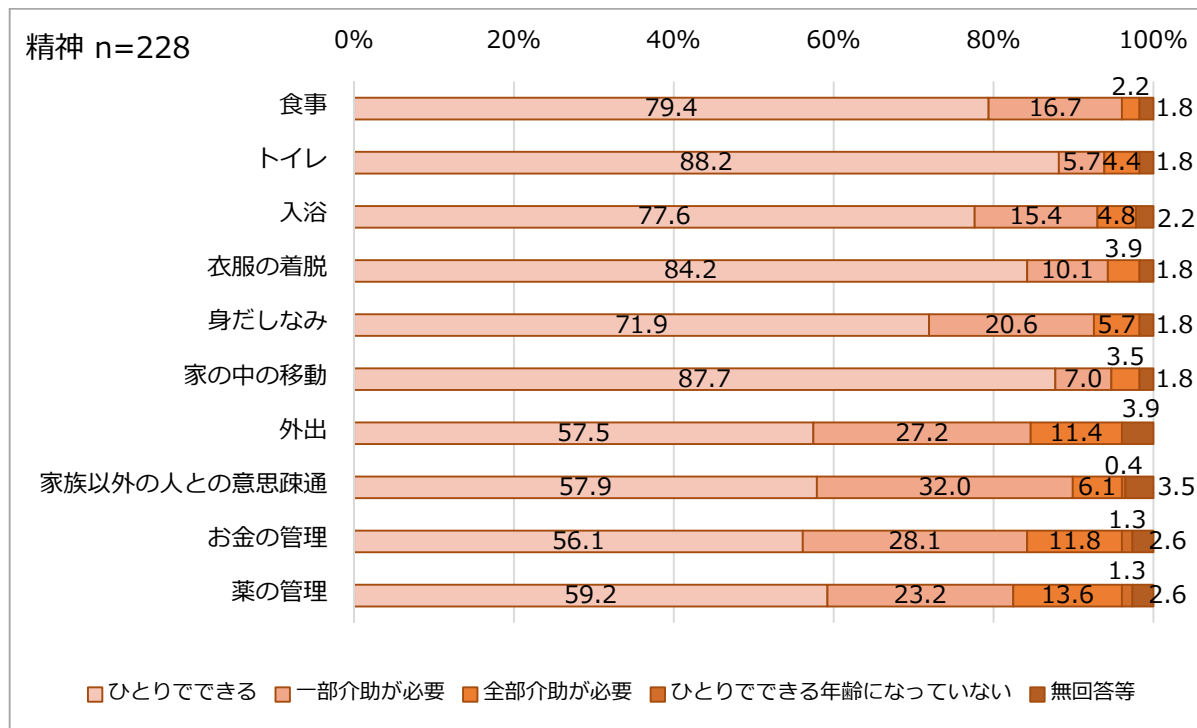
《知的障がい》

- 知的障がいでは、「お金の管理」「薬の管理」「家族以外の人との意思疎通」「外出」「身だしなみ」で、“介助を必要とする人”が5割以上と多くなっています。



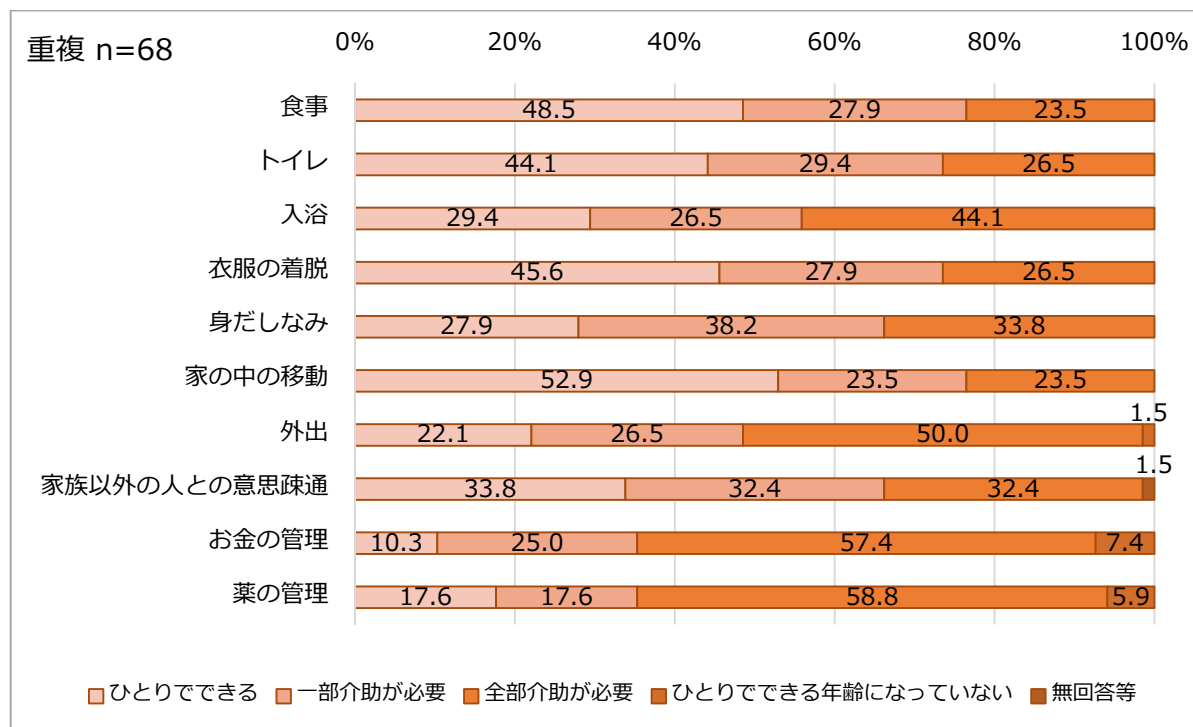
《精神障がい》

- 精神障がいでは、「外出」「家族以外の人との意思疎通」「お金の管理」「薬の管理」で、“介助を必要とする人”が4割以上と多くなっています。



《重複障がい》

- 重複障がいでは、「外出」「家族以外の人との意思疎通」「お金の管理」「薬の管理」で、“介助を必要とする人”が6割以上と多くなっています。



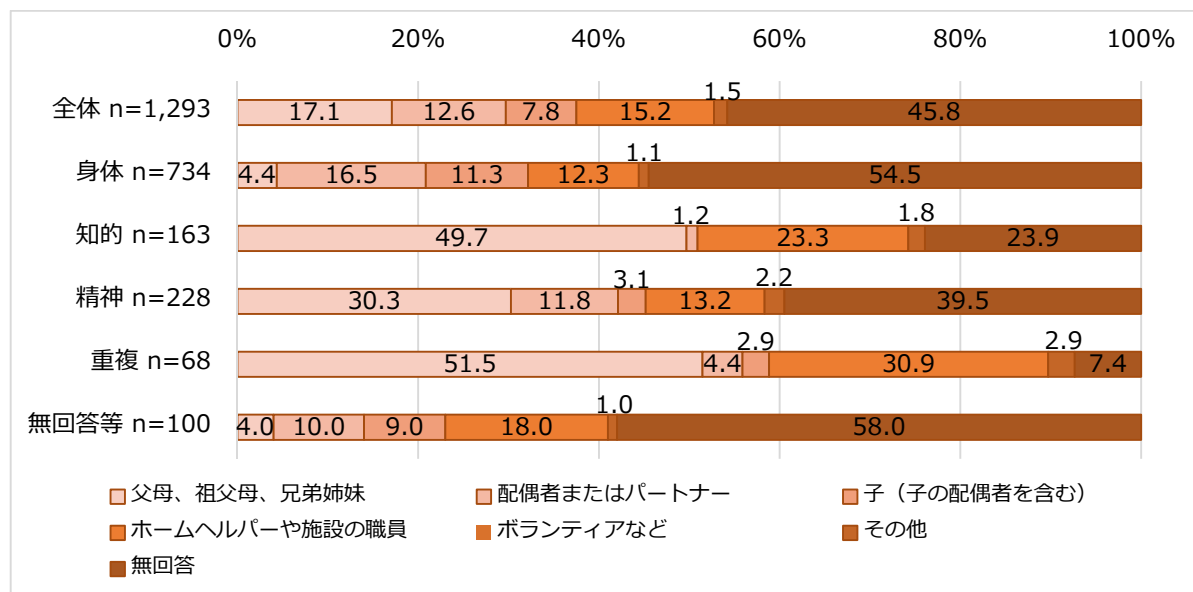
- 年齢別にみると、18 歳以上になると、ほとんどの項目で「ひとりでできる」の割合が 5 割以上となっていますが、18 歳以上 40 歳未満では「お金の管理」が 45.8%、65 歳以上では「外出」が 52.6%となっています。

(単位：%)

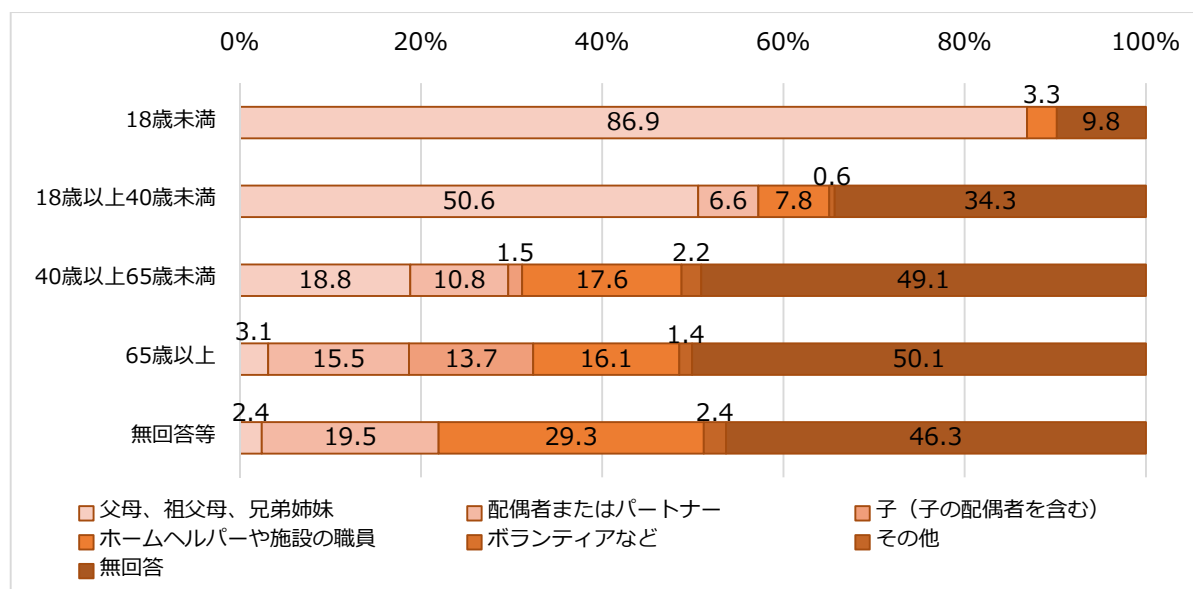
年齢	項目	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	ひとりでできる年齢になっていない	無回答等
18歳未満	食事	67.2	19.7	13.1	0	0
	トイレ	59.0	19.7	19.7	0	1.6
	入浴	49.2	23.0	27.9	0	0
	衣服の着脱	60.7	23.0	16.4	0	0
	身だしなみ	27.9	49.2	21.3	0	1.6
	家の中の移動	80.3	9.8	9.8	0	0
	外出	31.1	27.9	29.5	11.5	0
	家族以外の人との意思疎通	36.1	37.7	24.6	0	1.6
	お金の管理	11.5	26.2	36.1	26.2	0
	薬の管理	11.5	18.0	45.9	24.6	0
18歳以上 40歳未満	食事	77.7	18.1	4.2	0	0
	トイレ	83.1	10.8	5.4	0	0.6
	入浴	74.1	15.7	10.2	0	0
	衣服の着脱	81.3	13.9	4.8	0	0
	身だしなみ	65.1	25.3	9.6	0	0
	家の中の移動	88.6	6.6	4.8	0	0
	外出	53.0	28.9	16.9	0.6	0.6
	家族以外の人との意思疎通	56.0	33.1	10.2	0.6	0
	お金の管理	45.8	30.1	23.5	0.6	0
	薬の管理	53.0	23.5	22.9	0.6	0
40歳以上 65歳未満	食事	81.8	13.9	3.7	0	0.6
	トイレ	84.3	9.3	5.6	0	0.9
	入浴	74.7	14.8	9.6	0	0.9
	衣服の着脱	79.9	11.4	8.0	0	0.6
	身だしなみ	71.3	19.8	8.3	0	0.6
	家の中の移動	85.2	9.3	4.3	0	1.2
	外出	62.3	22.2	14.8	0	0.6
	家族以外の人との意思疎通	69.8	19.8	8.6	0	1.9
	お金の管理	59.6	23.5	16.0	0.3	0.6
	薬の管理	66.7	15.1	17.0	0	1.2
65歳以上	食事	79.9	12.6	6.0	0	1.6
	トイレ	80.2	8.7	9.6	0	1.6
	入浴	65.3	18.0	14.8	0	1.9
	衣服の着脱	75.7	13.3	9.6	0	1.4
	身だしなみ	72.9	15.1	10.0	0	2.0
	家の中の移動	77.5	11.0	9.8	0	1.7
	外出	52.6	24.3	20.7	0.1	2.3
	家族以外の人との意思疎通	73.3	16.8	7.1	0	2.7
	お金の管理	65.3	13.6	19.0	0.1	2.0
	薬の管理	67.8	12.8	17.8	0	1.6

問2 【問1で「一部介助が必要」～「ひとりでできる年齢になっていない」と答えたかたにお聞きします】あなたの介助や介護は、主にどなたが行っていますか。

- 主に介助や介護している方については、「父母、祖父母、兄弟姉妹」が17.1%と最も多く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が15.2%、「配偶者またはパートナー」が12.6%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「配偶者またはパートナー」が最も多くなっています。知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹」が最も多くなっています。



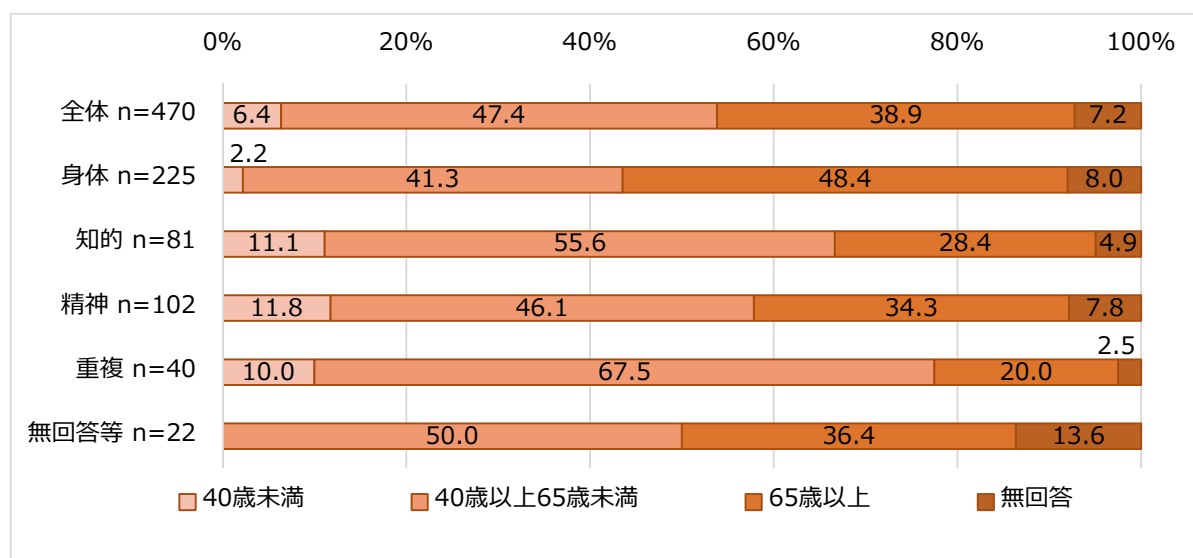
- 年齢別にみると、18歳未満では「父母、祖父母、兄弟姉妹」が8割以上、18歳以上40歳未満では5割以上となっています。40歳以上65歳未満では「父母、祖父母、兄弟姉妹」が18.8%と最も多く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が17.6%となっています。65歳以上では「ホームヘルパーや施設の職員」が16.1%と最も多くなっています。



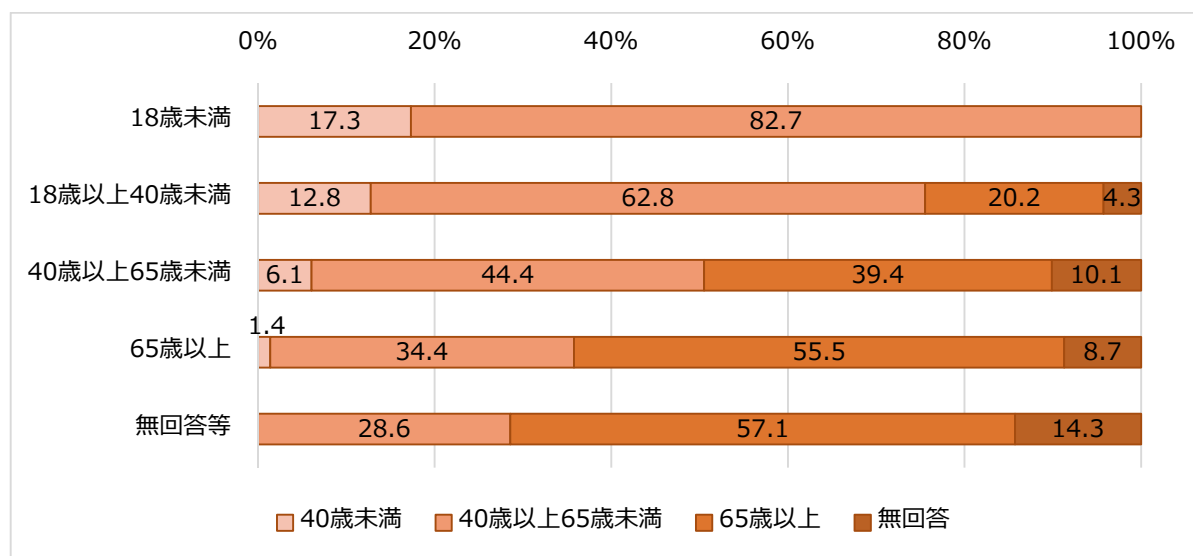
問 2-2 【問 2 で「父母、祖父母、兄弟姉妹」～「子（子の配偶者を含む）」と答えたかたにお聞きします】あなたの主な介護者のかたの年齢、健康状態、仕事の有無などをお答えください。

① 介護者の年齢

- 主に介護している方の年齢については、「40 歳以上 65 歳未満」が 47.4%と最も多く、次いで「65 歳以上」が 38.9%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「65 歳以上」の割合が少なく、「40 歳以上 65 歳未満」の割合が多くなっています。

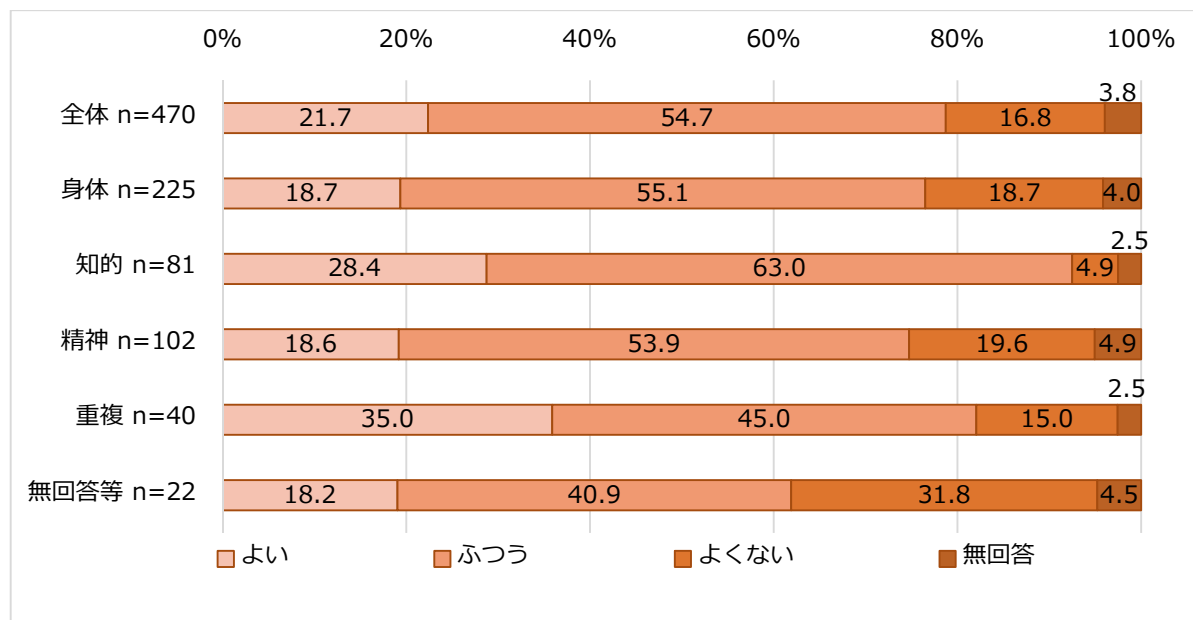


- 対象者の年齢別にみると、18 歳未満では「40 歳以上 65 歳未満」が 82.7%、18 歳以上 40 歳未満では「40 歳以上 65 歳未満」が 62.8%と最も多くなっています。40 歳以上 65 歳未満では「40 歳以上 65 歳未満」が 44.4%、65 歳以上では「40 歳以上 65 歳未満」が 34.4%となっています。

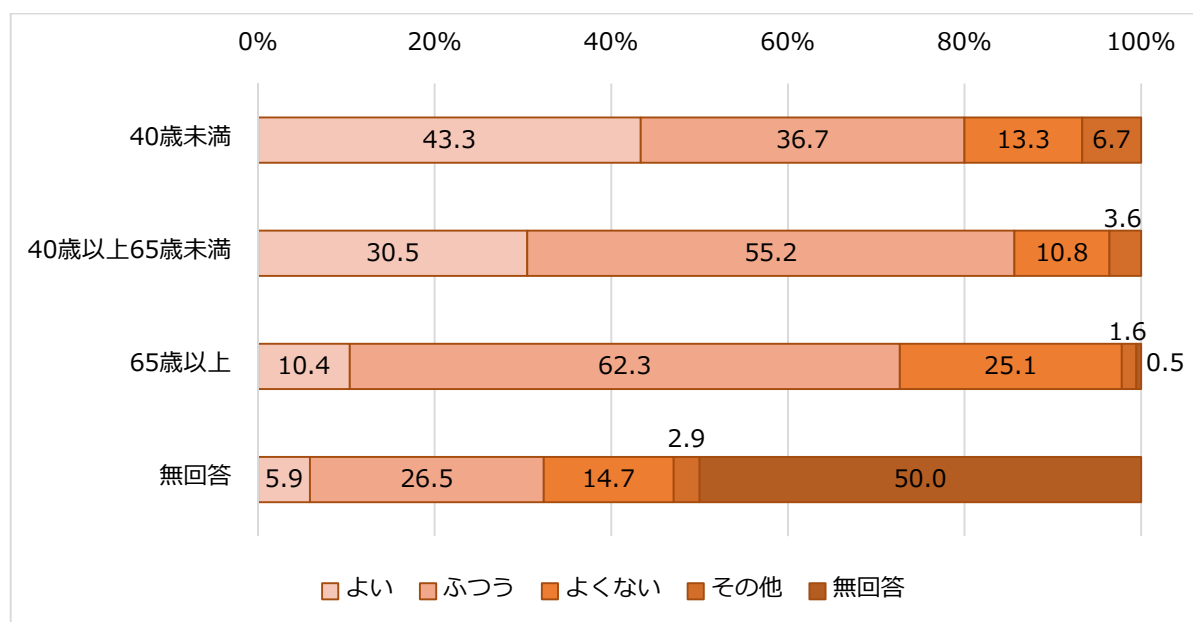


② 健康状態はいかがですか。

- 主に介護している方の健康状態については、「ふつう」が54.7%と最も多くなっています。また、「よい」が21.7%となっているのに対し、「よくない」は16.8%となっています。
- 障がい別にみると、「よい」と回答した方は、身体障がいでは18.7%、知的障がいでは28.4%、精神障がいでは18.6%、重複障がいでは35.0%となっています。

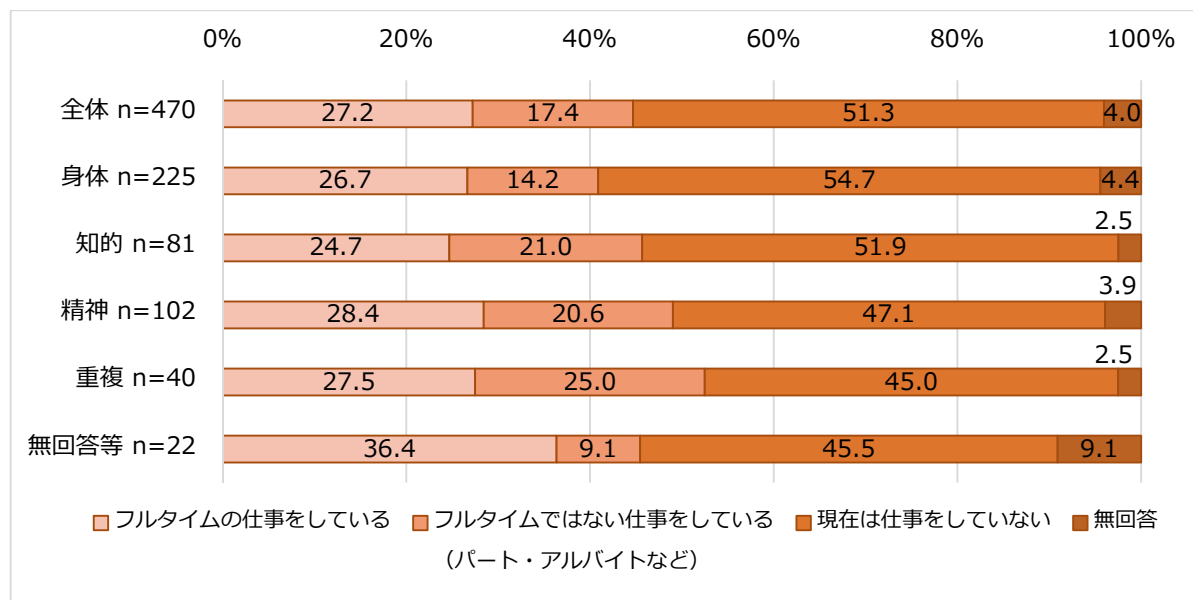


- 介護者の年齢別にみると、全体の傾向と比べて40歳未満では、「よい」が43.3%と多くなっています。65歳以上では、「よくない」が2割以上と多くなっています。

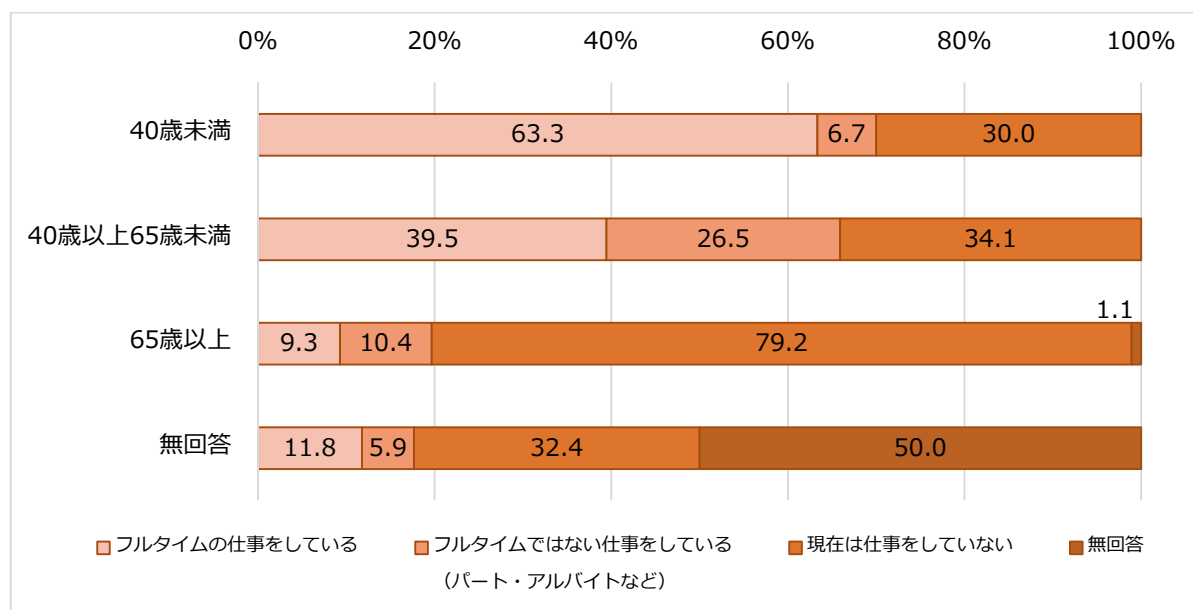


③ 主な介護者のかたは仕事をされていますか。

- 主な介護者で「フルタイムの仕事をしている」と「フルタイムではない仕事をしている（パート・アルバイトなど）」を合わせた“働いている人”は 44.6%、一方、「現在は仕事をしていない」は 51.3%となります。
- 障がい別にみると、重複障がいでは「フルタイムではない仕事をしている（パート・アルバイトなど）」が 25.0%と多くなっています。

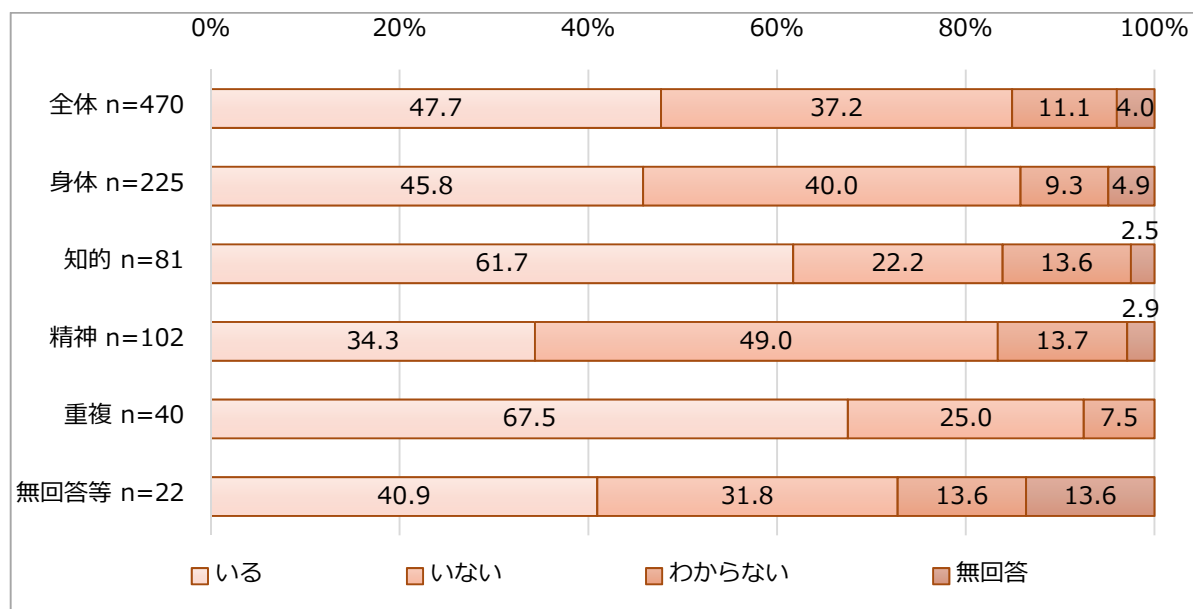


- 介護者の年齢別にみると、40歳未満では“働いている人”が 70.0%と多くなっています。40歳以上65歳未満では“働いている人”が 66.0%と多くなっています。「現在は仕事をしていない」と回答した方は、65歳以上で約 8 割と多くなっています。

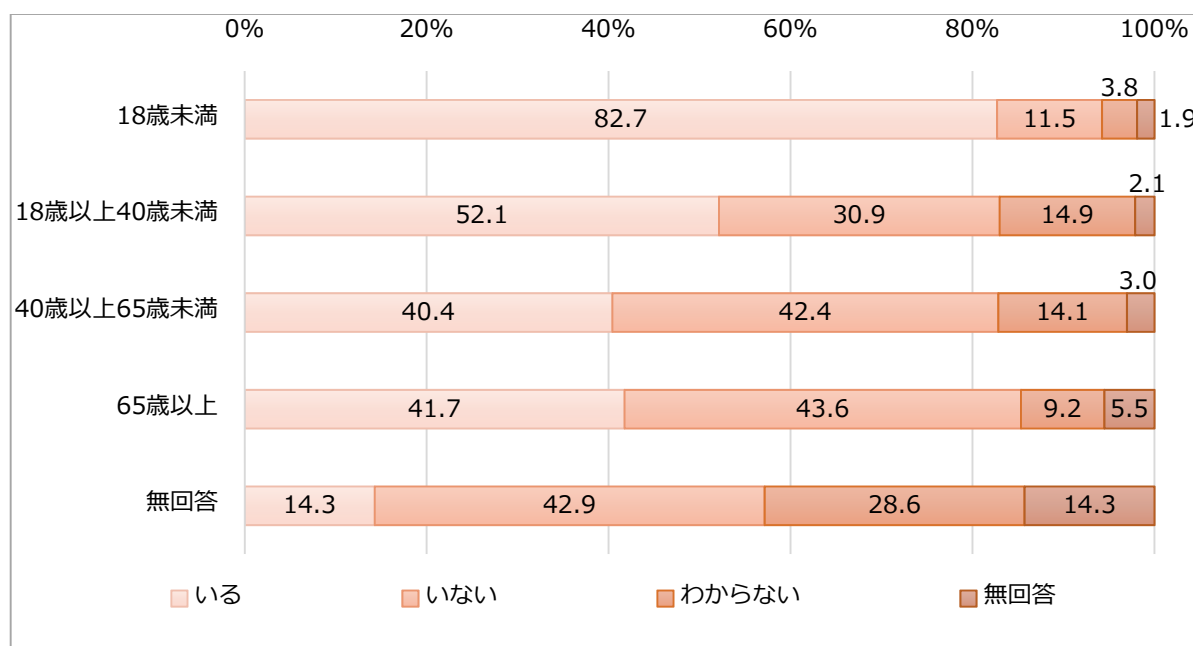


④ 一時的に、主な介護者のかたがあなたを介護できないときに、介護を頼める人はいますか。

- 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人の有無については、「いる」が 47.7%、「いない」が 37.2%、「わからない」は 11.1%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいでは「いる」が 61.7%となっていて多くなっています。精神障がいでは「いる」が 34.3%と少なくなっています。

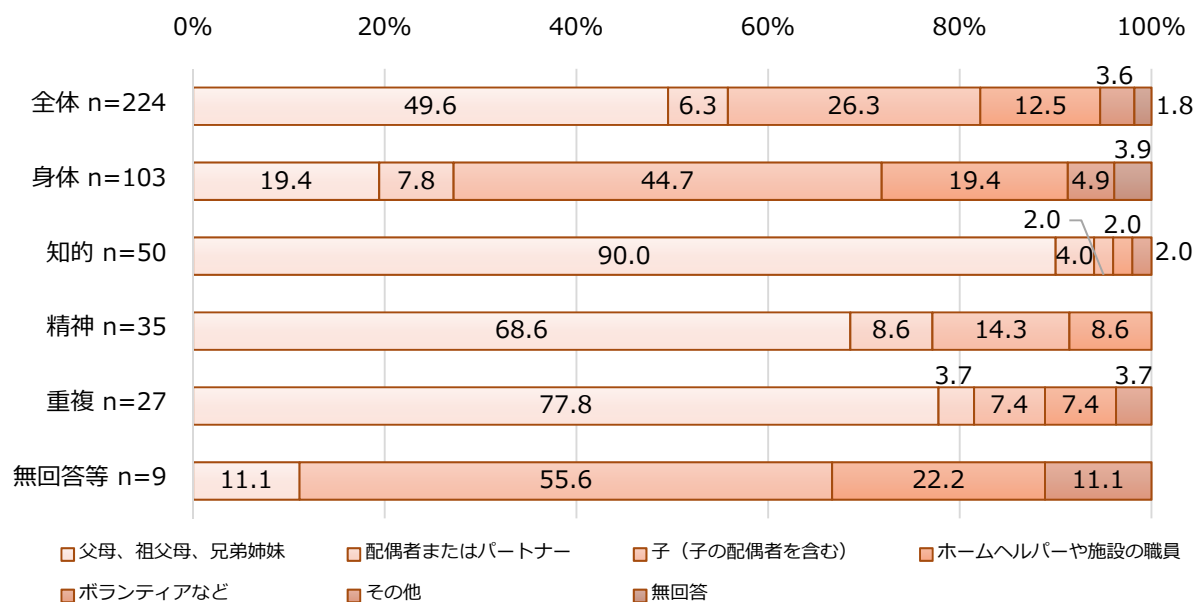


- 年齢別にみると、「いる」と答えた方は、18歳未満では 82.7%、18歳以上 40歳未満で 52.1%、40歳以上 65歳未満で 40.4%となっています。65歳以上では「いない」が 43.6%となっています。

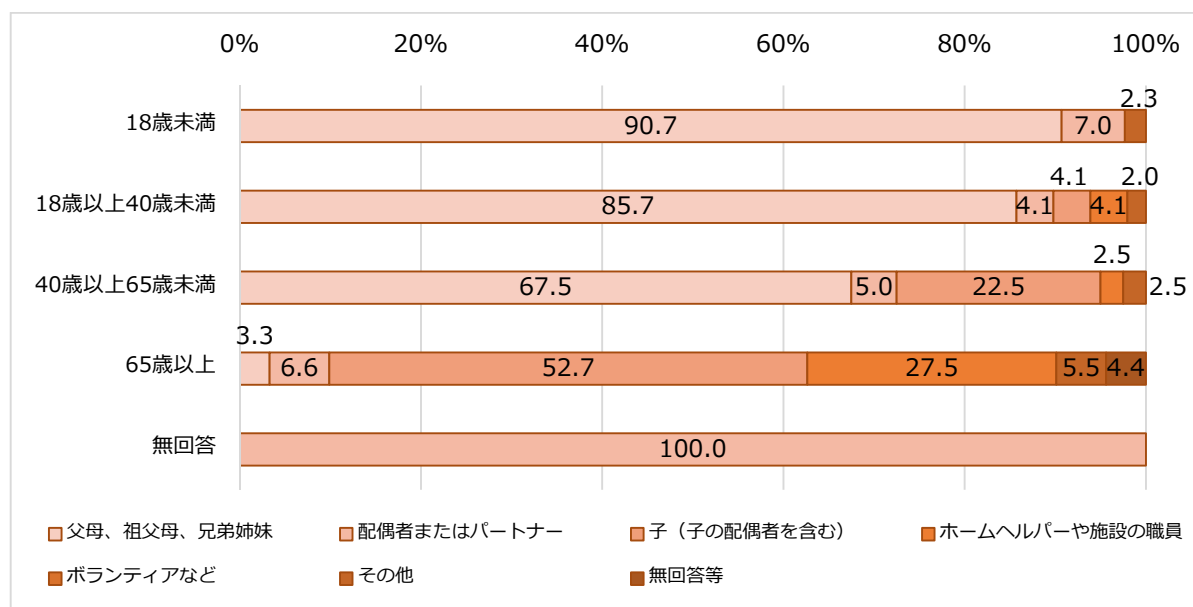


④-2 【④で「いる」と答えたかたにお聞きします】介護を頼める人はあなたから見てどなたですか。

- 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人については、「父母、祖父母、兄弟姉妹」が49.6%と最も多く、次いで「子（子の配偶者を含む）」が26.3%、「ホームヘルパーや施設の職員」が12.5%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「子（子の配偶者を含む）」が44.7%と多くなっています。知的障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹」が90.0%と多くなっています。精神障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹」が68.6%と多くなっています。



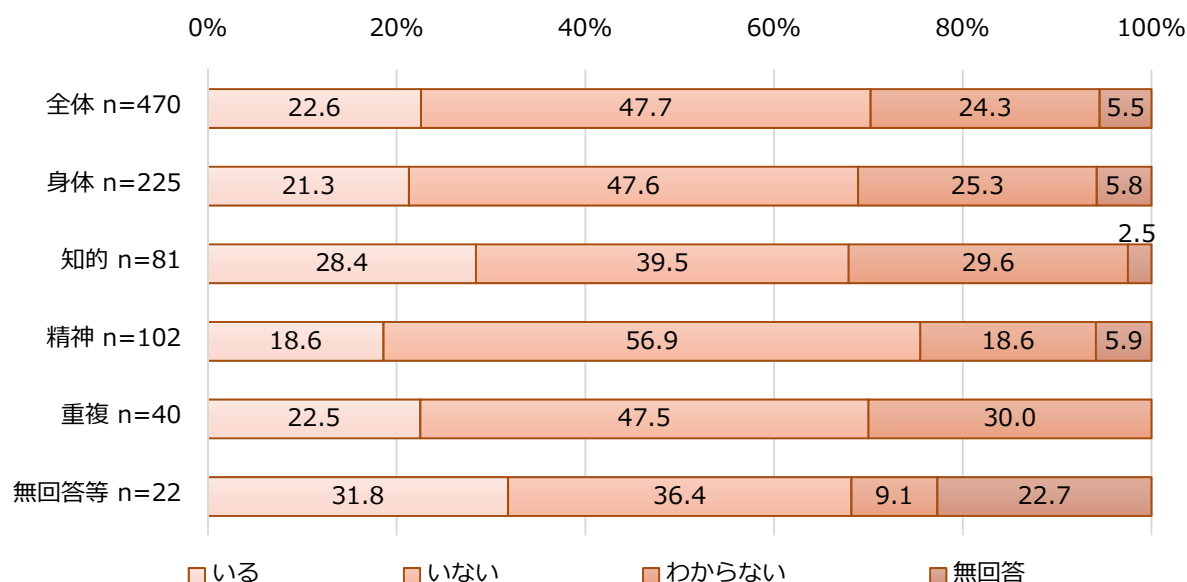
- 年齢別にみると、18歳未満では「父母、祖父母、兄弟姉妹」の割合が多く、40歳以上65歳未満、65歳以上では「子（子の配偶者を含む）」の割合が多くなっています。



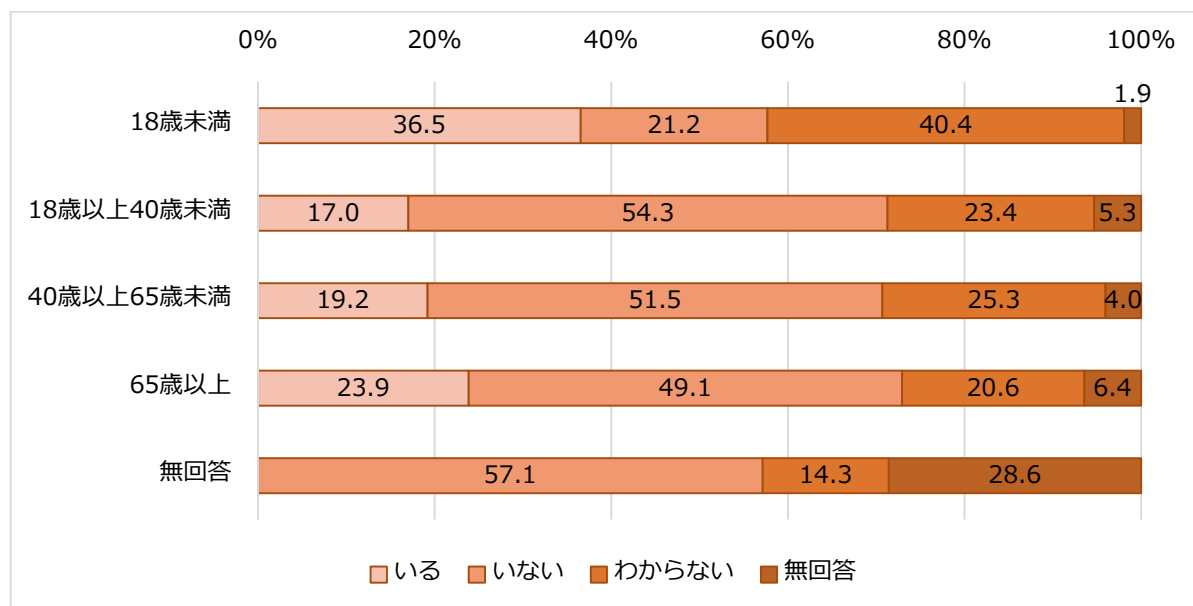
⑤ 将来、主な介護者のかたがあなたを介護できなくなった場合に、介護を頼める人（頼む予定の人）はいますか。

- 将来、主な介護者の方が介護できなくなった場合に、介護を頼める人（頼む予定の人）の有無については、「いる」が22.6%、「いない」が47.7%、「わからない」は24.3%となっています。

- 障がい別にみると、精神障がいでは、「いる」が18.6%と少なくなっています。

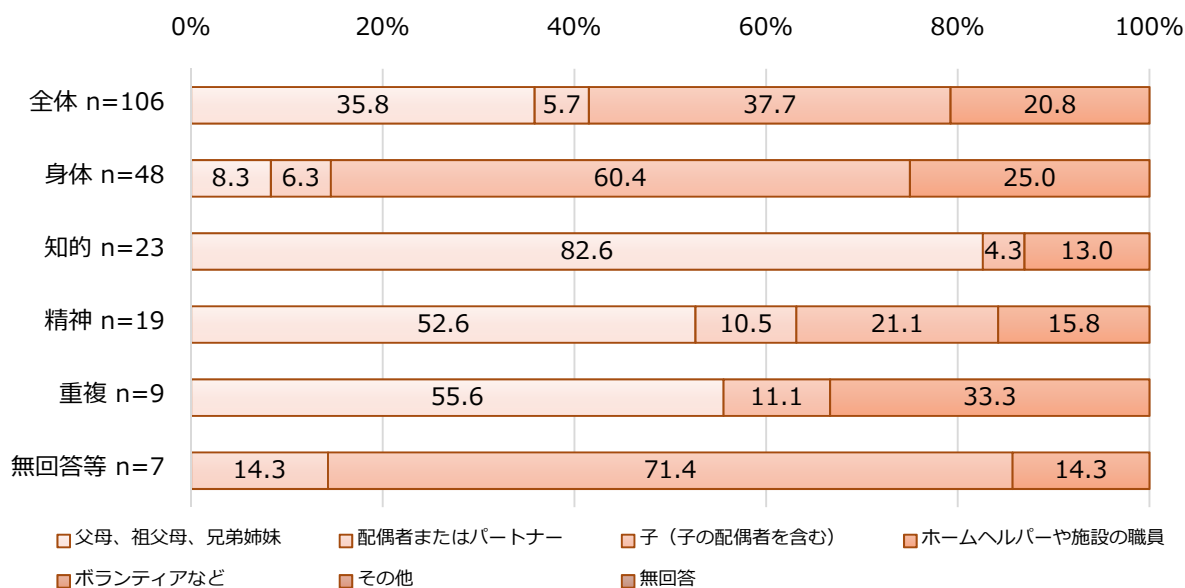


- 年齢別にみると、「いる」の割合が最も多いのは18歳未満、「いない」の割合が最も多いのは18歳以上40歳未満、「わからない」の割合が最も多いのは18歳未満となっています。

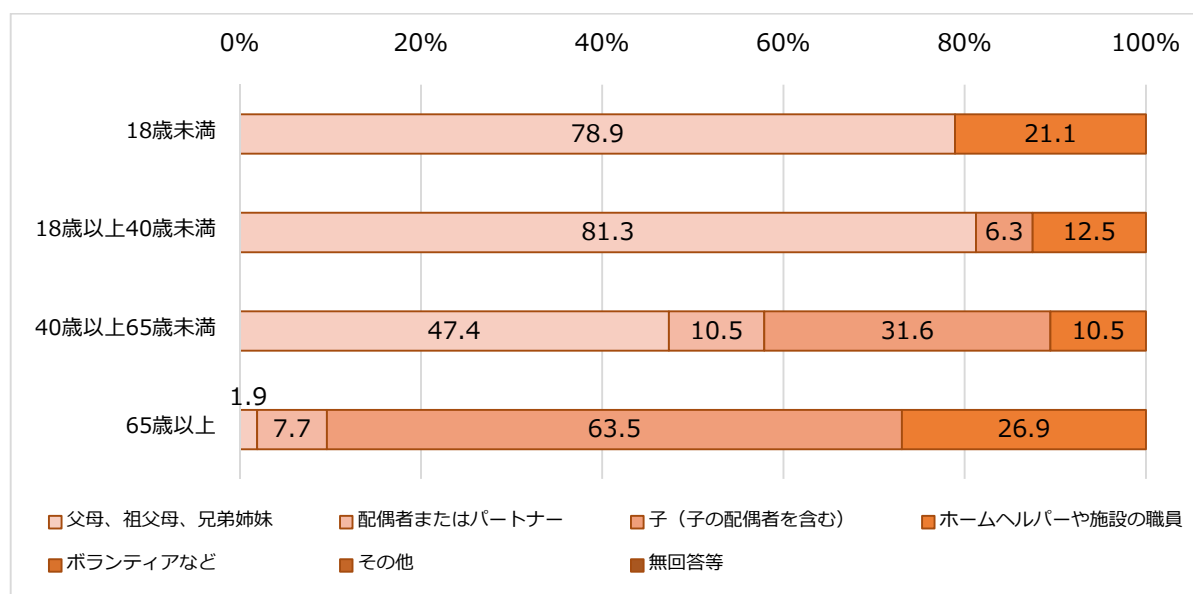


⑤－２ 【⑤で「いる」と答えたかたにお聞きします】介護を頼める人はあなたから見てどなたですか。

- 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人については「子（子の配偶者を含む）」が37.7%と最も多く、次いで「父母、祖父母、兄弟姉妹」が35.8%、「ホームヘルパーや施設の職員」は20.8%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「子（子の配偶者を含む）」が60.4%と多くなっています。知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹」が最も多くなっています。



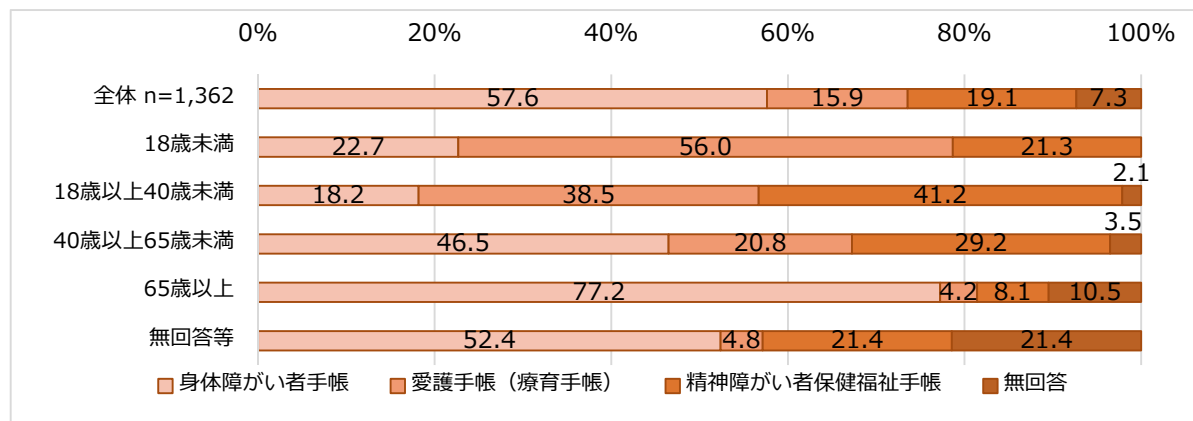
- 年齢別にみると、65歳未満では「父母、祖父母、兄弟姉妹」の割合が最も多くなっています。65歳以上では「子（子の配偶者を含む）」の割合が最も多くなっています。



1-3 障がいの状況について

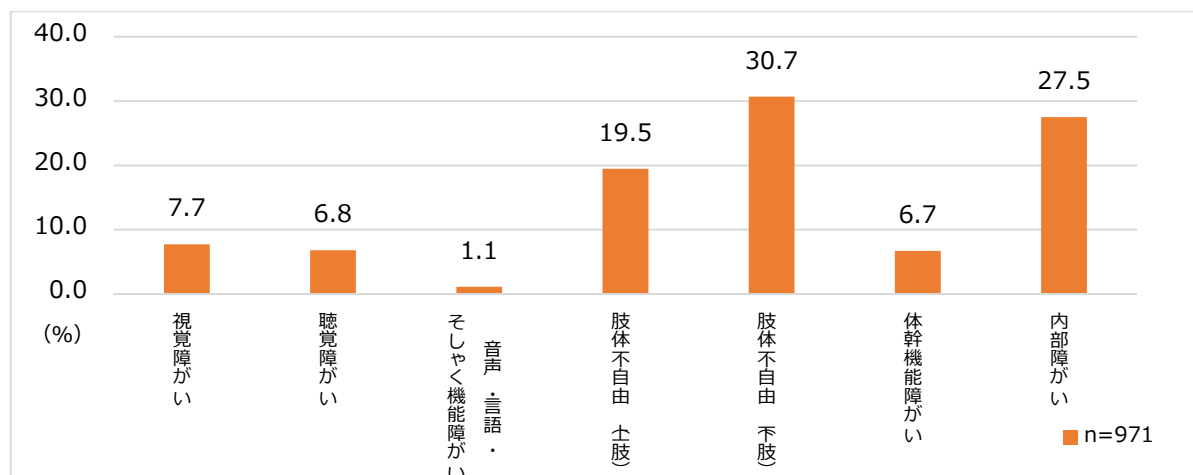
問3 あなたがお持ちの手帳の種類と等級を教えてください。

- 手帳の種類については、「身体障がい者手帳」が 57.6%で最も多く、「精神障がい者保健福祉手帳」が 19.1%、「愛護手帳（療育手帳）」が 15.9%となっています。
- 年齢別にみると、65 歳以上では「身体障がい者手帳」の割合が多くなっています。

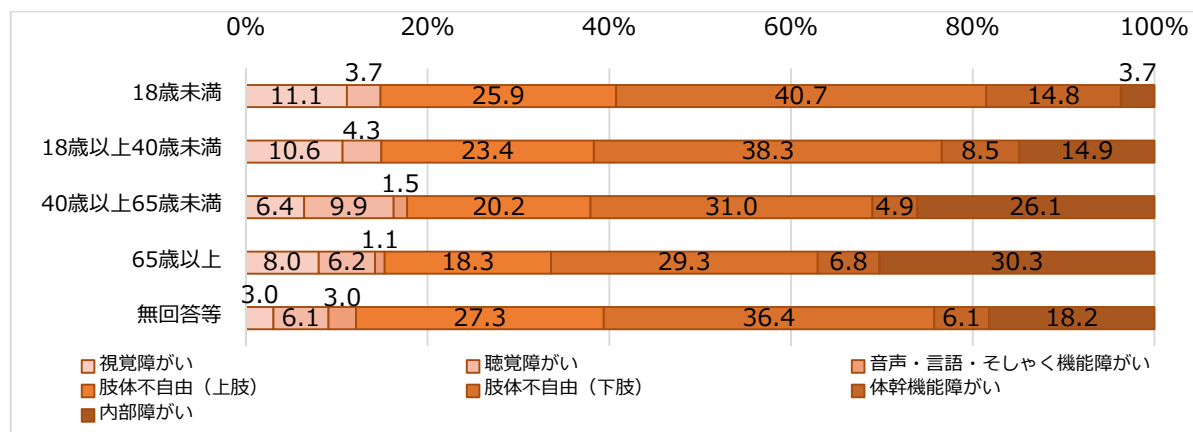


《身体障がい》

- 障がいの種類については「肢体不自由（下肢）」が 30.7%と最も多く、次いで「内部障がい」が 27.5%、「肢体不自由（上肢）」が 19.5%となっています。

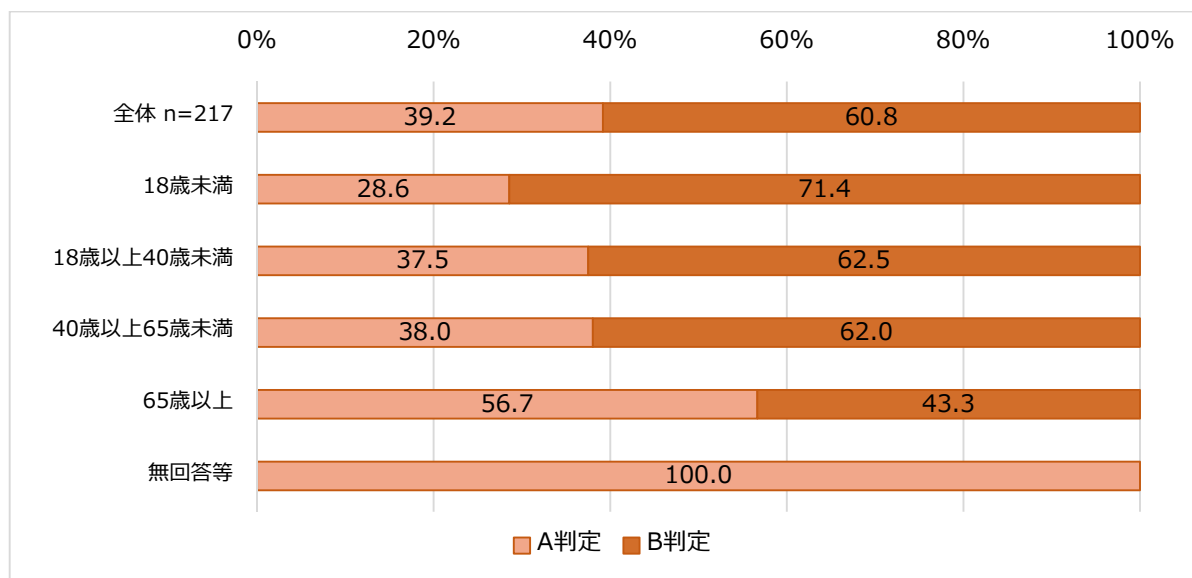


- 年齢別にみると、65 歳以上で内部障がいの割合が多くなっています。



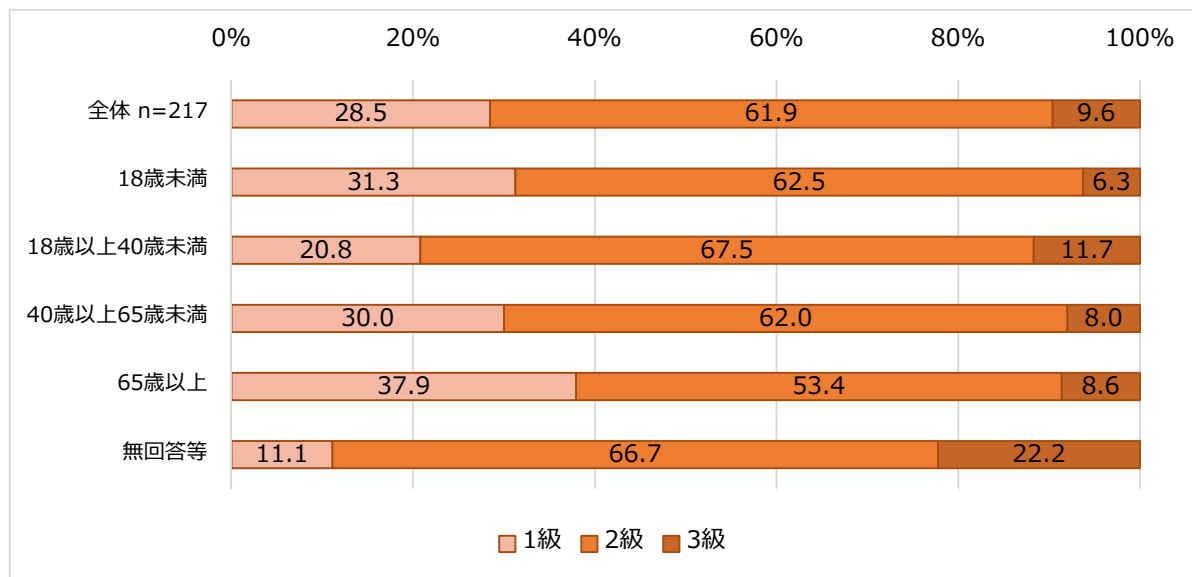
《知的障がい》

- 愛護手帳の等級については、「A判定」が39.2%「B判定」が60.8%となっています。



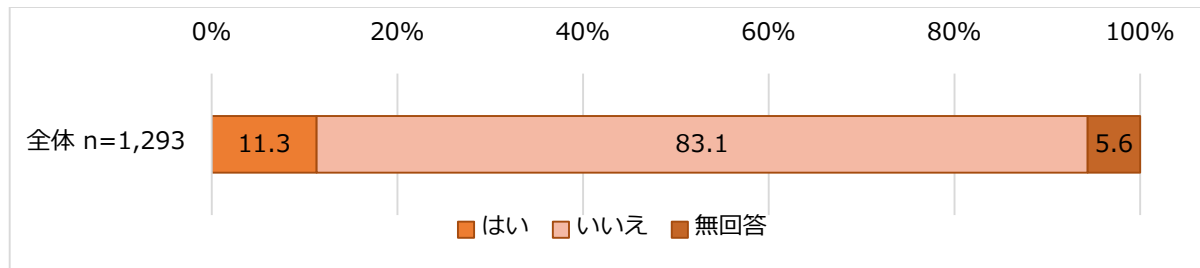
《精神障がい》

- 精神障がい者保健福祉手帳の等級については、「2級」が61.9%と最も多く、次いで「1級」が28.5%、「3級」が9.6%となっています。
- 18歳以上40歳未満では、「2級」が約7割と最も多く、65歳以上では「1級」が約4割と多くなっています。

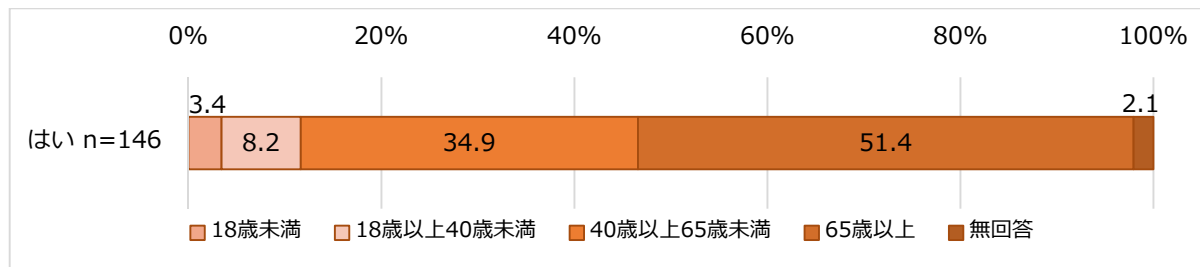


問 4 あなたは難病（原因が不明で治療方法が確立していない病気）にかかっていると診断されていますか。

- 難病と診断されているかについては、「はい」が 11.3%、「いいえ」が 83.1%となっています。

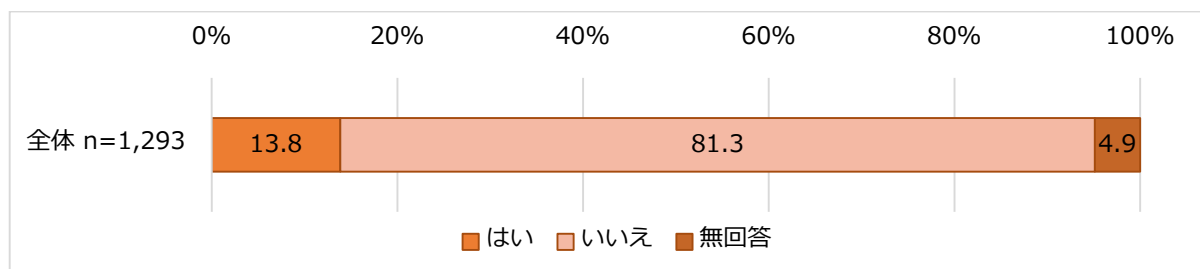


- 「はい」と答えた方を年齢別にみると、65 歳以上が 51.4%と最も多く、次いで 40 歳以上 65 歳未満が 34.9%、18 歳以上 40 歳未満が 8.2%となっています。

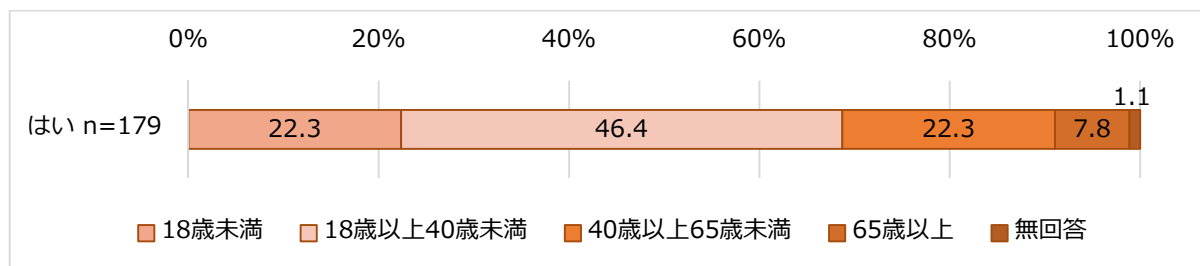


問 5 あなたは発達障がいと診断されたことがありますか。

- 発達障がいとして診断されたことがあるかどうかについては、「はい」が 13.8%、「いいえ」は 81.3%となっています。

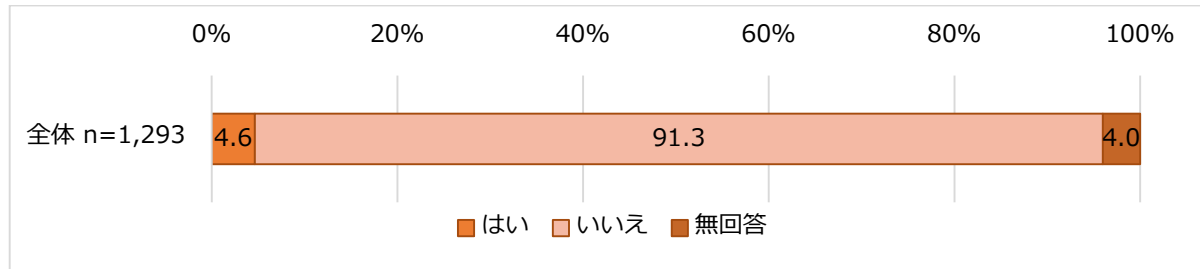


- 「はい」と答えた方を年齢別にみると、18 歳以上 40 歳未満が 46.4%と最も多く、次いで 18 歳未満と 40 歳以上 65 歳未満が 22.3%となっています。

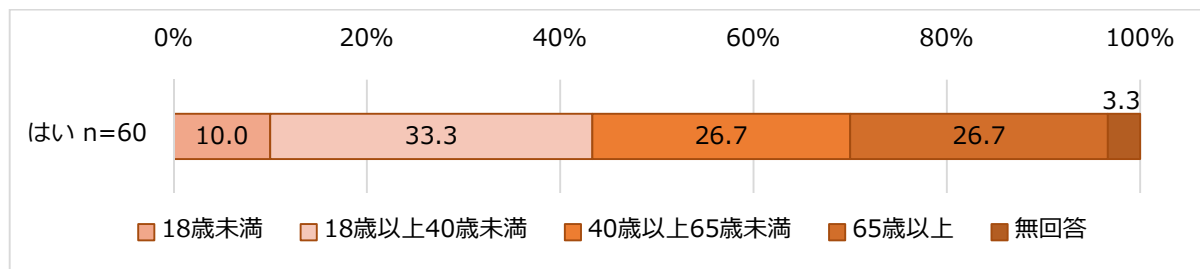


問6 あなたは強度行動障がいと言われたことがありますか。

- 強度行動障がいと言われたことがあるかについては、「はい」が4.6%、「いいえ」が91.3%となっています。

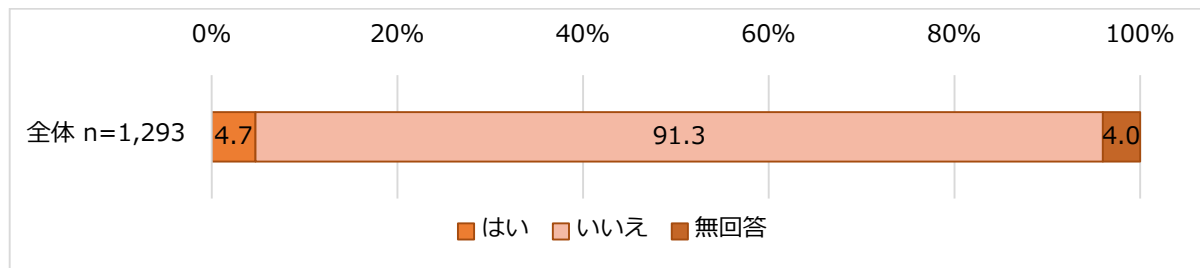


- 「はい」と答えた方を年齢別にみると、18歳以上40歳未満が33.3%と最も多く、次いで40歳以上65歳未満と65歳以上が26.7%となっています。

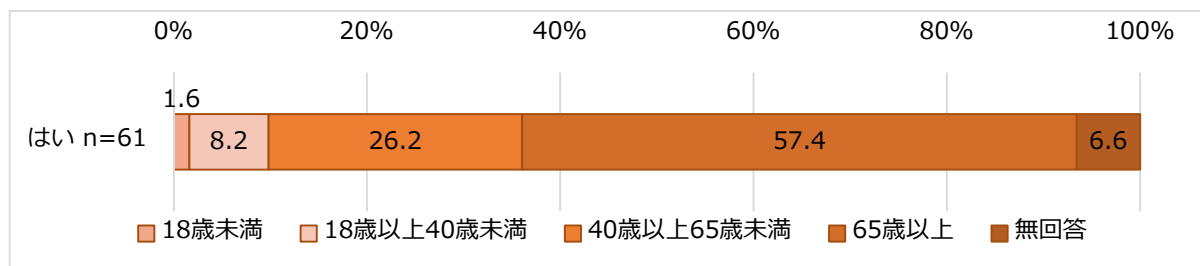


問7 あなたは高次脳機能障がいと診断されたことがありますか。

- 高次脳機能障がいとして診断されたことがあるかどうかについては、「はい」が4.7%、「いいえ」が91.3%となっています。

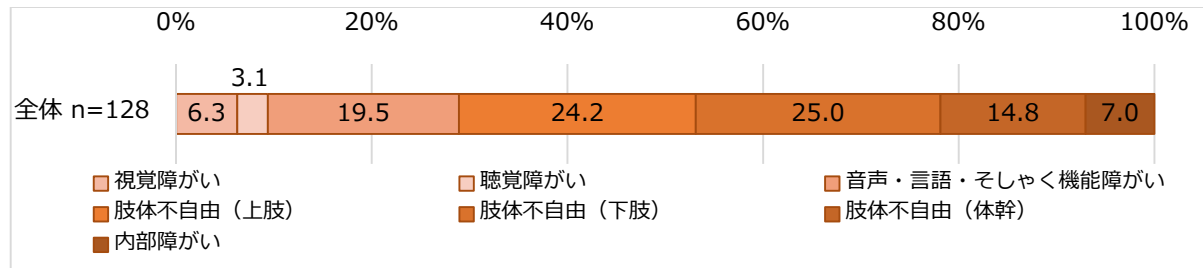


- 「はい」と答えた方を年齢別にみると、「65歳以上」が57.4%と最も多く、次いで「40歳以上65歳未満」が26.2%となっています。

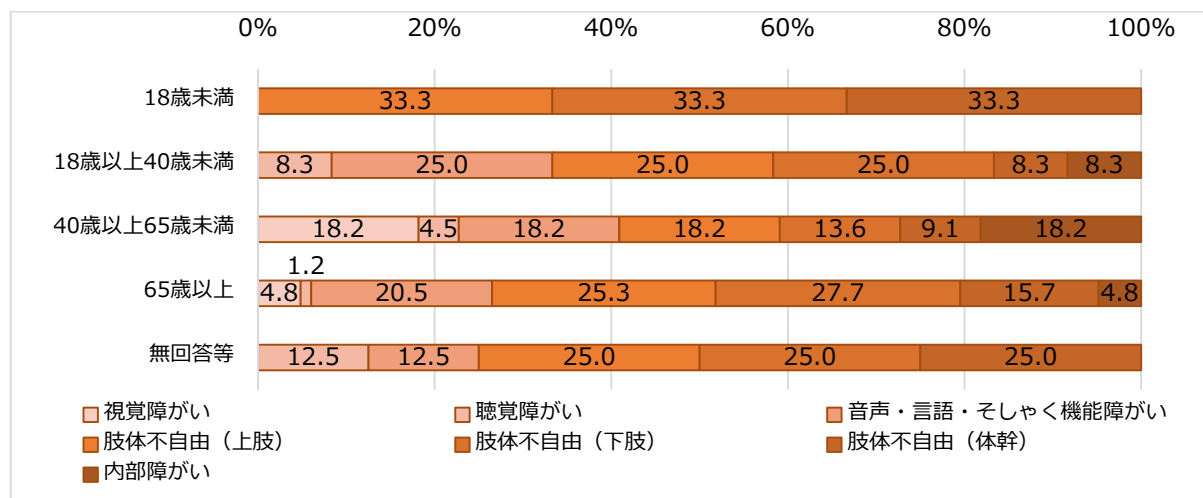


問 7-2 【問 7 で「はい」と答えたかたにお聞きします】その関連障がいをお答えください。

- 関連障がいについては、「肢体不自由（下肢）」が 25.0%と最も多く、次いで「肢体不自由（上肢）」が 24.2%、「音声・言語・そしゃく機能障がい」が 19.5%となっています。

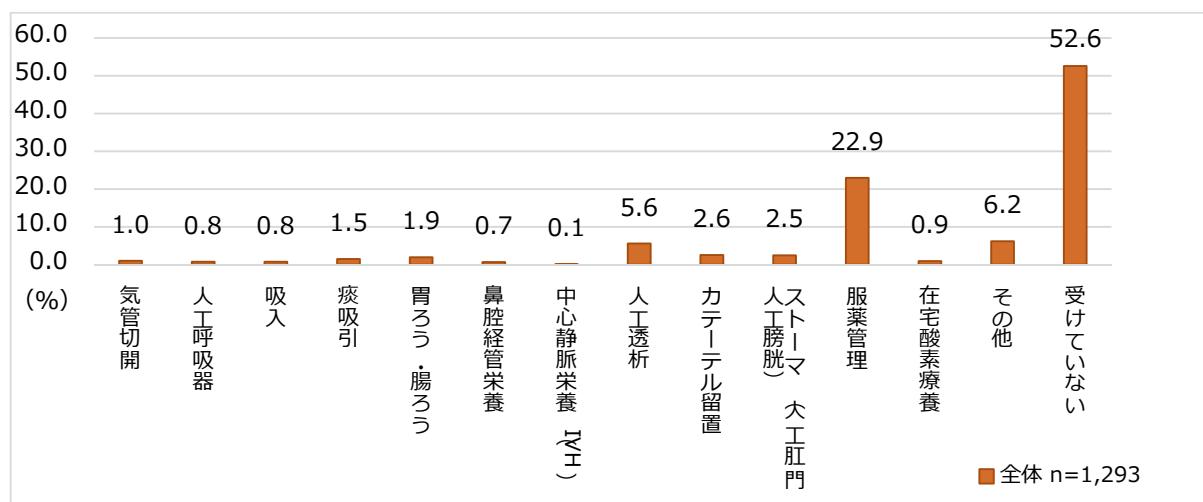


- 年齢別にみると、「18 歳以上 40 歳未満」で「聴覚障がい」が 25.0%と多くなっています。



問 8 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。

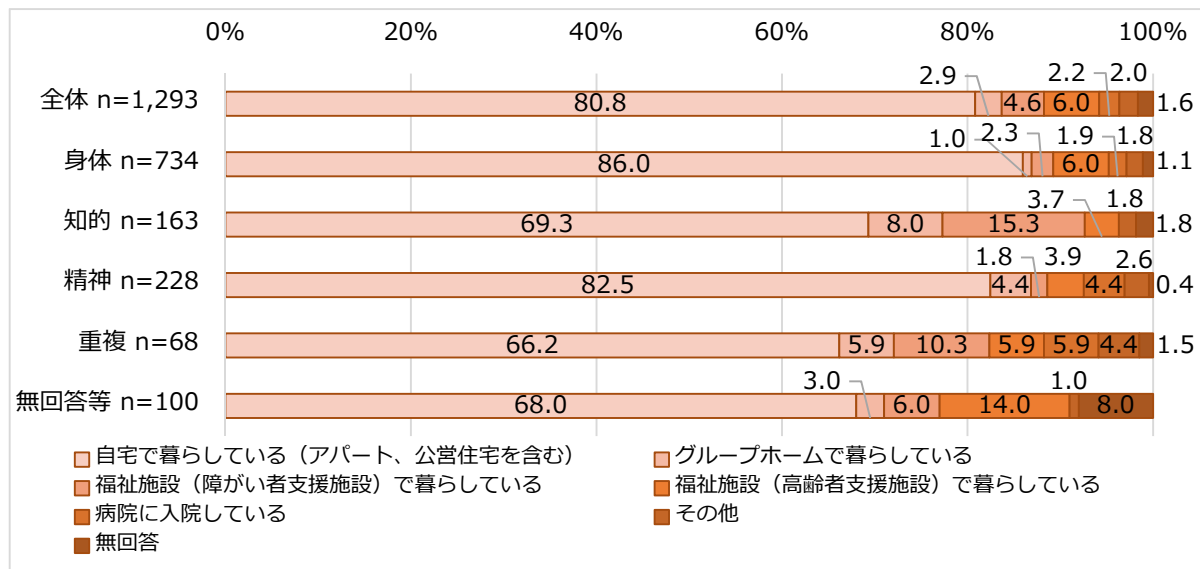
- 医療ケアについては、「服薬管理」が 22.9%と最も多く、次いで「その他」が 6.2%、「人工透析」が 5.6%となっています。



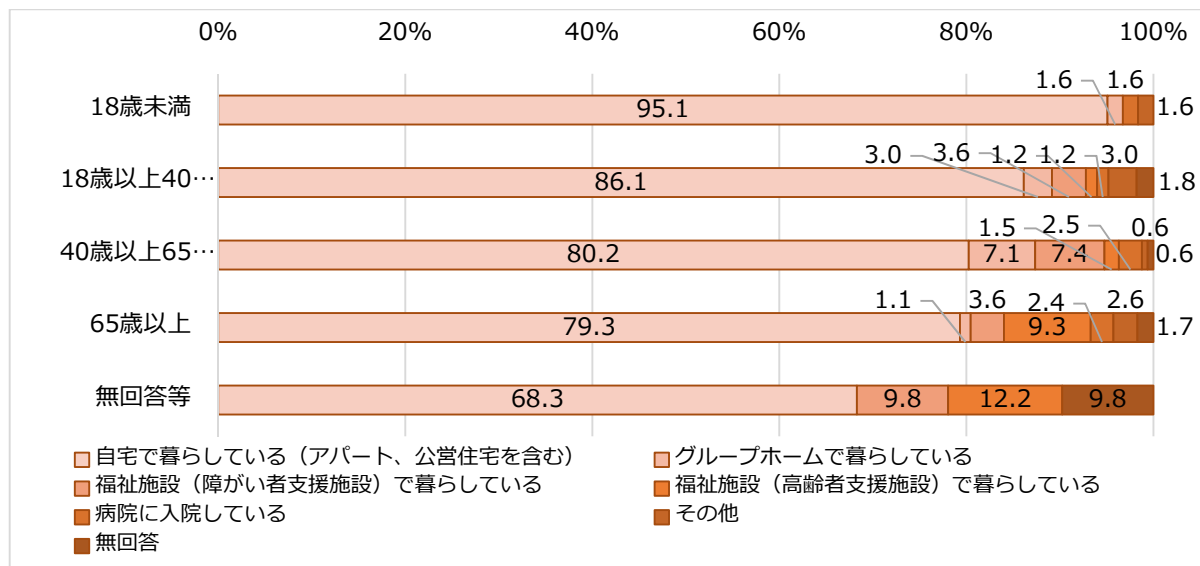
1-4 住まいや暮らしについて

問9 あなたは現在どこにお住まいですか。

- 現在の住まいについては、「自宅で暮らしている（アパート、公営住宅を含む）」が80.8%と最も多くなっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「グループホームで暮らしている」「福祉施設（障がい者支援施設など）で暮らしている」の割合が多くなっています。

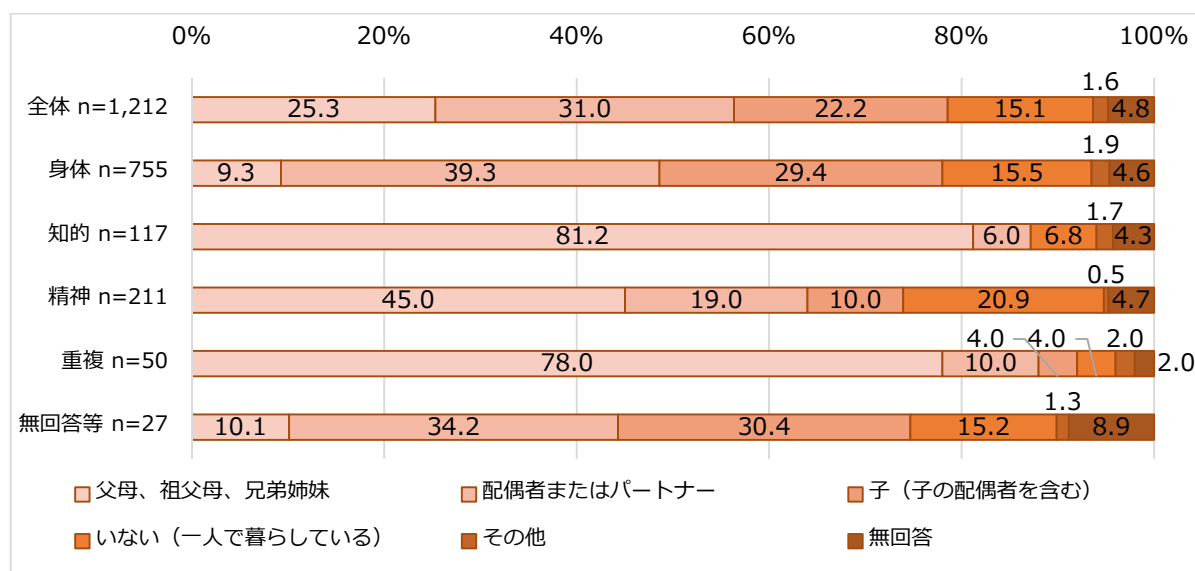


- 年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、「グループホームで暮らしている」「福祉施設（障がい者支援施設など）で暮らしている」「病院に入院している」の割合が多くなっています。

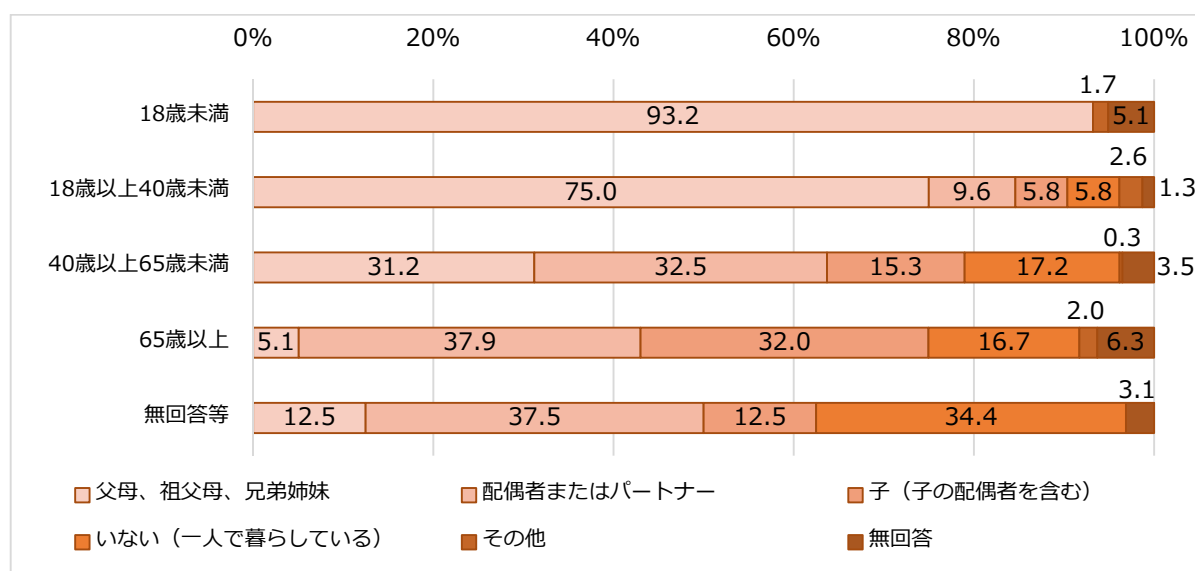


問 9-2 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。

- 「自宅で暮している」方が一緒に暮らしている人については、「配偶者またはパートナー」が 31.0%と最も多く、次いで「父母・祖父母・兄弟姉妹」が 25.3%、「子（子の配偶者を含む）」が 22.2%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「配偶者またはパートナー」が 39.3%と最も多くなっています。知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「父母・祖父母・兄弟姉妹」が最も多くなっています。

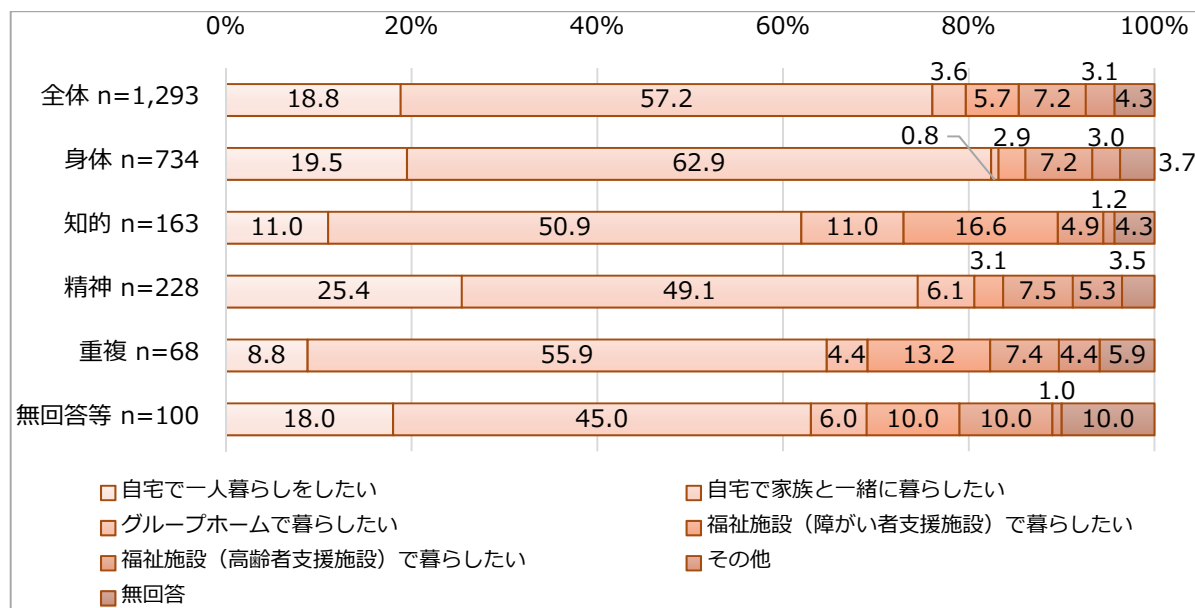


- 年齢別にみると、18 歳未満では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が 93.2%となっています。18 歳以上 40 歳未満では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が 75.0%と最も多くなっています。65 歳以上では「配偶者またはパートナー」が 37.9%と最も多くなっています。

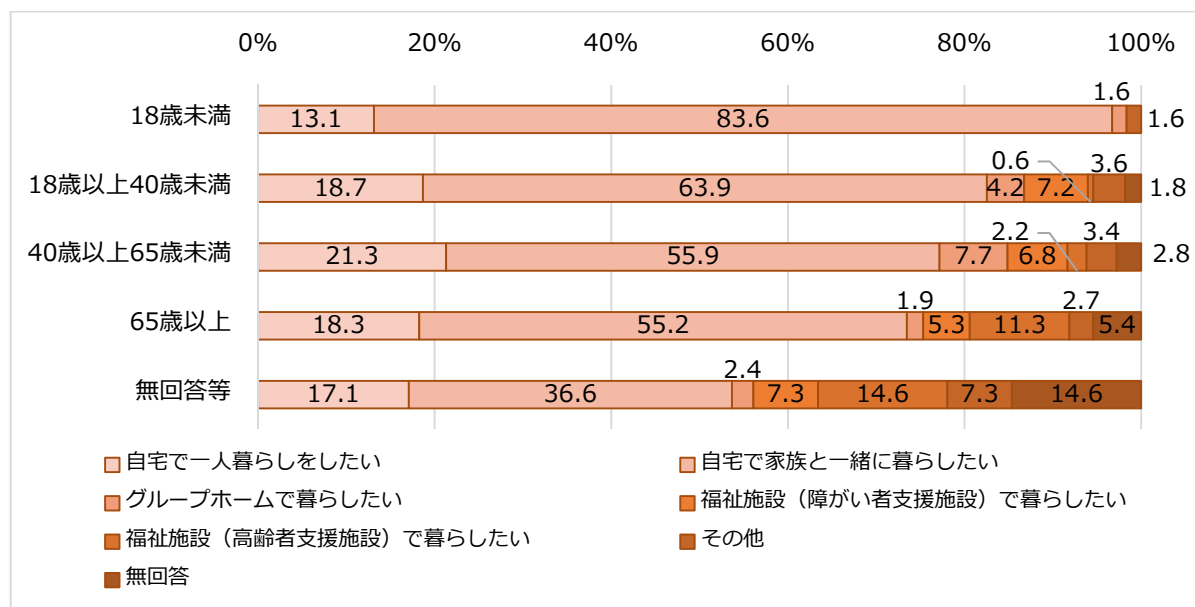


問 10 あなたは将来（今後３年以内に）、どのような暮らしをしたいと思いますか。

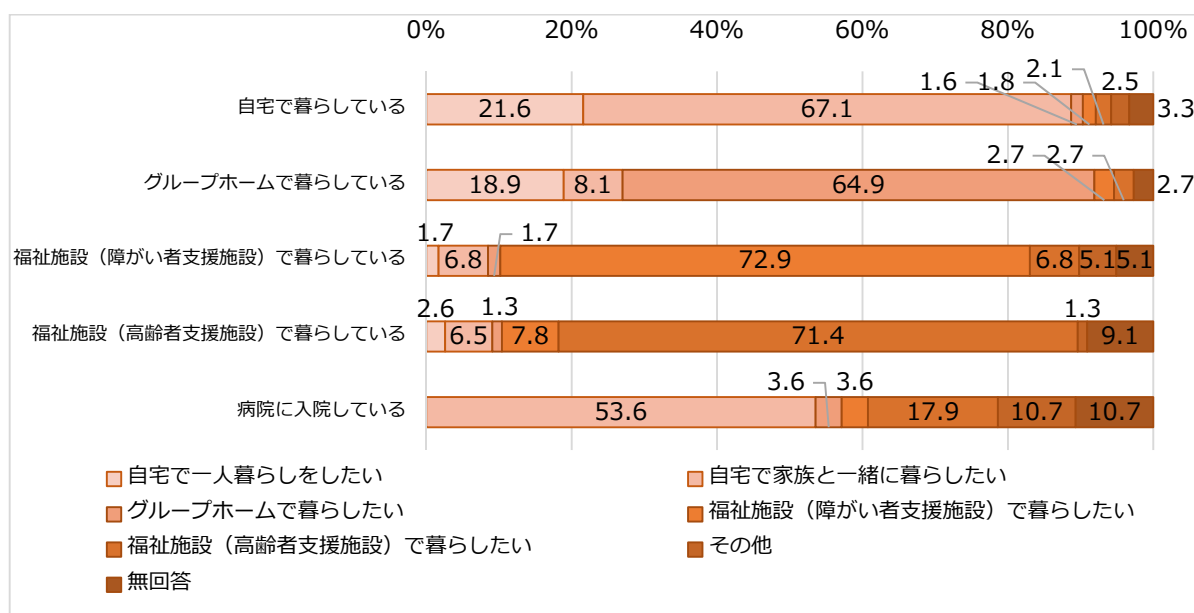
- 将来（今後３年以内に）、どのような暮らしをしたいと思うかについては、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が57.2%で最も多く、次いで、「自宅で一人暮らしをしたい」が18.8%、「福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしたい」が7.2%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が62.9%と最も多くなっています。知的障がいでは「グループホームで暮らしたい」「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい」が全体と比べて多くなっています。



- 年齢別にみると、65歳以上で「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が55.2%で最も多くなっています。

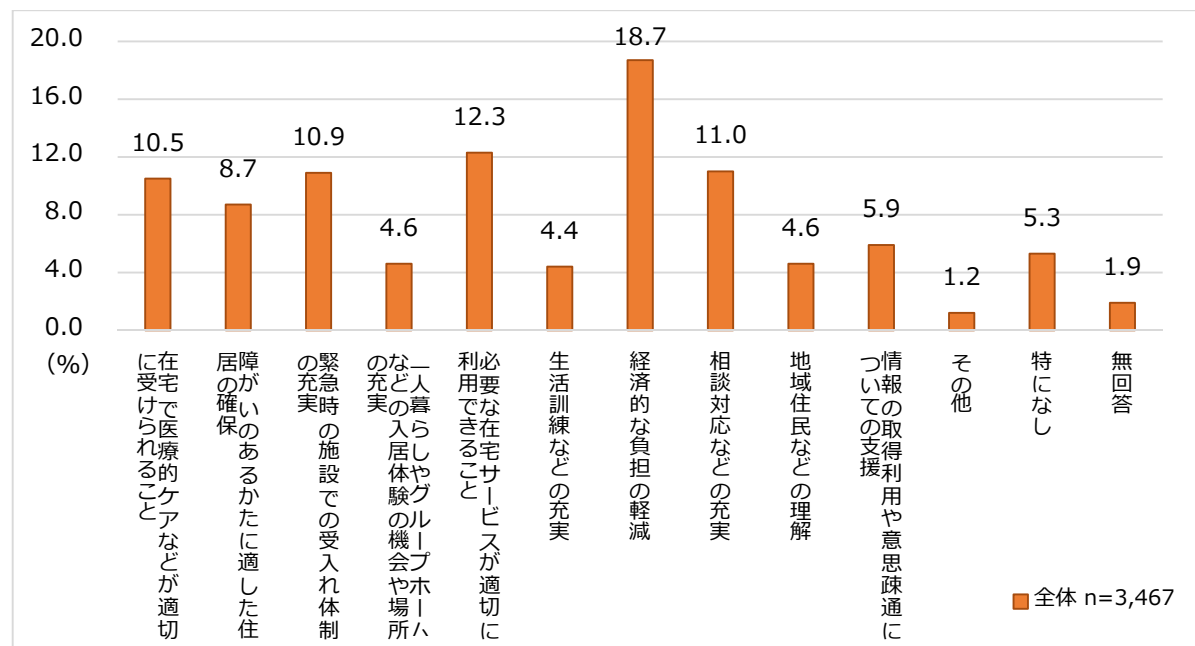


- 現在の住まい別にみると、「自宅で暮している」では「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が67.1%と最も多く、次いで「自宅で一人暮らしをしたい」が21.6%となっています。
- 「グループホームで暮らしている」では「グループホームで暮らしたい」が64.9%と最も多くなっています。
- 「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしている」では「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい」が72.9%と最も多く、次いで「自宅で家族と一緒に暮らしたい」と「高齢者支援施設で暮らしたい」が6.8%となっています。
- 「病院に入院している」では「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が53.6%と最も多く、次いで「福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしたい」が17.9%となっています。



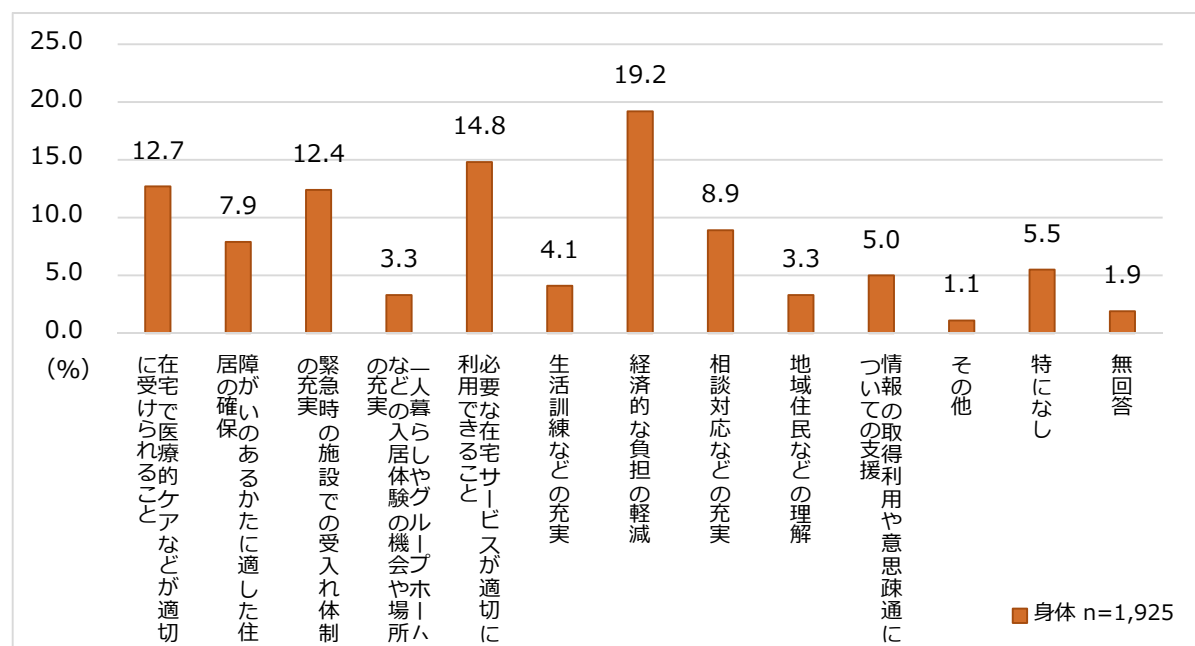
問 11 希望する暮らしを送るために、どのような支援があればよいと思いますか。

- 希望する暮らしを送るための支援については、「経済的な負担の軽減」が 18.7%と最も多く、次いで、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 12.3%、「相談対応などの充実」が 11.0%、「緊急時の施設での受入れ体制の充実」が 10.9%、「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」が 10.5%となっています。

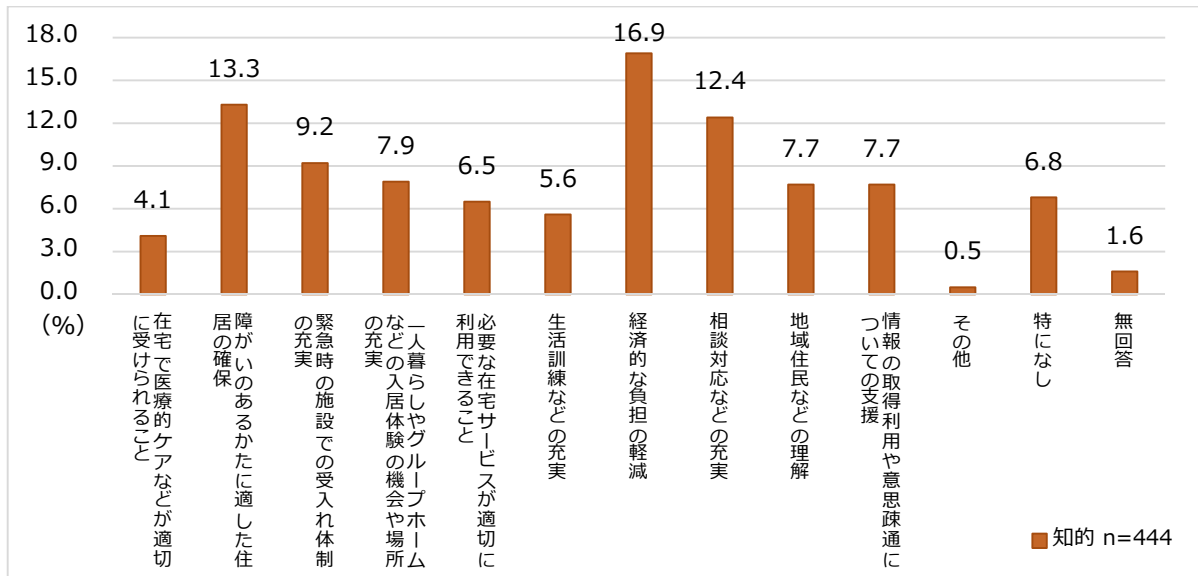


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいで「障がいのあるかたに適した住居の確保」、「一人暮らしやグループホームなどの入居体験の機会や場所の充実」、「生活訓練などの充実」、「地域住民などの理解」の割合が多くなっています。

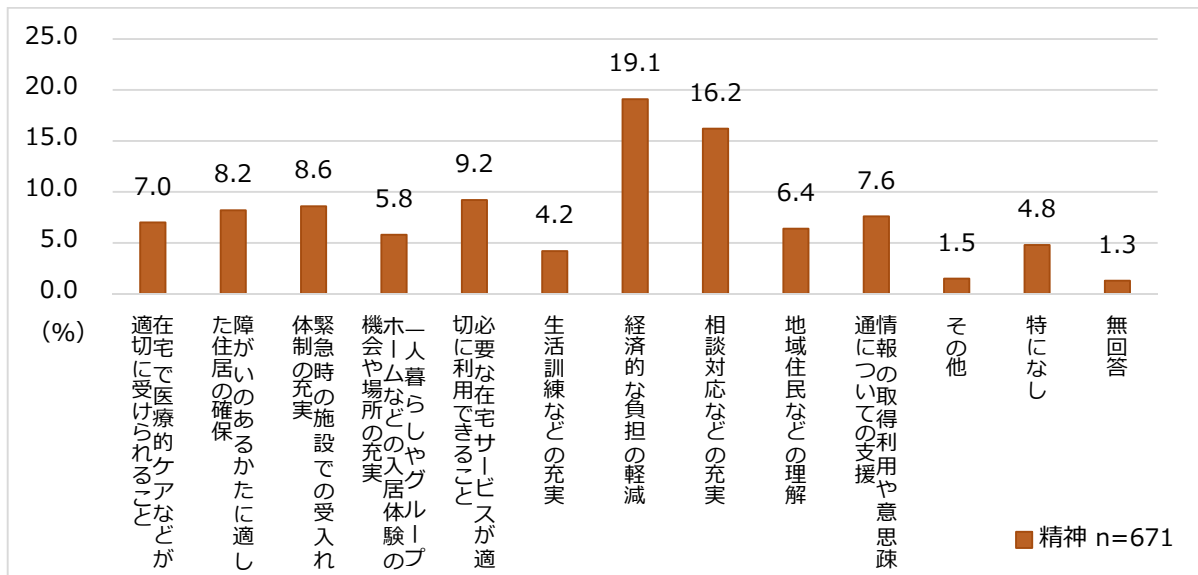
《身体障がい》



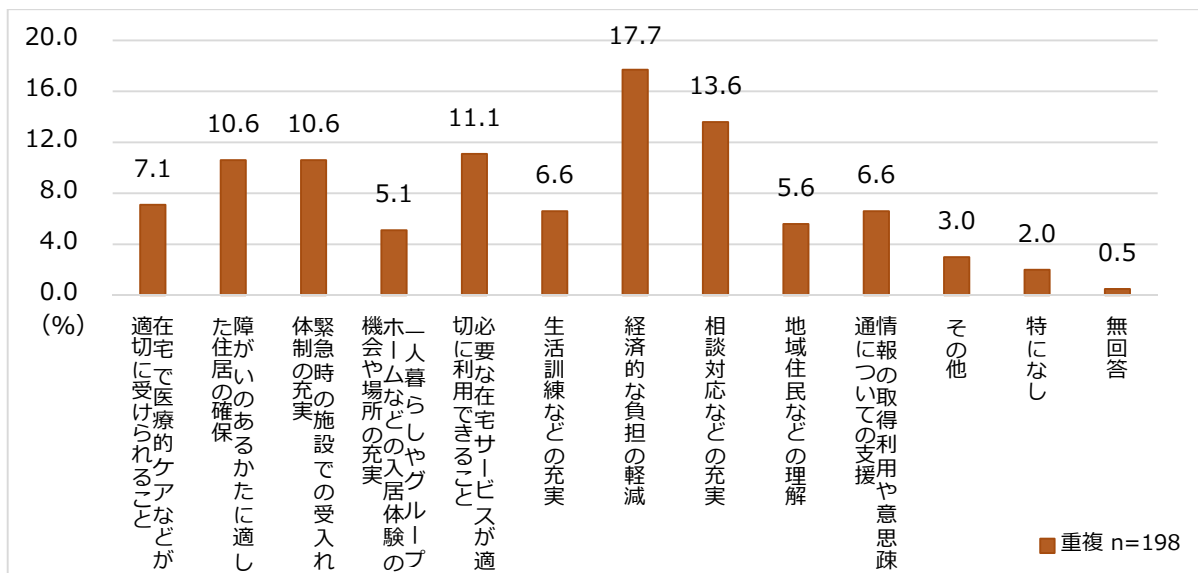
《知的障がい》



《精神障がい》

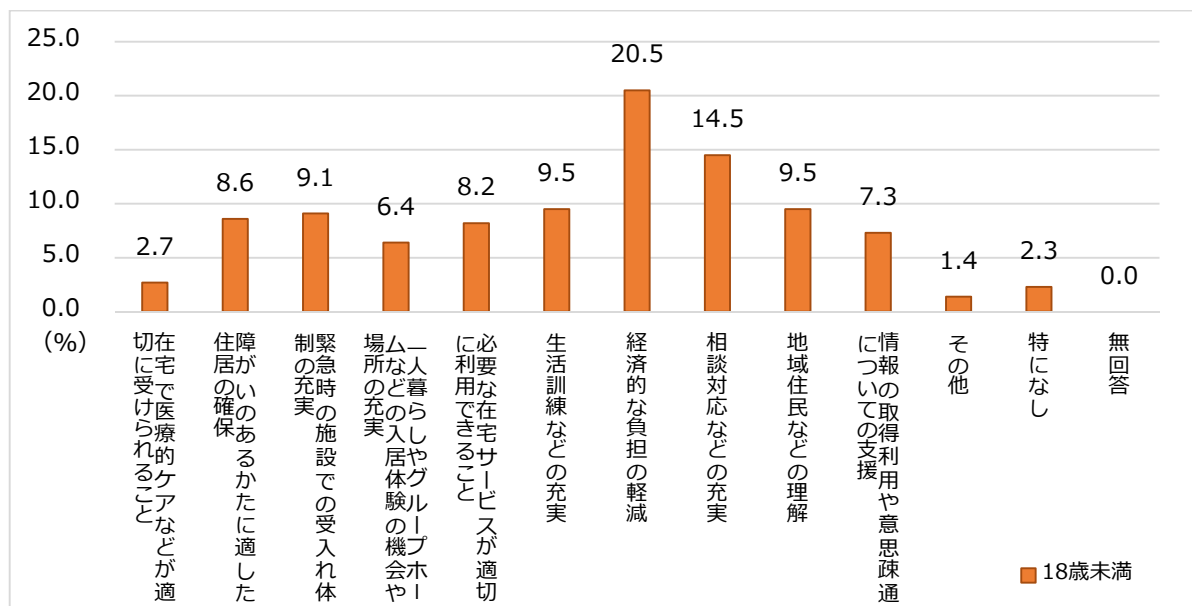


《重複障がい》

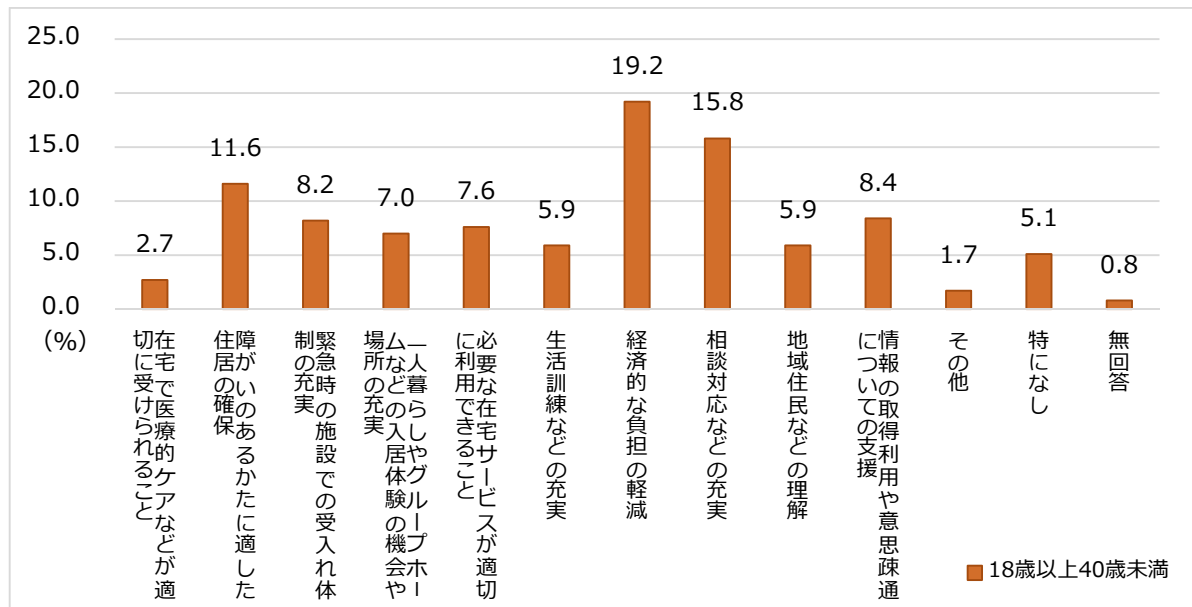


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「地域住民等の理解」「生活訓練などの充実」の割合が多く、18歳以上40歳未満では「障がいのあるかたに適した住居の確保」「一人暮らしやグループホーム等の入居体験の機会や場所の充実」「相談対応などの充実」の割合が多く、65歳以上で「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が多くなっています。

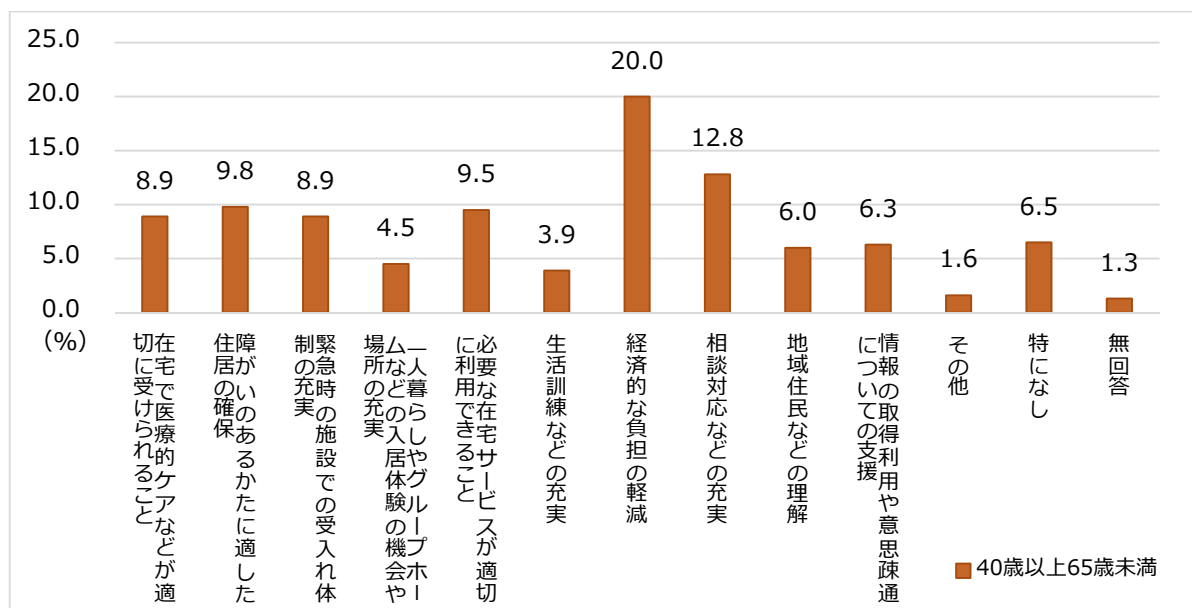
《18歳未満》



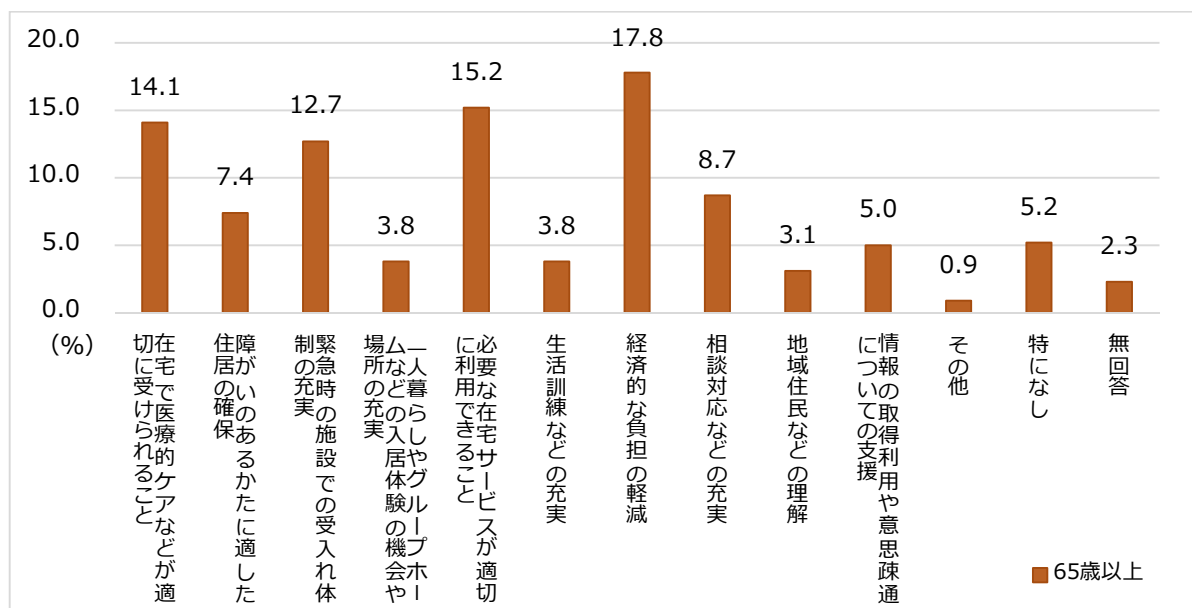
《18歳以上40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



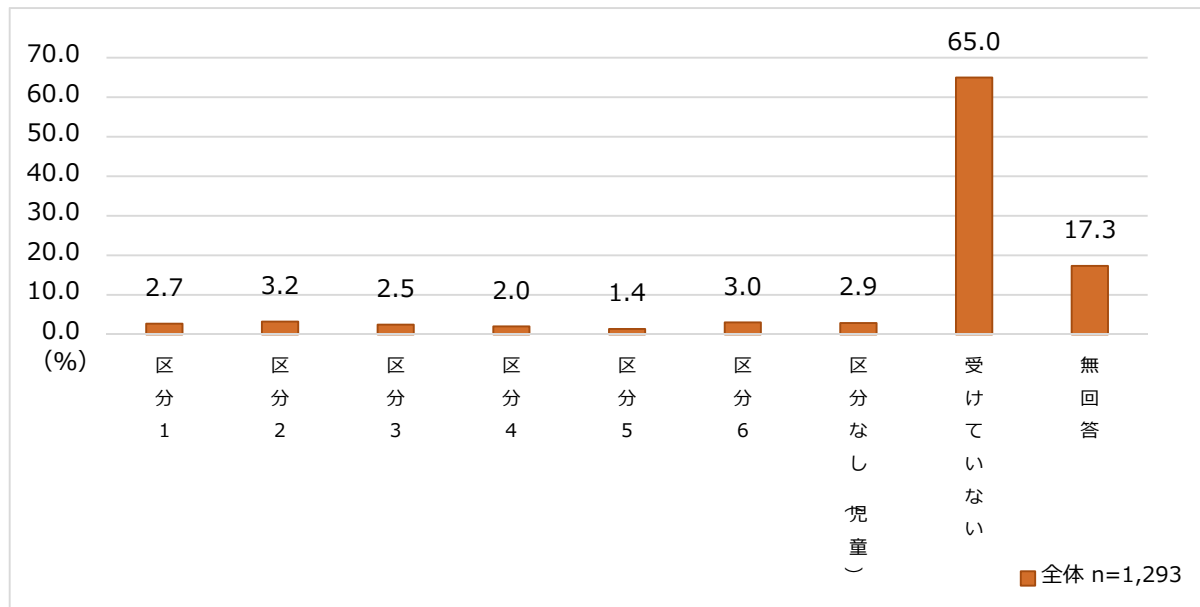
《65 歳以上》



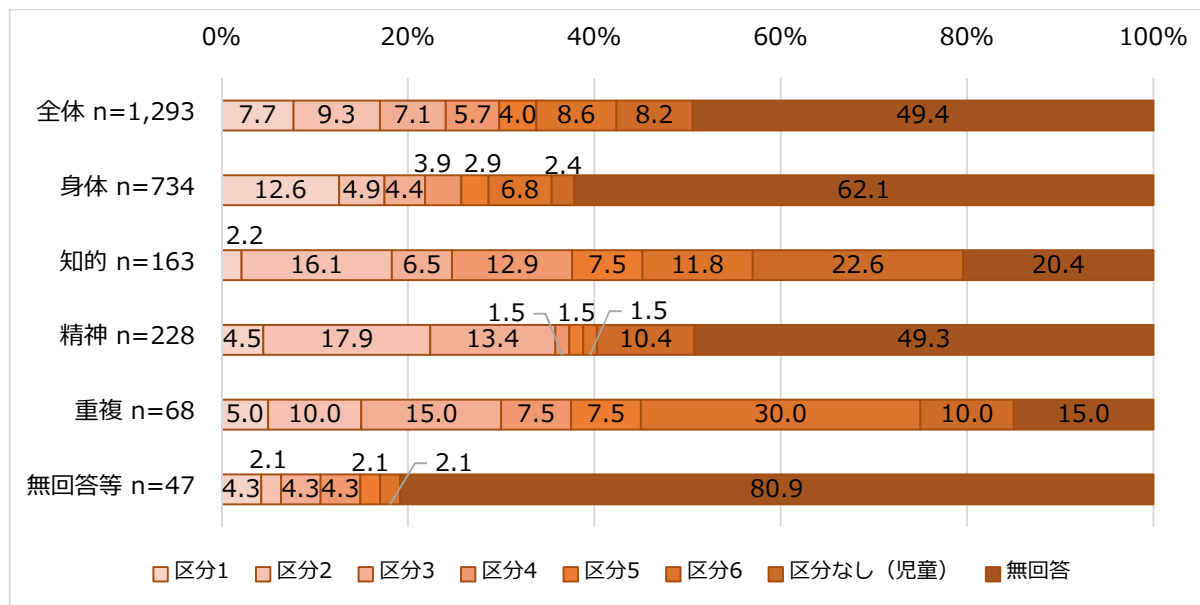
1-5 サービスの利用状況や今後の利用動向などについて

問 12 あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。

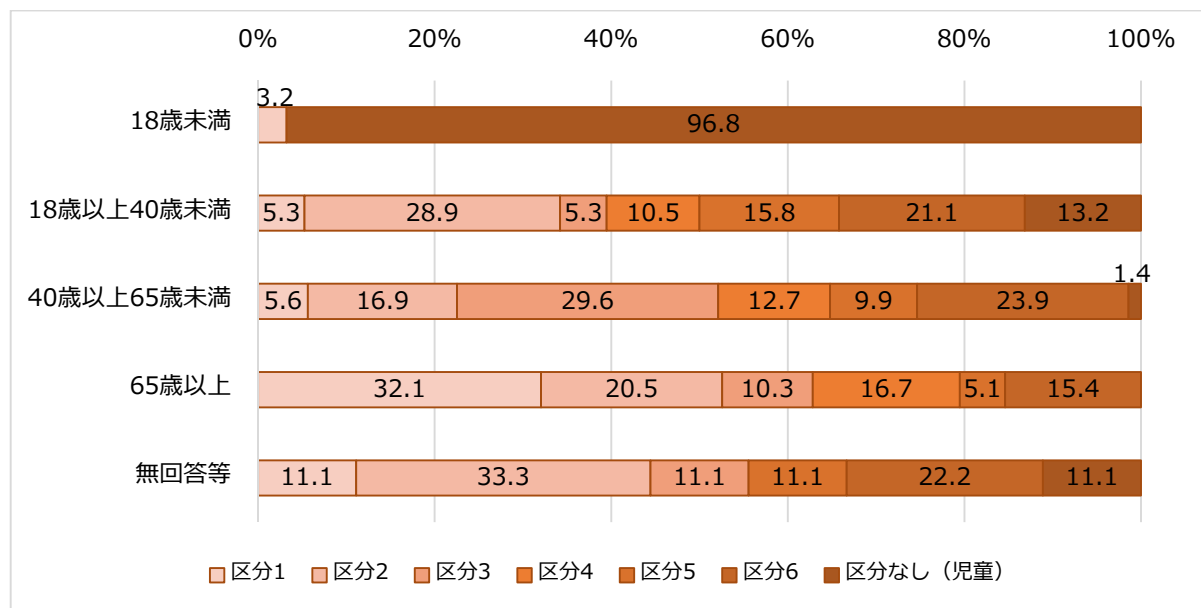
- 障がい支援区分の認定については、「受けていない」が 65.0%で最も多く、次いで、「区分 2」3.2%、「区分 6」3.0%、「区分なし（児童）」2.9%、「区分 1」2.7%、「区分 3」2.5%、「区分 4」2.0%、「区分 5」1.4%となっています。



- 障がい別にみると、身体障がいでは「区分 1」が 12.6%と最も多くなっています。知的障がいでは「区分 2」が 16.1%と最も多く、次いで「区分 4」が 12.9%となっています。精神障がいでは「区分 2」が 17.9%と最も多くなっています。重複障がい者では「区分 6」が 30.0%と最も多くなっています。

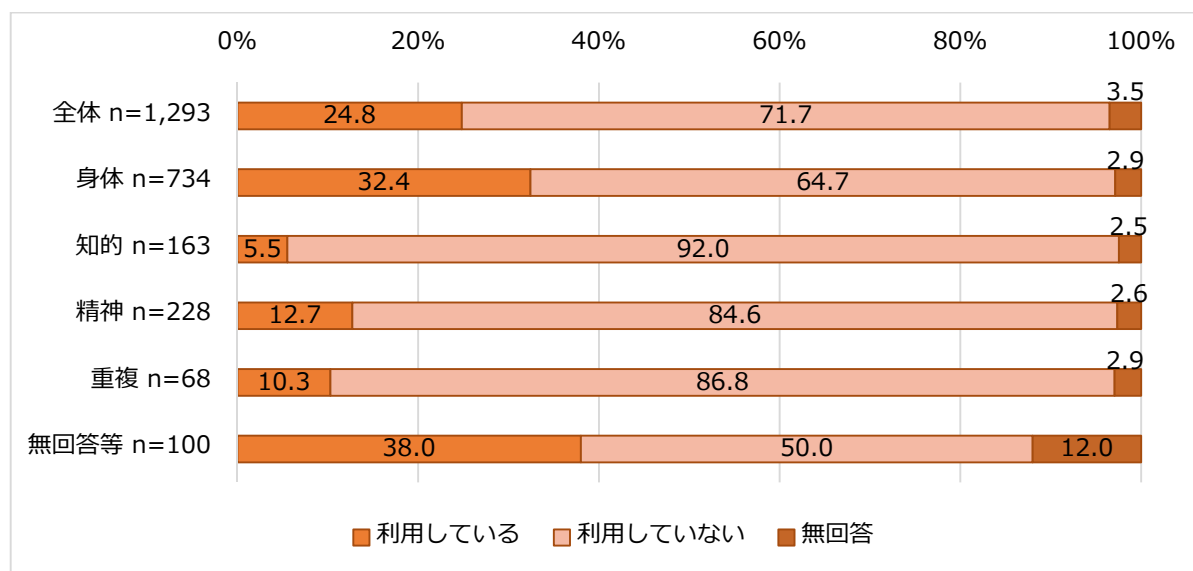


- 年齢別にみると、18 歳以上 40 歳未満では、「区分 2」が 28.9%で最も多く、次いで「区分 6」が 21.1%となっています。40 歳以上 65 歳未満では、「区分 3」が 29.6%で最も多く、次いで「区分 6」が 23.9%となっています。65 歳以上では、「区分 1」が 32.1%と最も多くなっています。

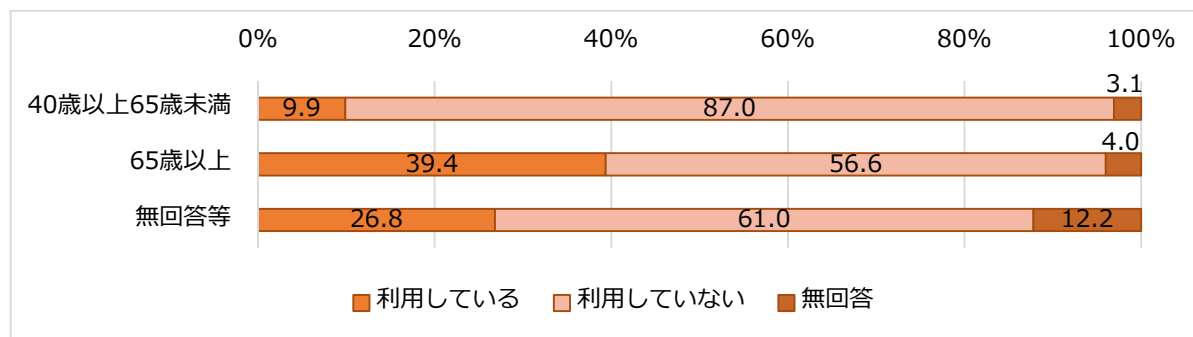


問 13 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。

- 介護保険によるサービスについては、「利用している」が 24.8%、「利用していない」が 71.7%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいでは「利用している」が 5.5%、精神障がいでは 12.7%と低くなっています。

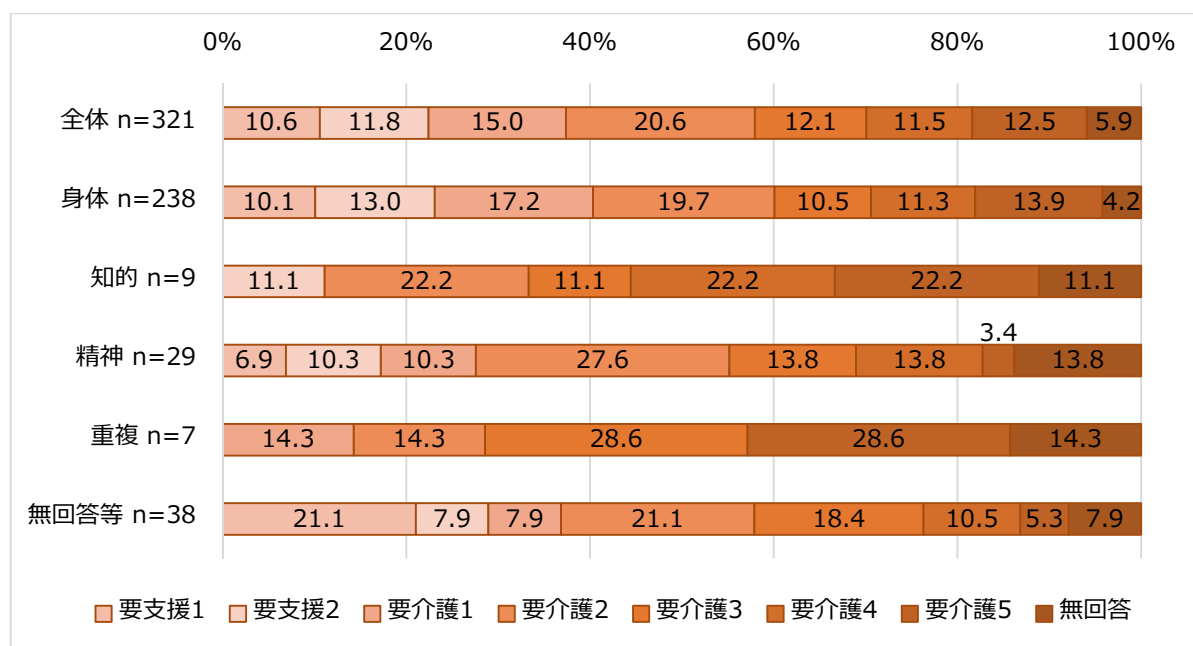


- 年齢別にみると、「利用している」が、40 歳以上 65 歳未満では 9.9%、65 歳以上では 39.4%となっています。



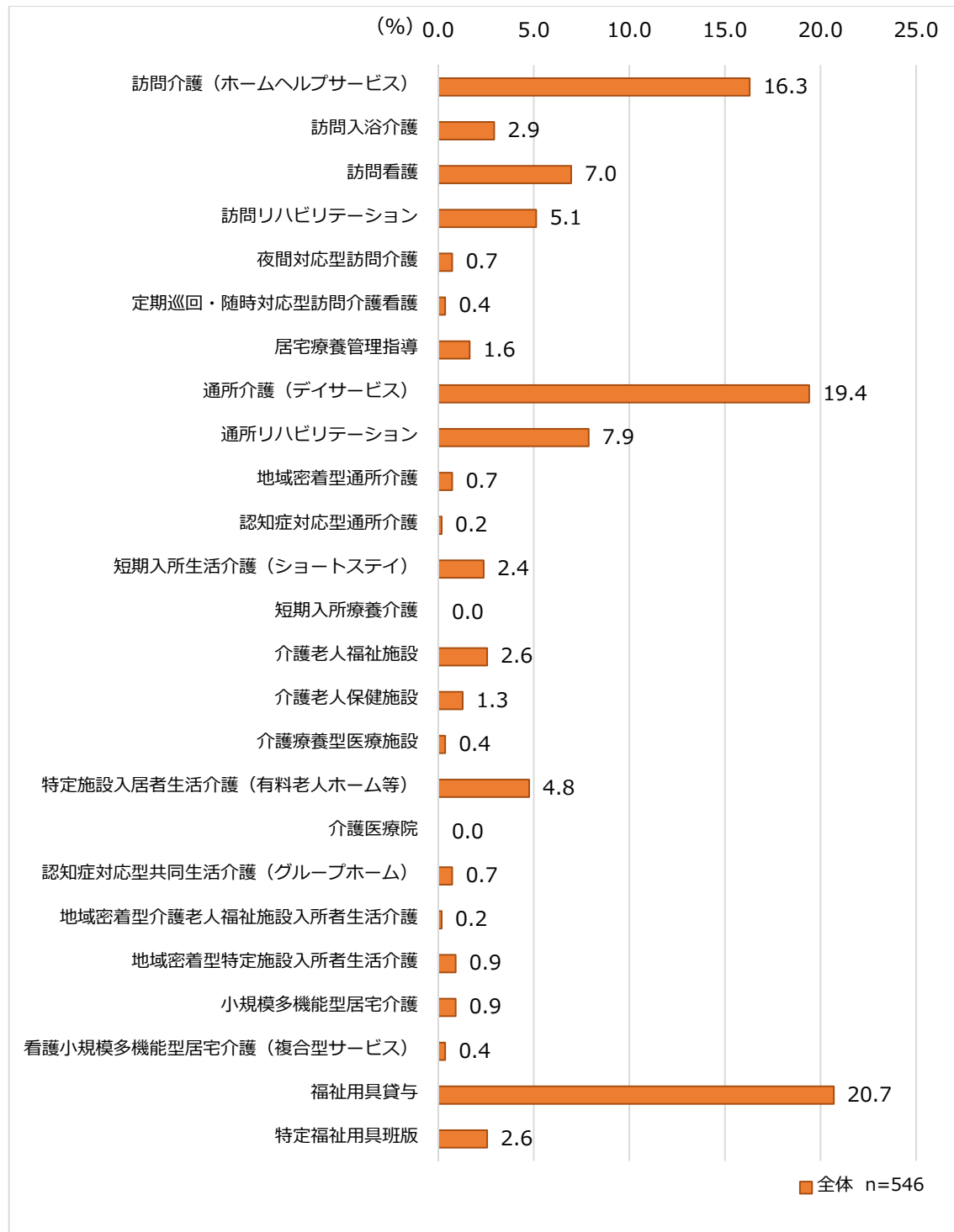
問 13-2 【問 13 で「利用している」と答えたかたにお聞きします】該当する要介護度はどれですか。

- 該当する要介護度については、「要介護 2」が 20.6%と最も多く、次いで「要介護 1」が 15.0%、「要介護 5」が 12.5%となっています。
- 障がい別にみると、身体障害では「要介護 2」が 19.7%、知的障がいでは「要介護 2」「要介護 4」「要介護 5」が 22.2%、精神障がいでは「要介護 2」が 27.6%、重複障がいでは「要介護 3」「要介護 5」が 28.6%となっています。



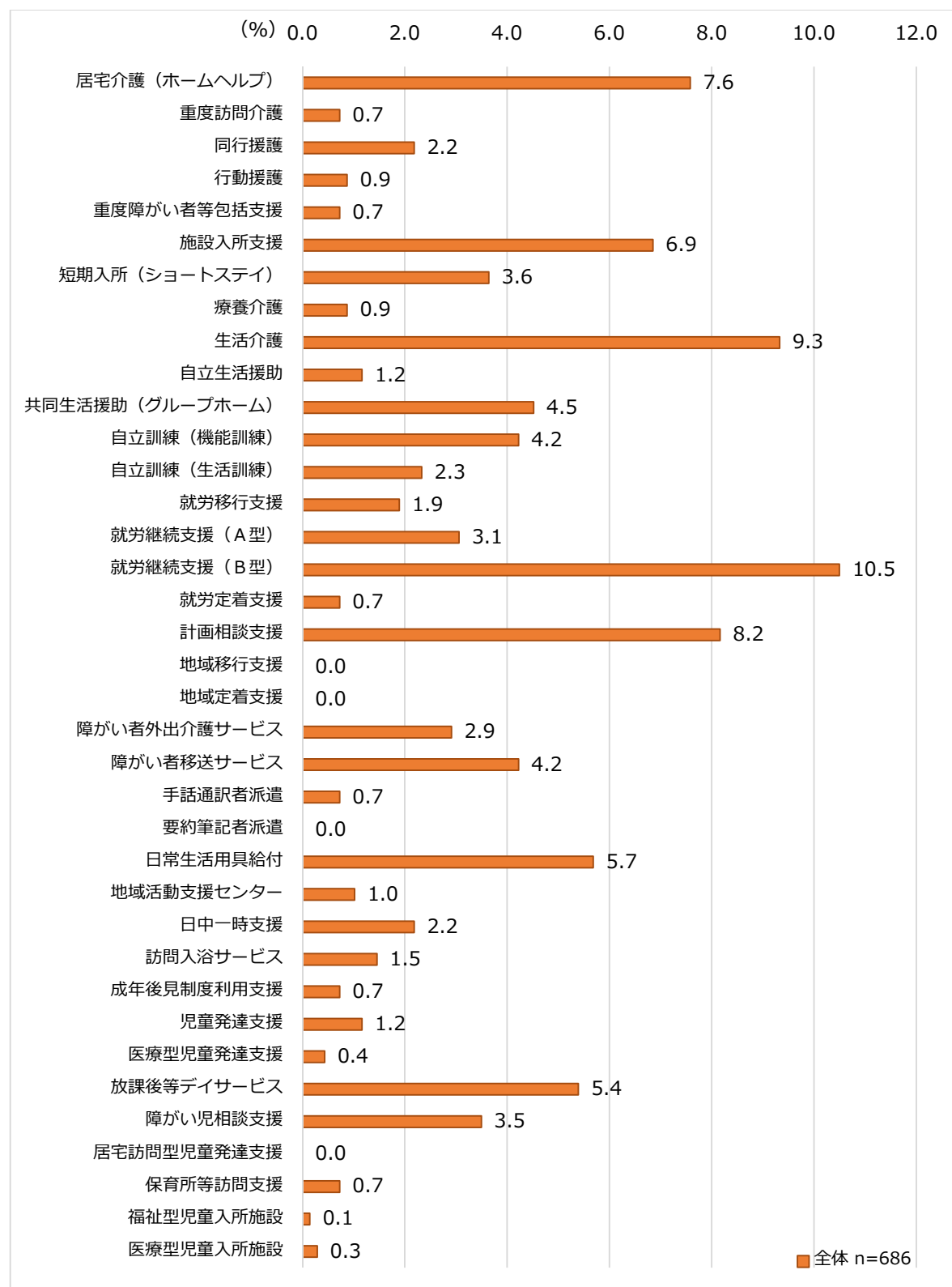
問 13-3 【問 13 で「利用している」と答えたかたにお聞きします】利用している介護保険サービスはどれですか。

- 利用している介護保険サービスについては、「福祉用具貸与」が最も多く 20.7%、次いで「通所介護（デイサービス）」が 19.4%、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 16.3%、「通所リハビリテーション」が 7.9%となっています。



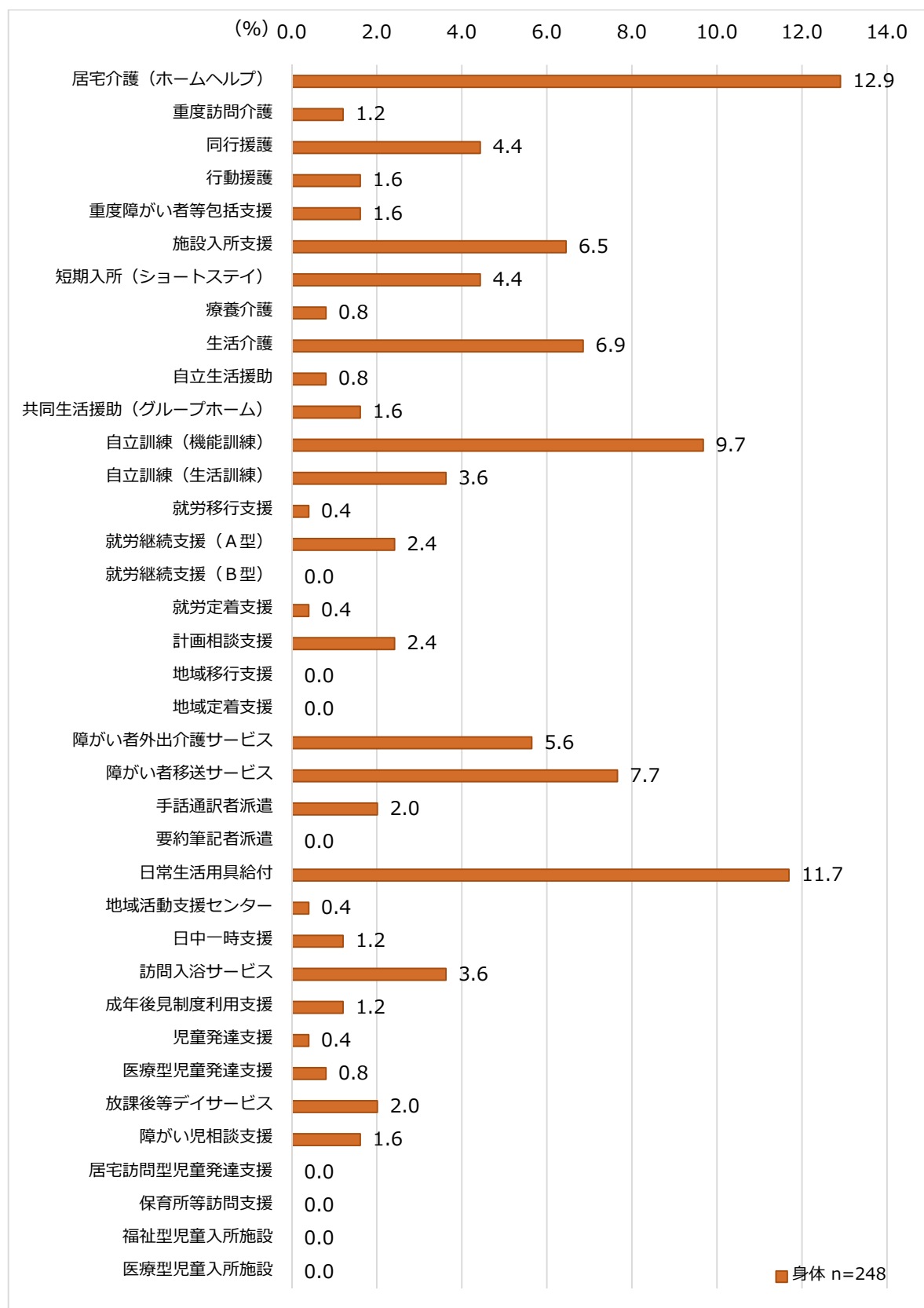
問 14 次の障がい福祉サービスの中に、あなたが利用しているものがありますか。

- 現在、利用しているサービスについては、「就労継続支援（B型）」が10.5%と最も多く、次いで「生活介護」が9.3%、「計画相談支援」が8.2%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が7.6%、「施設入所支援」が6.9%となっています。



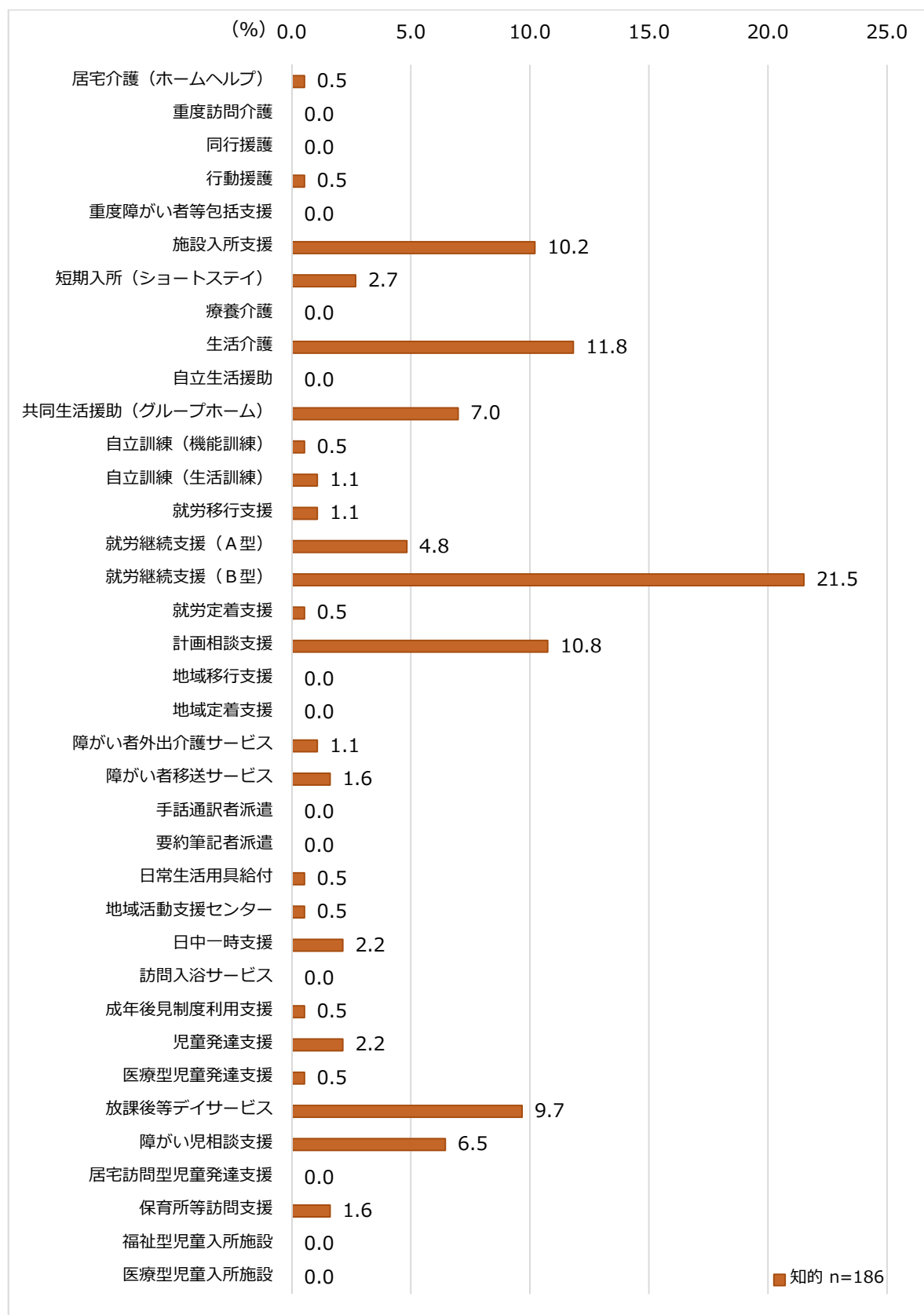
《身体障がい》

- 身体障がいでは、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 12.9%と最も多く、次いで「日常生活用具給付」が 11.7%、「自立訓練（機能訓練）」が 9.7%、「障がい者移送サービス」が 7.7%、「生活介護」が 6.9%となっています。



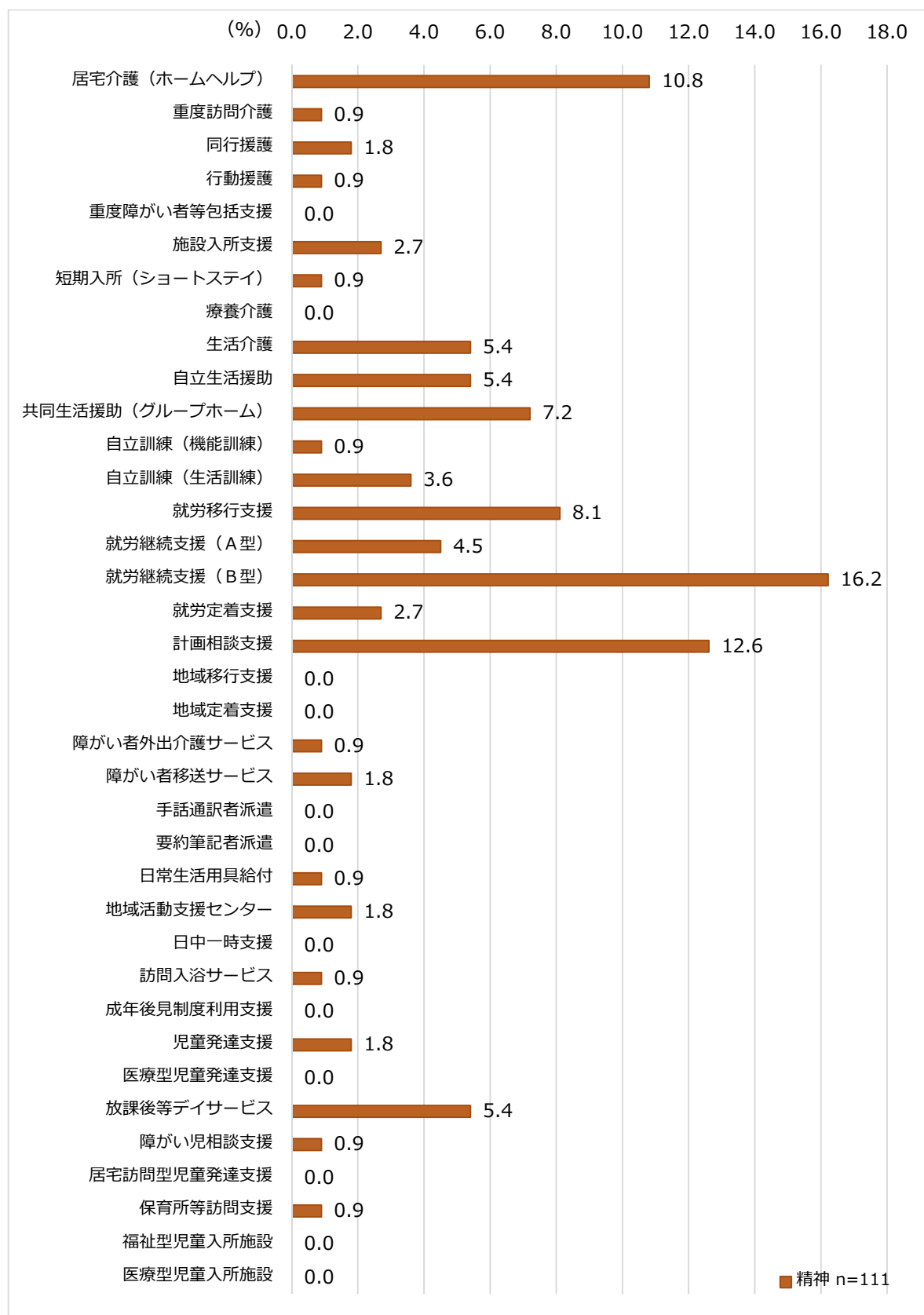
《知的障がい》

- 知的障がいでは、「就労継続支援（B型）」が21.5%と最も多く、次いで「生活介護」が11.8%、「計画相談支援」が10.8%、「施設入所支援」が10.2%、「放課後等デイサービス」が9.7%となっています。



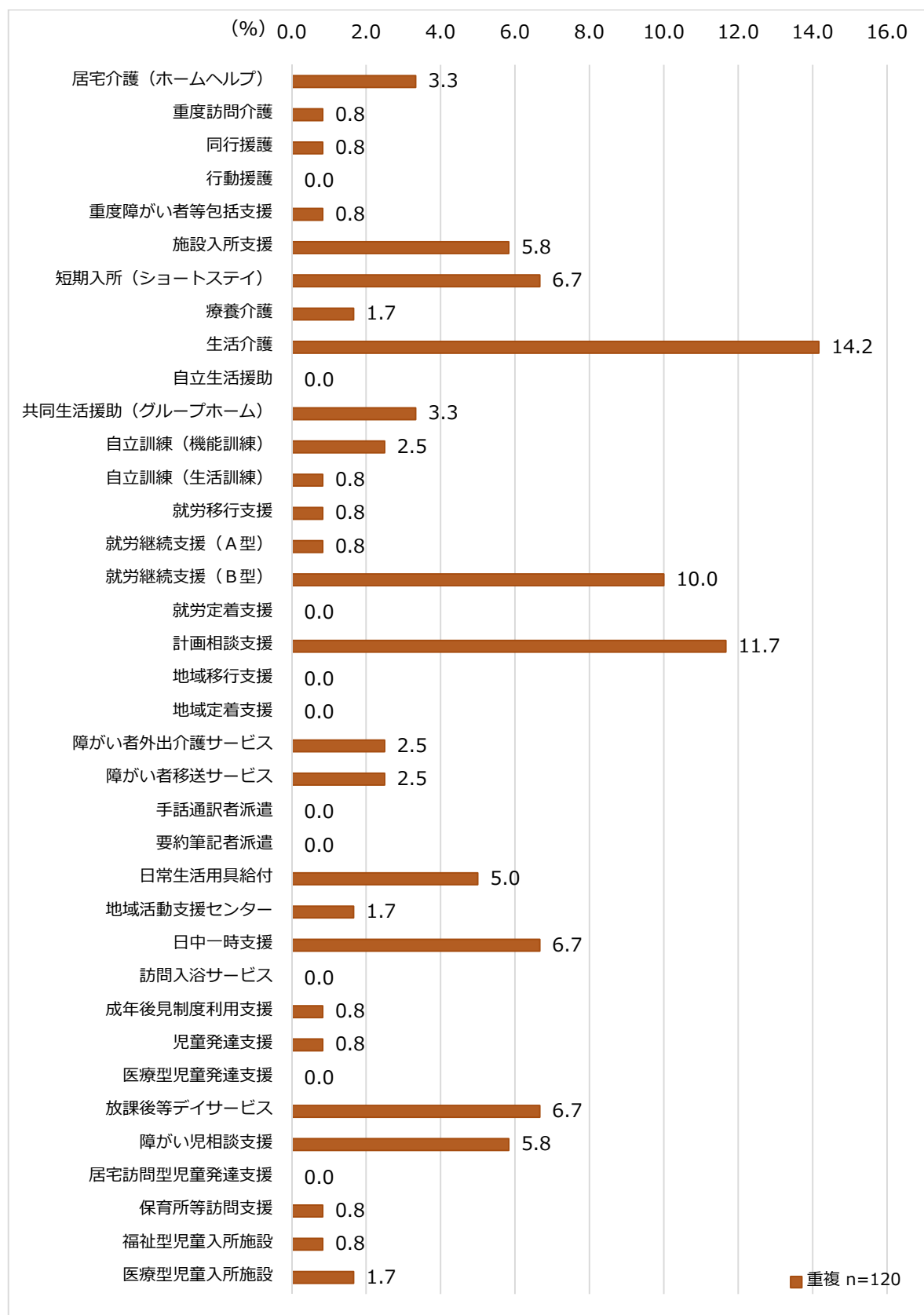
《精神障がい》

- 精神障がいでは、「就労継続支援（B型）」が 16.2%と最も多く、次いで「計画相談支援」が 12.6%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 10.8%、「就労移行支援」が 8.1%、「共同生活援助（グループホーム）」が 7.2%となっています。



《重複障がい》

- 重複障がいでは、「生活介護」が14.2%と最も多く、次いで「計画相談支援」が11.7%、「就労継続支援（B型）」が10.0%、「短期入所（ショートステイ）」「日中一時支援」「放課後等デイサービス」が6.7%、「施設入所支援」「障がい児相談支援」が5.8%となっています。



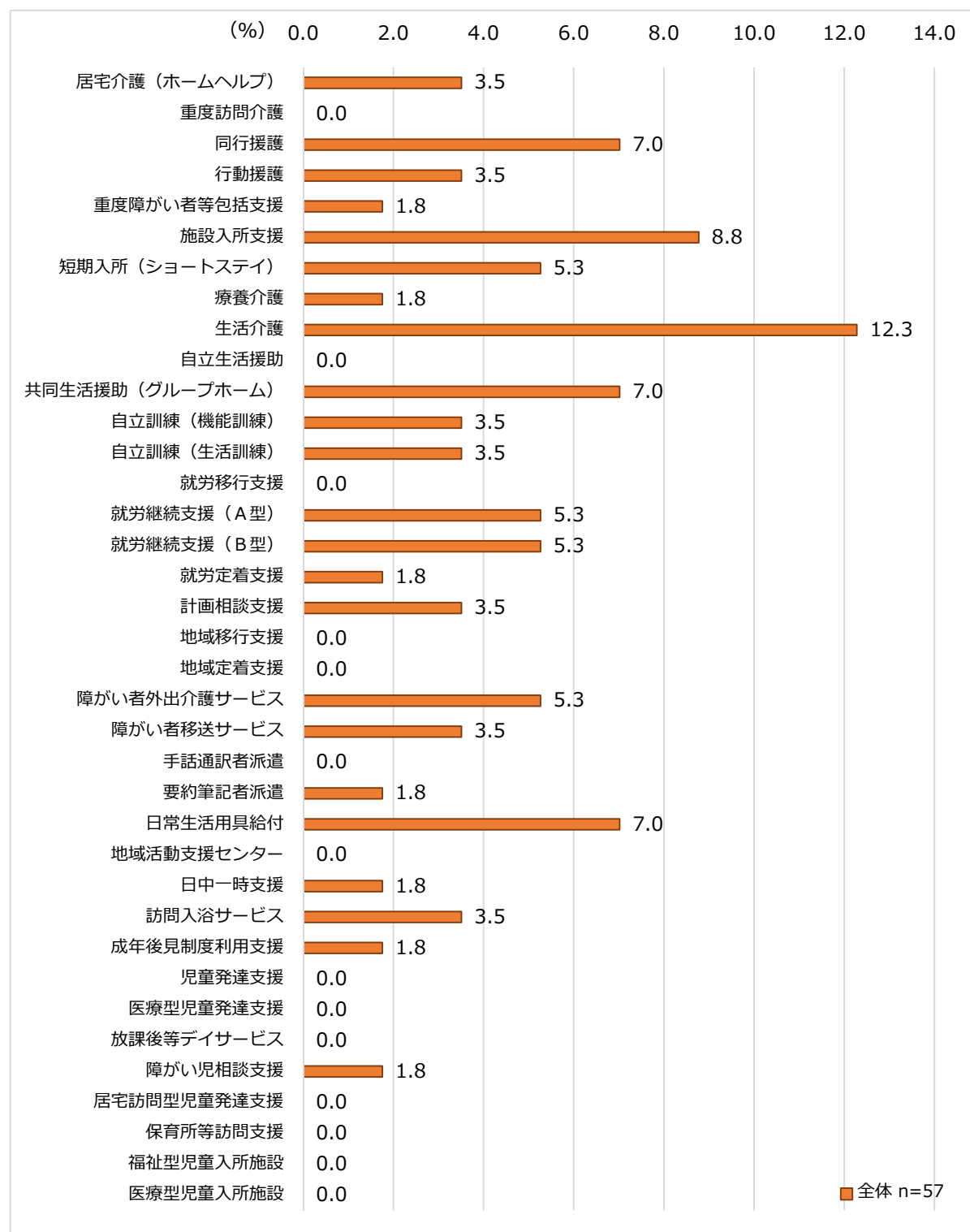
- 年齢別にみると、18 歳未満では、「放課後等デイサービス」が 34.7%と最も多く、次いで「障がい児相談支援」が 21.4%となっています。18 歳以上 40 歳未満では、「就労継続支援（B 型）」が 23.3%と最も多く、次いで「計画相談支援」が 16.4%となっています。40 歳以上では、「生活介護」の割合が多くなっています。

(単位：%)

	18歳未満	18歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上
居宅介護（ホームヘルプ）	0.0	1.4	7.5	14.5
重度訪問介護	0.0	0.0	0.5	1.8
同行援護	0.0	0.0	1.5	5.3
行動援護	0.0	0.7	1.5	0.9
重度障がい者等包括支援	0.0	0.7	0.5	0.9
施設入所支援	0.0	2.7	10.0	10.1
短期入所（ショートステイ）	3.1	6.2	2.0	3.5
療養介護	0.0	0.0	1.5	1.3
生活介護	0.0	10.3	11.0	10.5
自立生活援助	0.0	1.4	1.0	1.8
共同生活援助（グループホーム）	1.0	2.1	11.0	2.2
自立訓練（機能訓練）	2.0	1.4	2.0	9.2
自立訓練（生活訓練）	1.0	2.7	1.5	3.5
就労移行支援	0.0	6.2	2.0	0.0
就労継続支援（A 型）	0.0	7.5	4.5	0.4
就労継続支援（B 型）	0.0	23.3	15.5	2.6
就労定着支援	0.0	1.4	1.5	0.0
計画相談支援	3.1	16.4	11.5	1.8
地域移行支援	0.0	0.0	0.0	0.0
地域定着支援	0.0	0.0	0.0	0.0
障がい者外出介護サービス	2.0	1.4	1.5	5.3
障がい者移送サービス	2.0	1.4	2.5	7.9
手話通訳者派遣	0.0	0.0	1.5	0.9
要約筆記者派遣	0.0	0.0	0.0	0.0
日常生活用具給付	3.1	3.4	4.0	9.6
地域活動支援センター	0.0	1.4	1.5	0.9
日中一時支援	8.2	4.8	0.0	0.0
訪問入浴サービス	0.0	0.0	0.0	4.4
成年後見制度利用支援	0.0	0.0	2.0	0.4
児童発達支援	8.2	0.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	3.1	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	34.7	1.4	0.5	0.0
障がい児相談支援	21.4	1.4	0.0	0.4
居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	5.1	0.0	0.0	0.0
福祉型児童入所施設	0.0	0.7	0.0	0.0
医療型児童入所施設	2.0	0.0	0.0	0.0

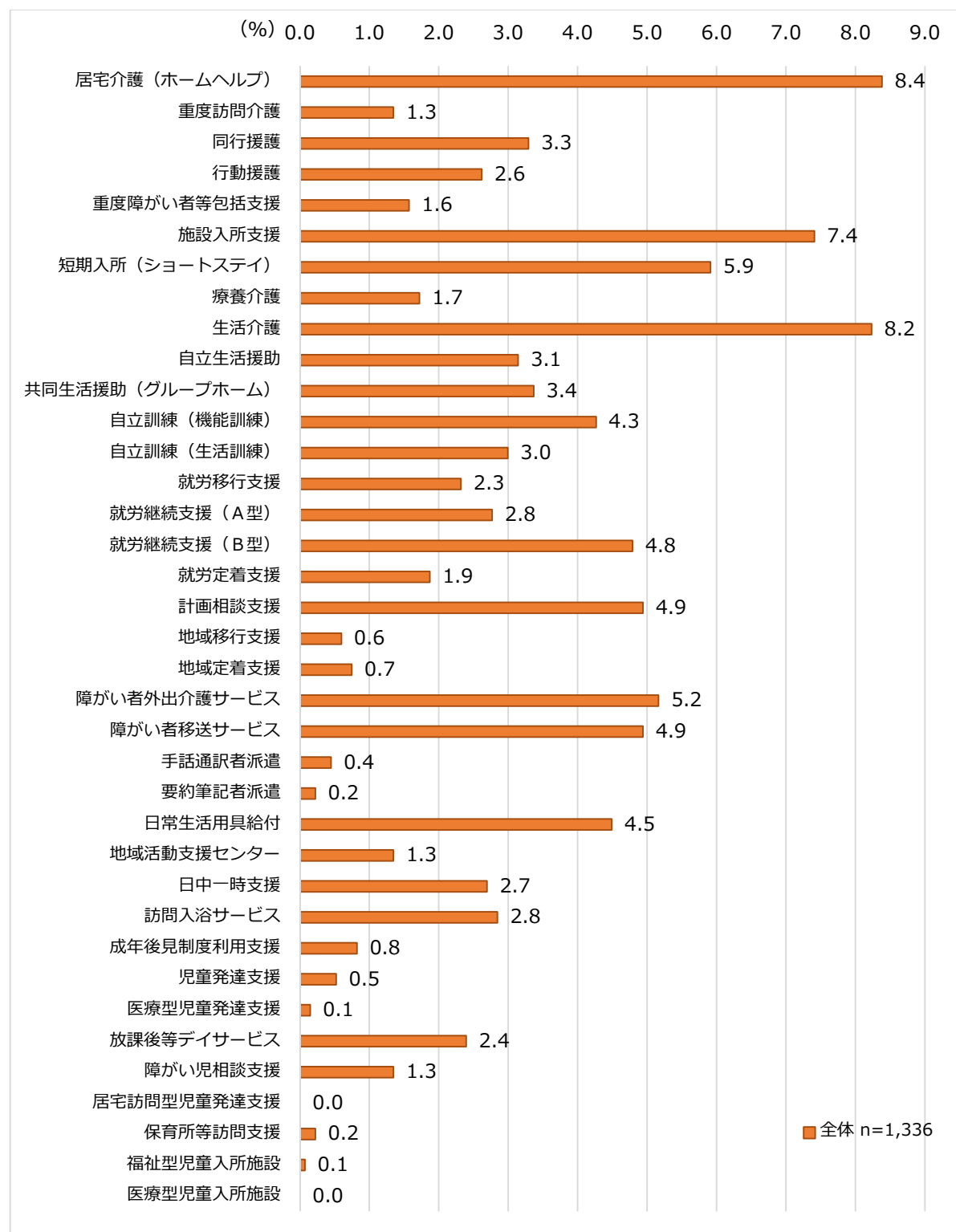
問 14-2 【問 14 で利用しているものがあると答えたかたにお聞きします。】市外にある事業所を利用している場合、そのサービスの番号をお書きください。

- 市外で利用しているサービスについては、「生活介護」が 12.3%と最も多く、次いで「施設入所支援」が 8.8%、「同行援護」「共同生活援助(グループホーム)」「日常生活用具給付」が 7.0%、となっています。



問 15 現在利用している障がい福祉サービスも含めて、今後 3 年以内に利用したいと思うサービスをお答えください。

- 今後 3 年以内に利用したいと思うサービスについては、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 8.4%と最も多く、次いで「生活介護」が 8.2%、「施設入所支援」が 7.4%、「短期入所（ショートステイ）」が 5.9%、「障がい者外出介護サービス」が 5.2%となっています。



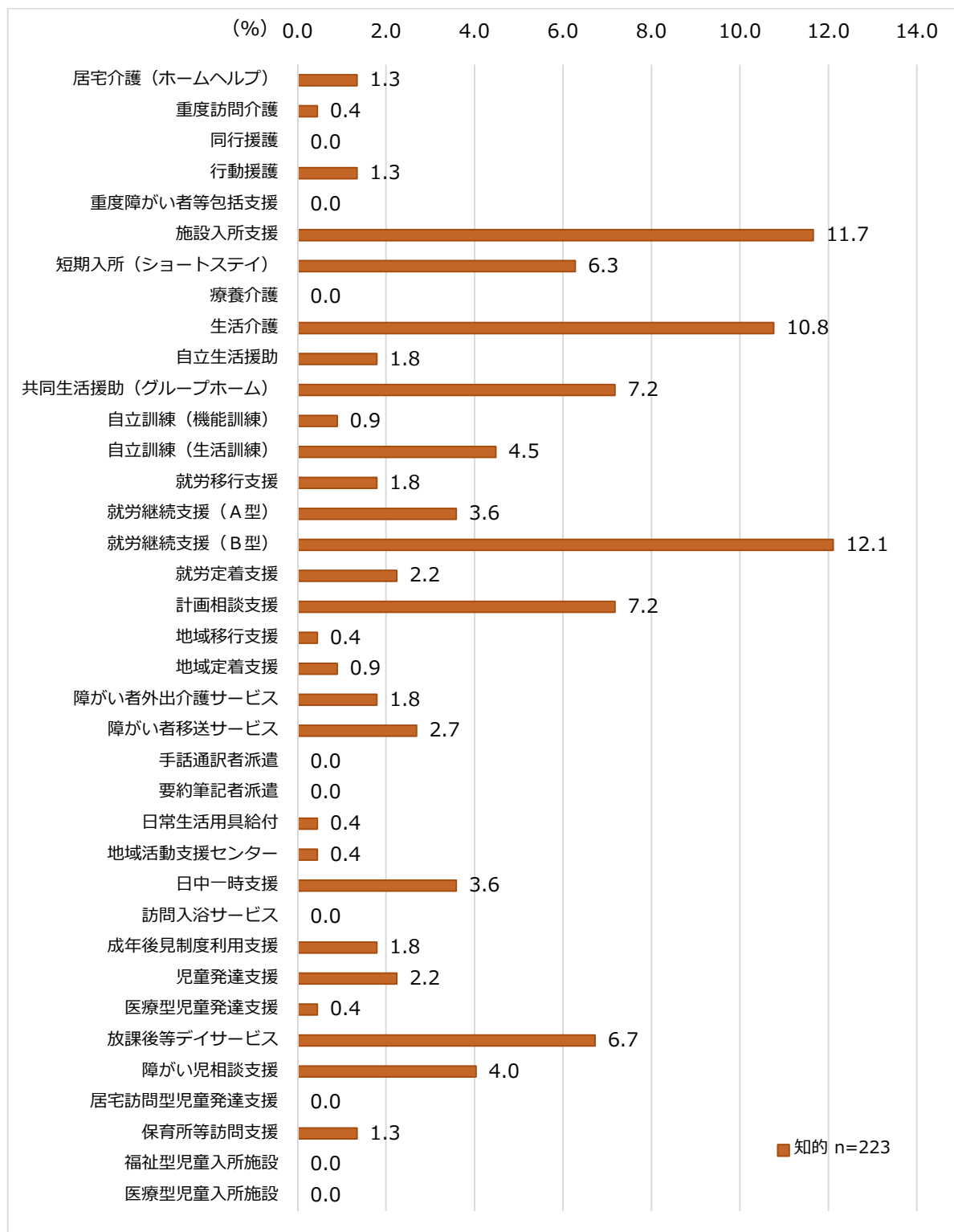
《身体障がい》

- 身体障がいでは、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 11.6%と最も多く、次いで「生活介護」が 7.6%、「障がい者外出介護サービス」「日常生活用具給付」が 7.3%、「短期入所（ショートステイ）」が 7.0%、「自立訓練（機能訓練）」が 6.9%となっています。



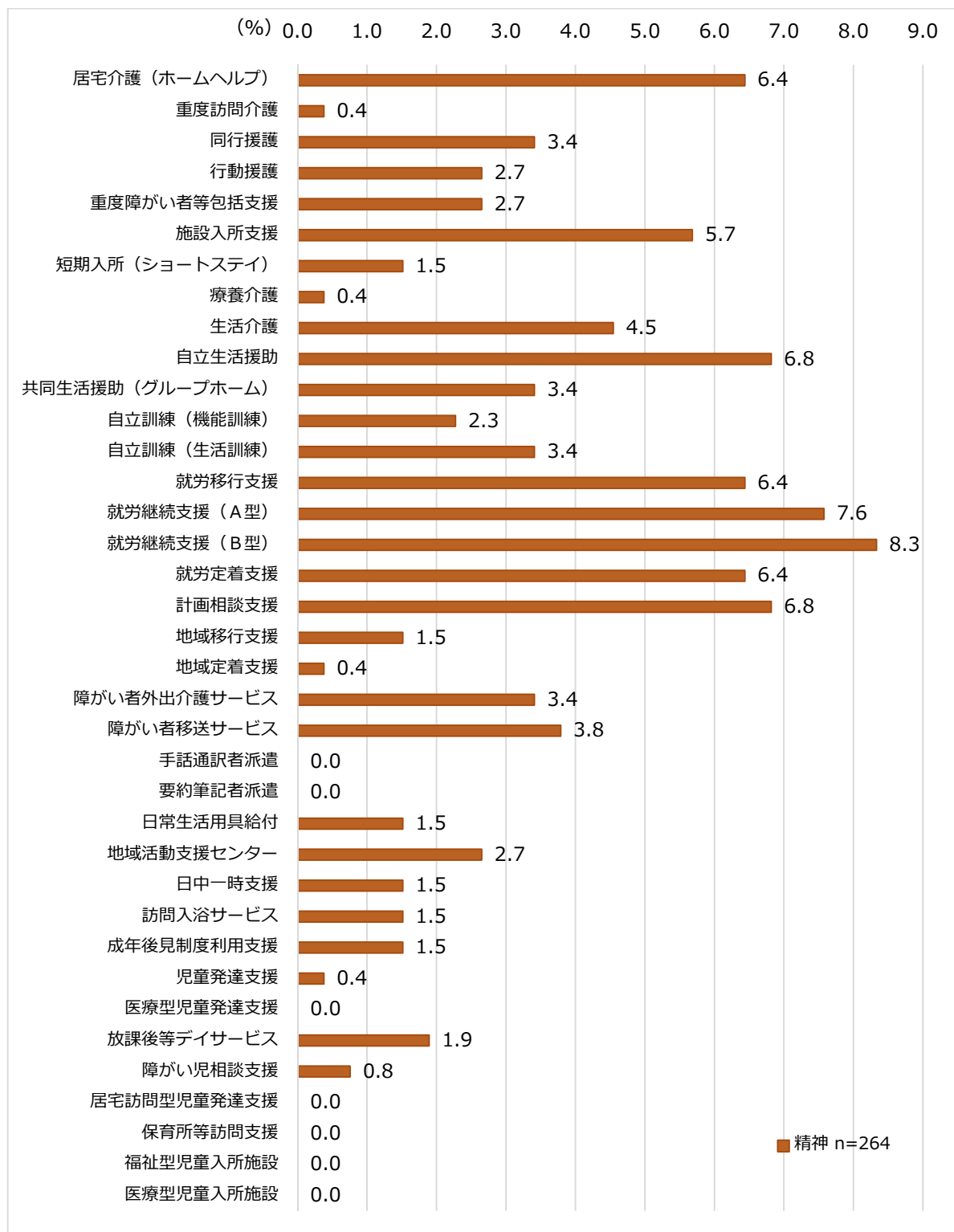
《知的障がい》

- 知的障がいでは、「就労継続支援（B型）」が 12.1%と最も多く、次いで「施設入所支援」が 11.7%、「生活介護」が 10.8%、「共同生活援助（グループホーム）」「計画相談支援」が 7.2%、「放課後等デイサービス」が 6.7%となっています。



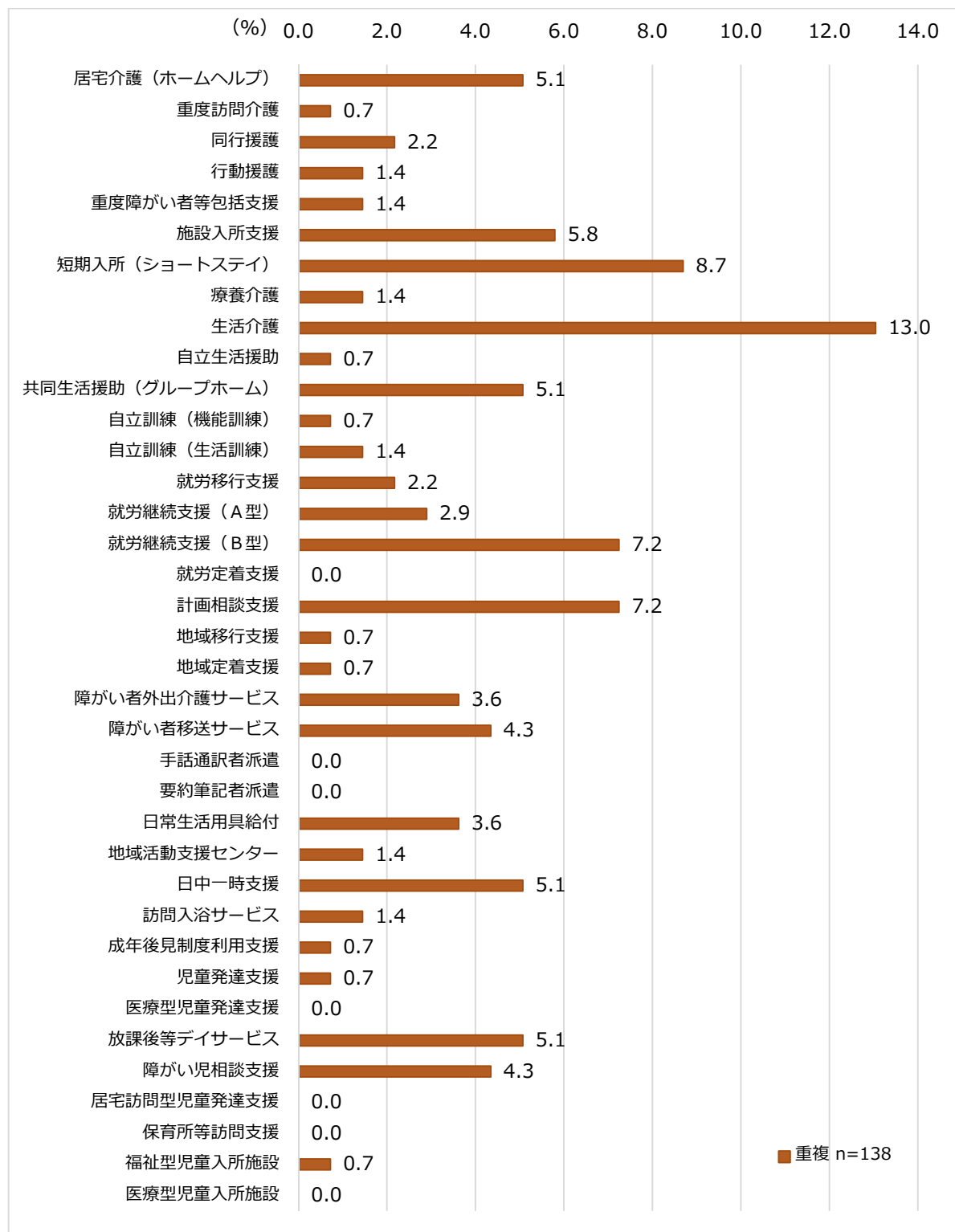
《精神障がい》

- 精神障がいでは、「就労継続支援（Ｂ型）」が8.3%と最も多く、次いで「就労継続支援（Ａ型）」が7.6%、「自立生活援助」「計画相談支援」が6.8%、「居宅介護（ホームヘルプ）」「就労移行支援」「就労定着支援」が6.4%となっています。



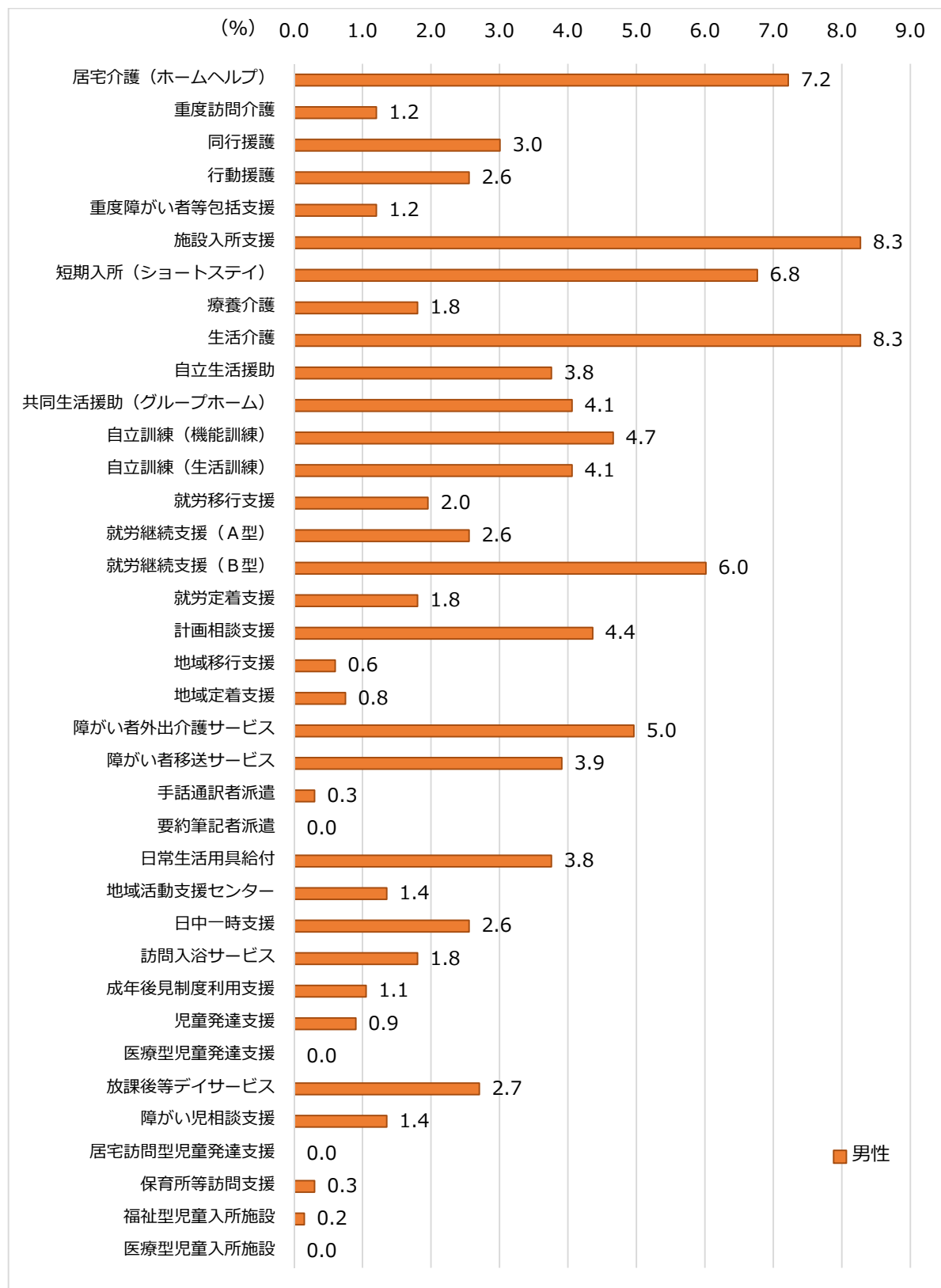
《重複障がい》

- 重複障がいでは、「生活介護」が 13.0%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が 8.7%、「就労継続支援（B 型）」「計画相談支援」が 7.2%、「施設入所支援」が 5.8%となっています。

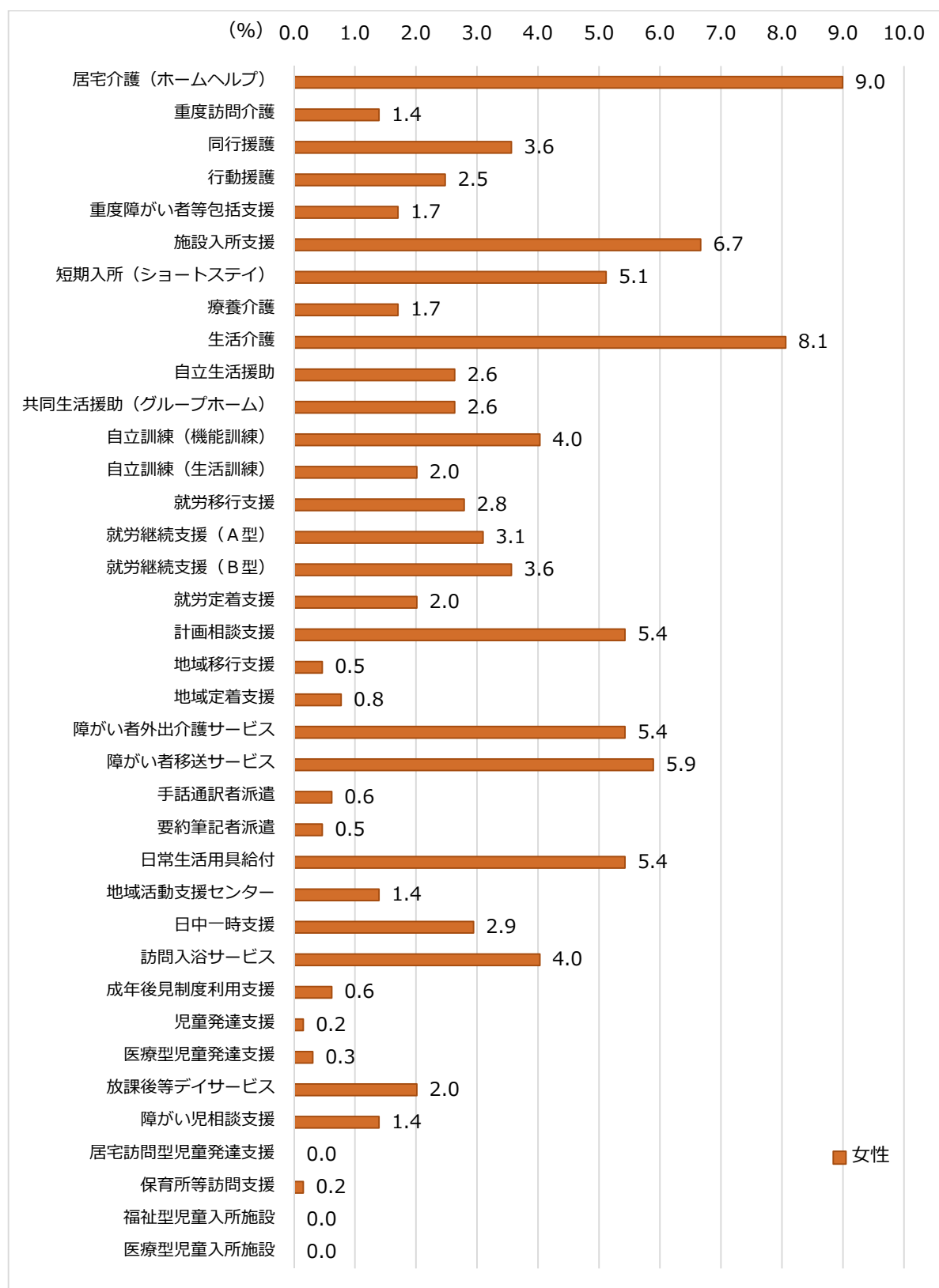


- 男女別にみると、男性では「施設入所支援」「就労継続支援（B型）」の割合が多くなっています。女性では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「障がい者移送サービス」の割合が多くなっています。

《男性》

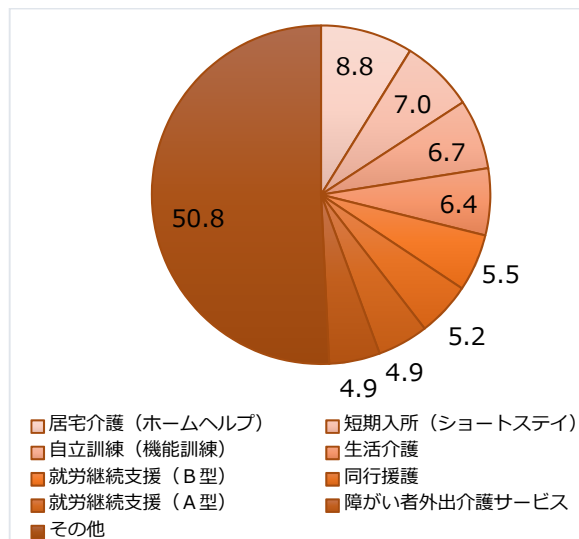


《女性》

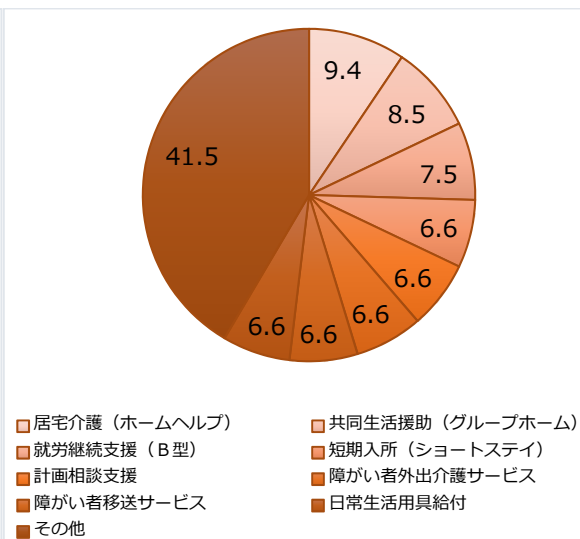


- 住んでいる地域別にみると、東地区、中央地区、南地区、西部地区では「居宅介護（ホームヘルプ）」の割合が多く、東部地区、東部地区 B、南東部地区、北部地区では「施設入所支援」の割合が多くなっています。

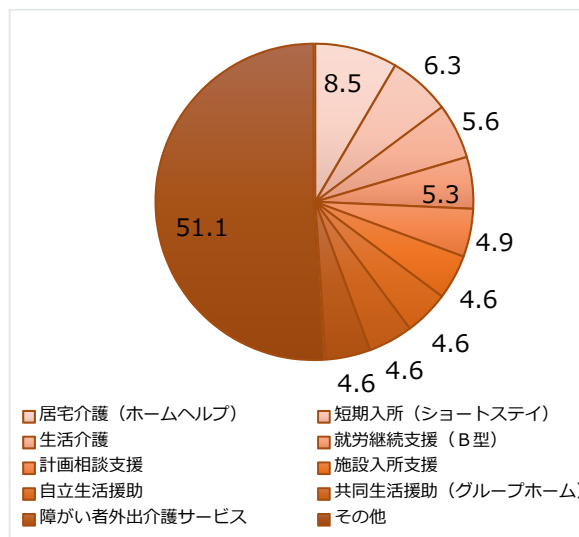
《東地区》



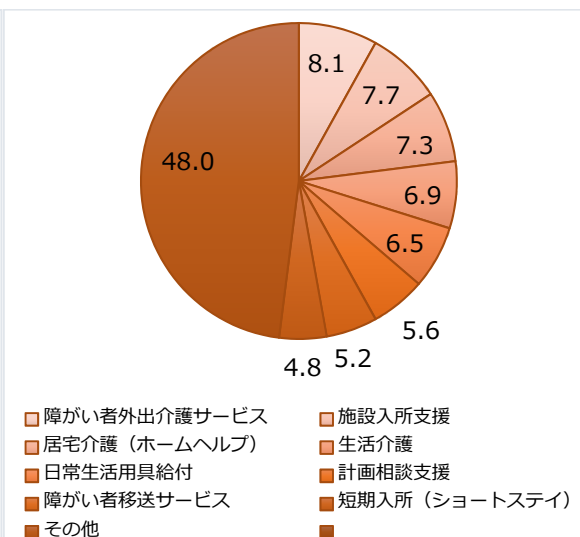
《中央地区》



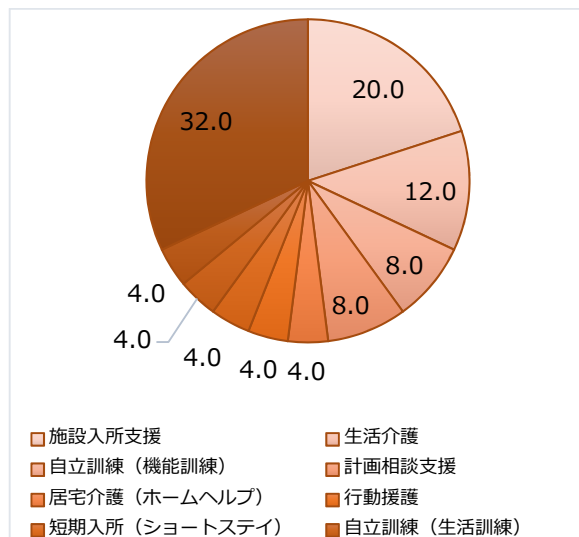
《南地区》



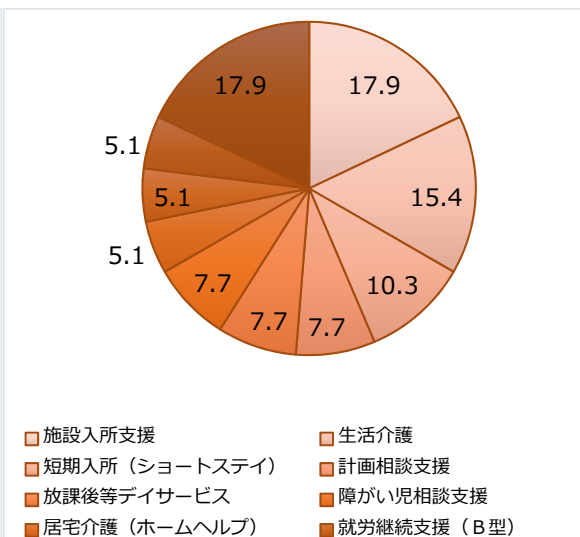
《西部地区》



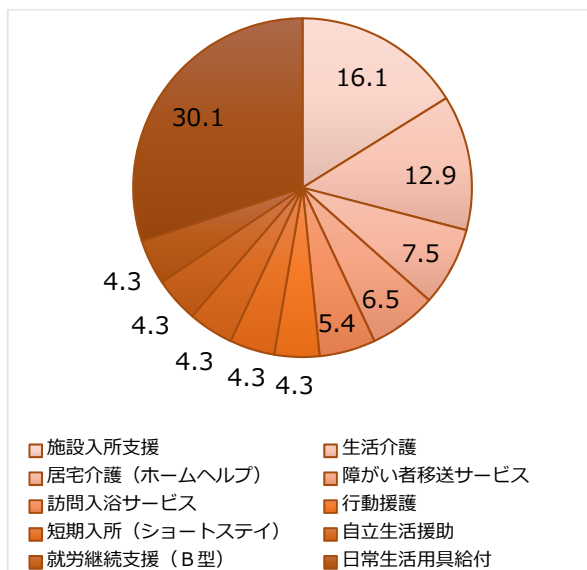
《東部地区》



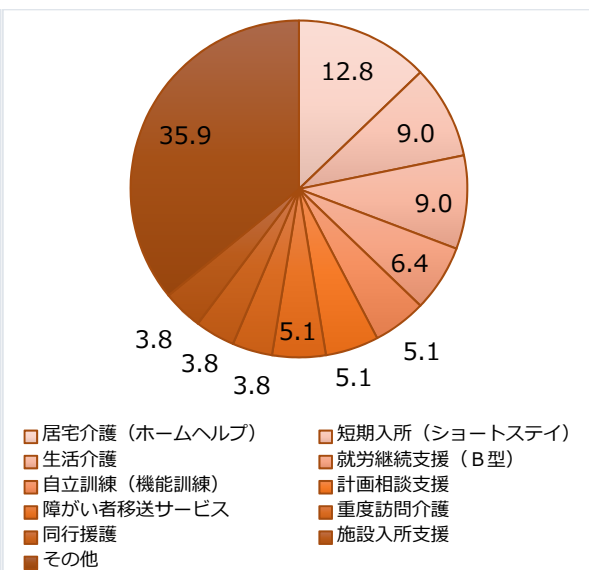
《東部地区 B》



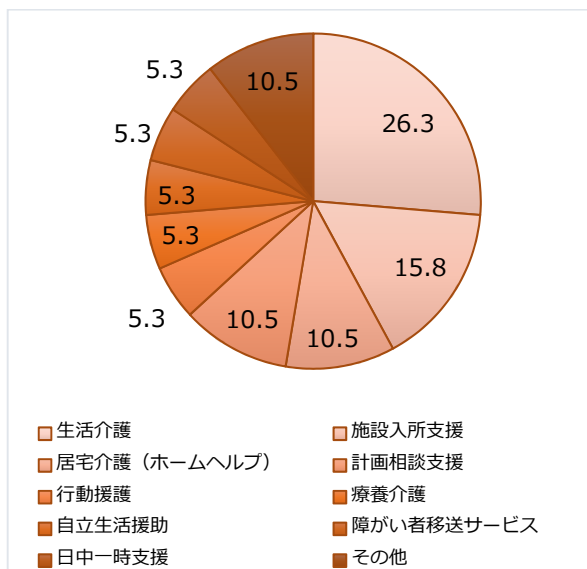
《南東部地区》



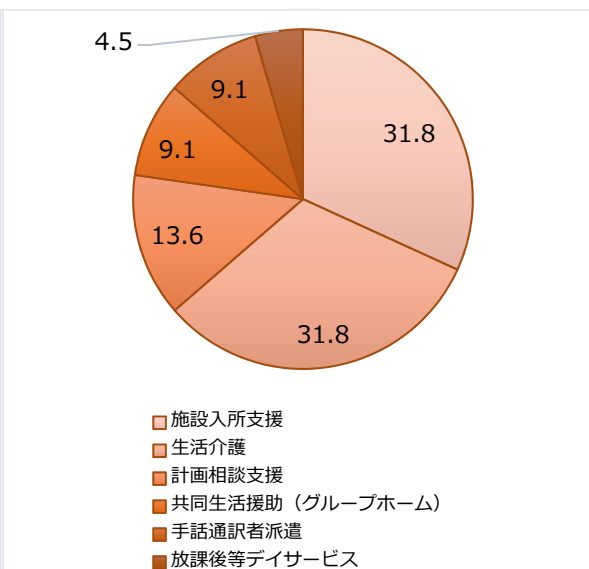
《西部地区》



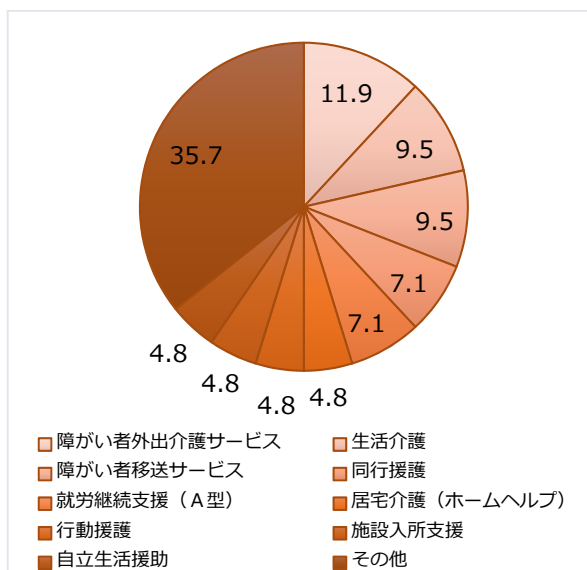
《南部地区》



《北部地区》



《浪岡地区》



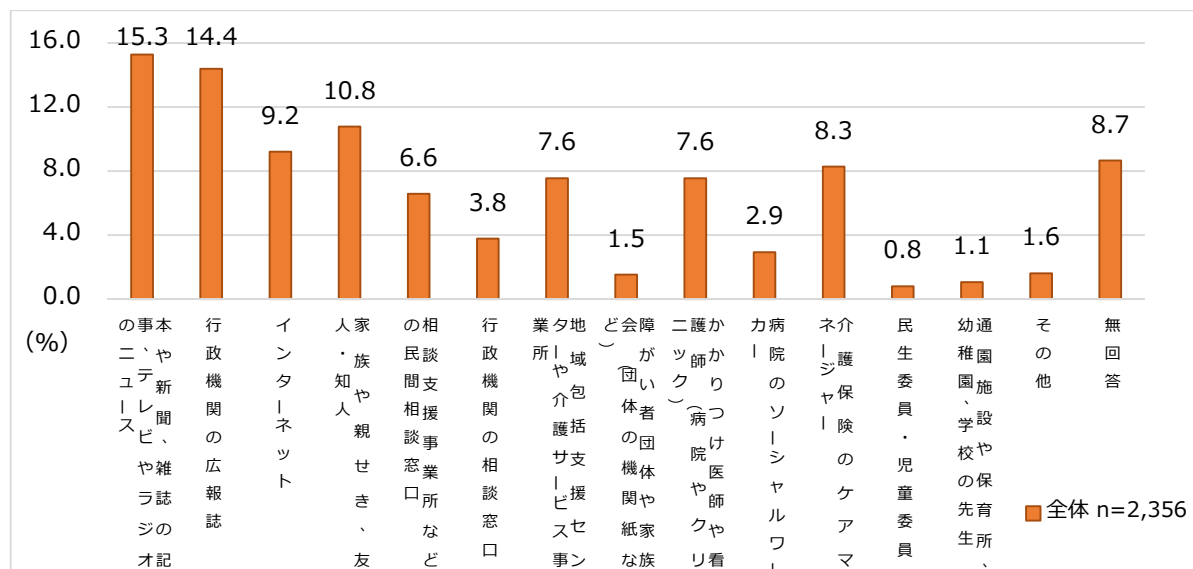
- 年齢別にみると、18歳未満では、「放課後等デイサービス」が25.6%と最も多く、次いで「障がい児相談支援」が13.7%となっています。18歳以上40歳未満では、「就労継続支援（B型）」が11.1%と最も多く、次いで「就労継続支援（A型）」が8.9%となっています。40歳以上では、「生活介護」の割合が多くなっています。

(単位：%)

	18歳未満	18歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上
居宅介護（ホームヘルプ）	0.0	3.4	6.0	12.3
重度訪問介護	0.0	0.0	0.9	2.2
同行援護	0.9	1.3	3.8	4.2
行動援護	0.9	3.4	1.9	3.0
重度障がい者等包括支援	0.9	1.3	0.9	1.9
施設入所支援	0.9	3.8	8.2	9.7
短期入所（ショートステイ）	6.0	6.0	4.4	6.7
療養介護	0.0	0.0	1.3	3.0
生活介護	4.3	6.4	8.5	9.2
自立生活援助	1.7	4.3	4.1	2.7
共同生活援助（グループホーム）	1.7	4.3	6.9	1.6
自立訓練（機能訓練）	1.7	2.6	2.5	6.4
自立訓練（生活訓練）	5.1	3.8	2.5	2.7
就労移行支援	0.0	7.7	4.1	0.0
就労継続支援（A型）	2.6	8.9	3.8	0.2
就労継続支援（B型）	3.4	11.1	9.5	0.5
就労定着支援	1.7	6.8	2.2	0.0
計画相談支援	3.4	8.1	7.3	2.7
地域移行支援	0.0	0.0	1.6	0.3
地域定着支援	0.0	0.4	0.9	0.9
障がい者外出介護サービス	0.9	3.4	3.2	7.7
障がい者移送サービス	3.4	2.1	3.8	6.7
手話通訳者派遣	0.0	0.0	0.9	0.5
要約筆記者派遣	0.0	0.4	0.0	0.3
日常生活用具給付	1.7	2.6	3.2	6.6
地域活動支援センター	0.0	1.3	1.9	1.4
日中一時支援	6.8	3.4	1.9	2.2
訪問入浴サービス	0.9	0.9	1.9	4.5
成年後見制度利用支援	0.9	1.7	1.6	0.2
児童発達支援	6.0	0.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	1.7	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	25.6	0.4	0.0	0.0
障がい児相談支援	13.7	0.4	0.3	0.0
居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	2.6	0.0	0.0	0.0
福祉型児童入所施設	0.9	0.0	0.0	0.0
医療型児童入所施設	0.0	0.0	0.0	0.0

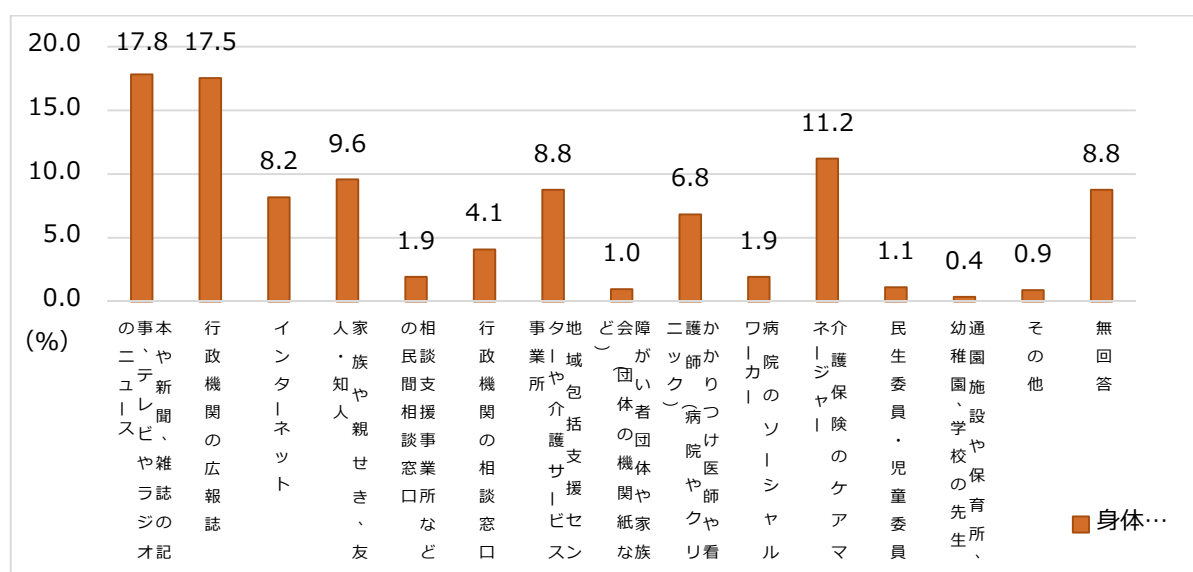
問 16 あなたは介護保険サービスや障がい福祉サービスに関する情報を、どこから得ることが多いですか。

- 介護保険サービスや障がい福祉サービスに関する情報をどこから得るかについては、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が最も多く 15.3%、次いで「行政機関の広報紙」が 14.4%、「家族や親せき、友人・知人」が 10.8%、「インターネット」が 9.2%となっています。

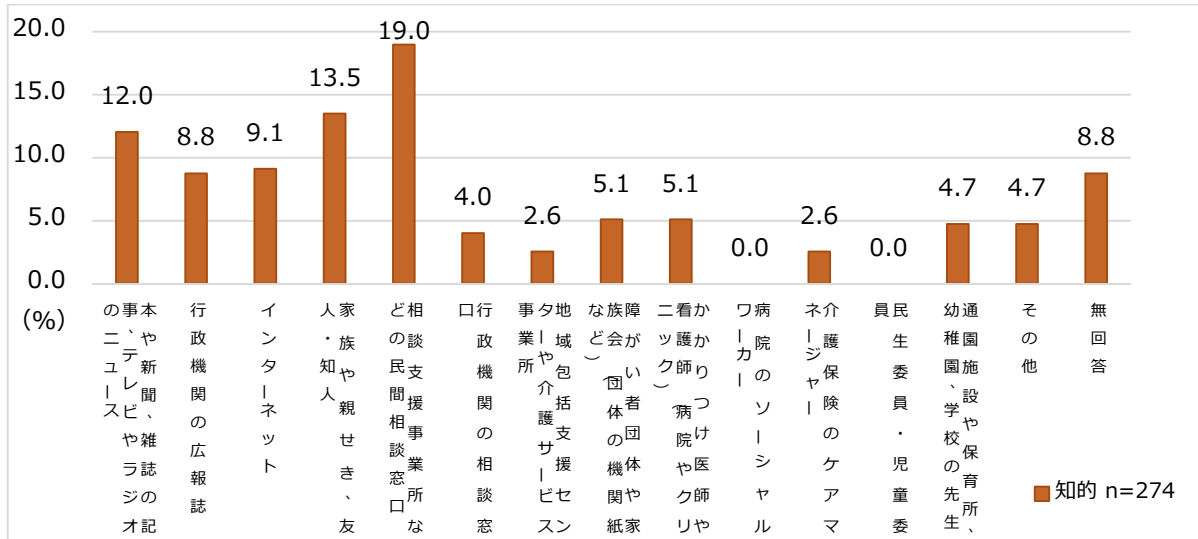


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「相談支援事業所などの民間の相談窓口」「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」の割合が多く、精神障がいでは「かかりつけの医師や看護師（病院やクリニック）」の割合が多く、重複障がいでは、「相談支援事業所などの民間の相談窓口」の割合が多くなっています。

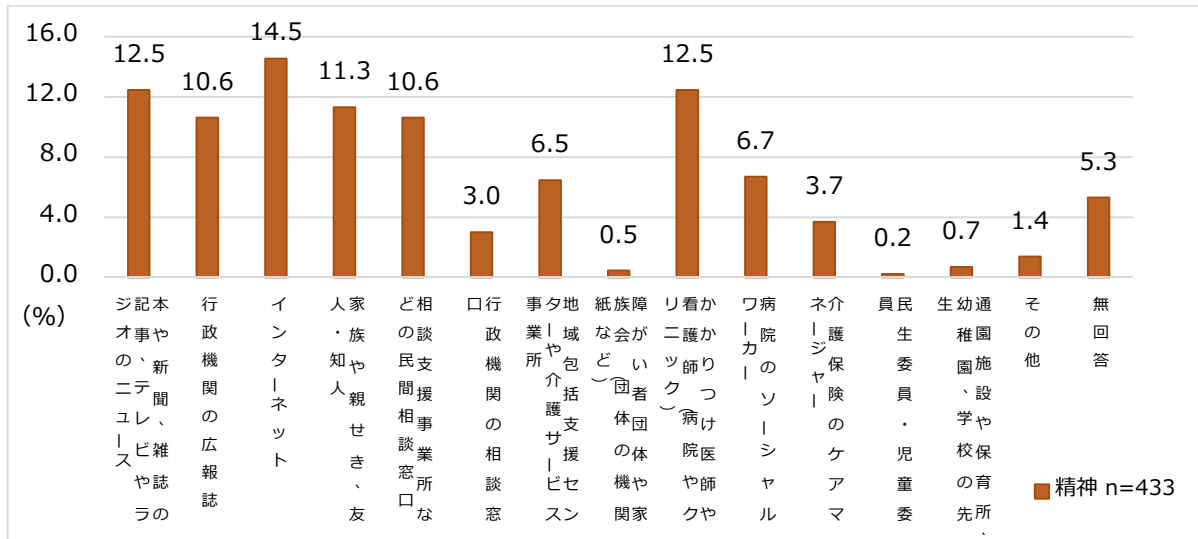
《身体障がい》



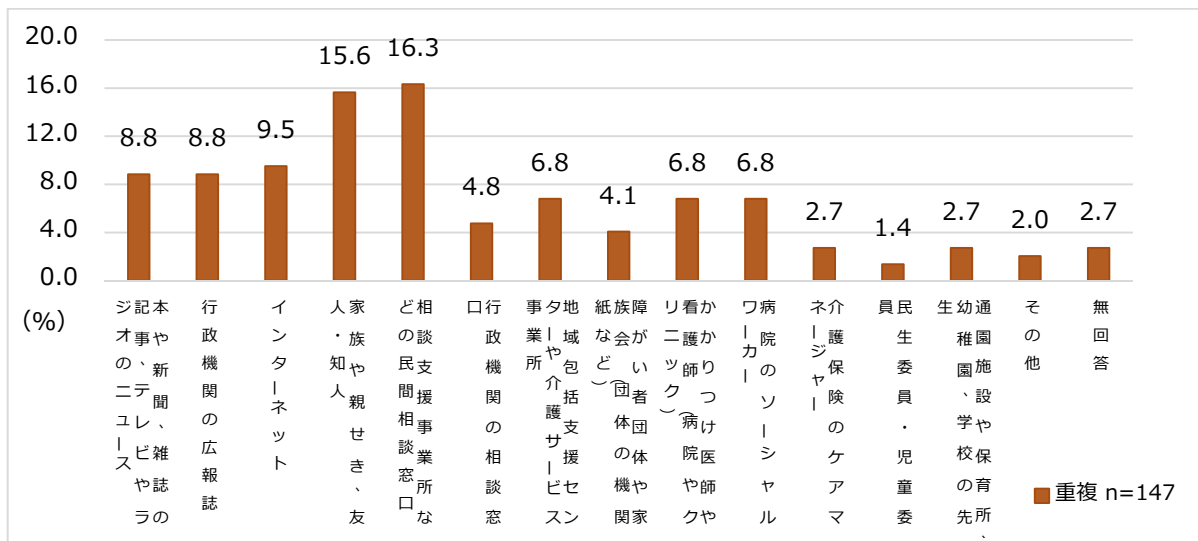
《知的障がい》



《精神障がい》

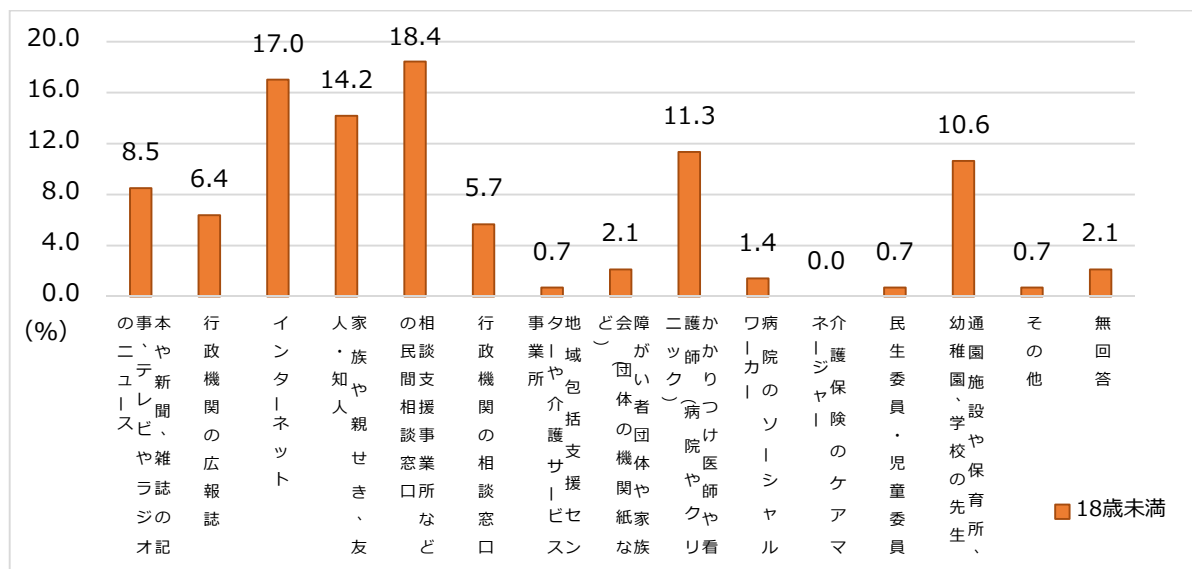


《重複障がい》

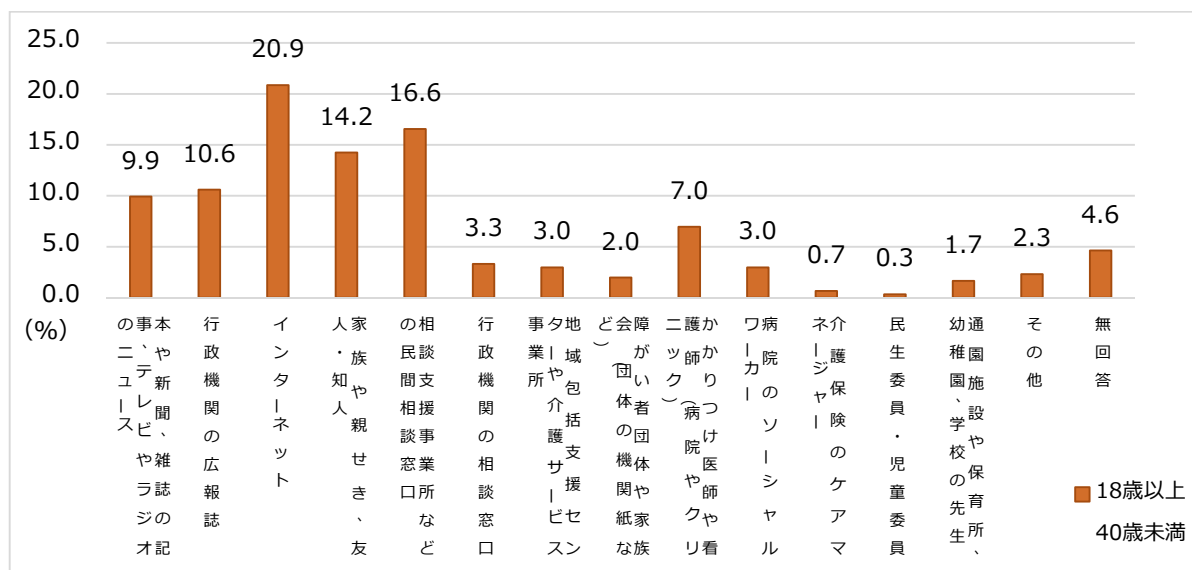


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「相談支援事業所などの民間相談窓口」が最も多くなっています。18歳以上40歳未満では「インターネット」が最も多くなっています。65歳以上では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が最も多くなっています。

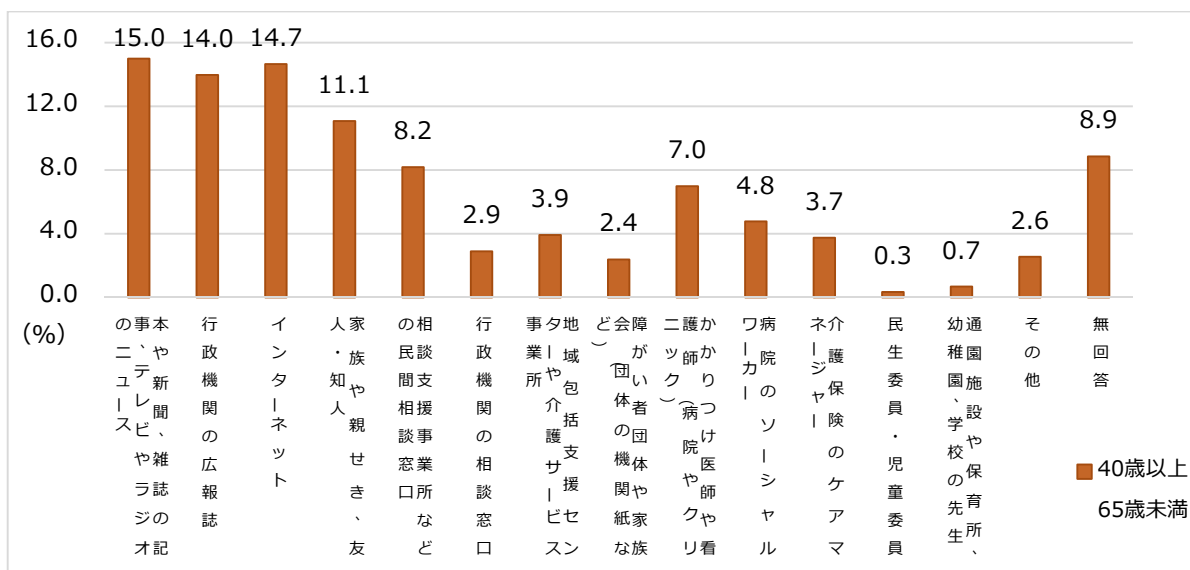
《18歳未満》



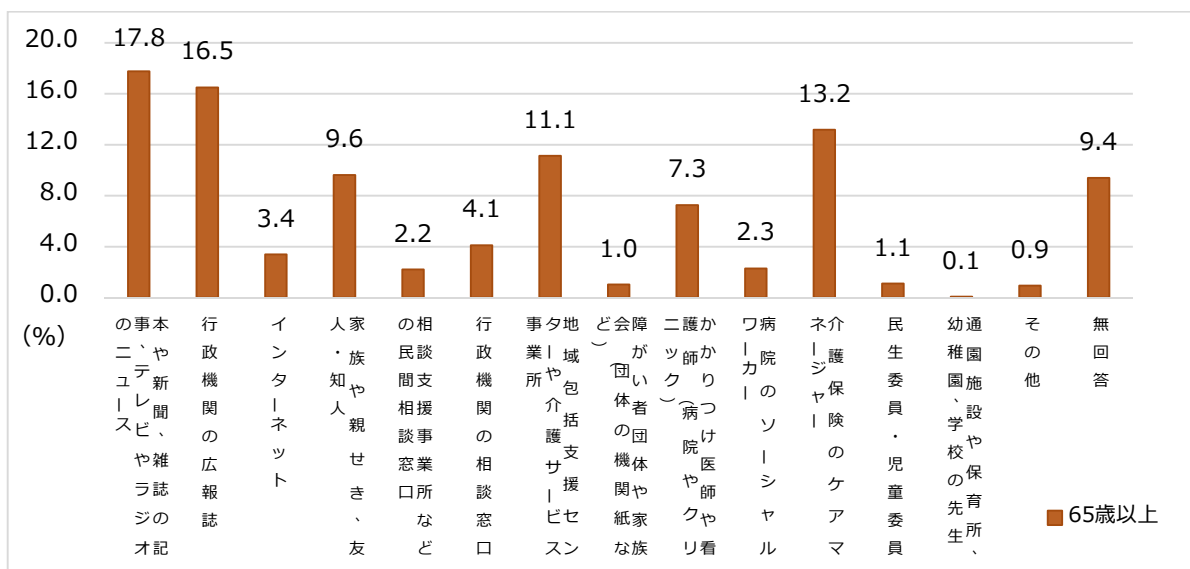
《18歳以上40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



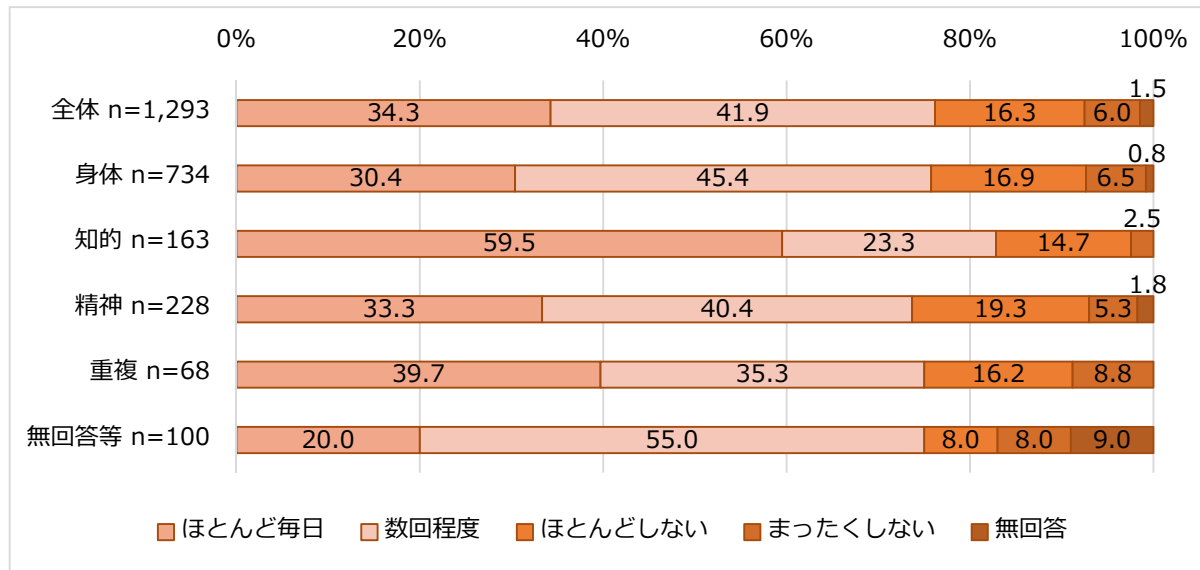
《65 歳以上》



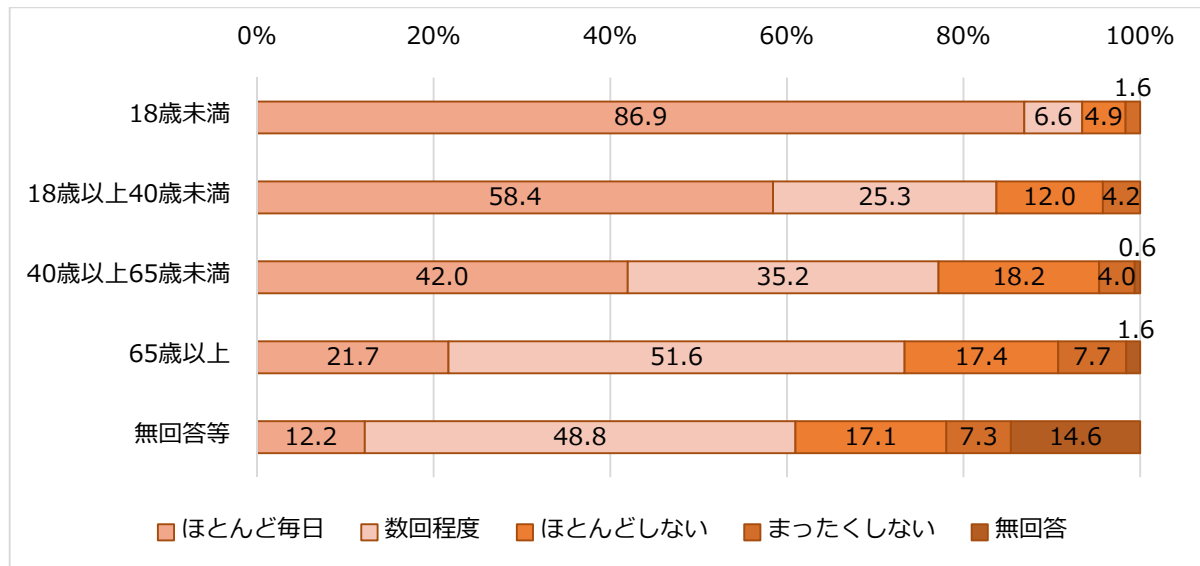
1-6 外出や移動手段について

問 17 あなたは、1 週間にどの程度外出しますか。

- 1 週間の外出の頻度については、「数回程度」が 41.9%と最も多く、次いで「ほとんど毎日」が 34.3%、「ほとんどしない」が 16.3%、「まったくしない」が 6.0%となっており、週に 1 回以上外出する方は 76.2%を占めています。
- 障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「数回程度」の割合が多くなっています。知的障がい、重複障がいでは「ほとんど毎日」の割合が多くなっています。

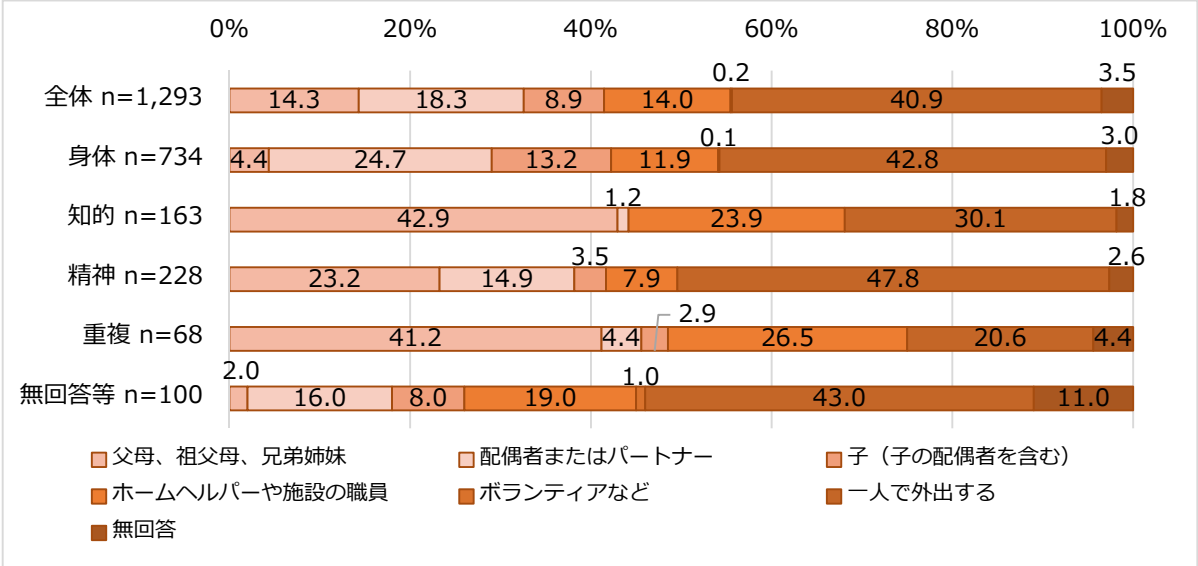


- 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「ほとんど毎日」の割合が減少しています。

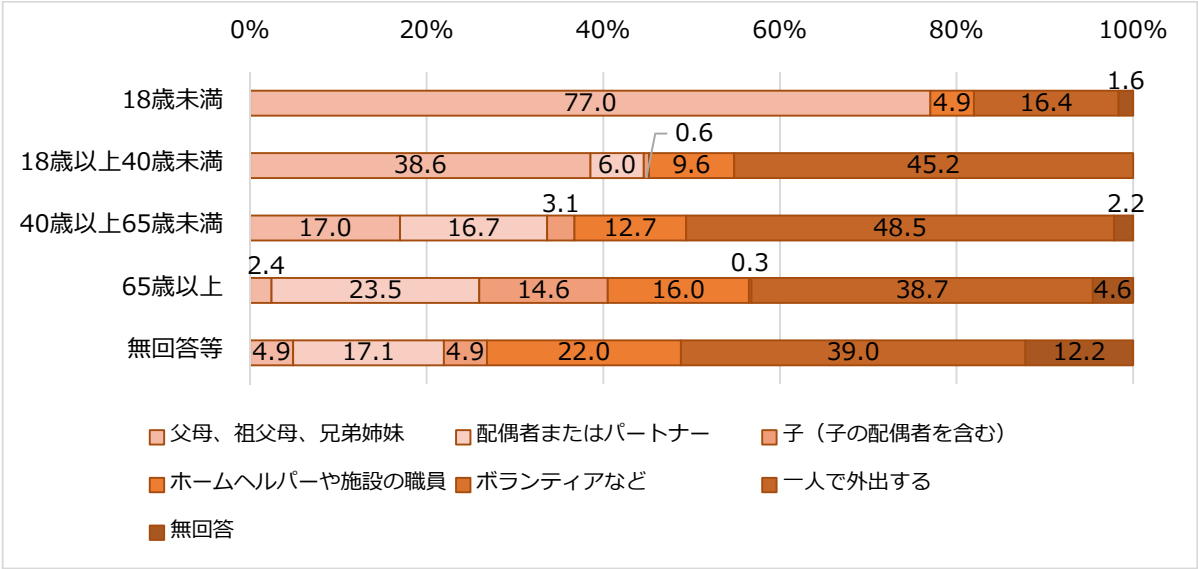


問 18 あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。

- 外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」が 40.9%と最も多く、次いで「配偶者またはパートナー」が 18.3%、「父母、祖父母、兄弟姉妹」が 14.3%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がい、重複障がいでは「父母・祖父母・兄弟姉妹」が最も多くなっています。

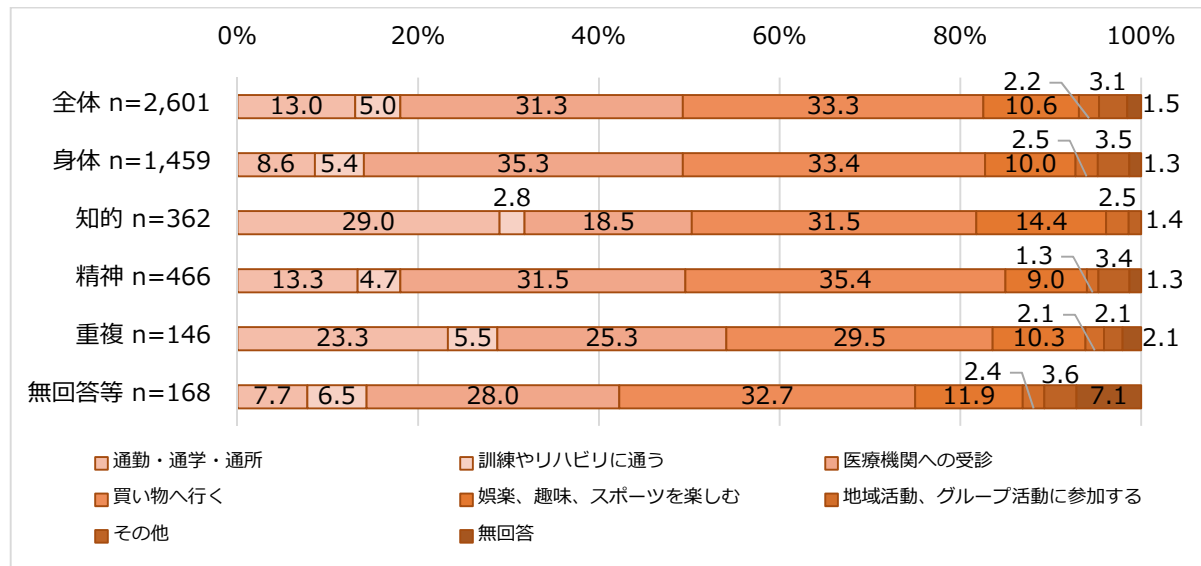


- 年齢別にみると、18 歳未満で「父母・祖父母・兄弟姉妹」が 7 割以上と最も多くなっています。40 歳以上では「一人で外出する」が最も多くなっています。

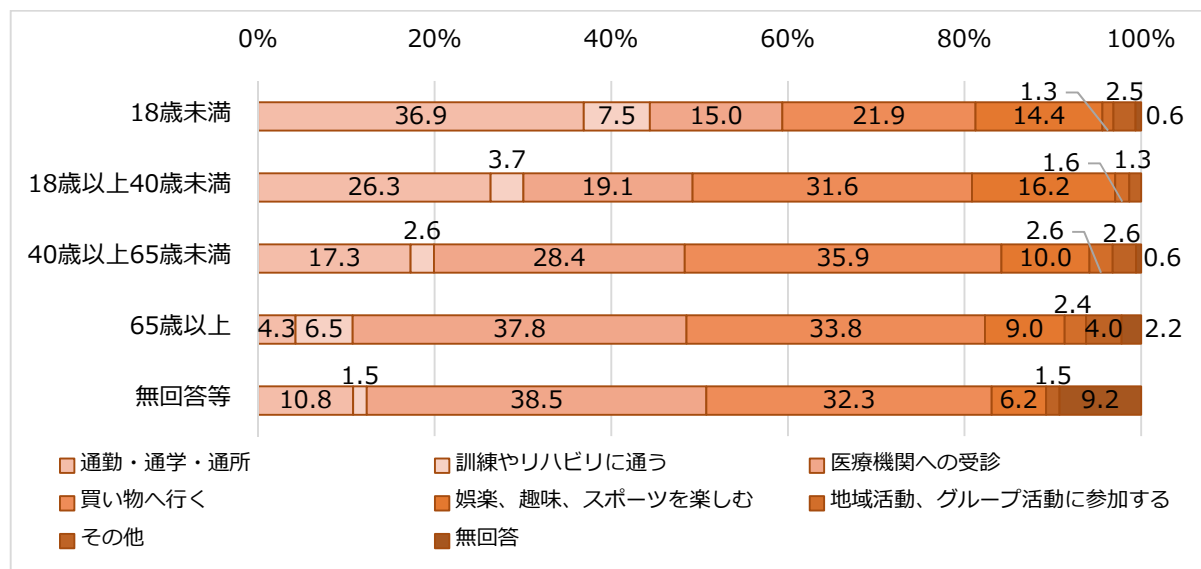


問 19 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。

- どのような目的で外出することが多いかについては、「買い物」が 33.3%と最も多く、次いで「医療機関への受診」が 31.3%、「通勤・通学・通所」が 13.0%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「通勤・通学・通所」の割合が多くなっています。

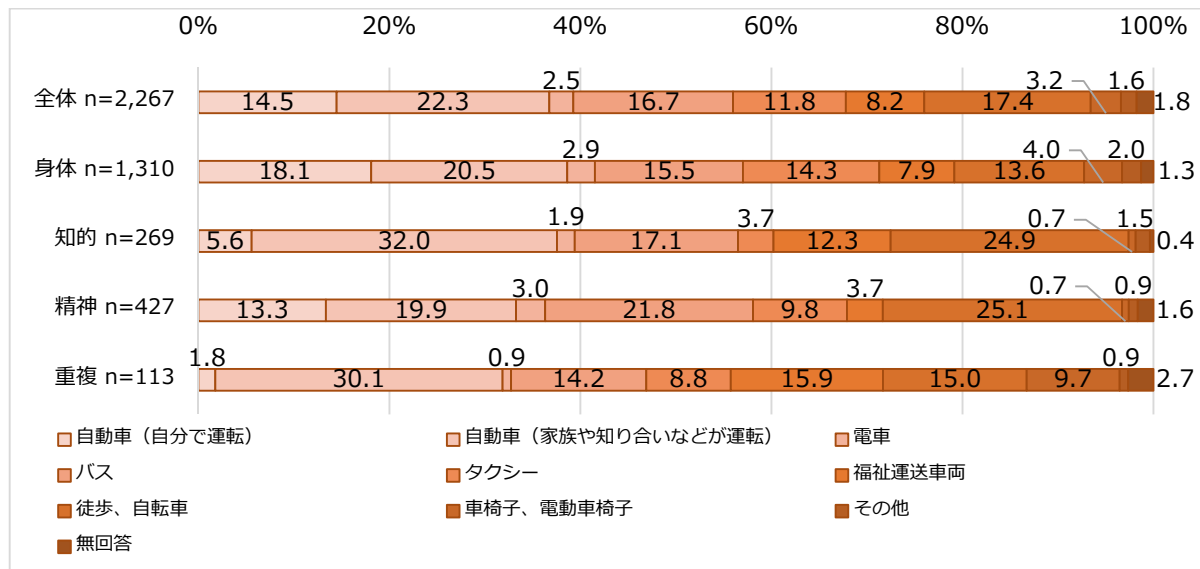


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18 歳未満で「通勤・通学・通所」の割合が多く、18 歳以上から 65 歳未満で「買い物へ行く」の割合が多くなっています。

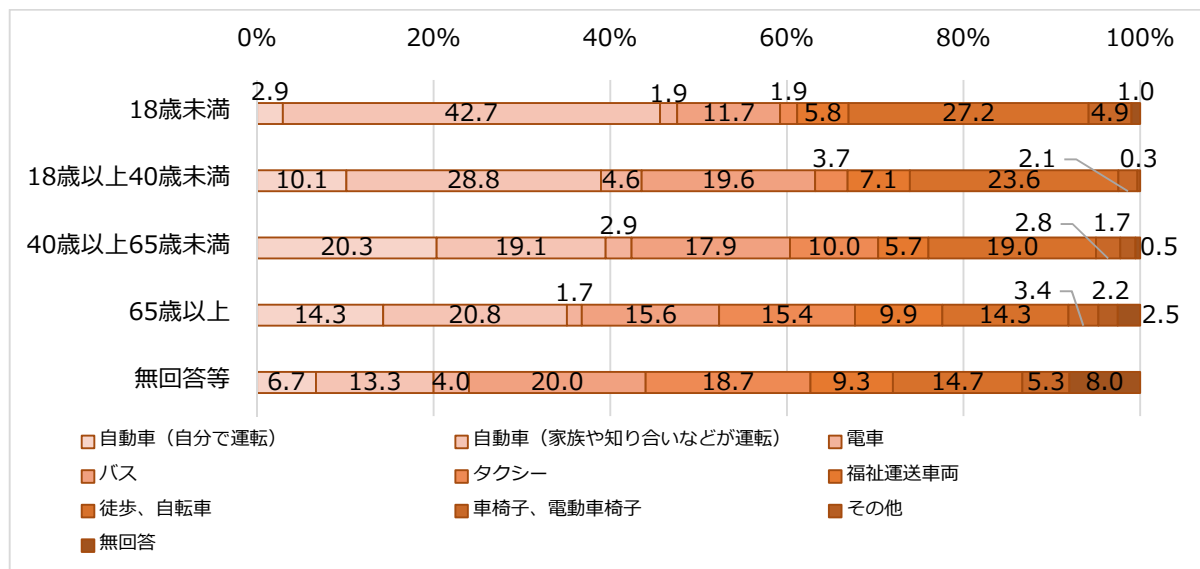


問 20 あなたは、どのような手段で外出することが多いですか。

- どのような手段で外出することが多いかについては、「自動車（家族や知り合いなどが運転）」が 22.3%と最も多く、次いで「徒歩・自転車」が 17.4%、「バス」が 16.7%、「自動車（自分で運転）」が 14.5%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「自動車（家族や知り合いが運転）」の割合が多くなっています。精神障がいでは「バス」「徒歩、自転車」の割合が多くなっています。

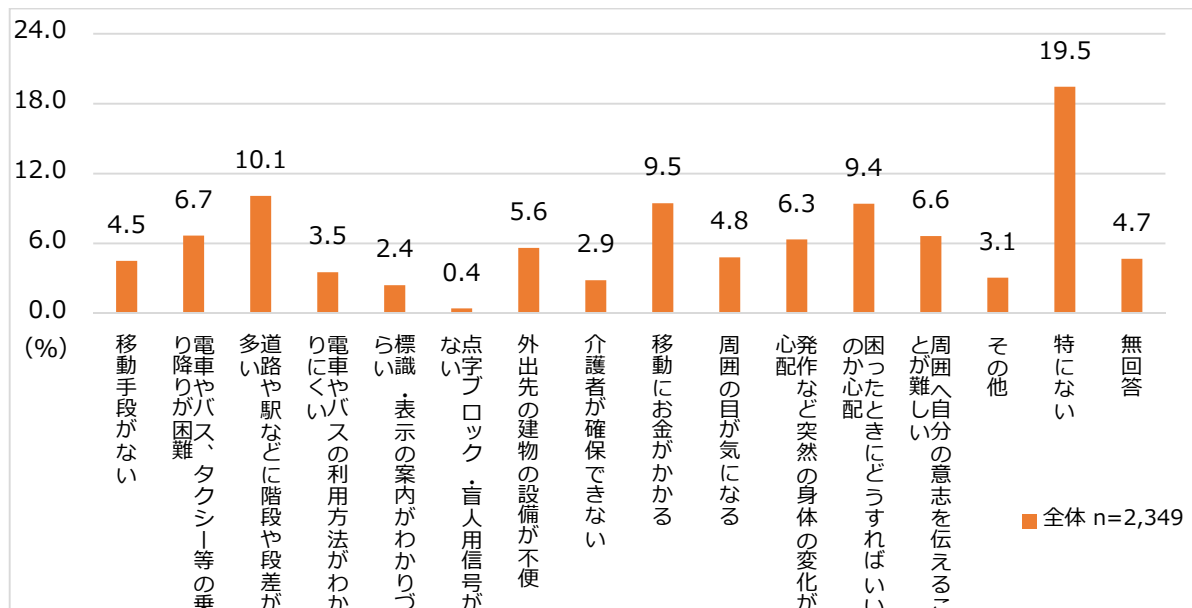


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、65歳未満では「徒歩・自転車」の割合が多く、65歳以上では「タクシー」の割合が多くなっています。

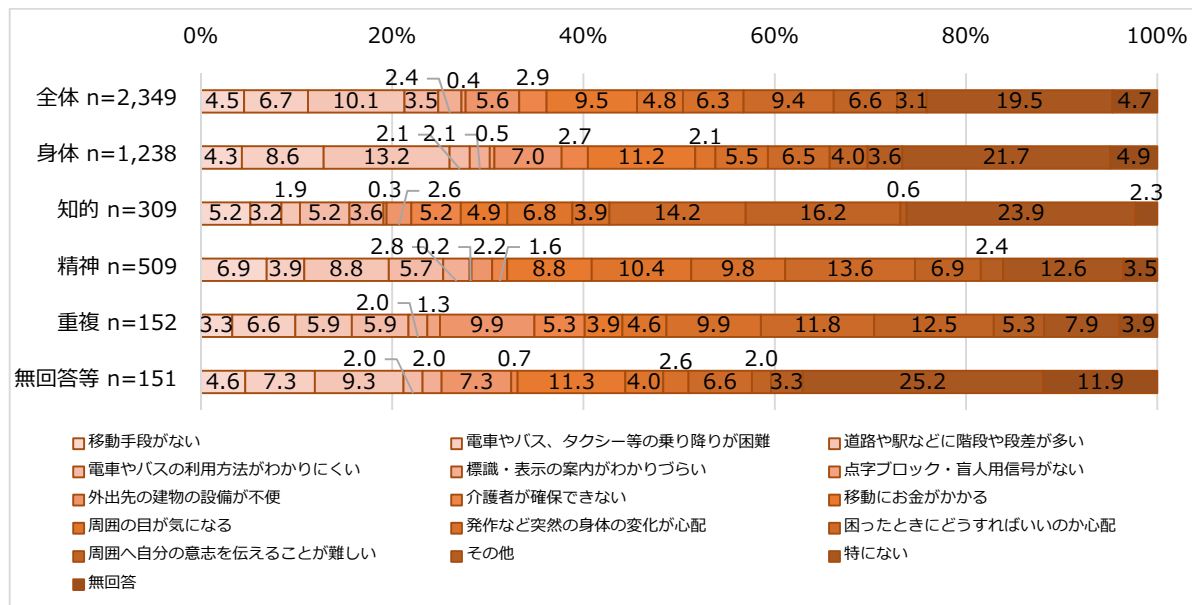


問 21 外出時に困ることは何ですか。

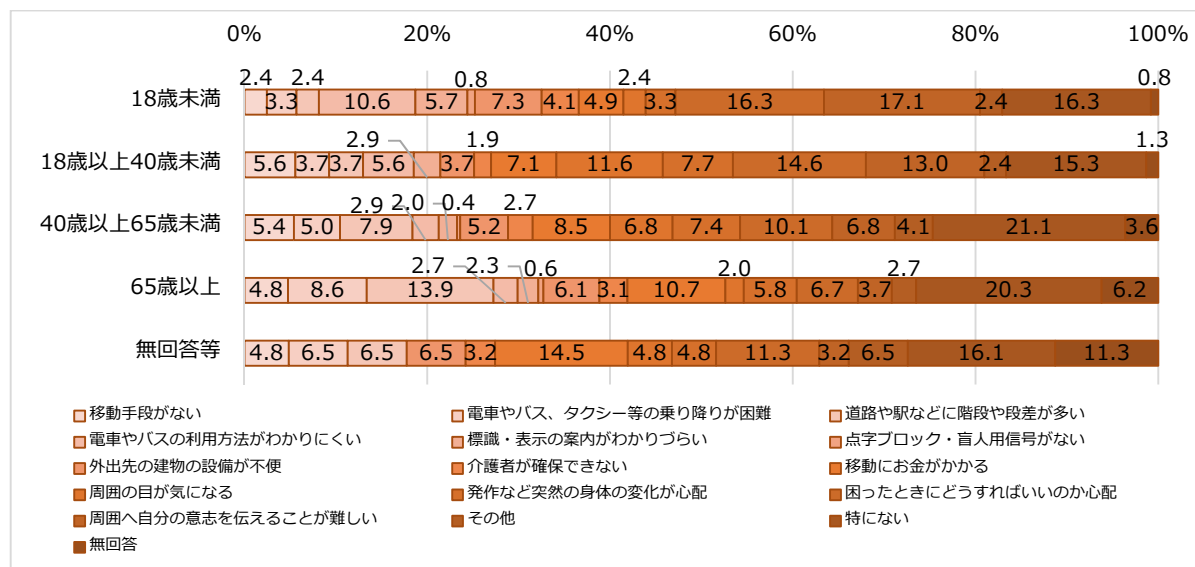
- 外出時に困ることについては、「特にない」が 19.5%と最も多く、次いで「道路や駅などに階段や段差が多い」が 10.1%、「移動にお金がかかる」が 9.5%、「困ったときにどうすればいいのか心配」が 9.4%、「電車やバス、タクシー等の乗り降りが困難」が 6.7%となっています。



- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、身体障がいでは「道路や駅に階段や段差が多い」、知的障がいでは「困ったときにどうすればいいのか心配」「周囲へ自分の意志を伝えることが難しい」、精神障がいでは「周囲の目が気になる」、重複障がい者では「発作など突然の身体の変化が心配」の割合が多くなっています。



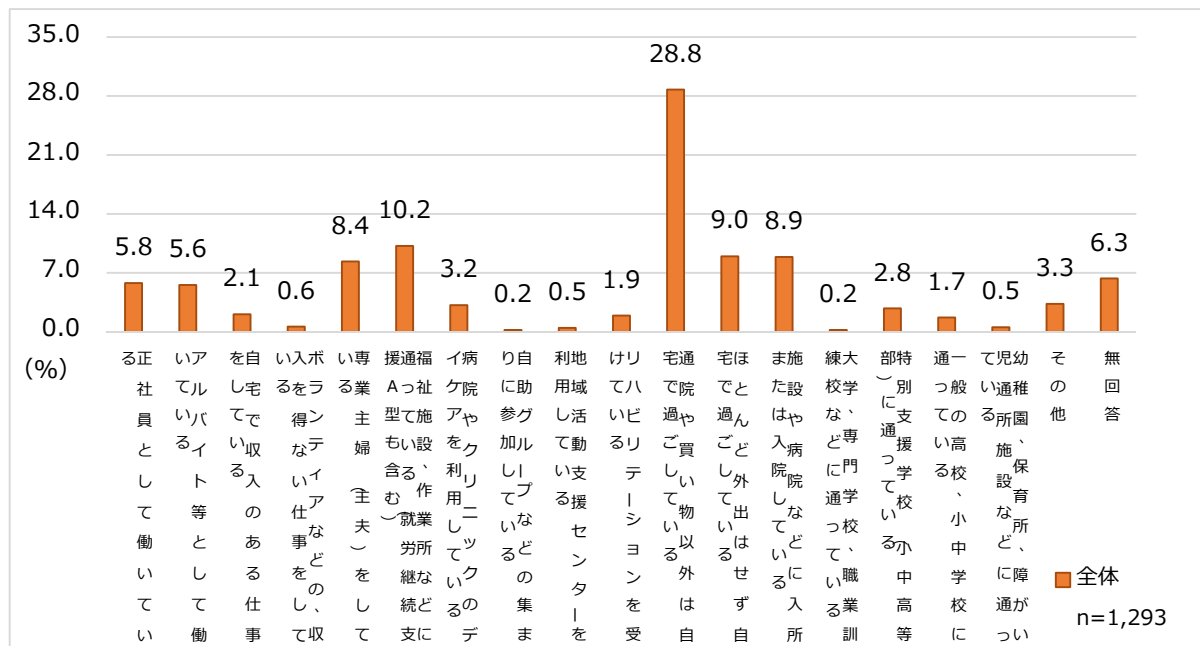
- 年齢別にみると、40 歳未満では「困った時にどうすればいいのか心配」「周囲へ自分の意志を伝えることが難しい」、40 歳以上 65 歳未満では「発作など突然の身体の変化が心配」、65 歳以上では「道路や駅などに階段や段差が多い」「移動にお金がかかる」の割合が多くなっています。



1-7 日中活動や就労・就学について

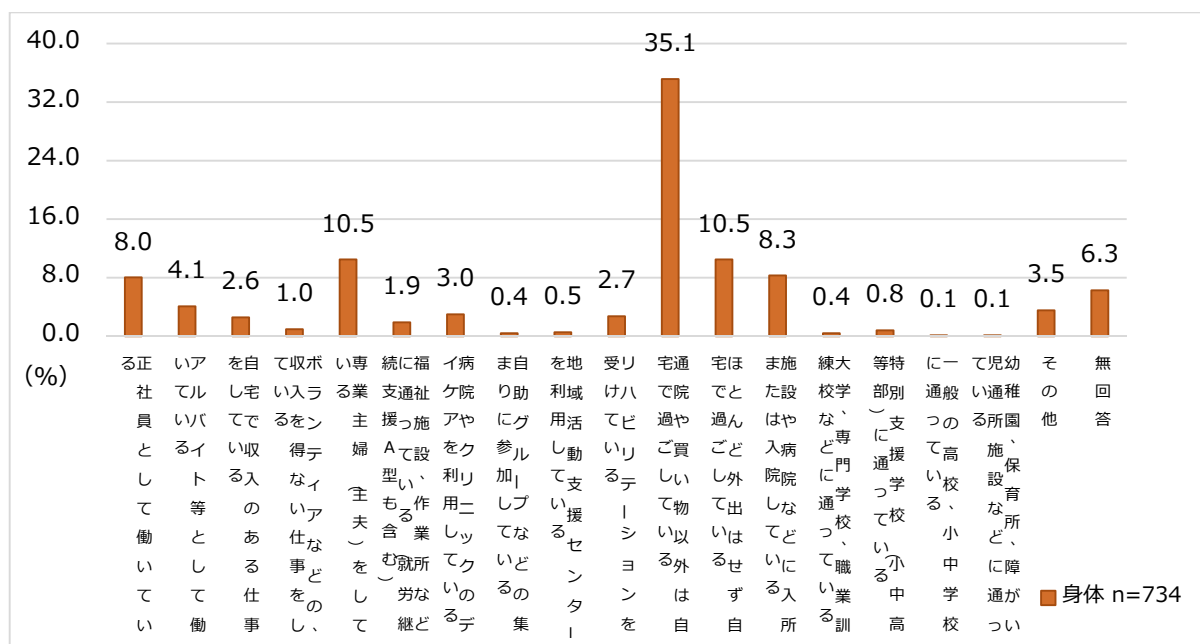
問 22 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

- 平日の主な過ごし方については、「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」が 28.8%と最も多く、次いで「福祉施設、作業所などに通っている（就労継続支援 A 型も含む）」が 10.2%、「ほとんど外出せず自宅で過ごしている」が 9.0%、「施設や病院などに入所または入院している」が 8.9%となっています。

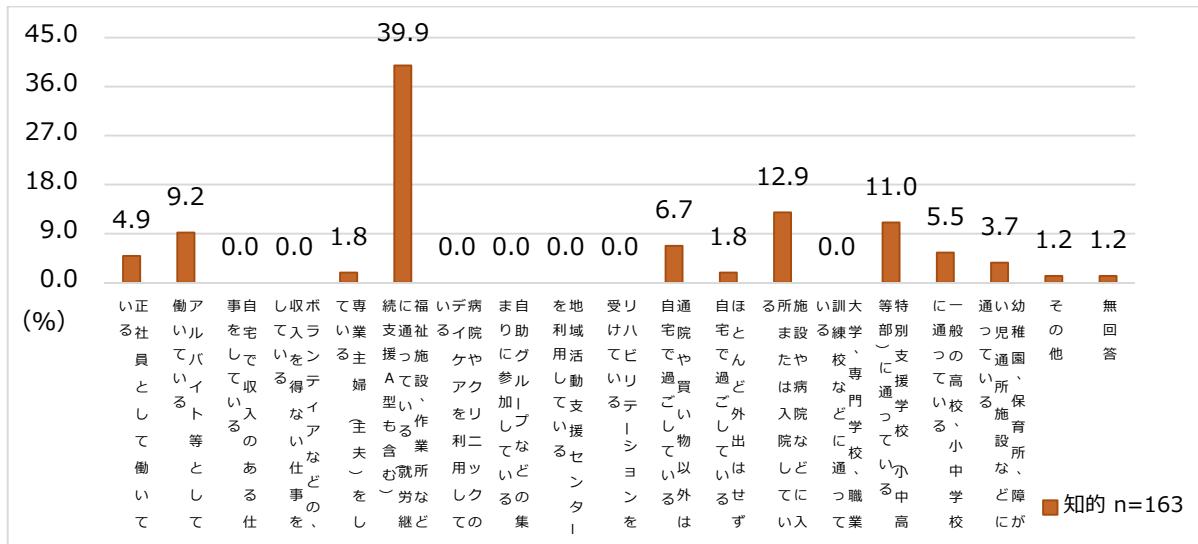


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいで「福祉施設、作業所などに通っている（就労継続支援 A 型も含む）」の割合が多くなっています。

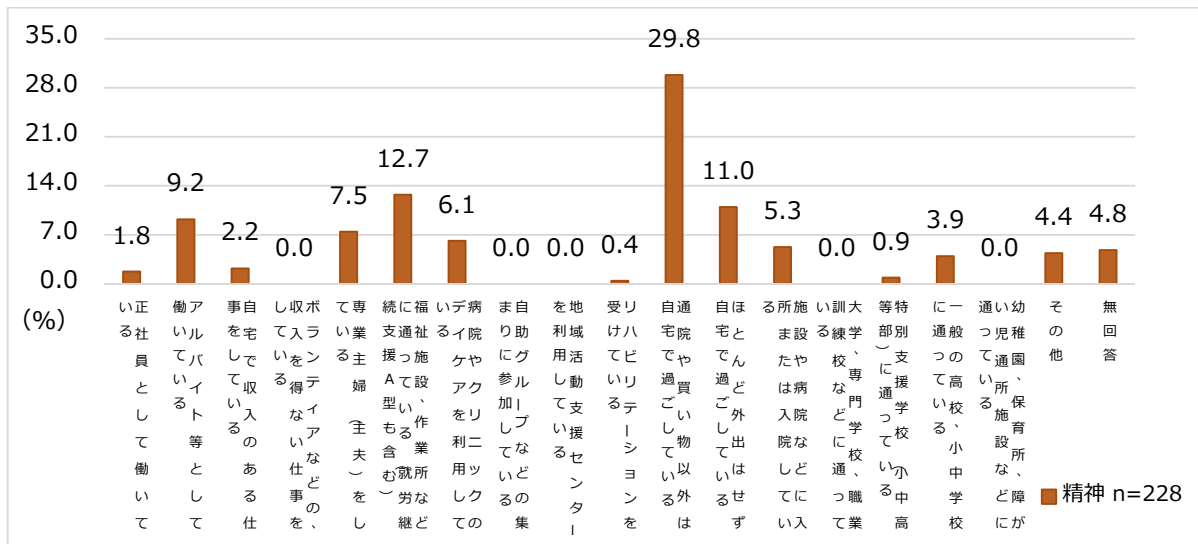
《身体障がい》



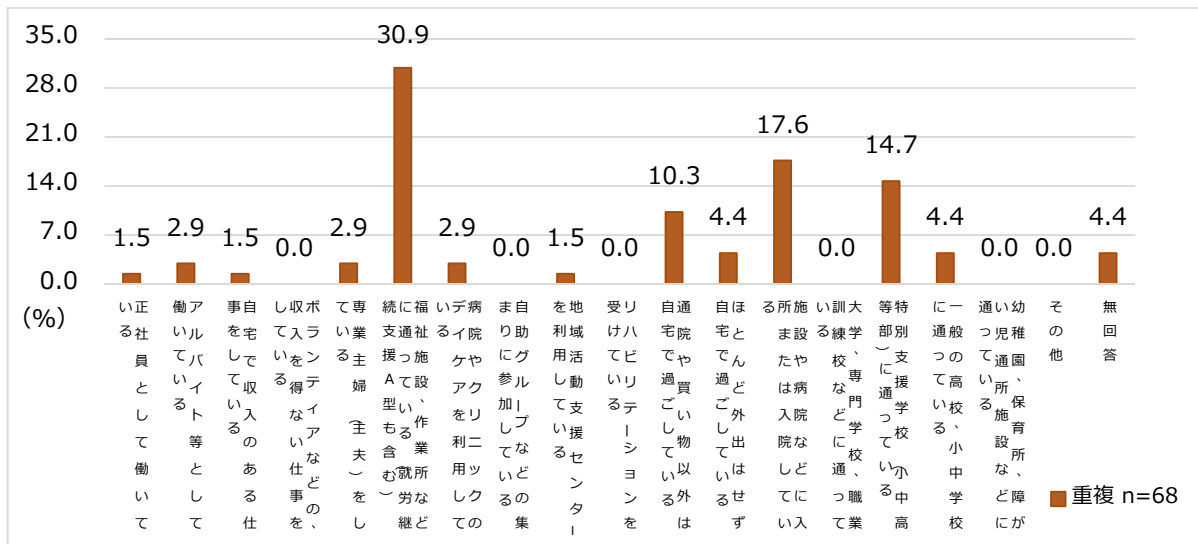
《知的障がい》



《精神障がい》

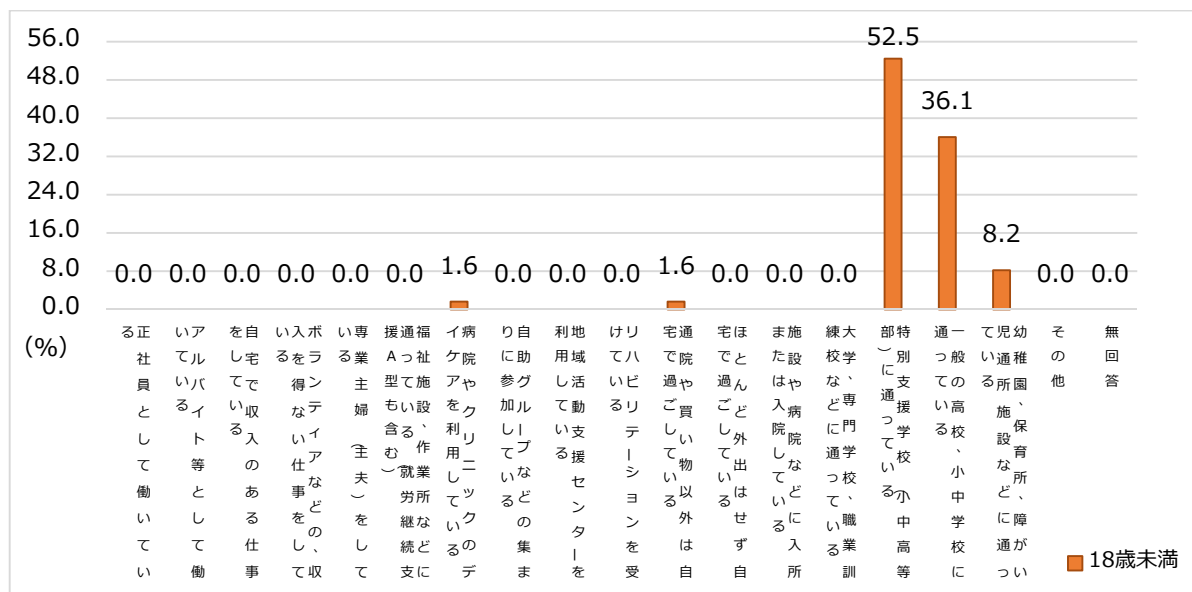


《重複障がい》

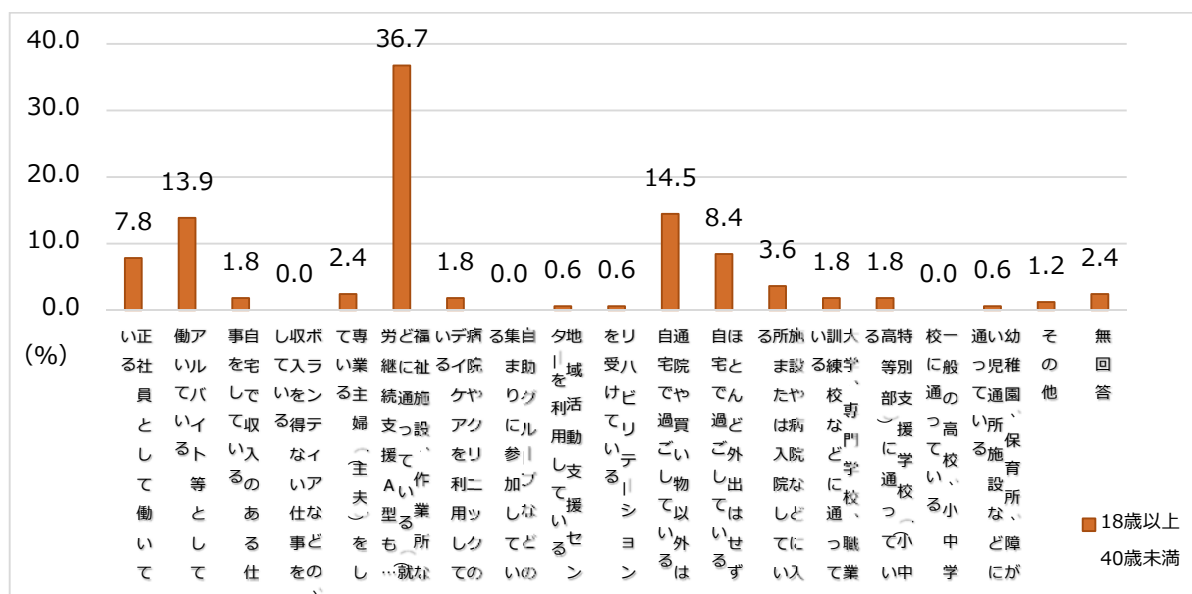


- 年齢別には、全体の傾向と比べて、18 歳未満では「特別支援学校（小中高等部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」の割合が多くなっています。18 歳以上 40 歳未満では「福祉施設、作業所などに通っている（就労継続支援 A 型も含む）」の割合が多くなっています。40 歳以上では「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」の割合が多くなっています。

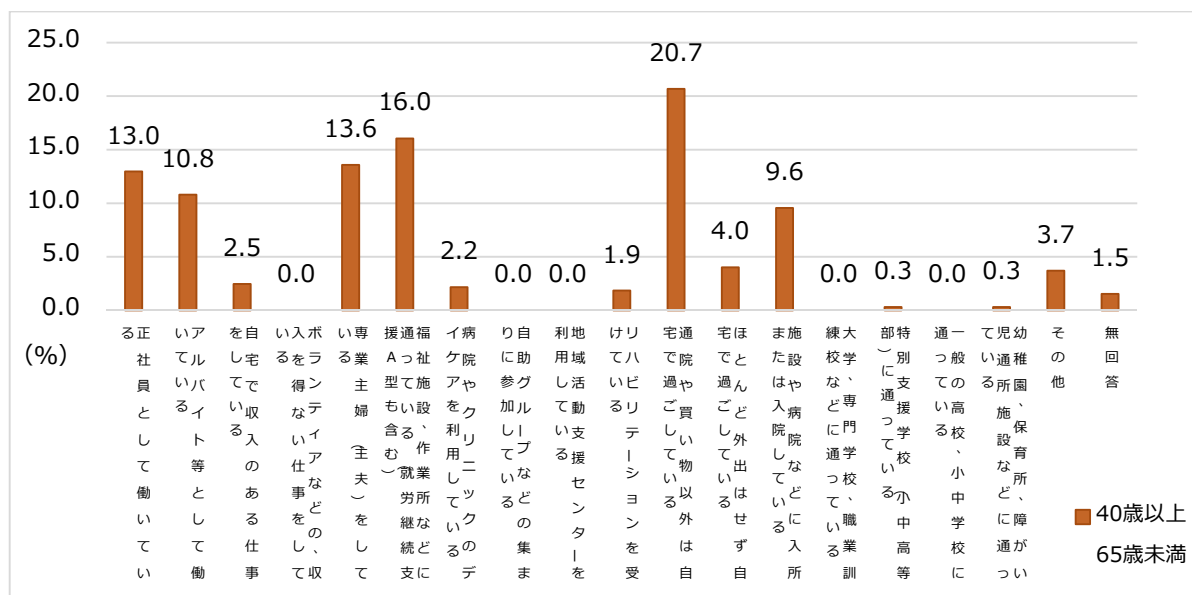
《18 歳未満》



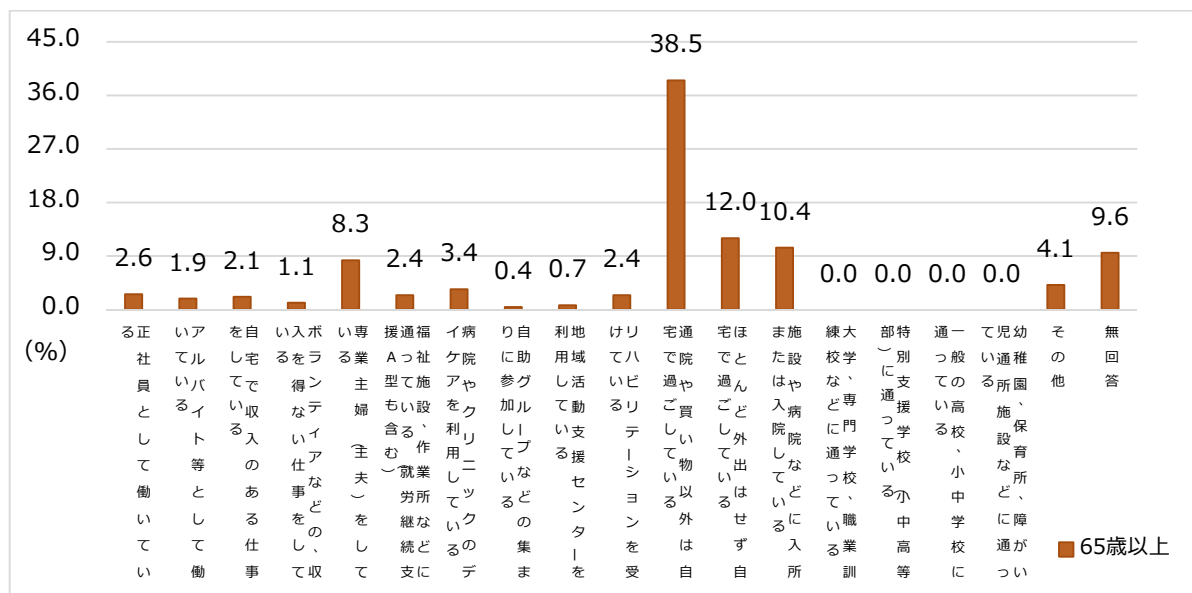
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

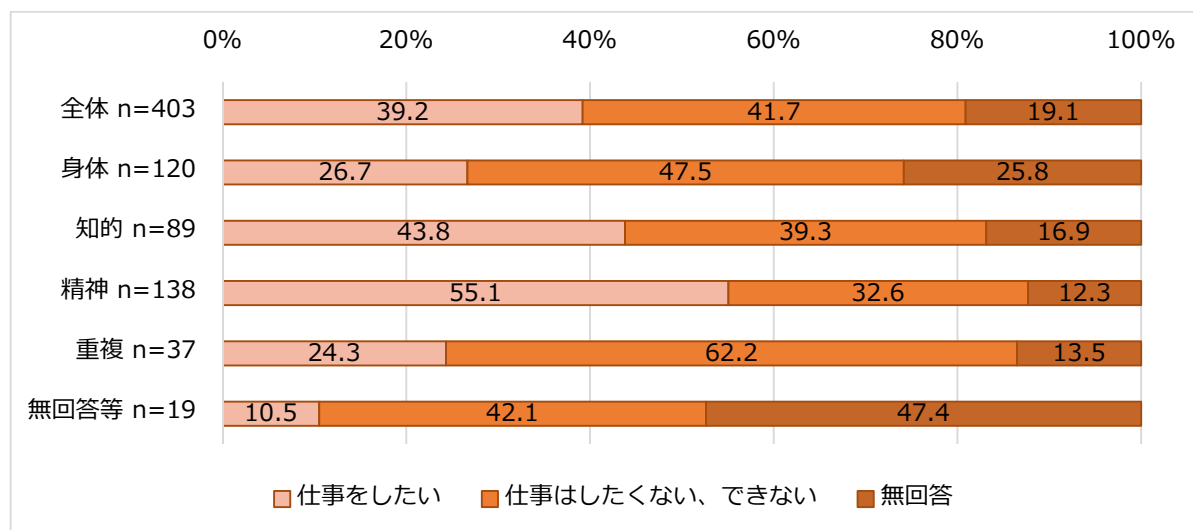


《65 歳以上》



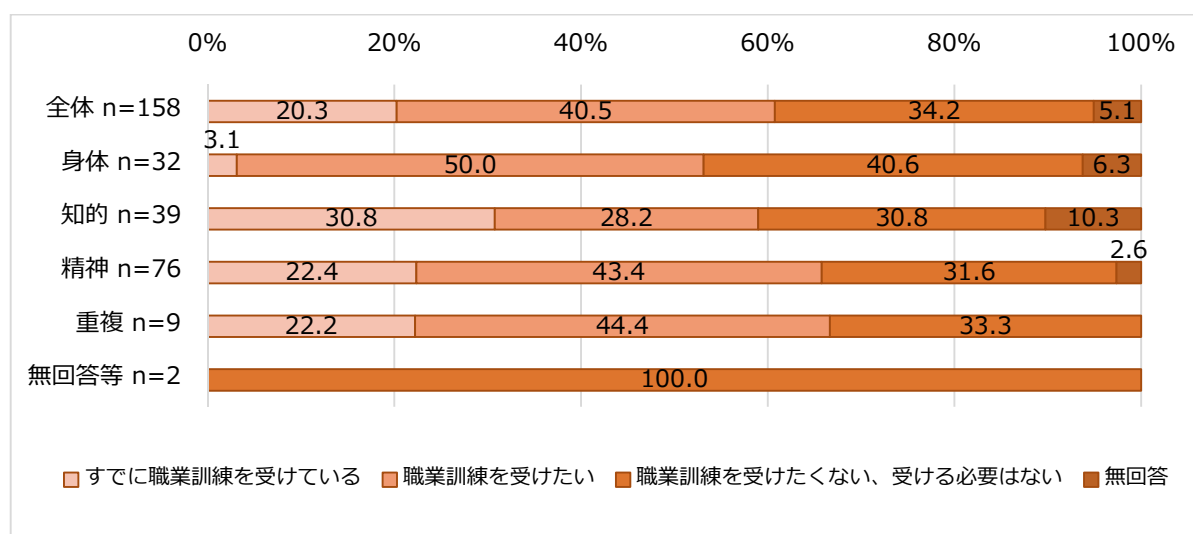
問 22-2 【問 22 で「正社員として働いている」～「自宅で収入のある仕事をしている」以外を選択した 18～64 歳のかたが教えてください。】あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

- 現在収入を得る仕事をしていない方で、今後収入を得る仕事をしたいと思うかについては、「仕事をしたい」が 39.2%、「仕事をしたくない、できない」が 41.7%となっています。



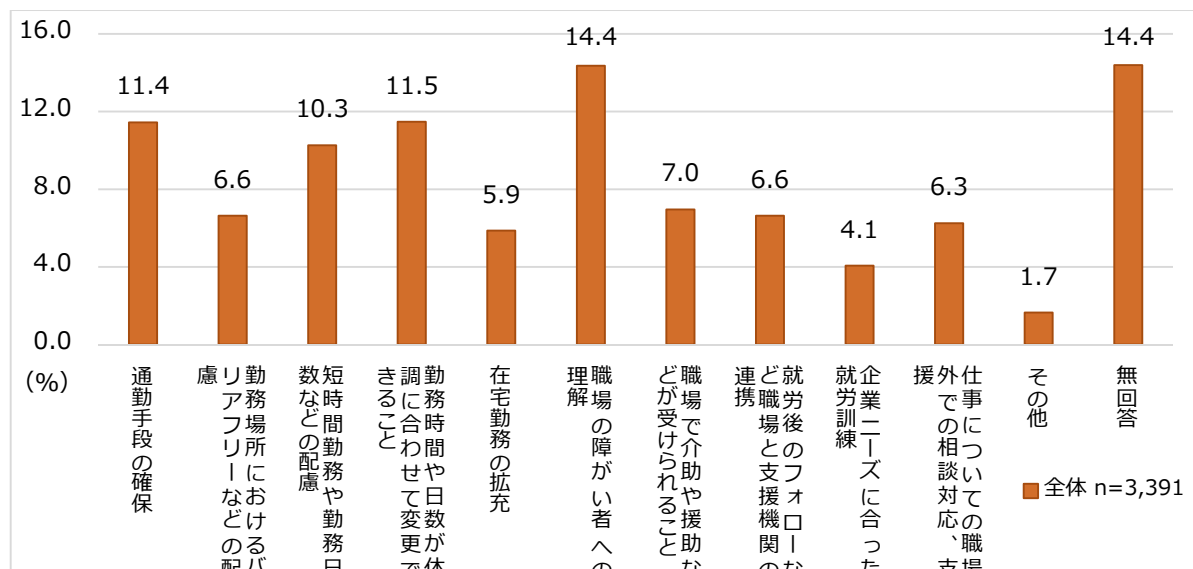
問 22-3 【問 22-2 で「仕事をしたい」を選択したかたが教えてください。】収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。

- 収入を得る仕事をするために、職業訓練を受けたいと思うかについては、「すでに職業訓練を受けている」が 20.3%、「職業訓練を受けたい」が 40.5%、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 34.2%となっています。



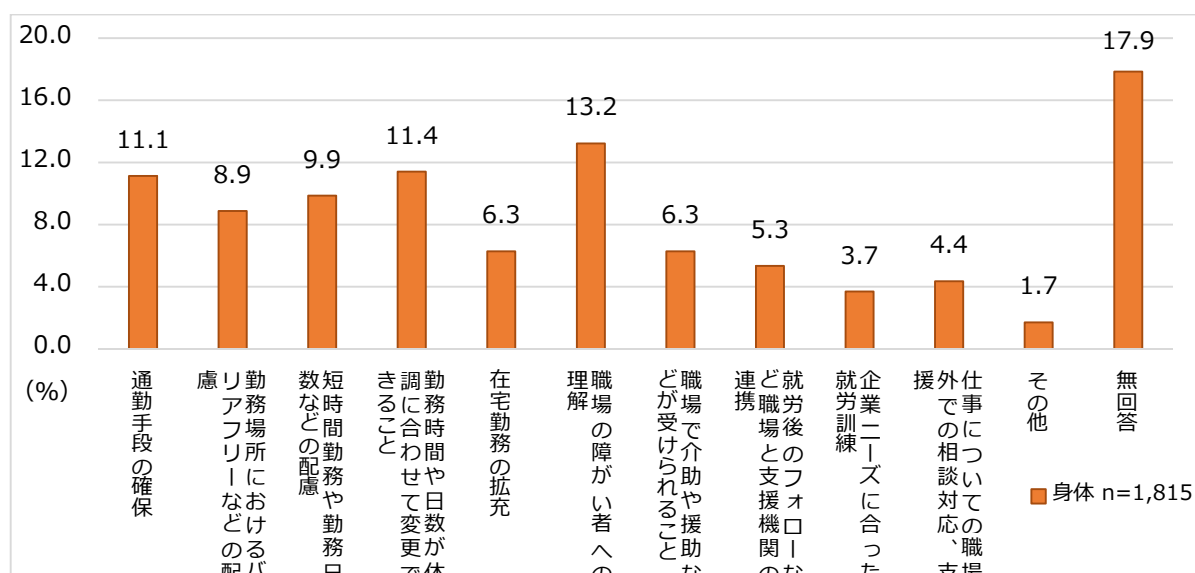
問 23 あなたは、障がいのあるかたの就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。

- 障がいのある方の就労支援として、どのようなことが必要かについては、「職場の障がい者への理解」が 14.4%と最も多く、次いで「勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること」が 11.5%、「通勤手段の確保」が 11.4%となっています。

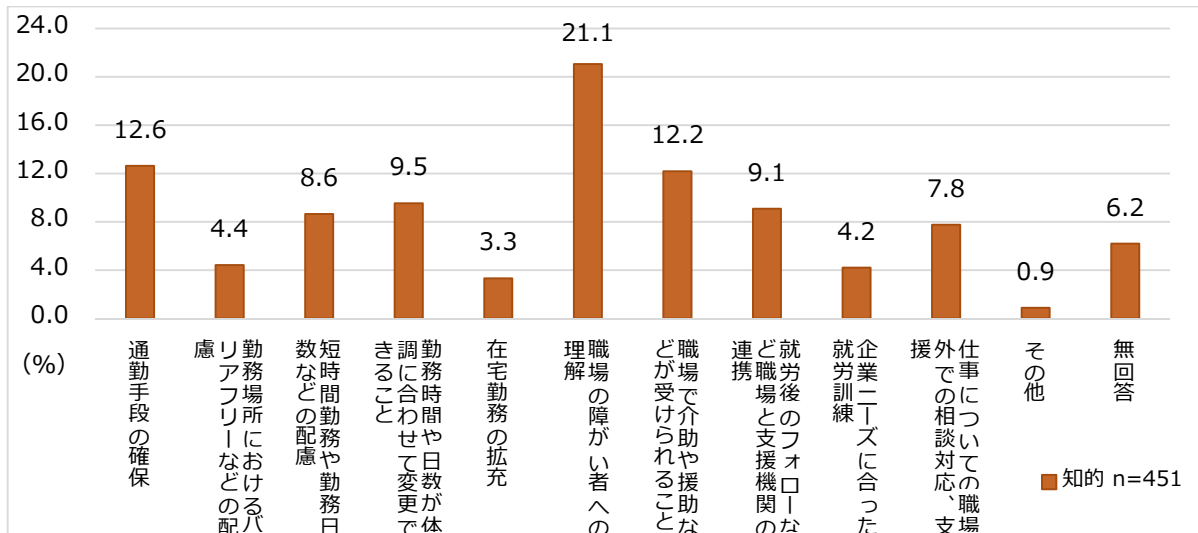


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「短時間勤務や勤務日数などの配慮」「勤務時間や日数が体調に合わせて変更できること」「仕事についての職場外での相談対応、支援」の割合が多くなっています。

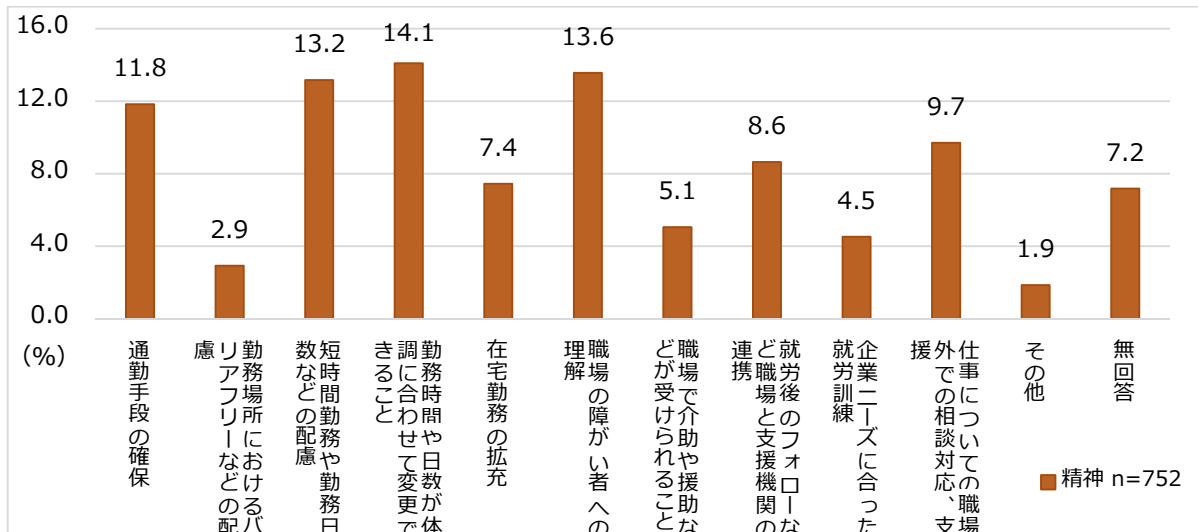
《身体障がい》



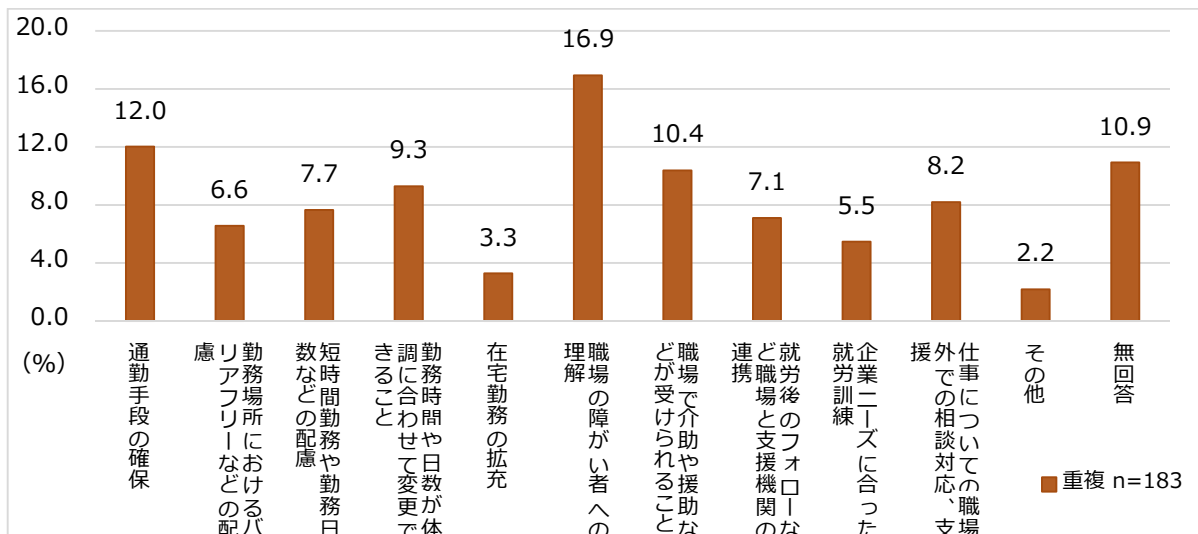
《知的障がい》



《精神障がい》

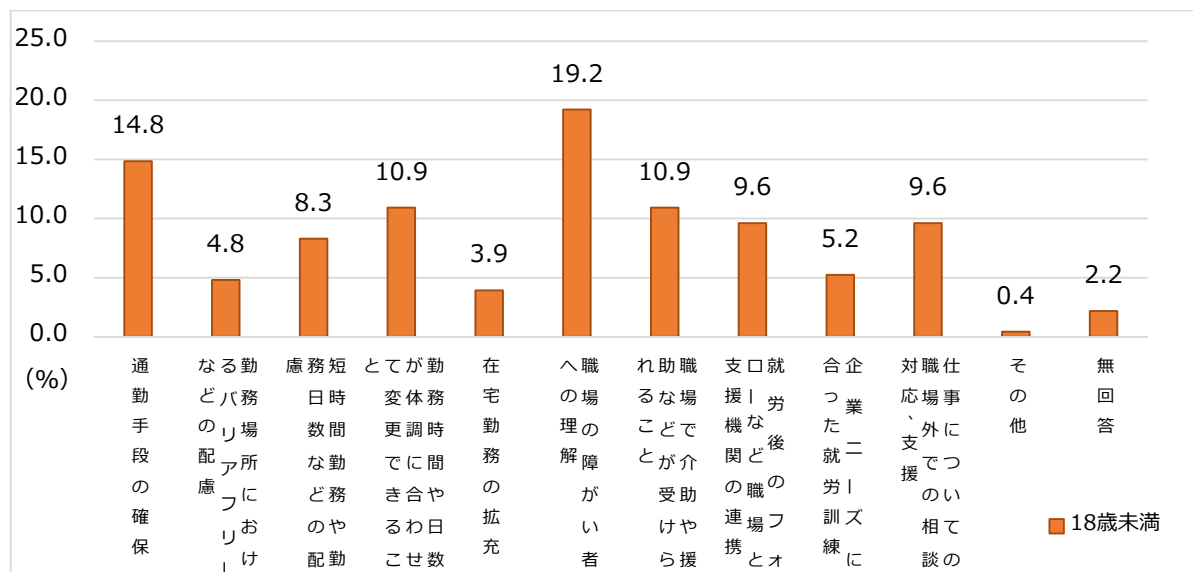


《重複障がい》

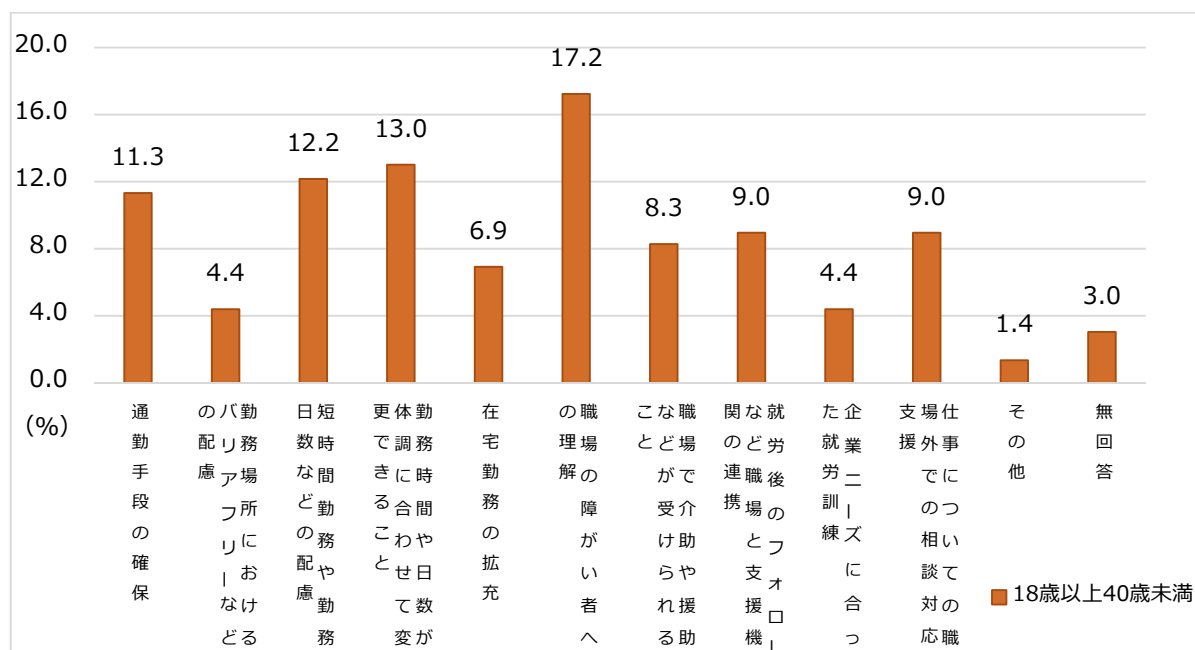


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満で「職場の障がい者への理解」の割合が多くなっています。

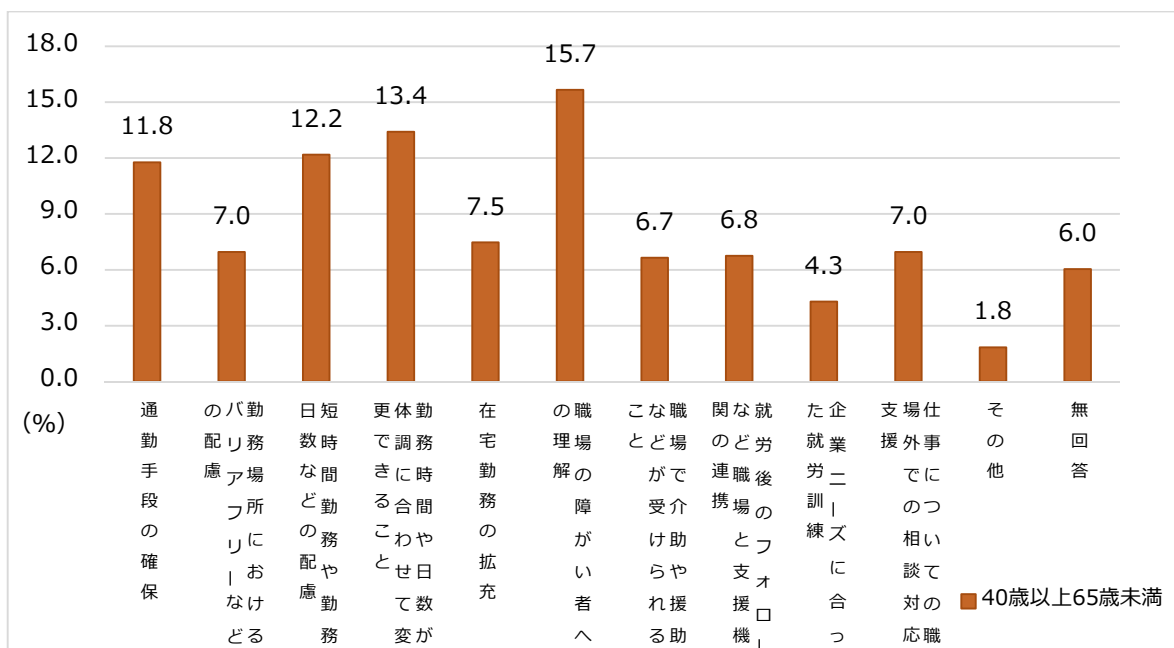
《18歳未満》



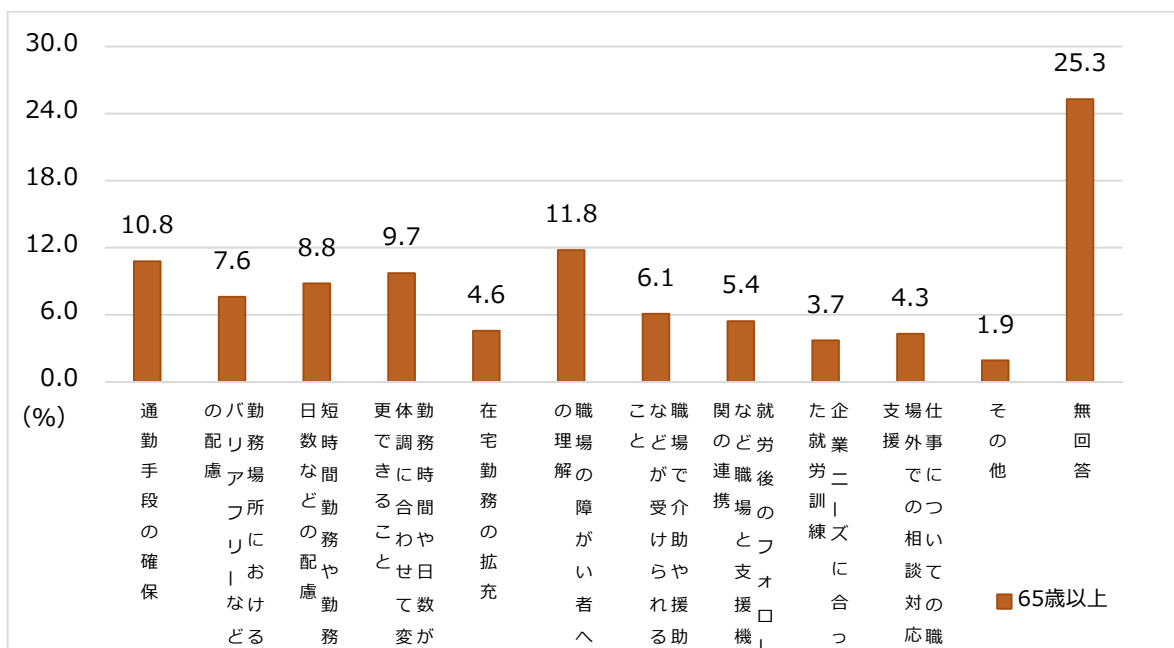
《18歳以上40歳未満》



《40 歲以上 65 歲未滿》

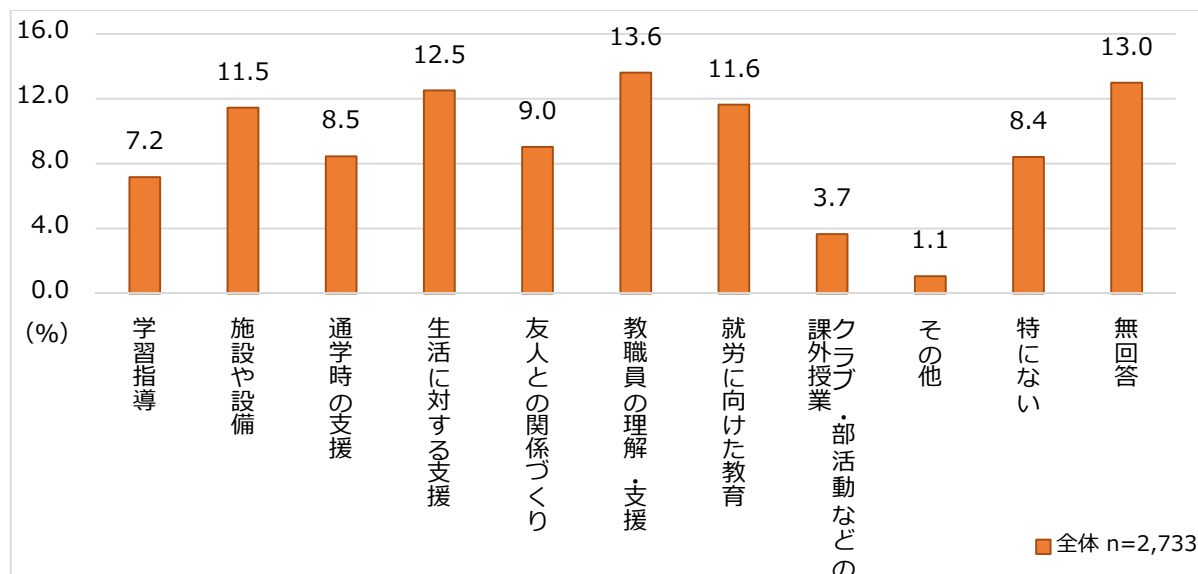


《65 歲以上》



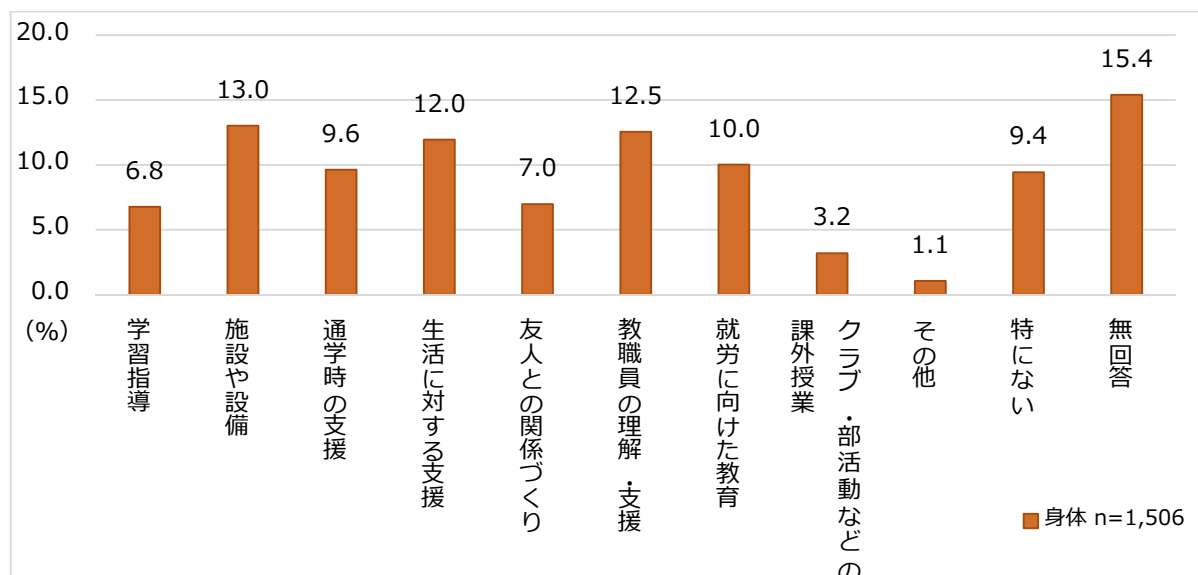
問 24 あなたは、障がいのあるかたの教育や、学校生活について、さらに充実させるべきと思う点がありますか。

- 障がいのある方の教育や学校生活について、さらに充実させるべきと思う点については、「教職員の理解・支援」が 13.6%と最も多く、次いで「生活に対する支援」が 12.5%、「就労に向けた教育」が 11.6%、「施設や設備」が 11.5%となっています。

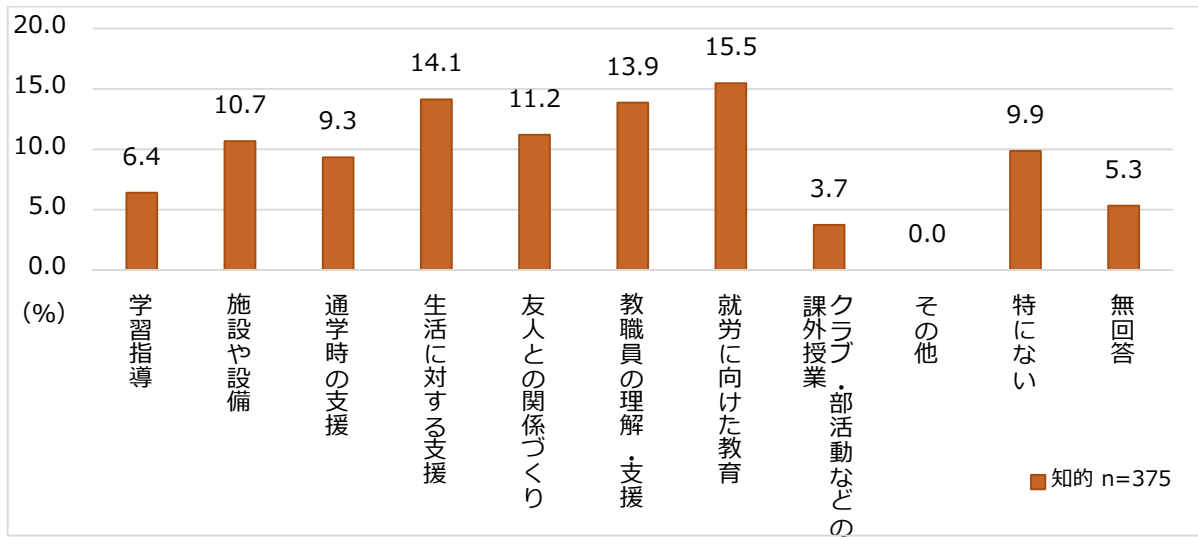


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「友人との関係づくり」の割合が多くなっています。

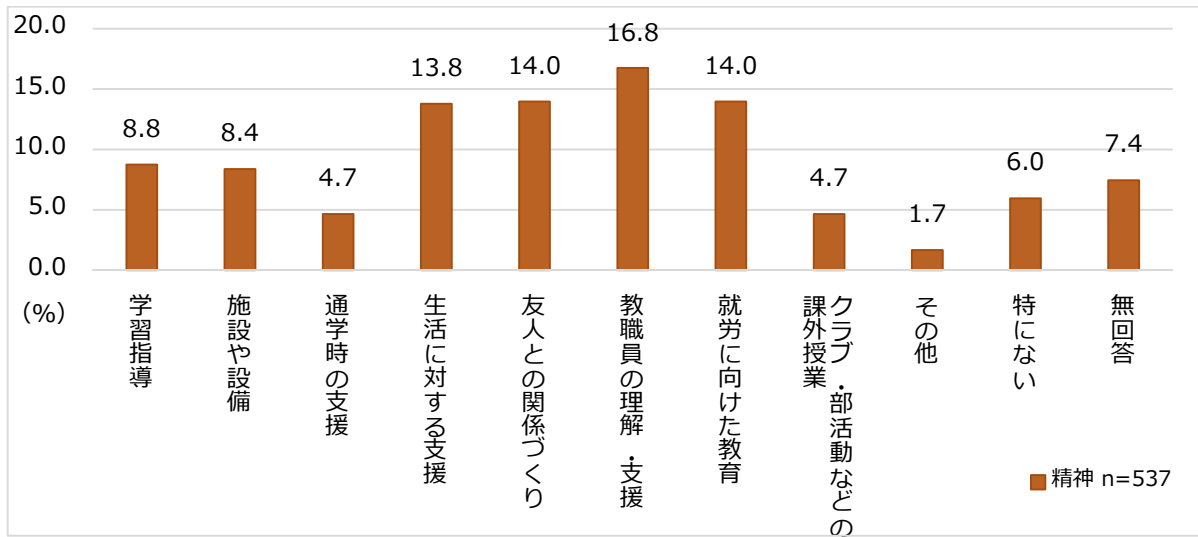
《身体障がい》



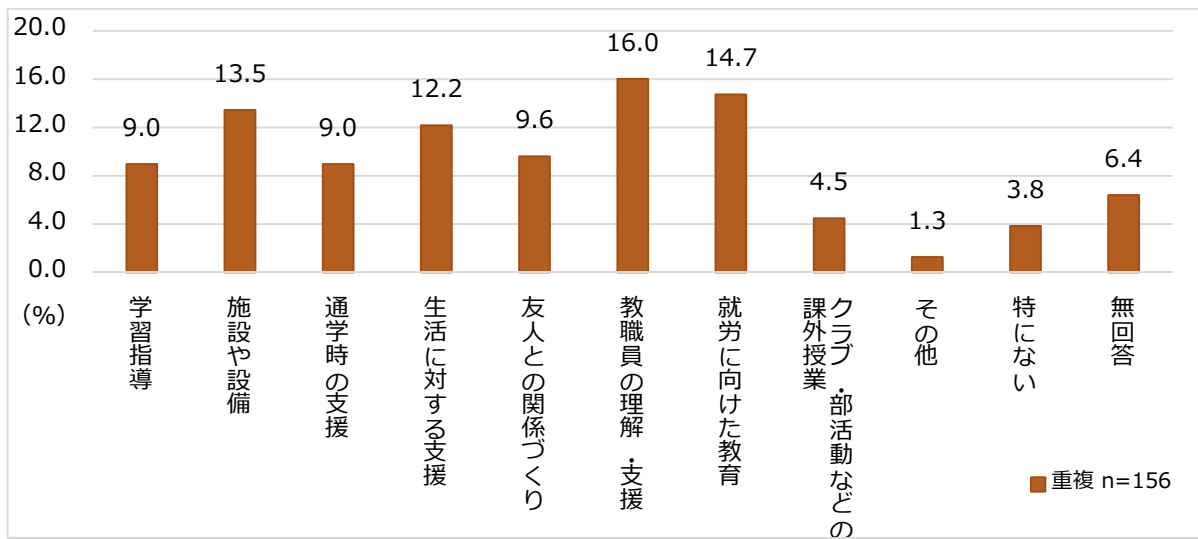
《知的障がい》



《精神障がい》

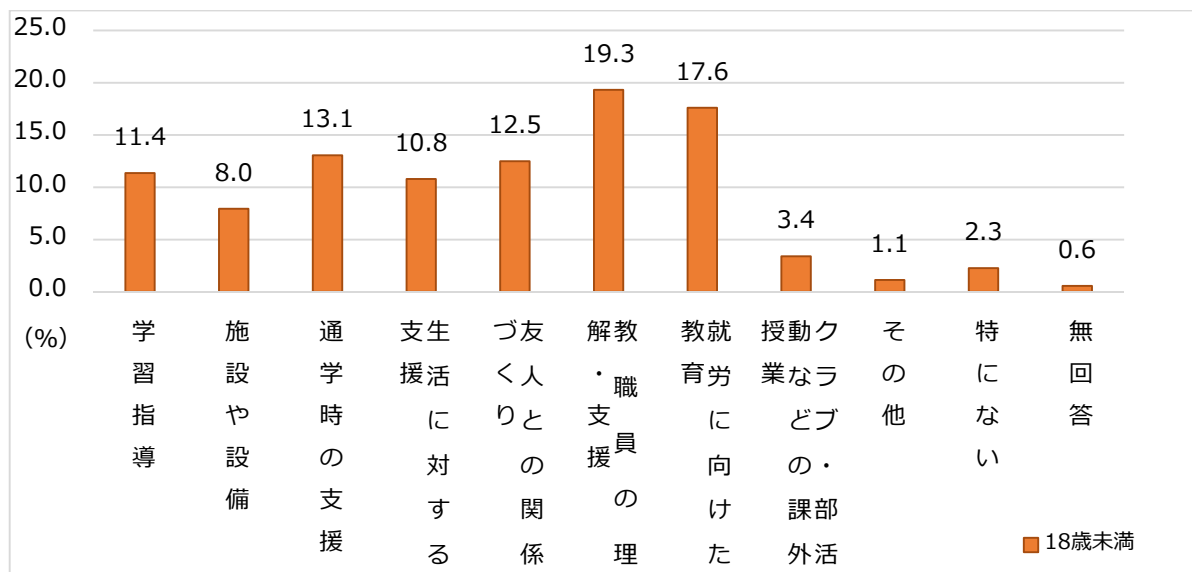


《重複障がい》

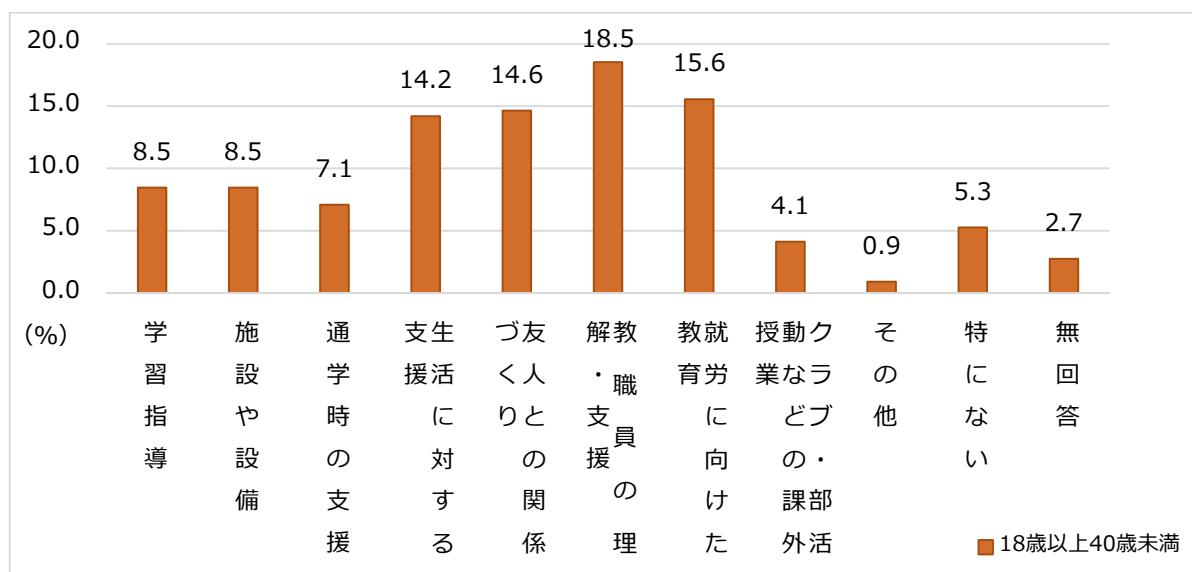


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「通学時の支援」の割合が多くなっています。

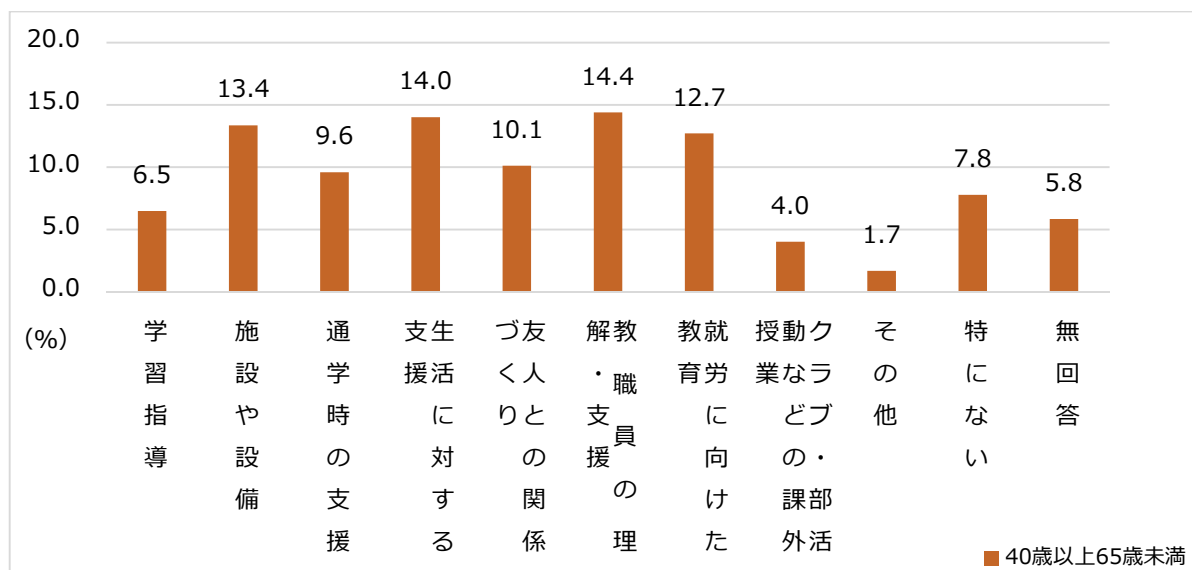
《18歳未満》



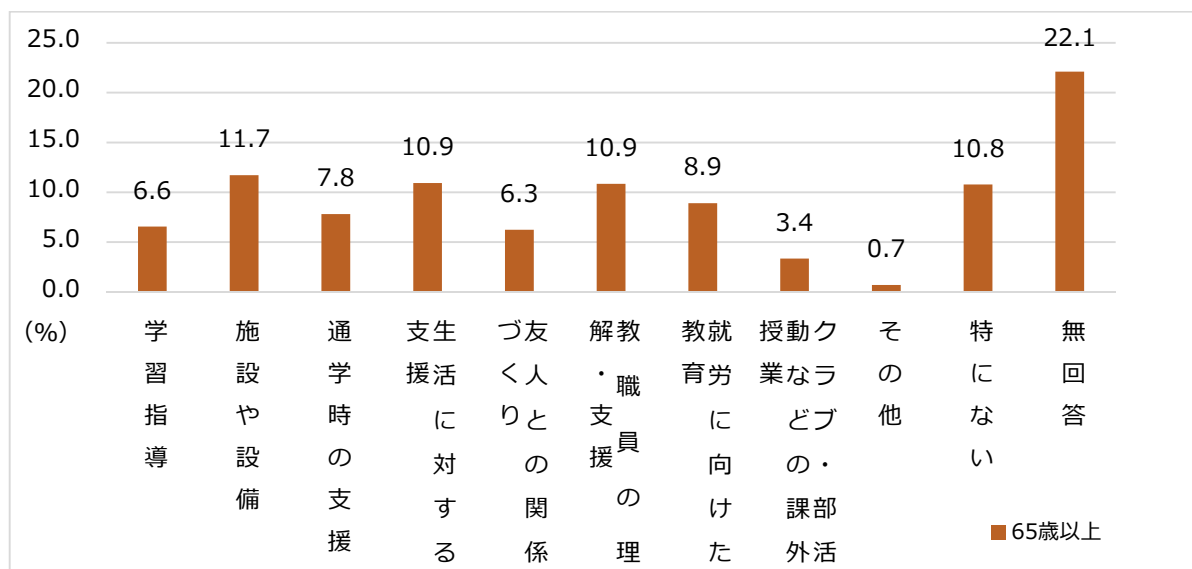
《18歳以上 40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



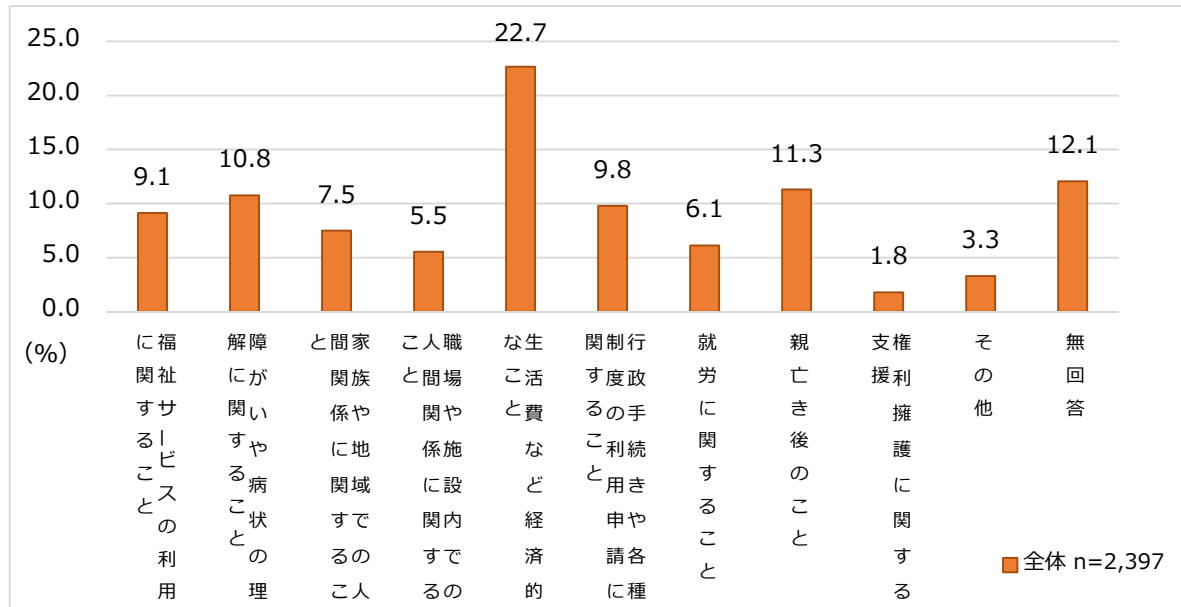
《65 歳以上》



1-8 相談相手について

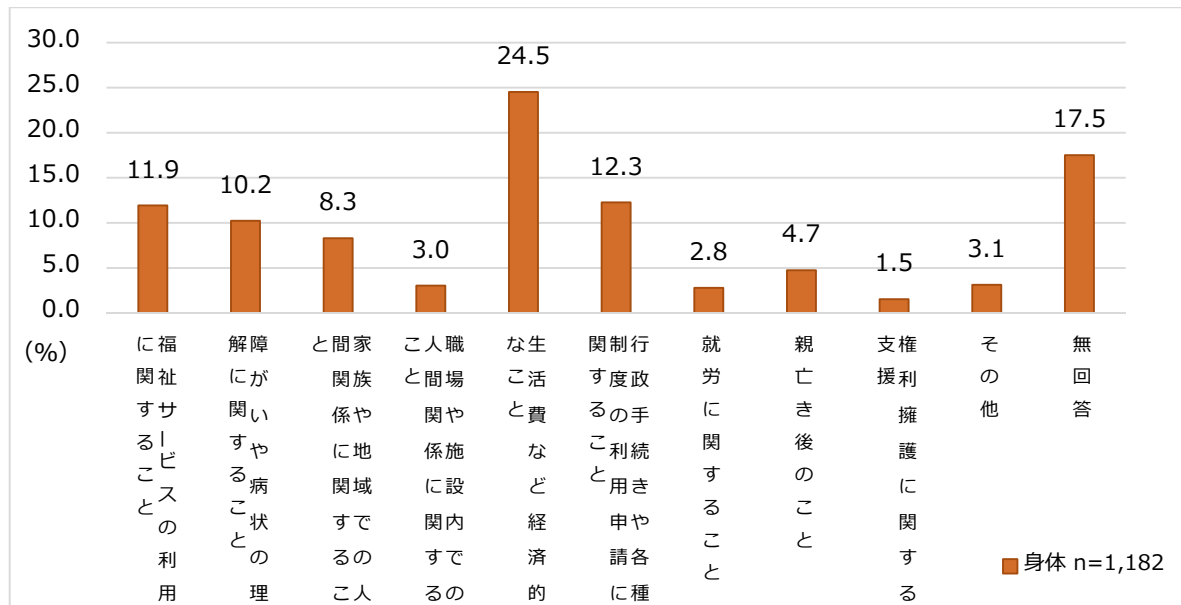
問 25 あなたは現在、どのような悩みごとや心配ごとがありますか。

- 現在、どのような悩みごとや心配ごとがあるかについては、「生活費など経済的なこと」が 22.7%と最も多く、次いで「親亡き後のこと」が 11.3%、「障がいや病状の理解に関すること」が 10.8%、「行政手続きや各種制度の利用申請に関すること」が 9.8%となっています。

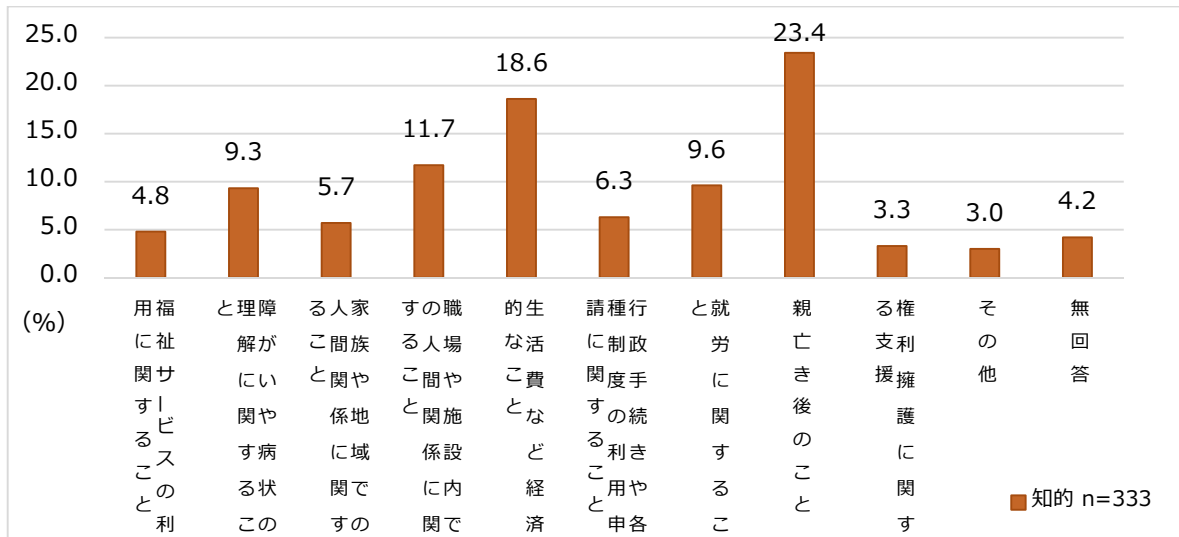


- 障がい別にみると、知的障がいでは「親亡き後のこと」の割合が多くなっています。

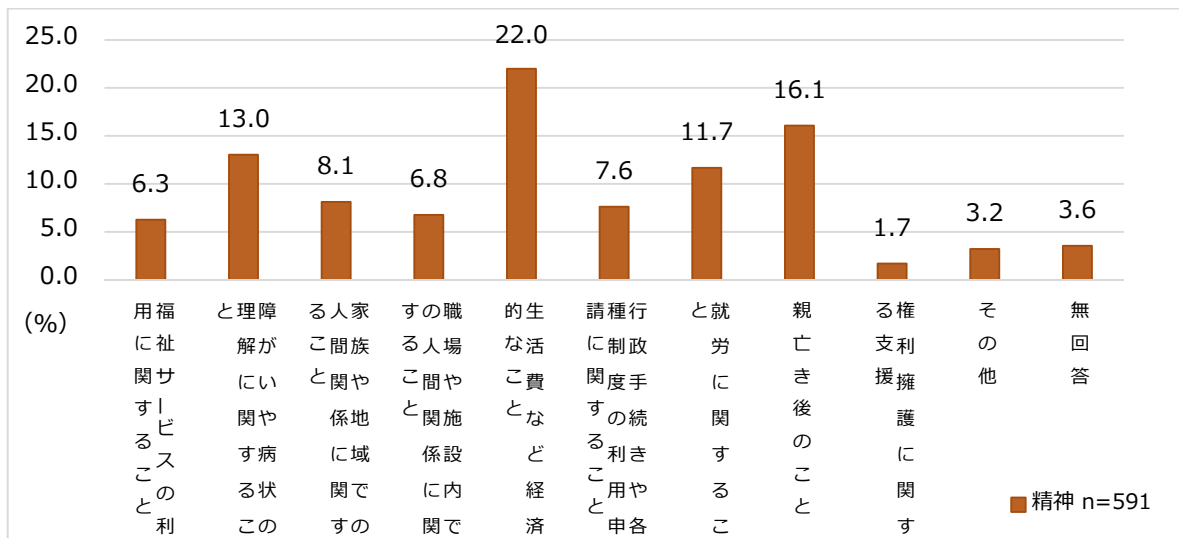
《身体障がい》



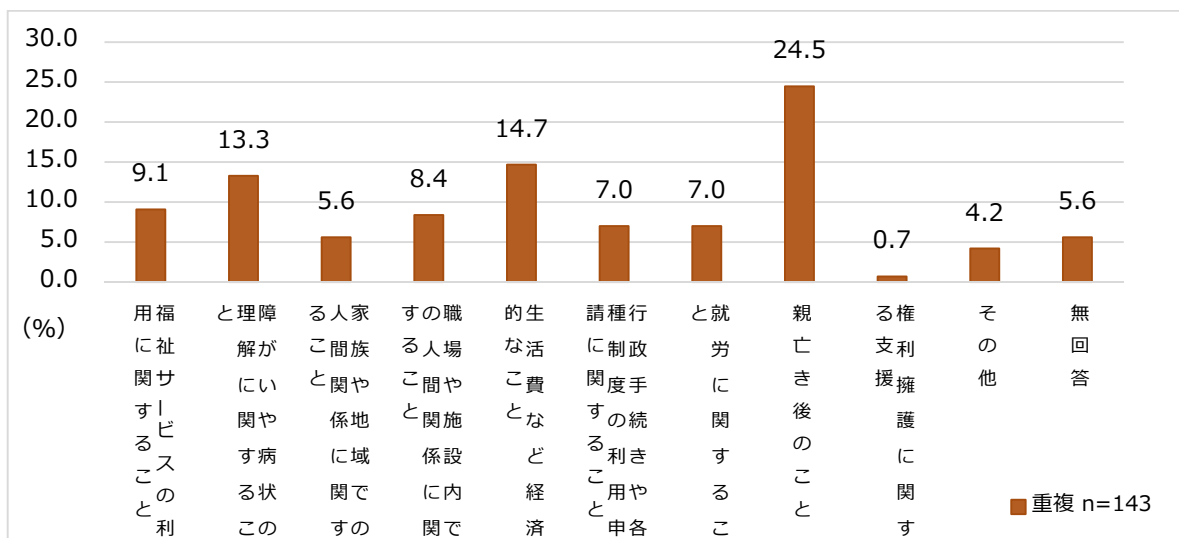
《知的障がい》



《精神障がい》

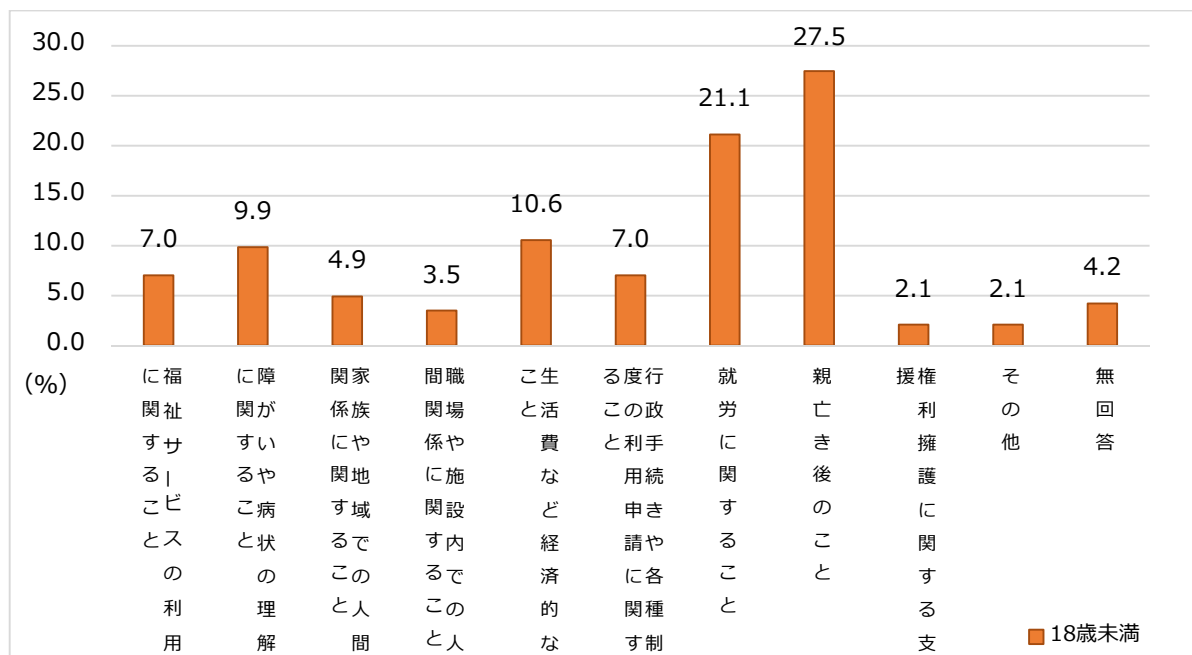


《重複障がい》

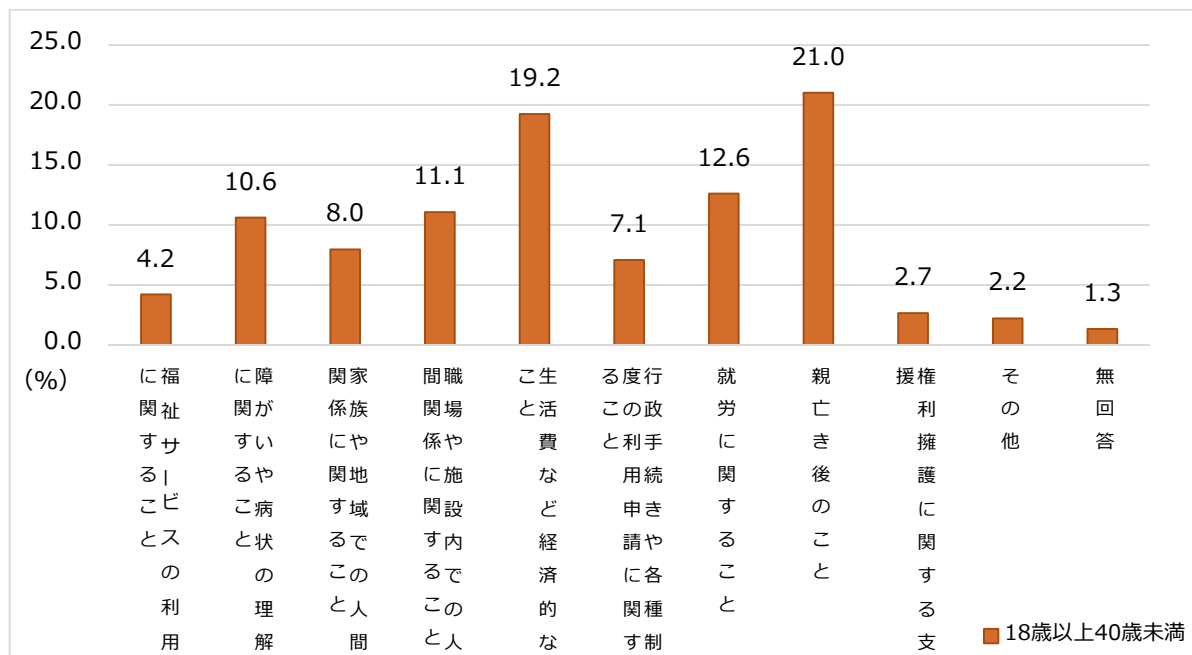


- 年齢別にみると、40 歳未満では「親亡き後のこと」の割合が多くなっています。65 歳以上では「福祉サービスの利用に関すること」の割合が多くなっています。

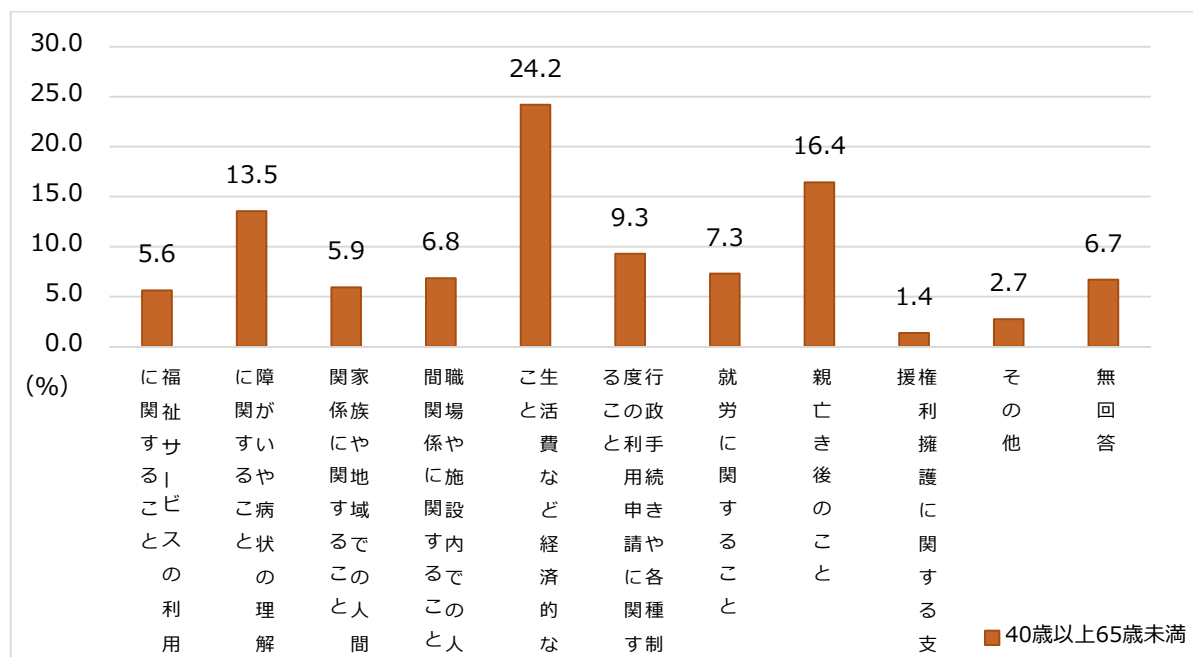
《18 歳未満》



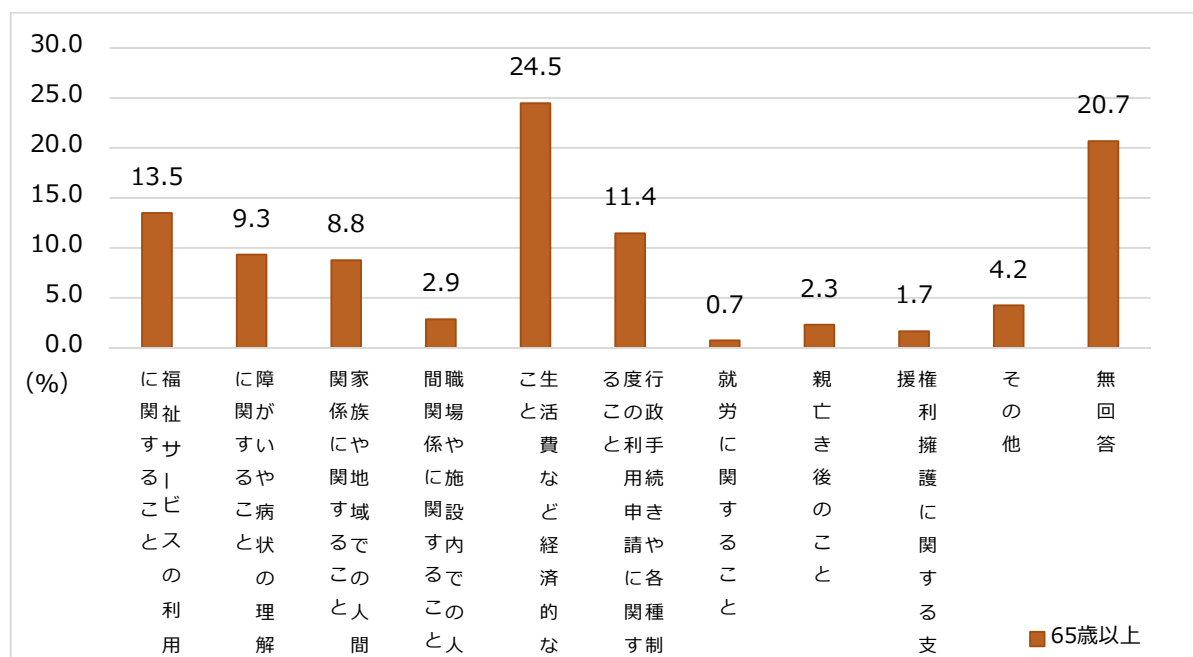
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

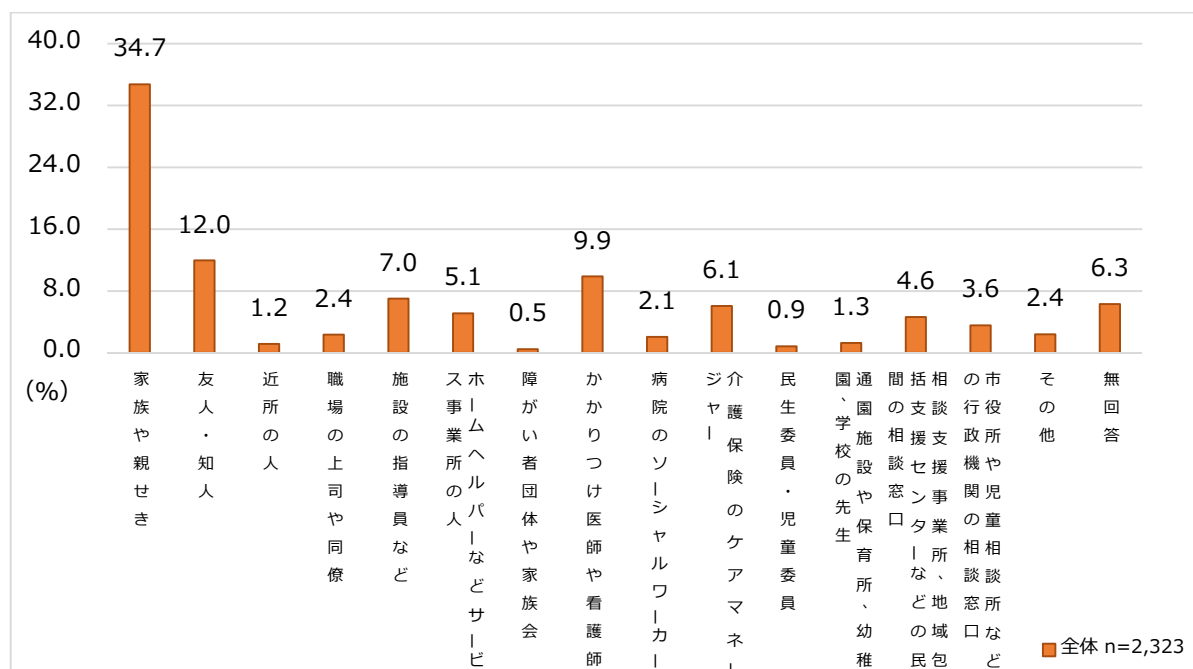


《65 歳以上》



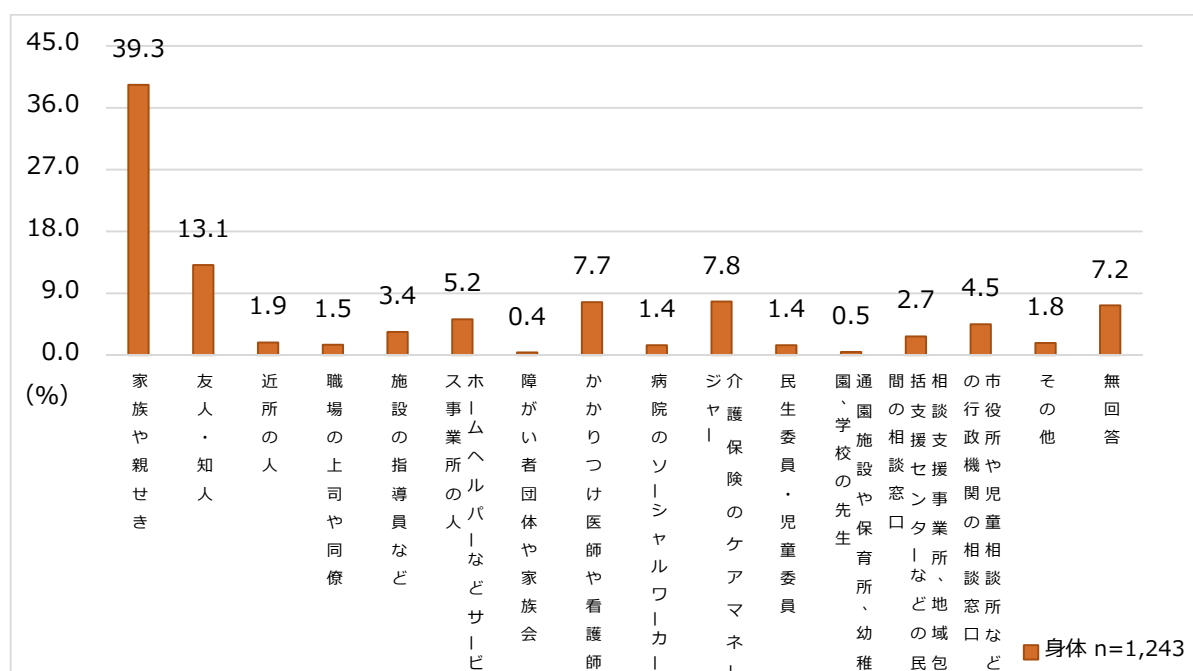
問 26 あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。

- 普段、悩みや困ったことの相談先については、「家族や親せき」が 34.7%と最も多く、次いで「友人・知人」が 12.0%、「かかりつけ医師や看護師」が 9.9%となっています。

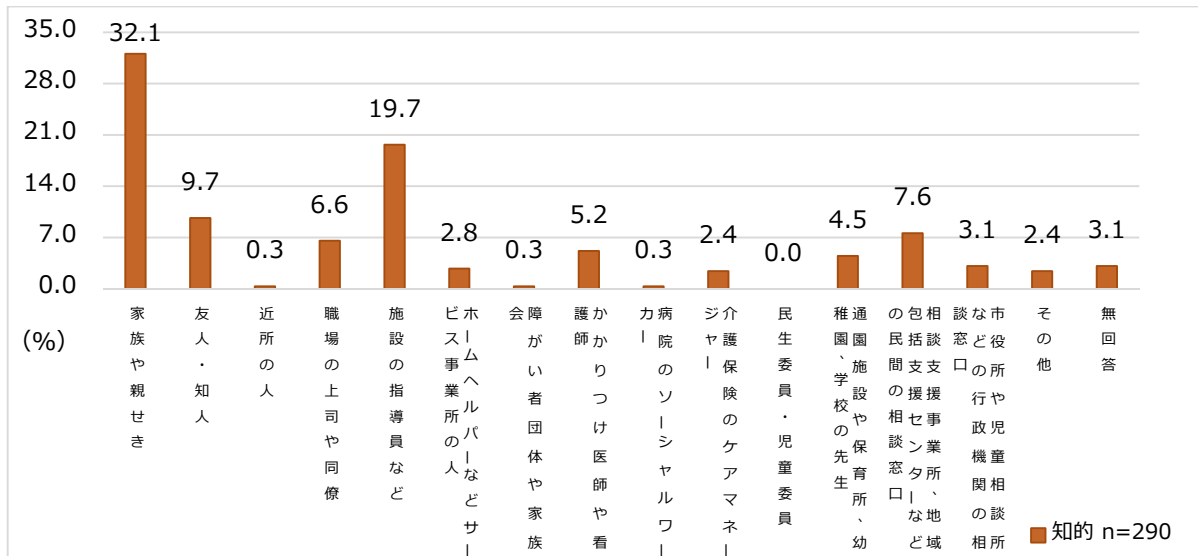


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「施設の指導員など」の割合が多く、精神障がいでは「かかりつけ医師や看護師」の割合が多くなっています。

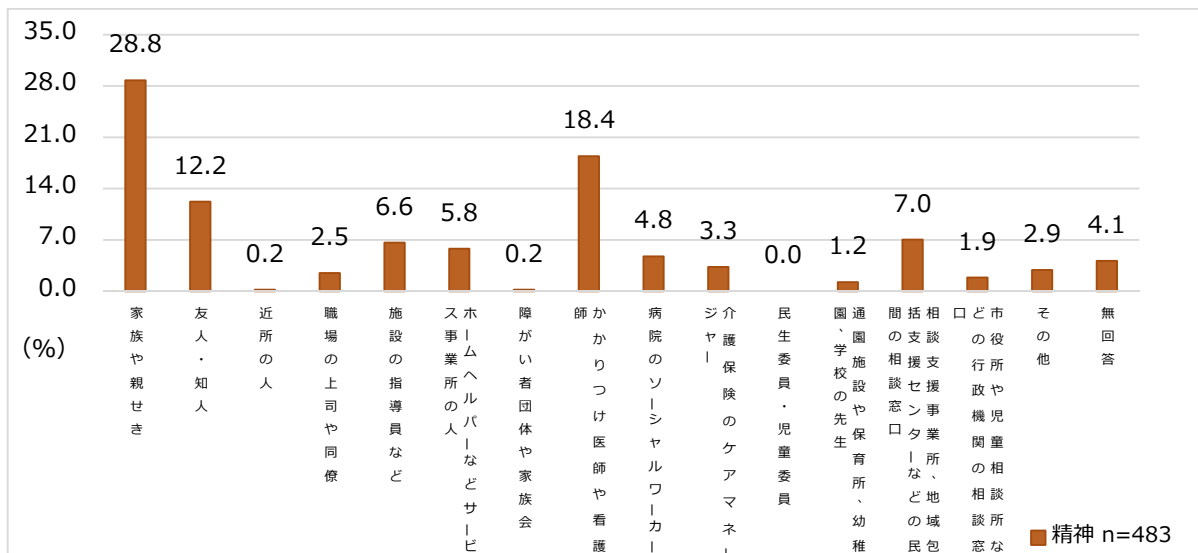
《身体障がい》



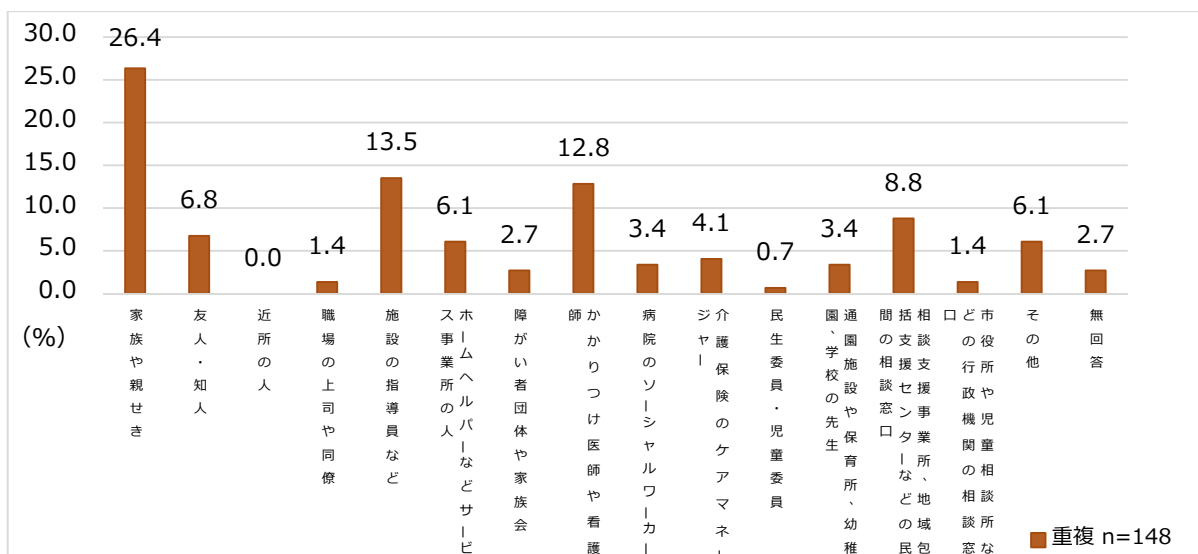
《知的障がい》



《精神障がい》

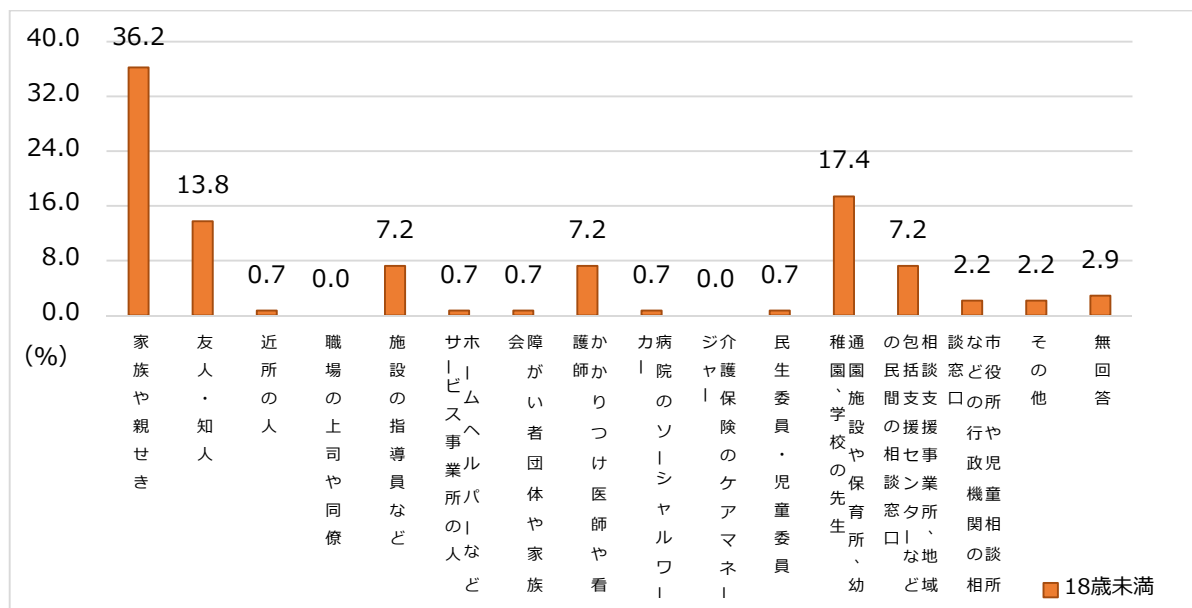


《重複障がい》

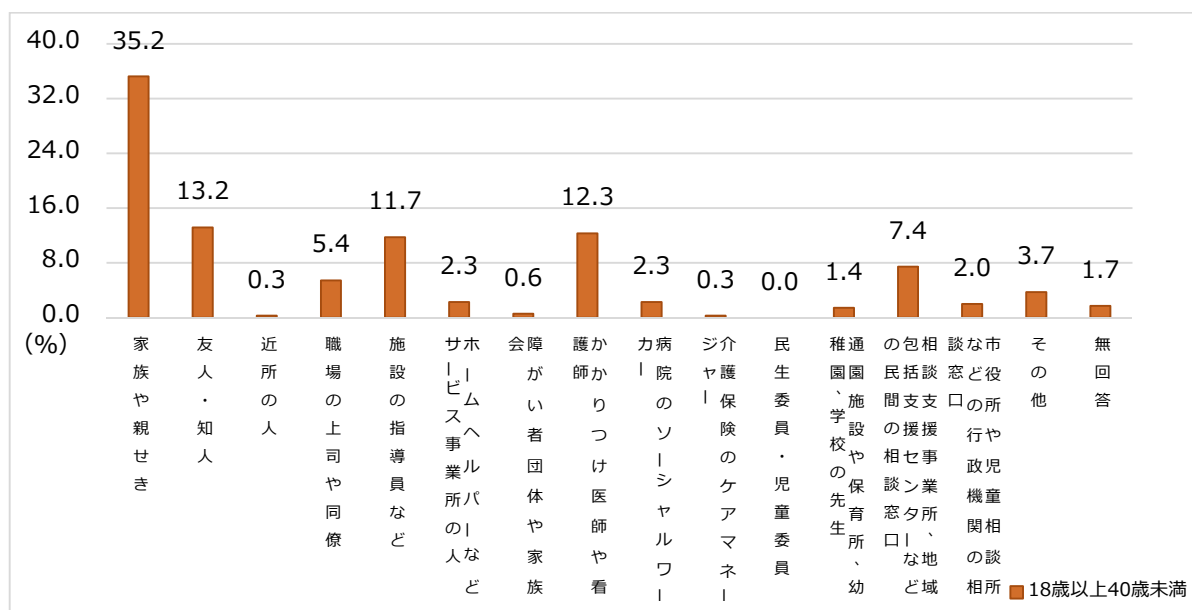


- 年齢別にみると、全体の傾向として、「施設の指導員など」「かかりつけ医師や看護師」「相談支援事業所、地域包括支援センターなどの民間の相談窓口」の割合が多くなっています。

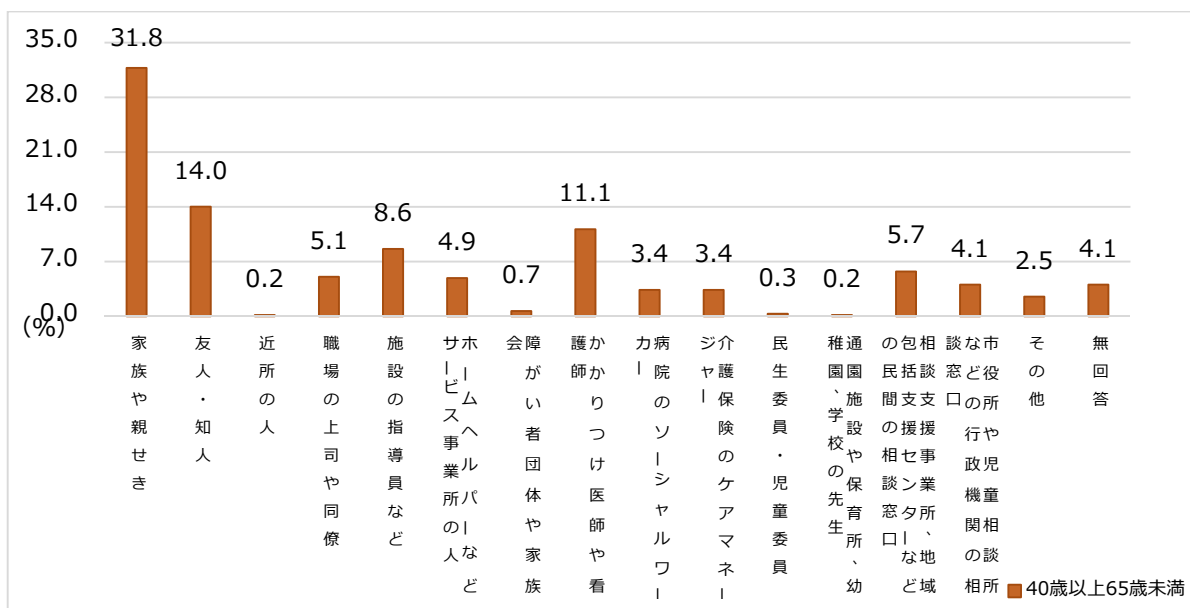
《18歳未満》



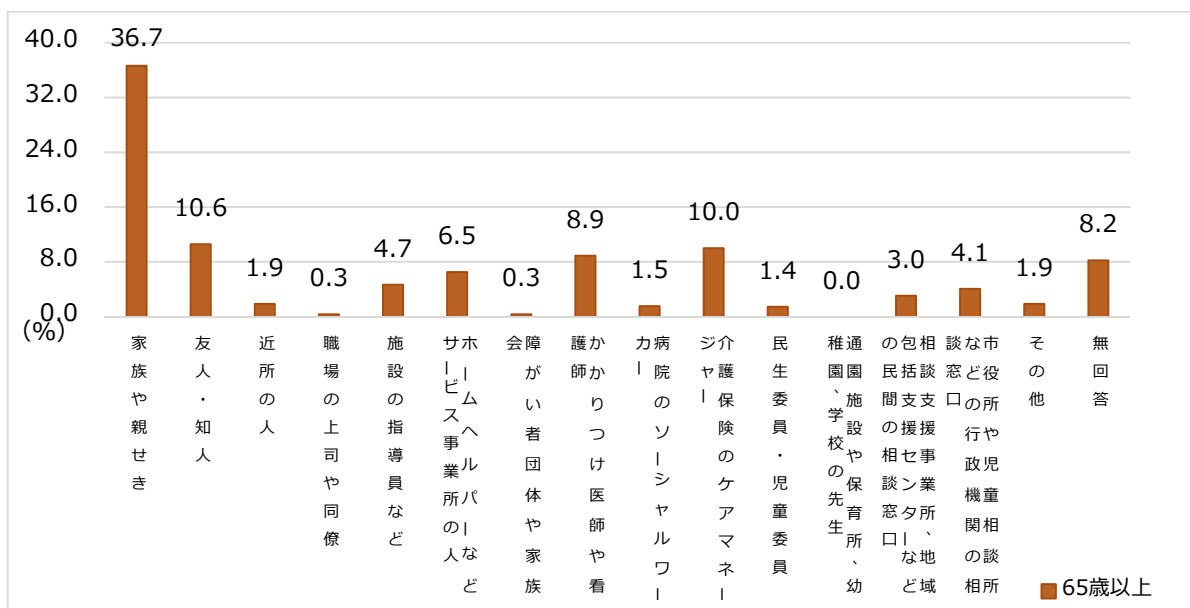
《18歳以上 40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



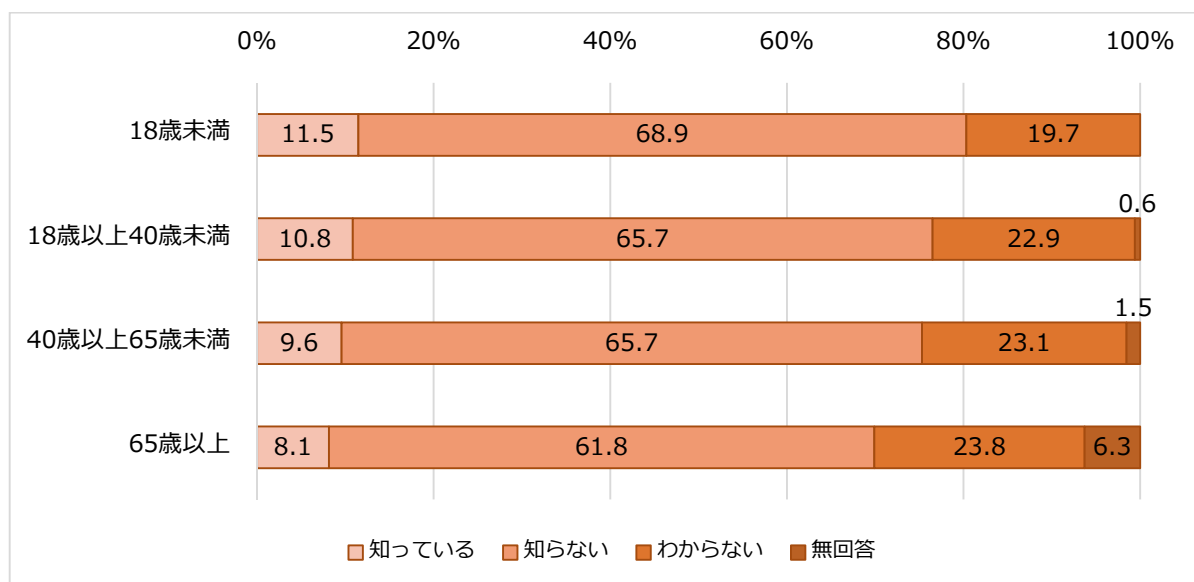
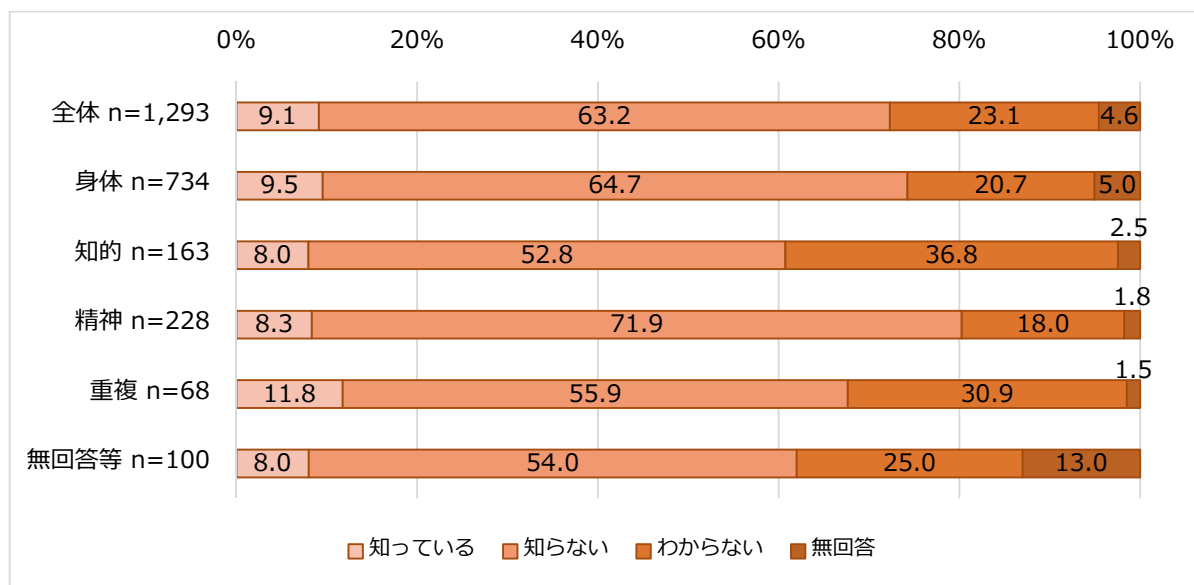
《65 歳以上》



1-9 権利擁護について

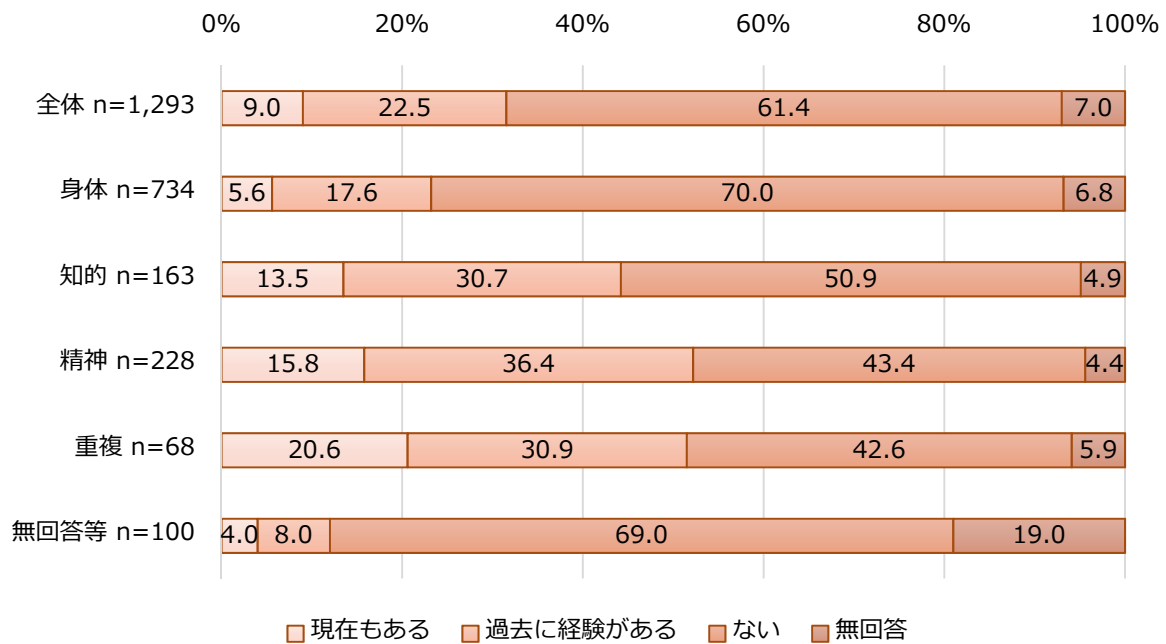
問 27 あなたは、障がい者差別解消法が改正され、令和 6 年 4 月から事業者による障がいのあるかたへの合理的配慮が義務化されることを知っていますか。

- 令和 6 年 4 月から事業者による障がいのあるかたへの合理的配慮の義務化されることを知っているかについては、「知っている」が 9.1%、「知らない」が 63.2%、「わからない」が 23.1%となっています。
- 障がい別・年齢別にみても、「知らない」の割合が多くなっています。

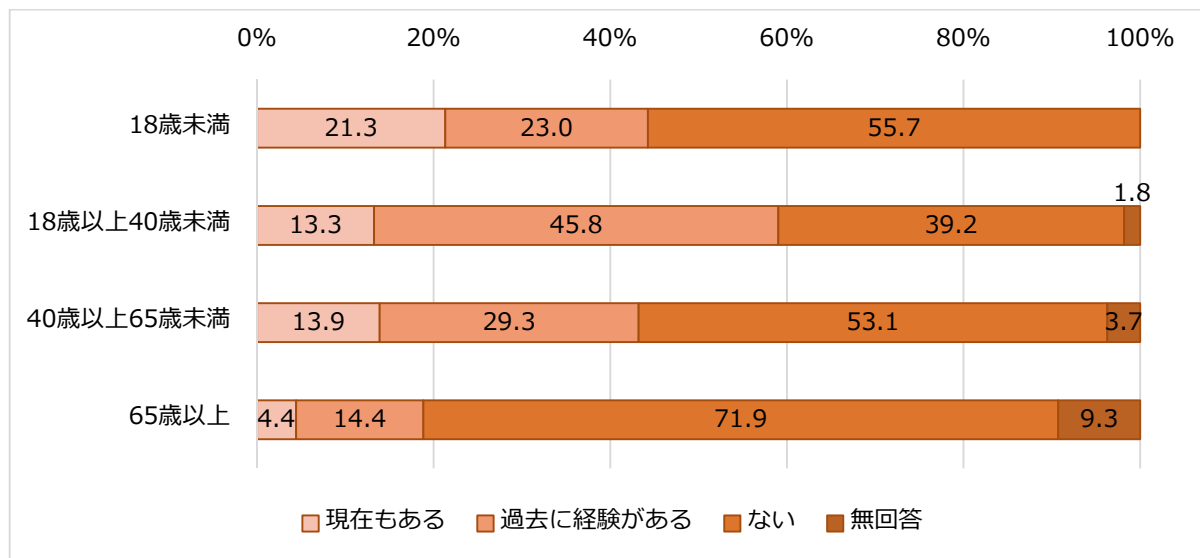


問 28 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がありますか。

- 障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験があるかについては、「ない」が 61.4%と最も多く、次いで「過去に経験がある」が 22.5%、「現在もある」が 9.0%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がい、重複障がいでは「ある」の割合が多くなっています。

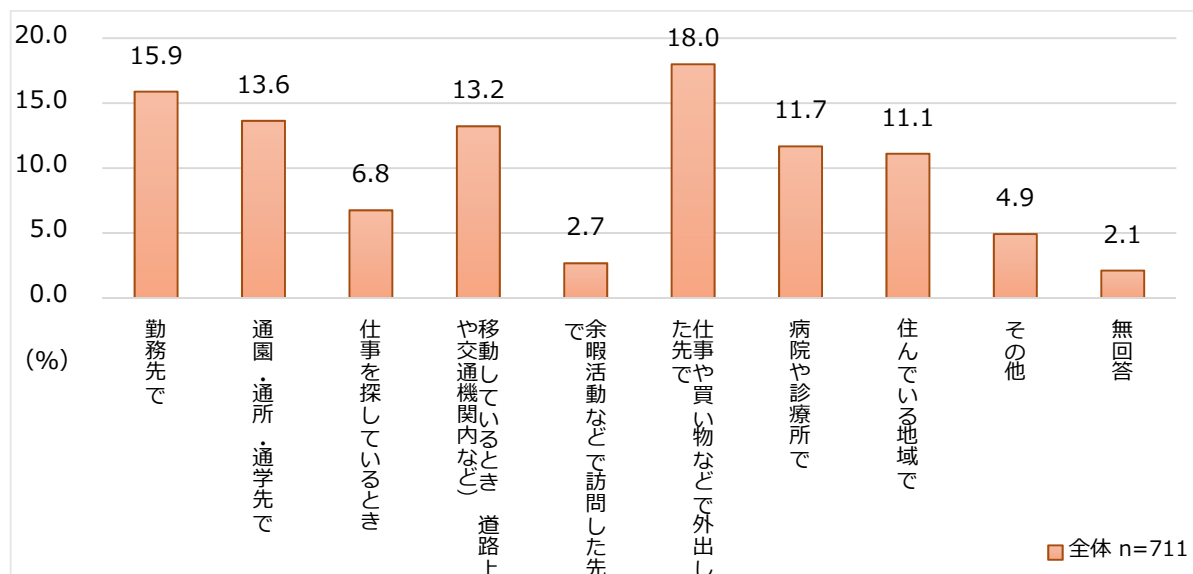


- 年齢別にみると、18歳未満では「ない」が 55.7%で最も多く、18歳以上 40歳未満では「過去に経験がある」が 45.8%で最も多くなっています。18歳以上では年齢が上がるにつれて「ない」の割合が多くなっています。



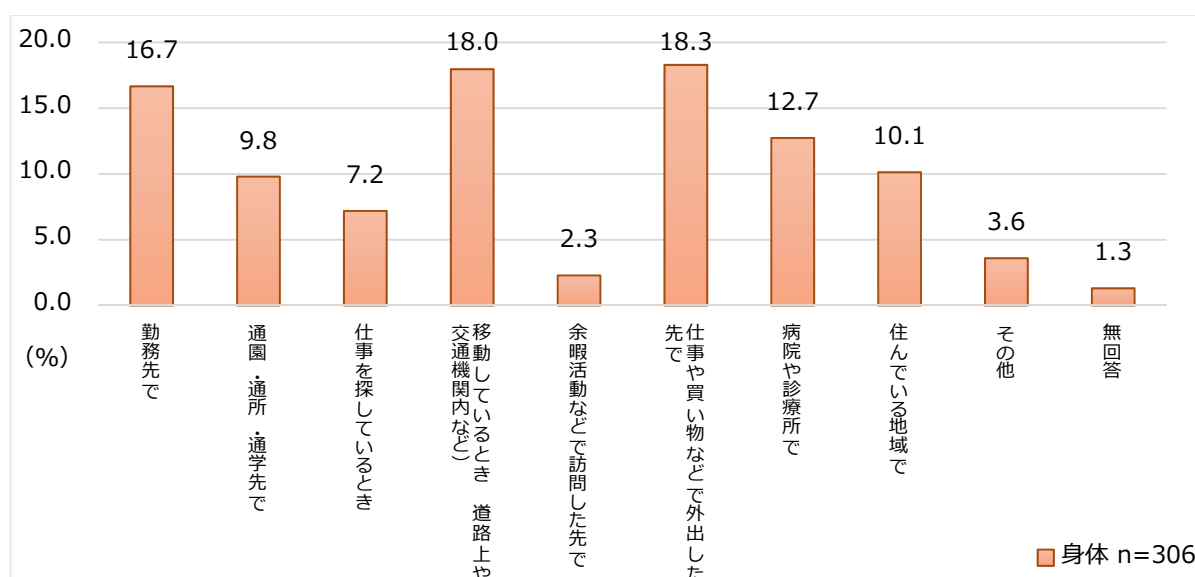
問 28-2 【問 28 で「現在もある」または「過去に経験がある」と答えたかたにお聞きします。】あなたは、どのようなとき・場所で差別を受けたり、いやな思いをしましたか。

- 現在や過去に障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がある方が、どのようなとき・場所で差別を受けたり、いやな思いをしたかについては、「仕事や買い物などで外出した先で」が 18.0%と最も多く、次いで「勤務先で」が 15.9%、「通園・通所・通学先で」が 13.6%、「移動しているとき（道路上や交通機関内など）」が 13.2%、「病院や診療所で」が 11.7%となっています。

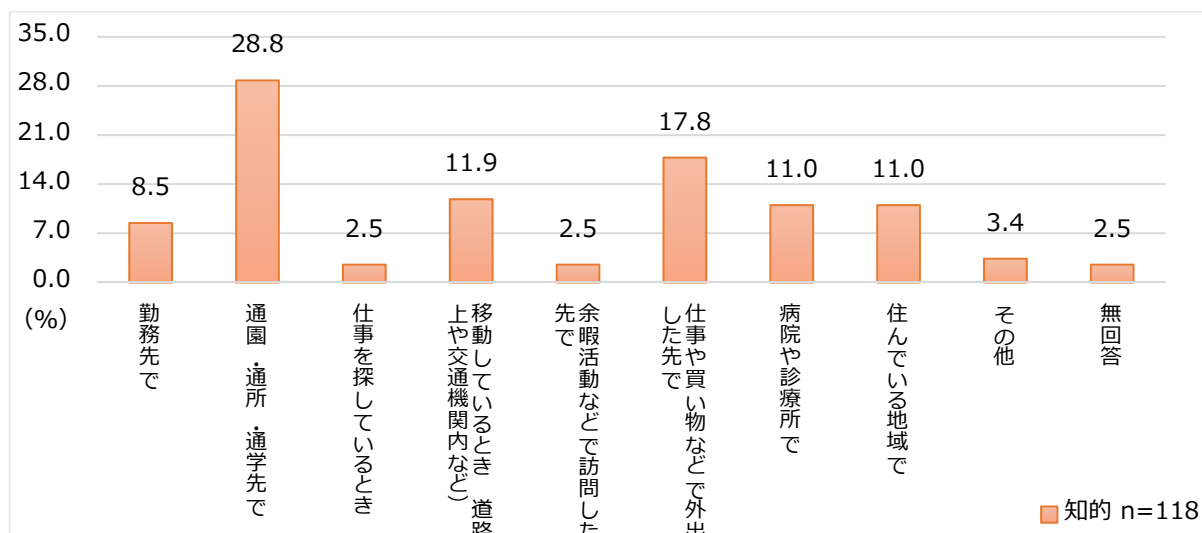


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「通園・通所・通学先で」の割合が多く、精神障がいでは「勤務先で」の割合が多くなっています。

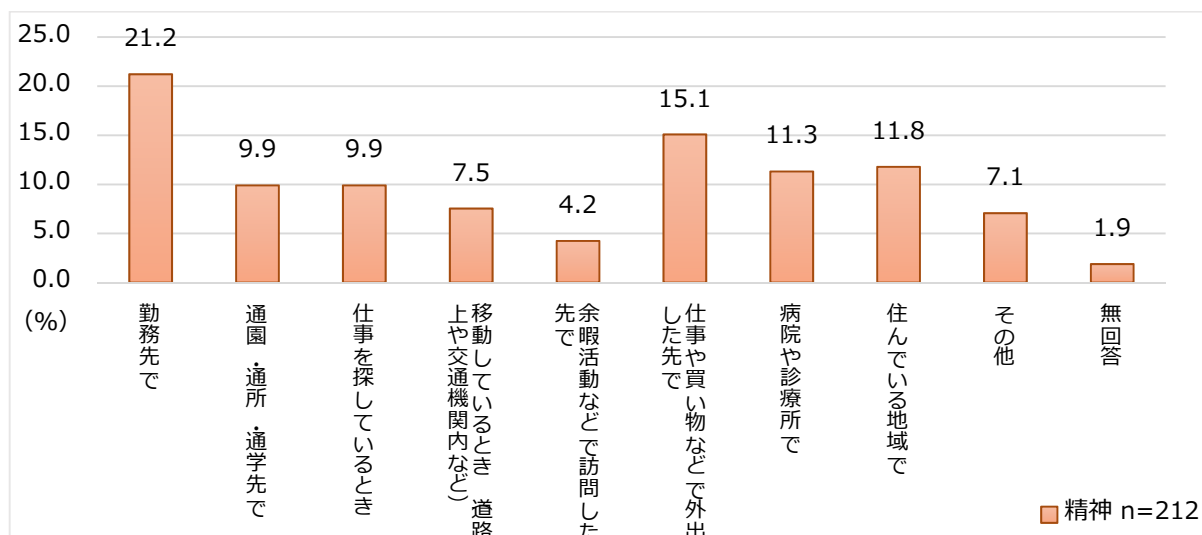
《身体障がい》



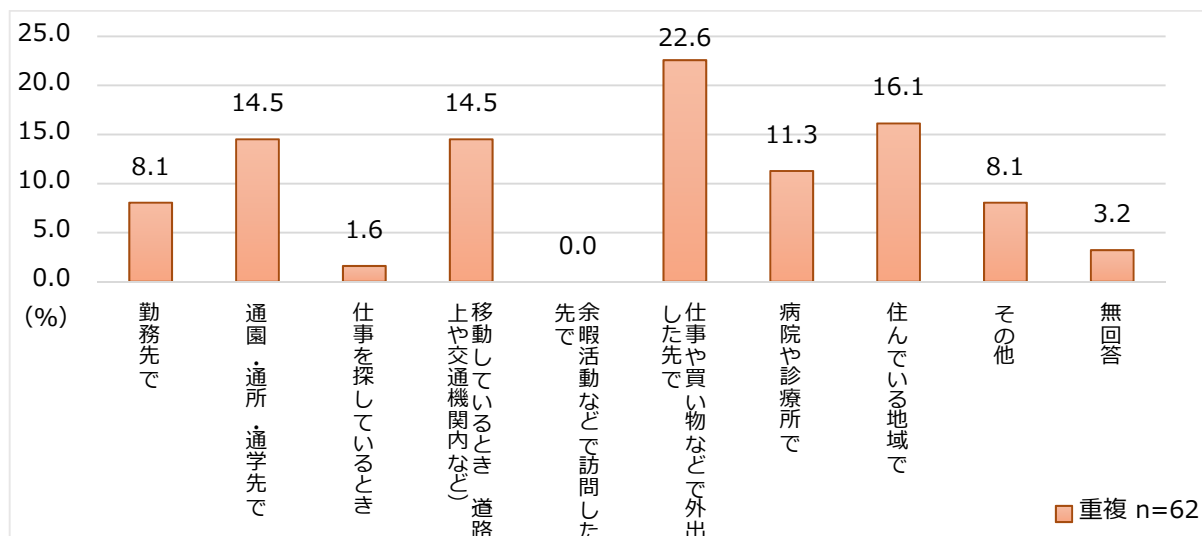
《知的障がい》



《精神障がい》

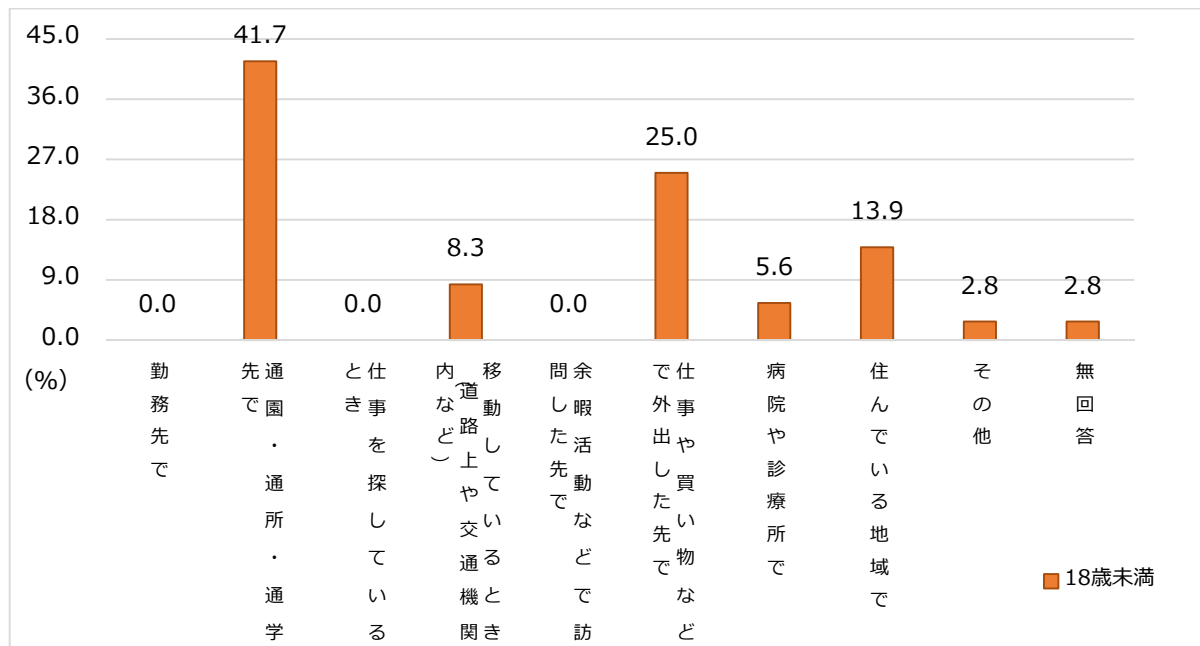


《重複障がい》

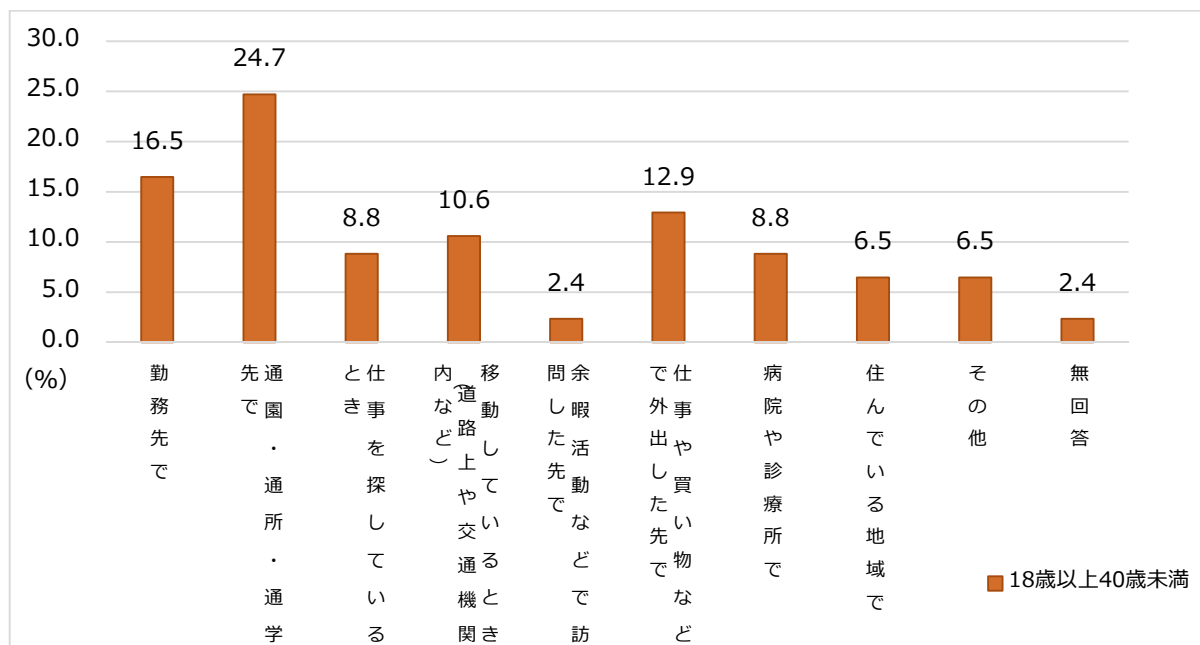


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満で「通園・通所・通学先で」の割合が多く、18歳以上で「勤務先で」の割合が多く、65歳以上で「住んでいる地域で」の割合が多くなっています。

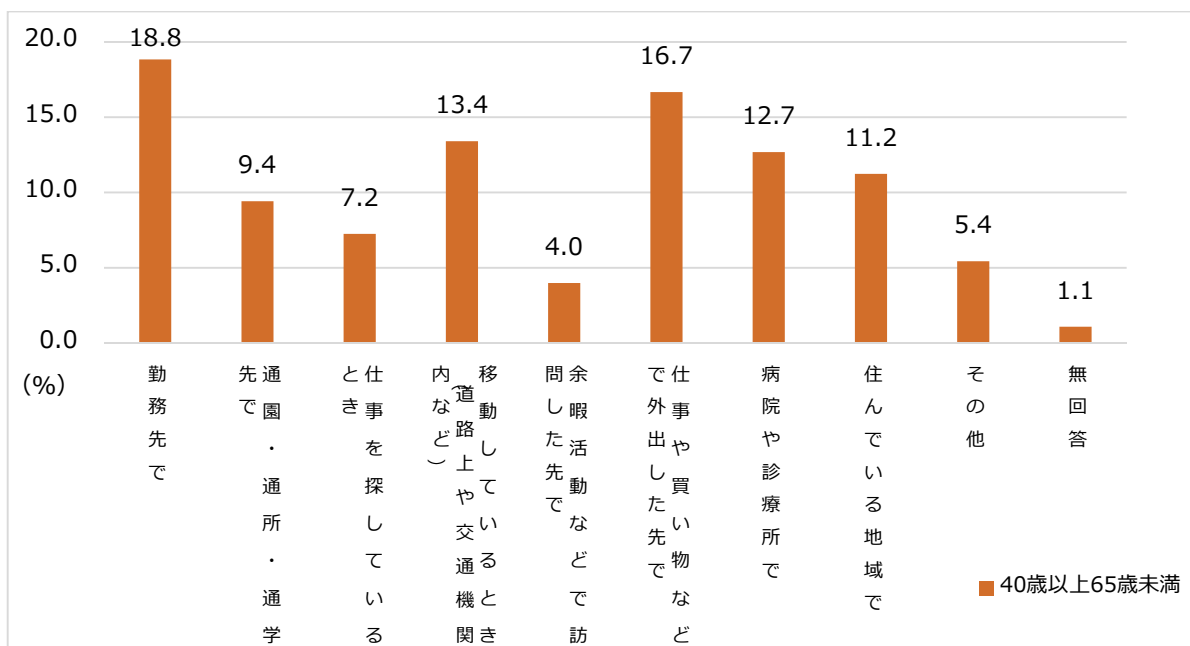
《18歳未満》



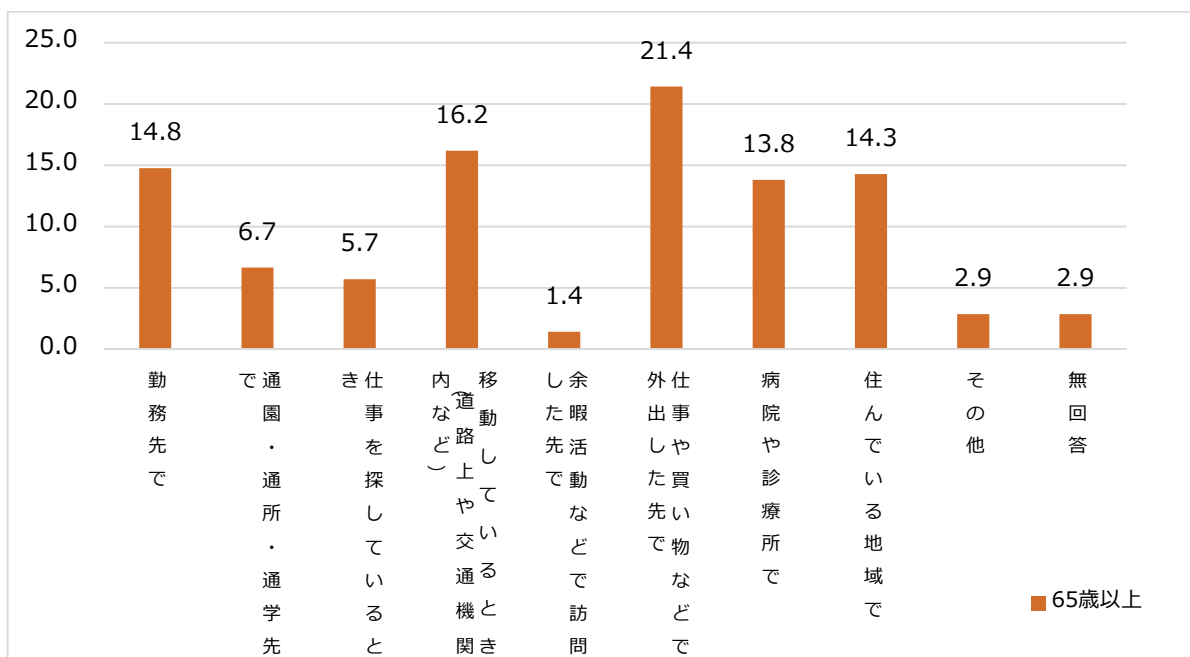
《18歳以上40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

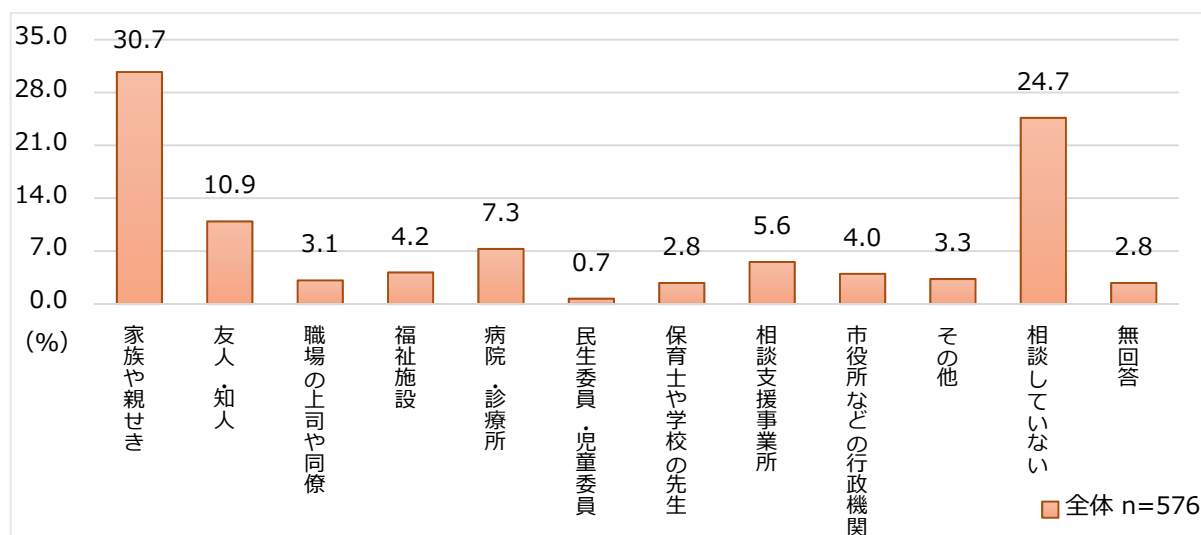


《65 歳以上》



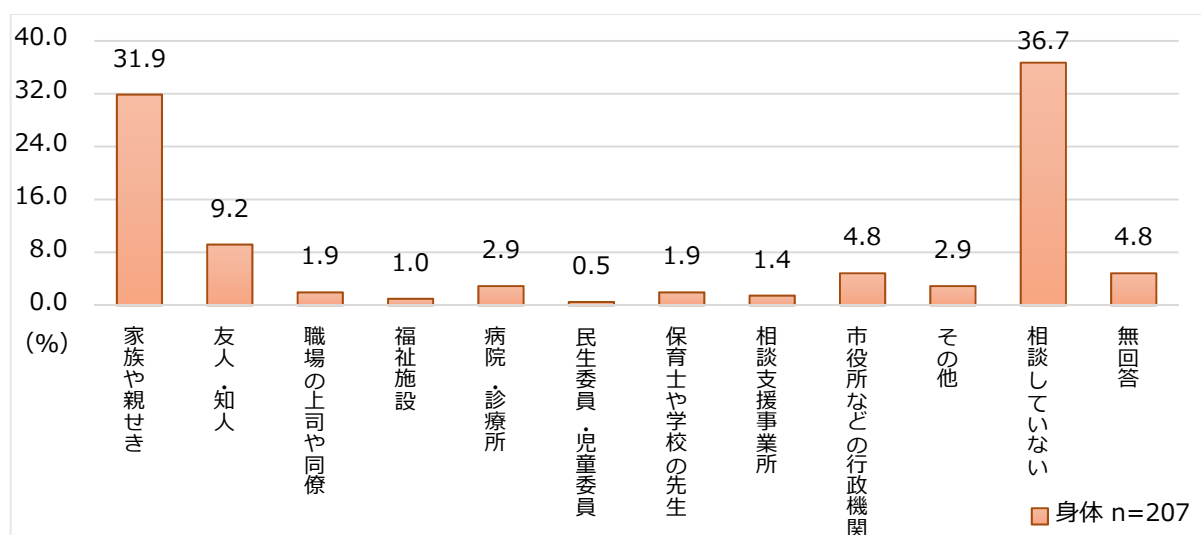
問 28-3 【問 28 で「現在もある」または「過去に経験がある」と答えたかたにお聞きします。】あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした際にどこに相談しましたか。

- 現在や過去に障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がある方が、差別を受けたり、いやな思いをした際にどこに相談したかについては、「家族や親せき」が 30.7%と最も多く、次いで「相談していない」が 24.7%、「友人・知人」が 10.9%、「病院・診療所」が 7.3%となっています。

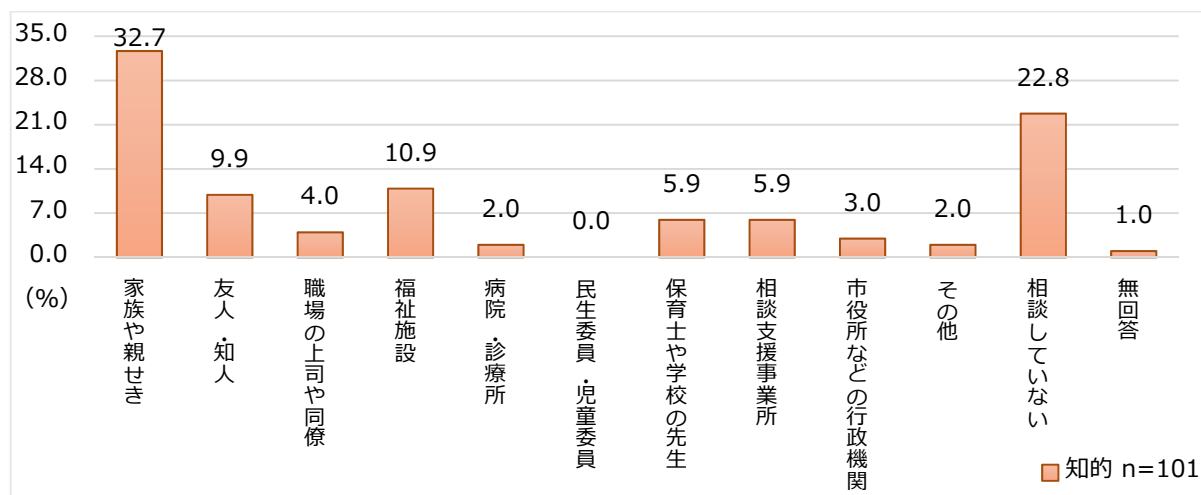


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「友人・知人」「病院・診療所」の割合が多くなっています。

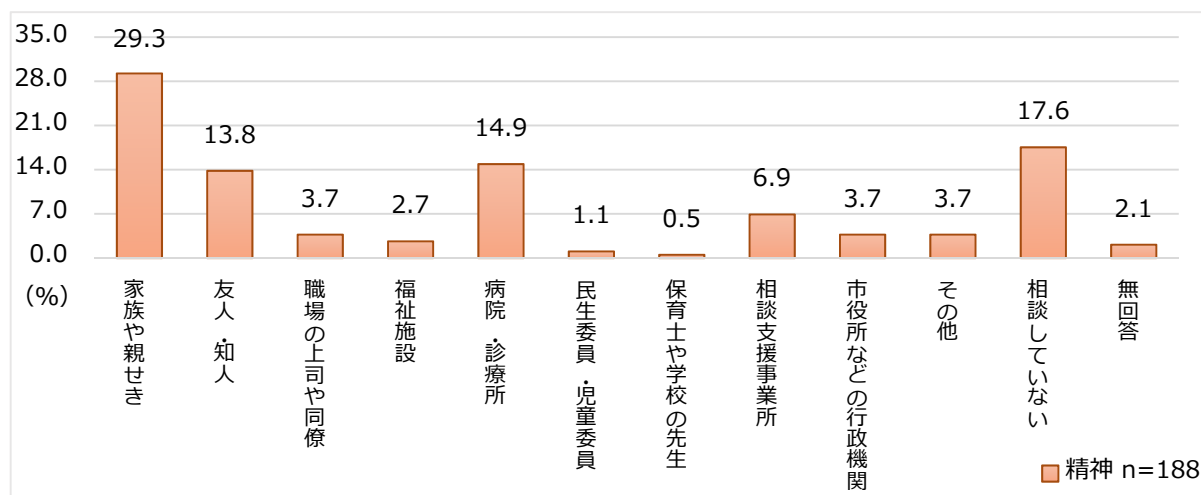
《身体障がい》



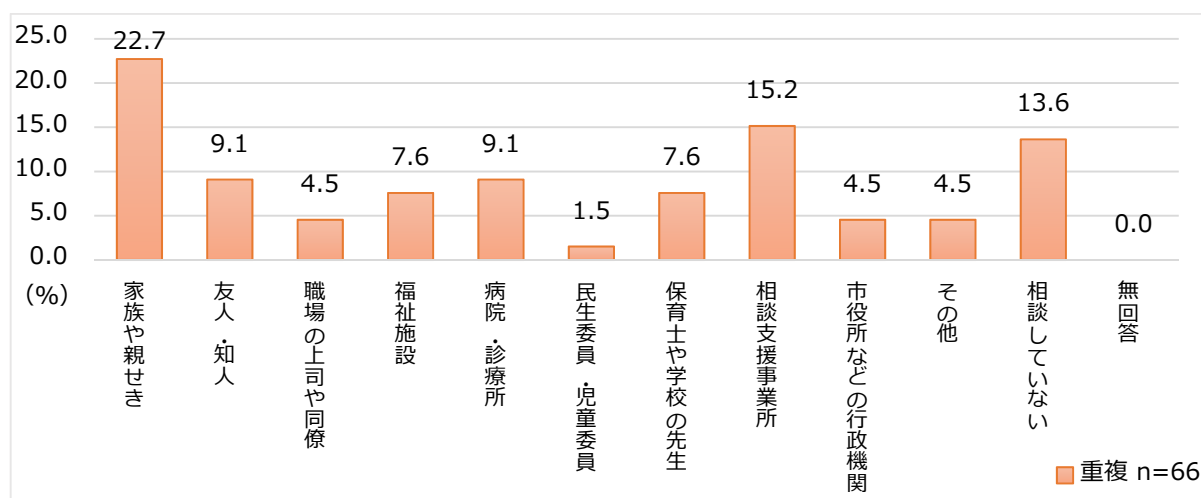
《知的障がい》



《精神障がい》

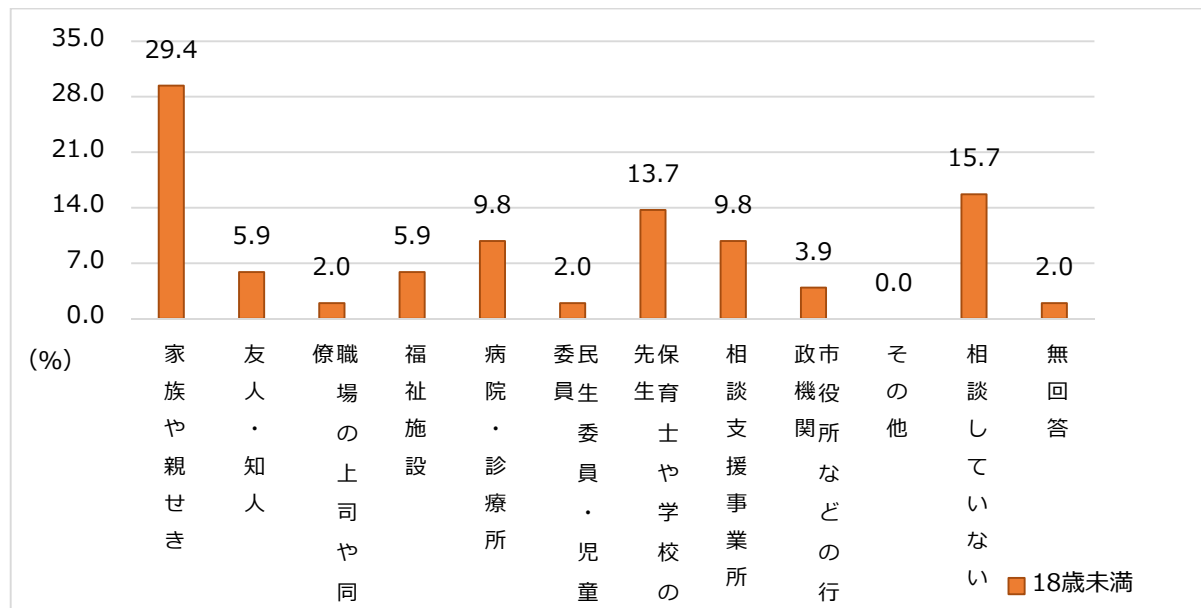


《重複障がい》

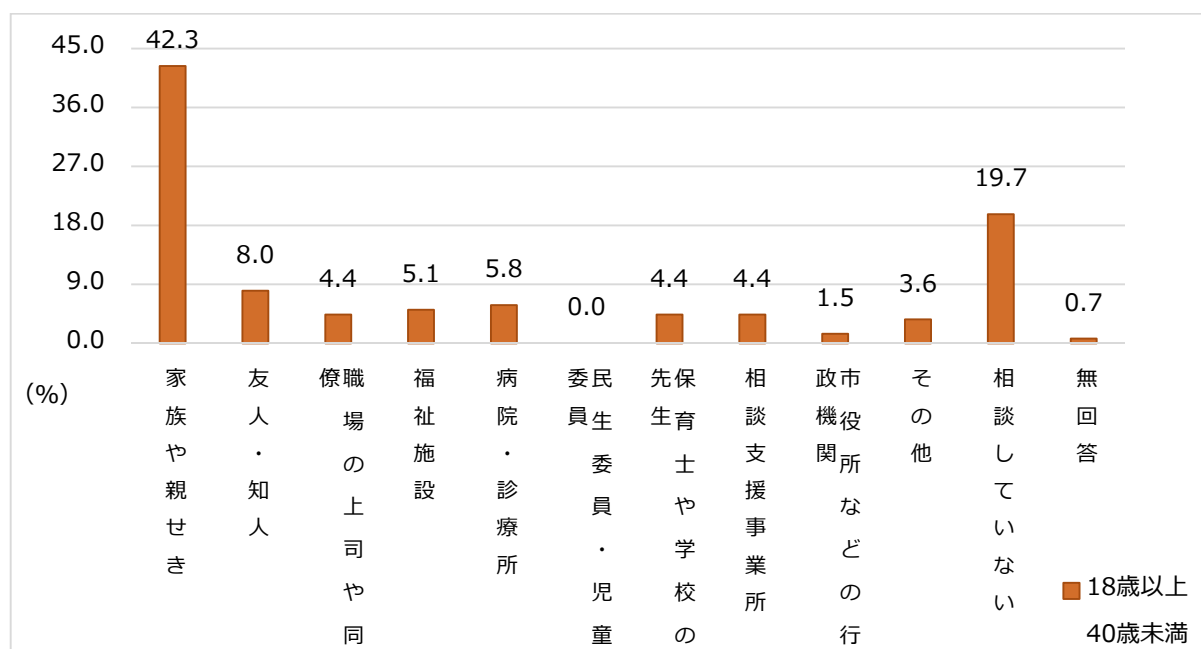


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「保育士や学校の先生」の割合が多くなっています。18歳以上では年齢が上がるにつれて「相談していない」の割合が多くなっています。

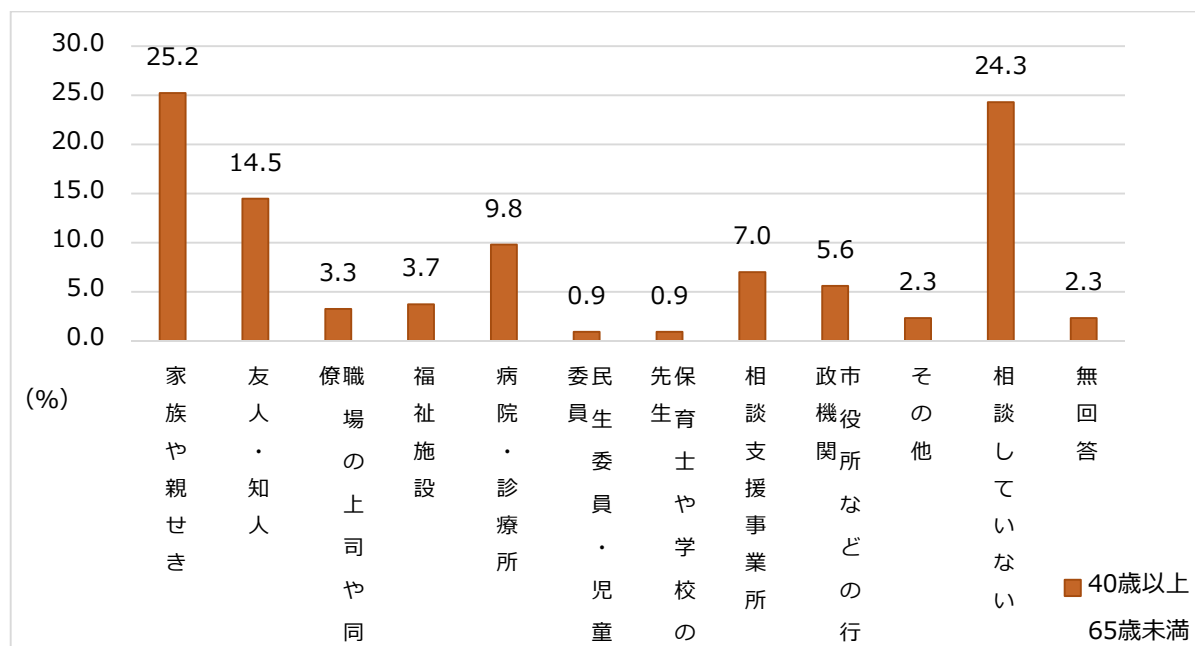
《18歳未満》



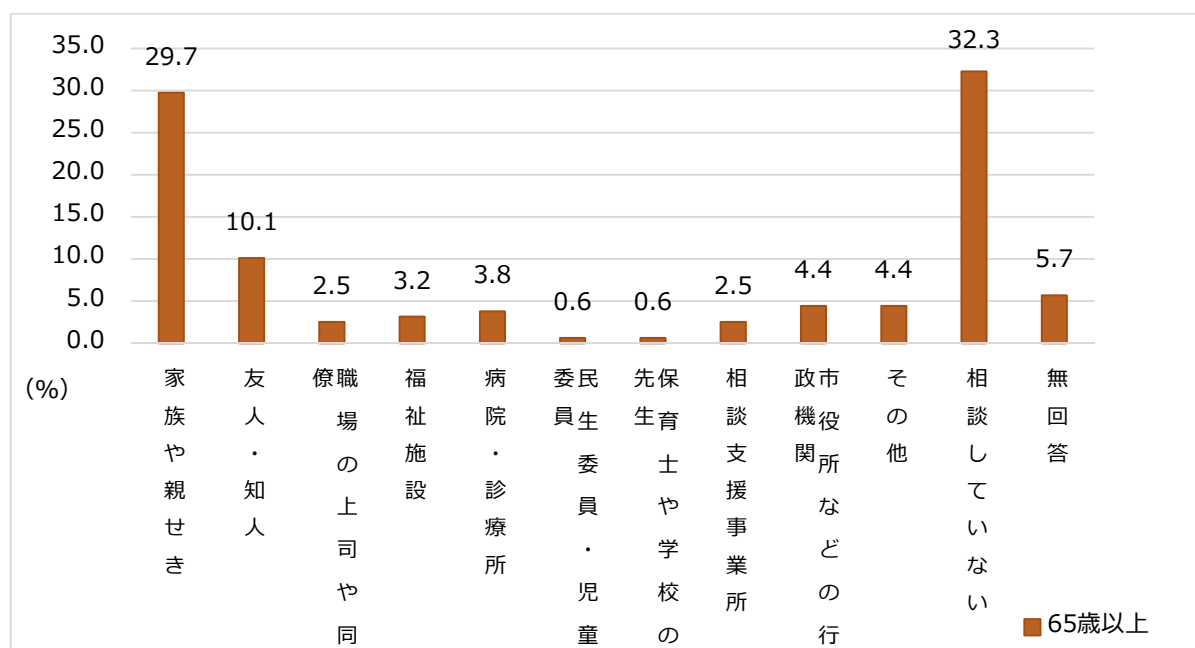
《18歳以上 40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

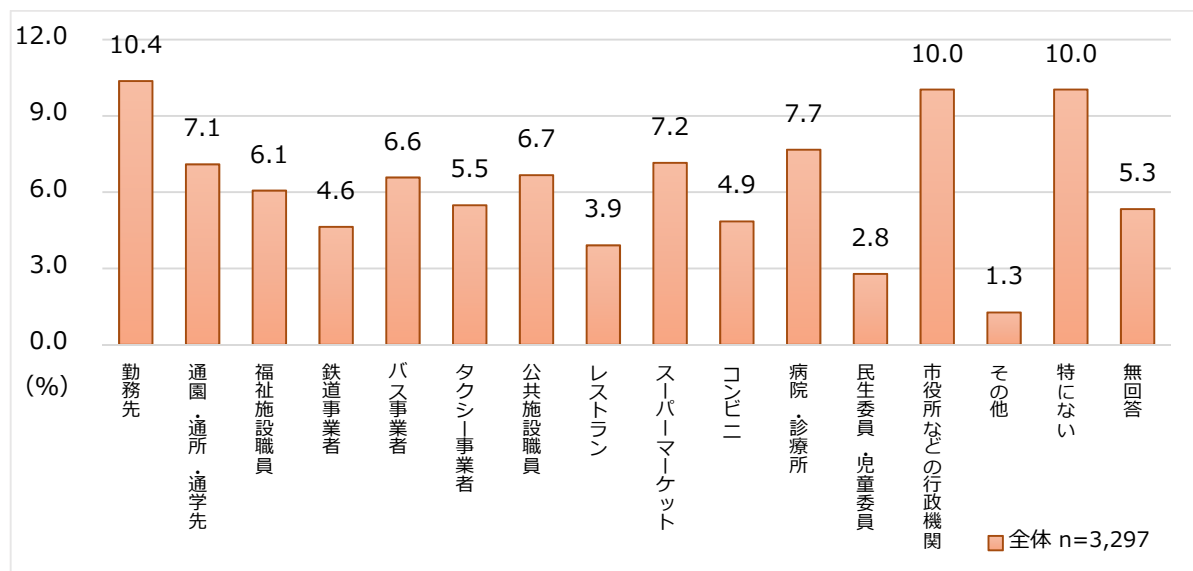


《65 歳以上》



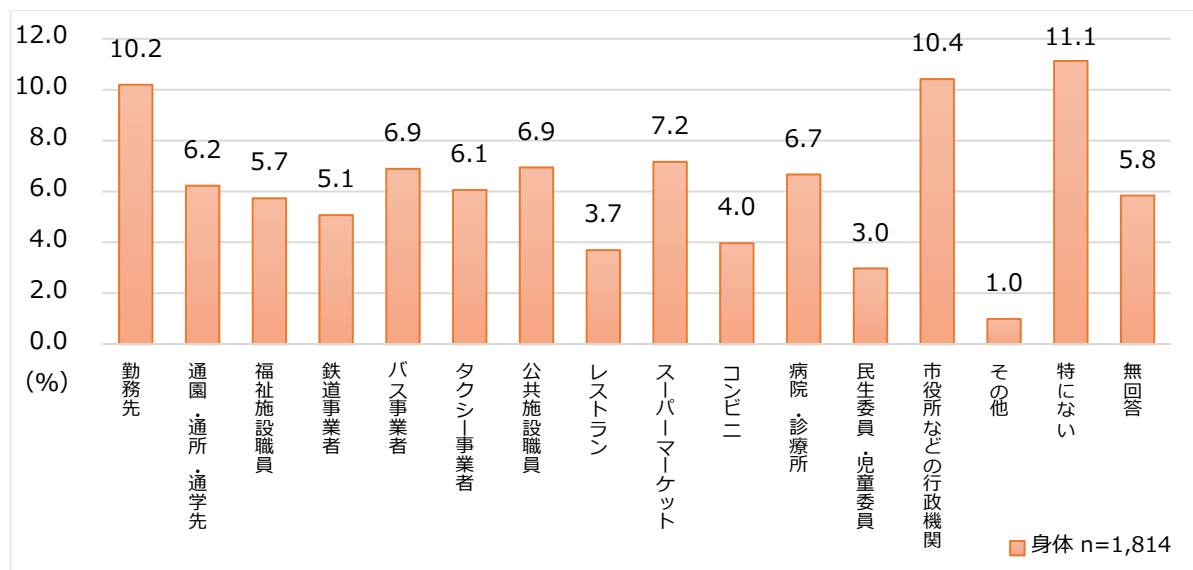
問 29 障がいのあるかたへの差別がなくなるために、障がいや障がいのあるかたに対する理解啓発が今以上に進むとよいと思う先はどこですか。

- 障がいのあるかたへの差別がなくなるために、障がいや障がいのある方に対する理解啓発が今以上に進むとよいと思う先については、「勤務先」が10.4%と最も多く、次いで「市役所などの行政機関」が10.0%、「病院・診療所」が7.7%、「スーパーマーケット」が7.2%となっています。

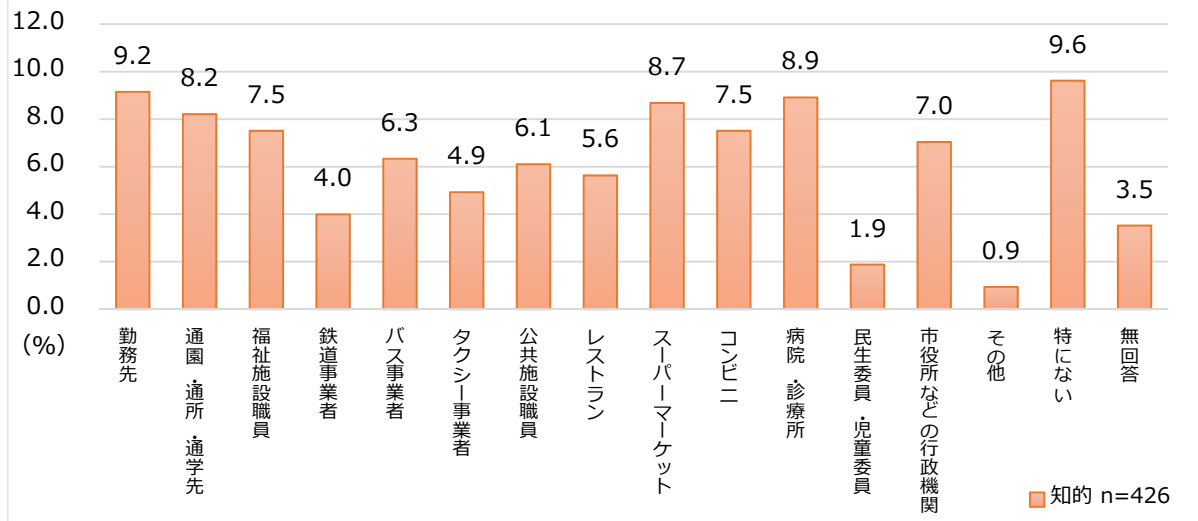


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、身体障がい、精神障がい、重複障がいで「市役所などの行政機関」が一番多くなっています。

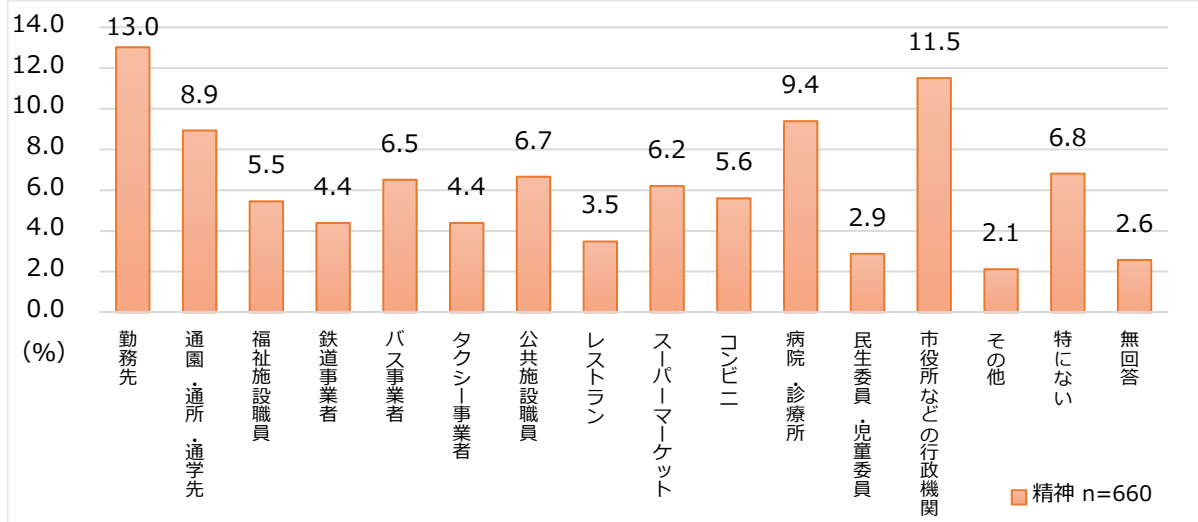
《身体障がい》



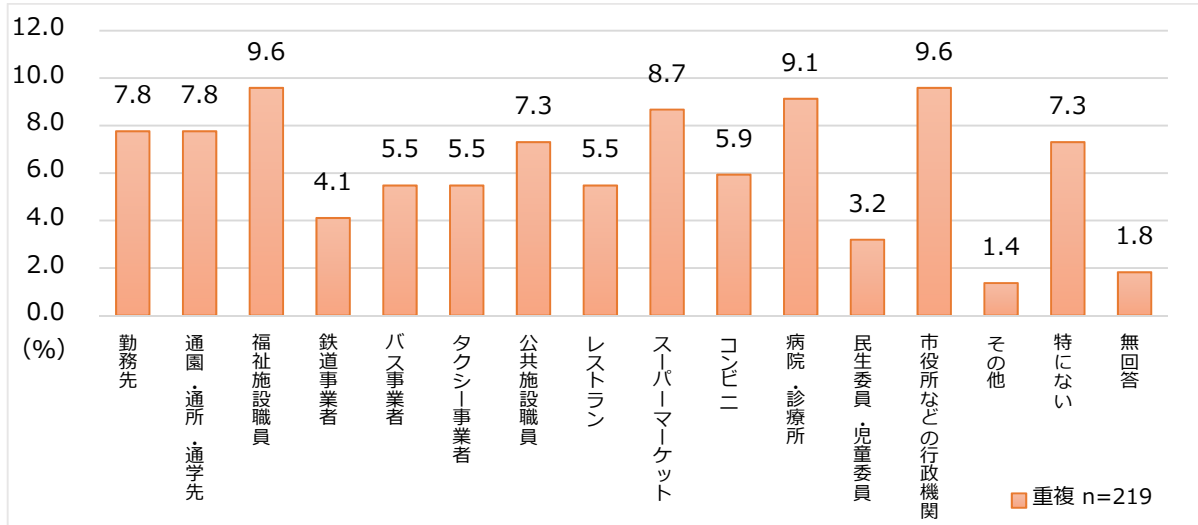
《知的障がい》



《精神障がい》

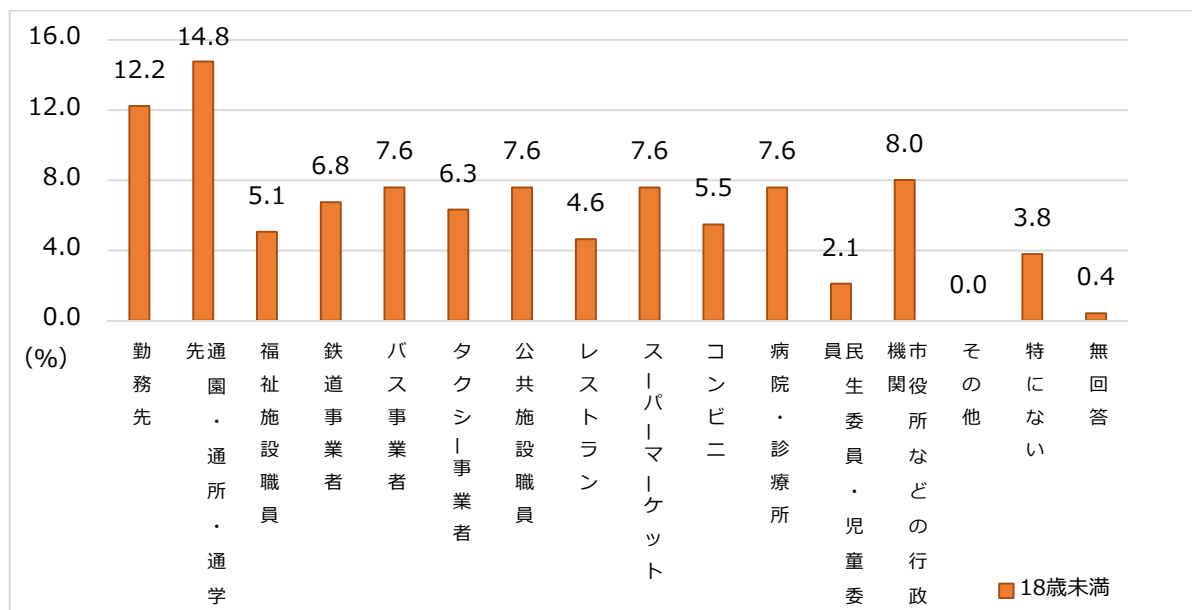


《重複障がい》

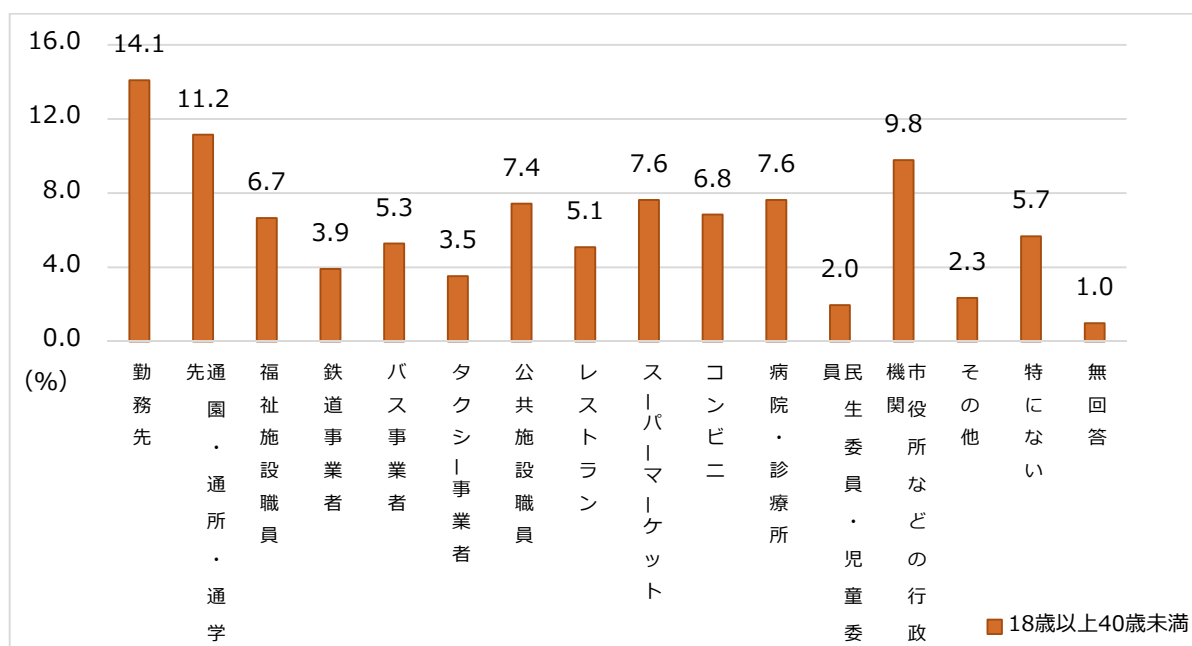


- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「通園・通所・通学先」の割合が多く、18歳以上65歳未満では「勤務先」の割合が多くなっています。また、全体の傾向として、「市役所などの行政機関」の割合が多くなっています。

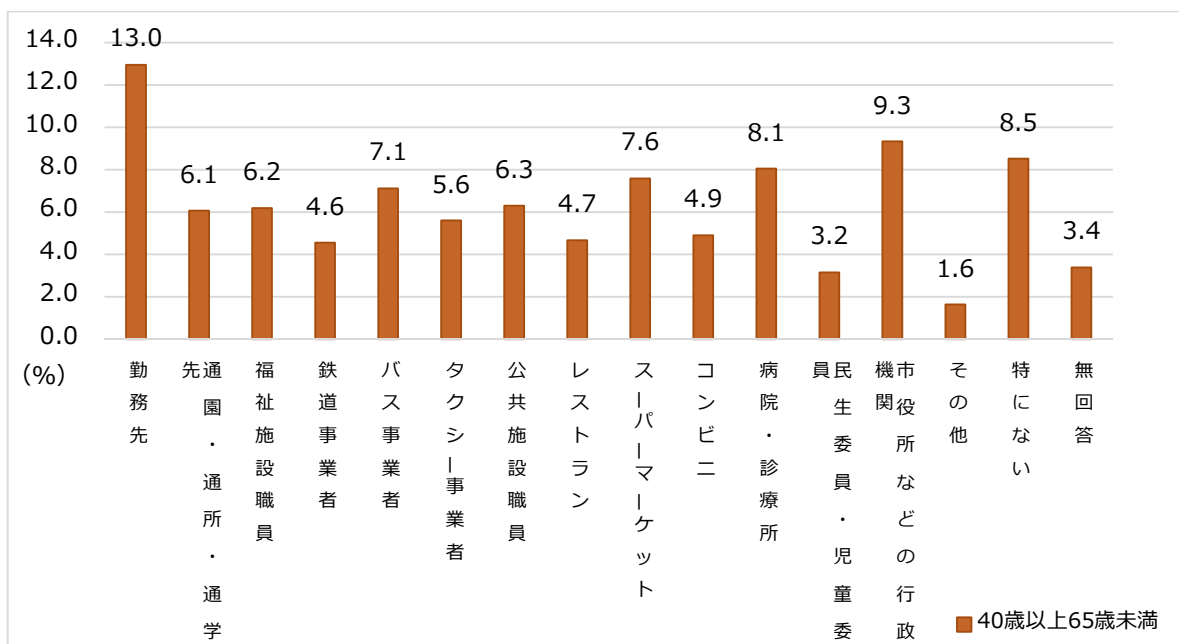
《18歳未満》



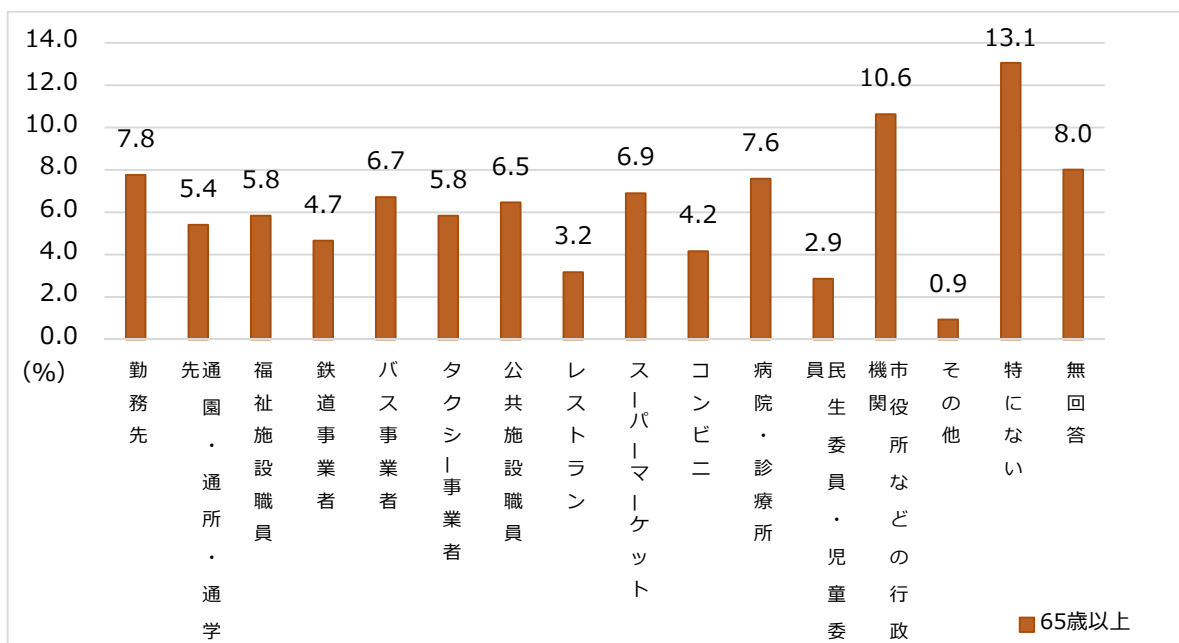
《18歳以上40歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

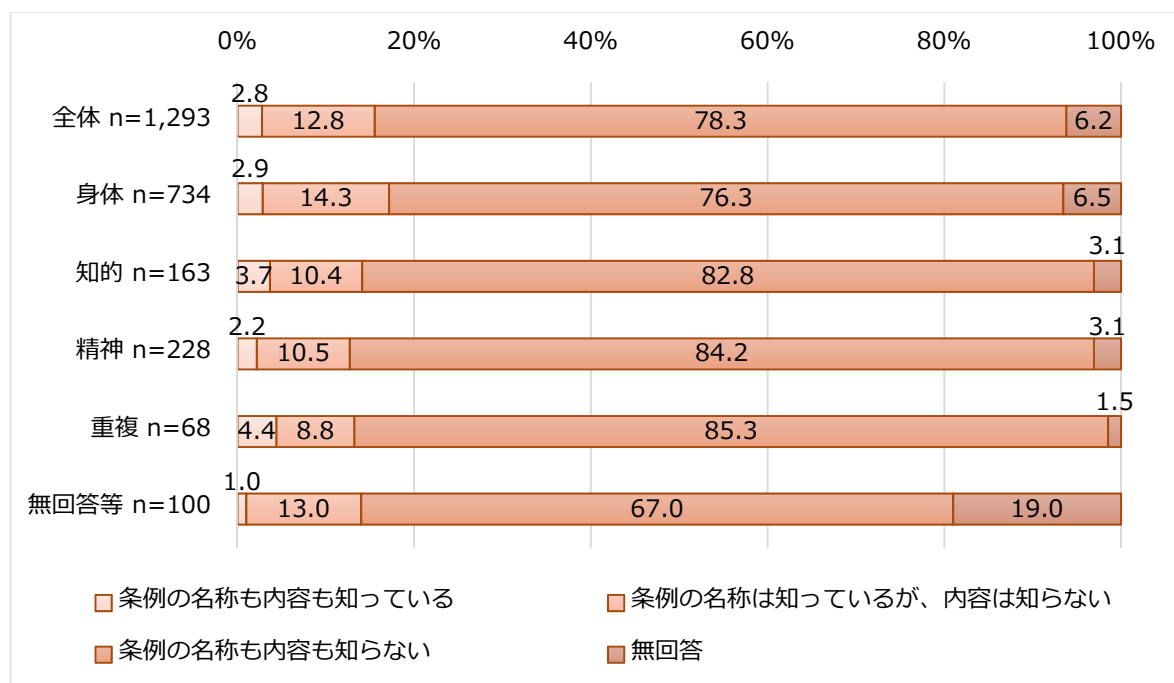


《65 歳以上》

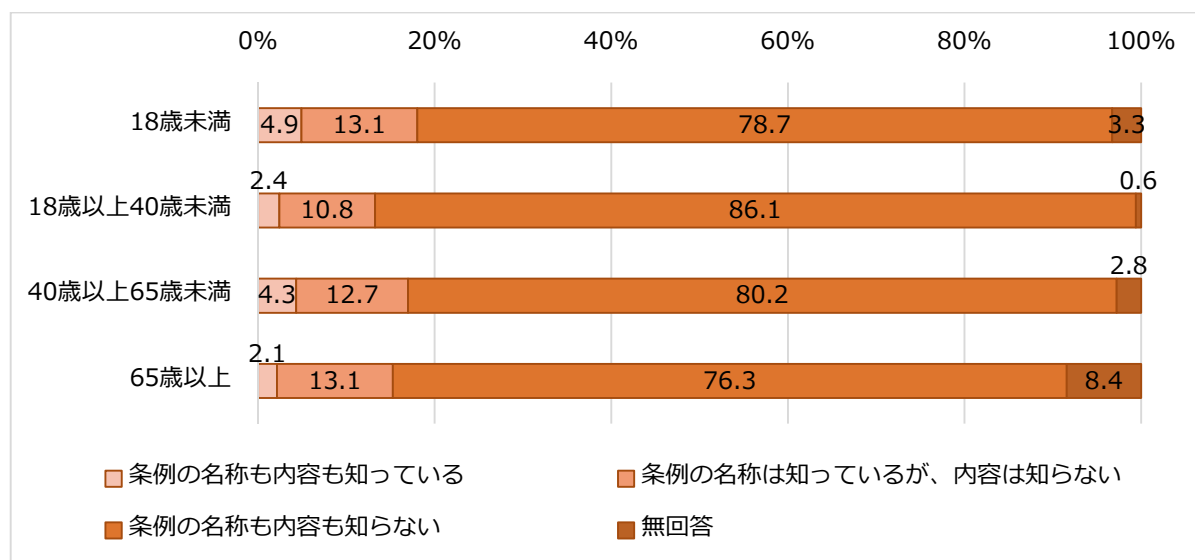


問 30 あなたは、平成 29 年 4 月 1 日に施行された「青森市障がいの ある人もない人も共に生きる社会づくり条例」をご存じですか。

- 青森市障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例を知っているかについては、「条例の名称も内容も知らない」が 78.3%と最も多く、次いで「条例の名称は知っているが、内容は知らない」が 12.8%、「条例の名称も内容も知っている」が 2.8%となっています。

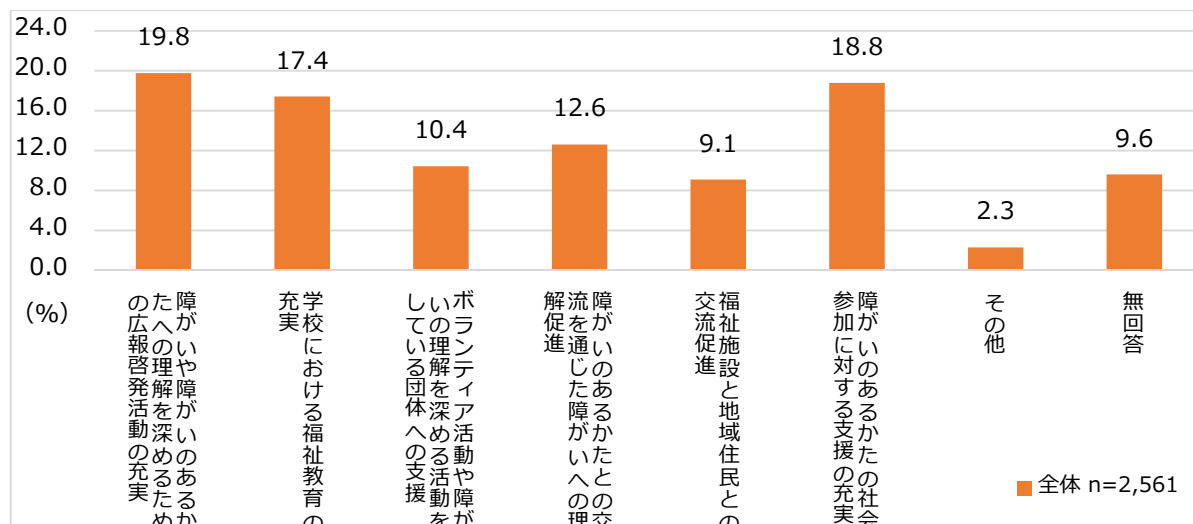


- 年齢別にみても、「条例の名称も内容も知らない」の割合が多くなっています。



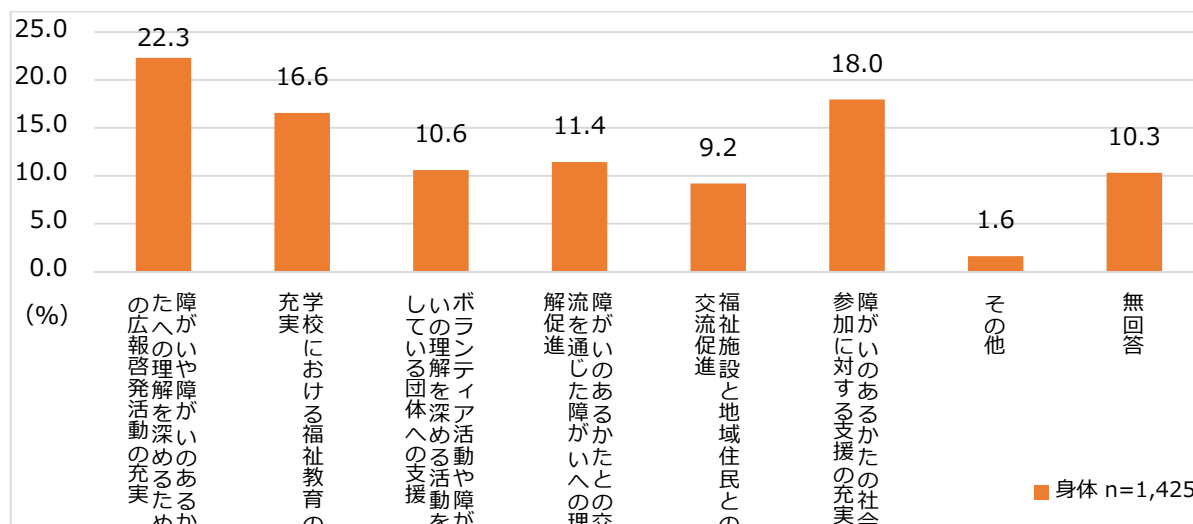
問 31 あなたは、障がいや障がいのあるかたへの理解を深めるために どのような取り組みが必要だと思いますか。

- 障がいや障がいのあるかたへの理解を深めるために、どのような取組が必要かについては、「障がいや障がいのあるかたへの理解を深めるための広報啓発活動の充実」が 19.8%と最も多く、次いで「障がいのあるかたの社会参加に対する支援の充実」が 18.8%、「学校における福祉教育の充実」が 17.4%となっています。

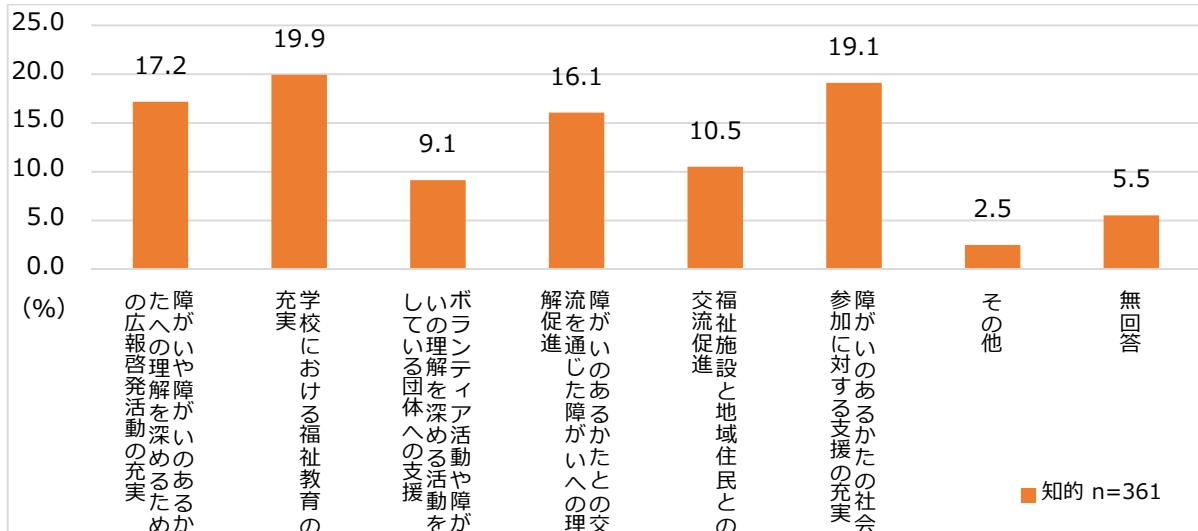


- 障がい別にみると、知的障がい、精神障がいでは「障がいのあるかたとの交流を通じた障がいへの理解促進」の割合が多くなっています。

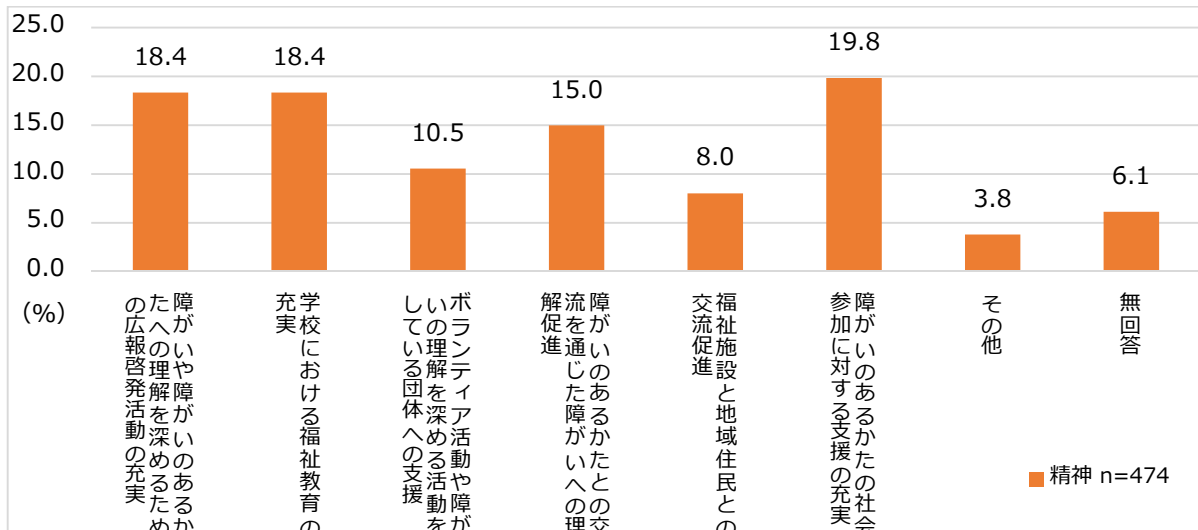
《身体障がい》



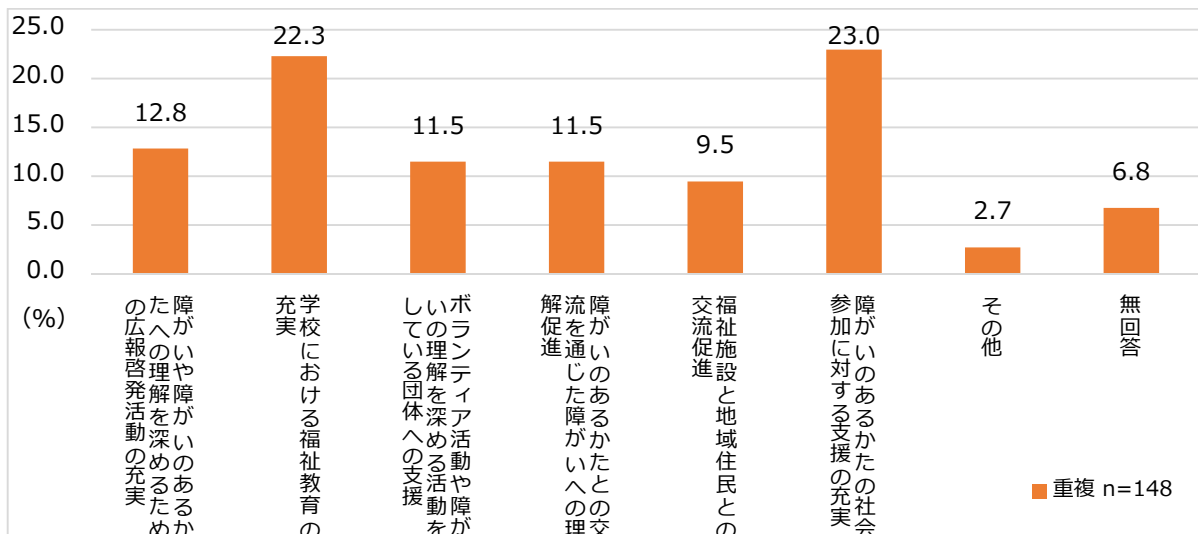
《知的障がい》



《精神障がい》

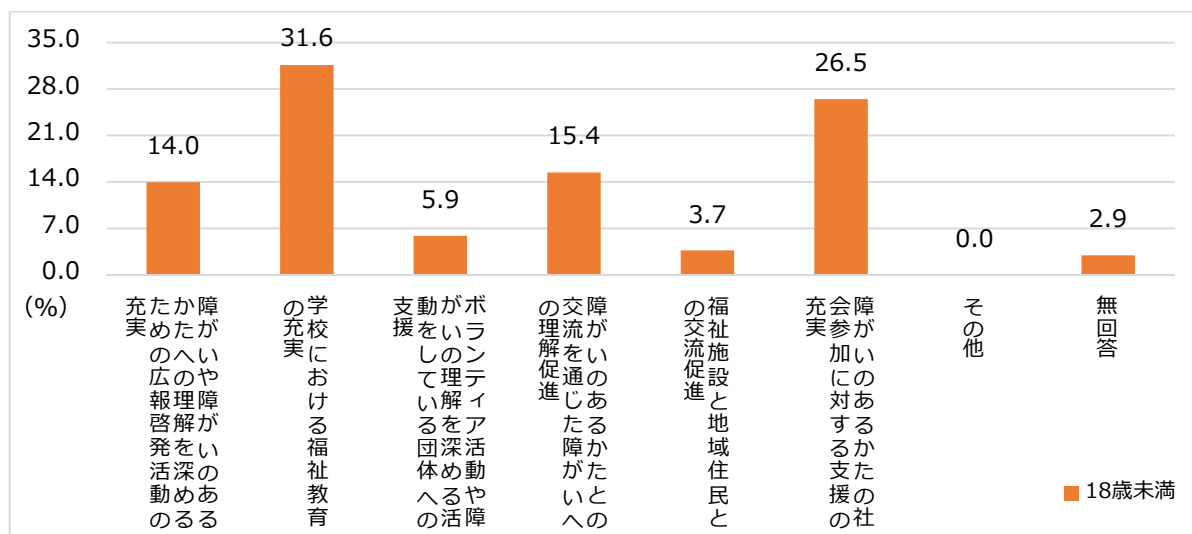


《重複障がい》

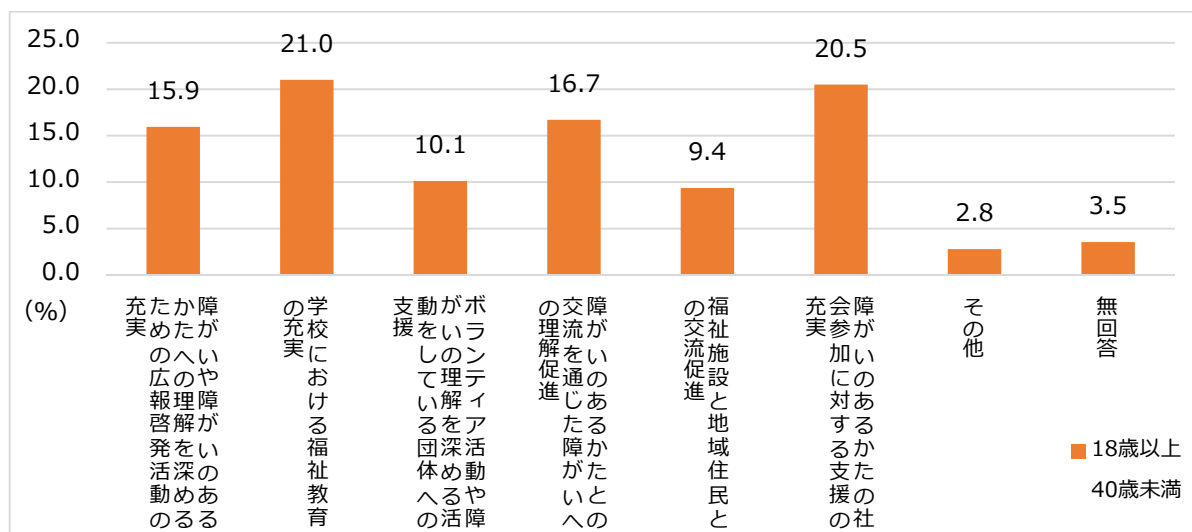


■ 年齢別にみると、40 歳未満では「学校における福祉教育の充実」の割合が多くなっています。

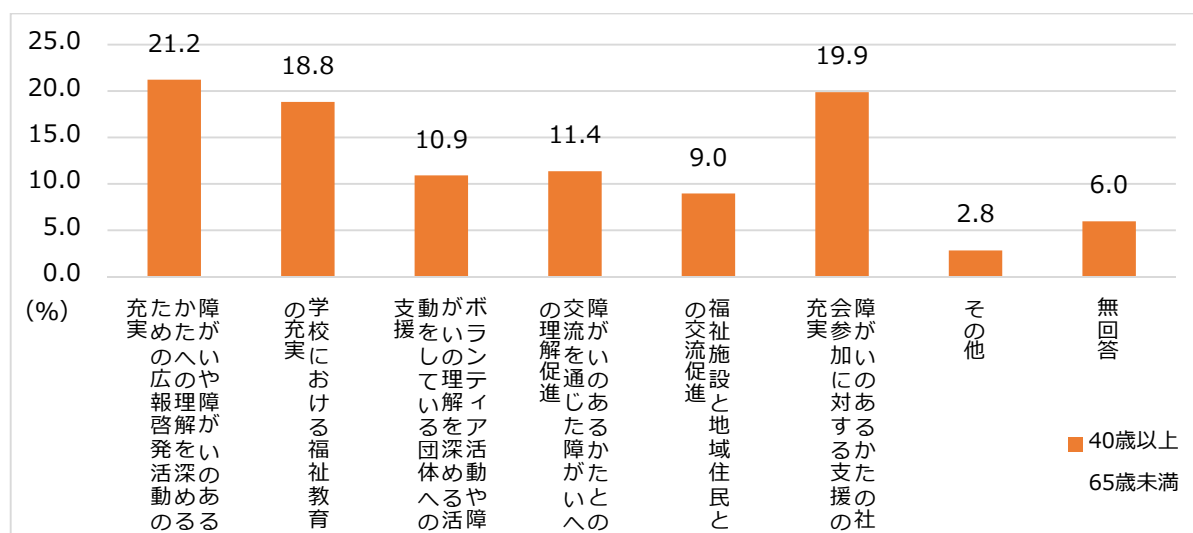
《18 歳未満》



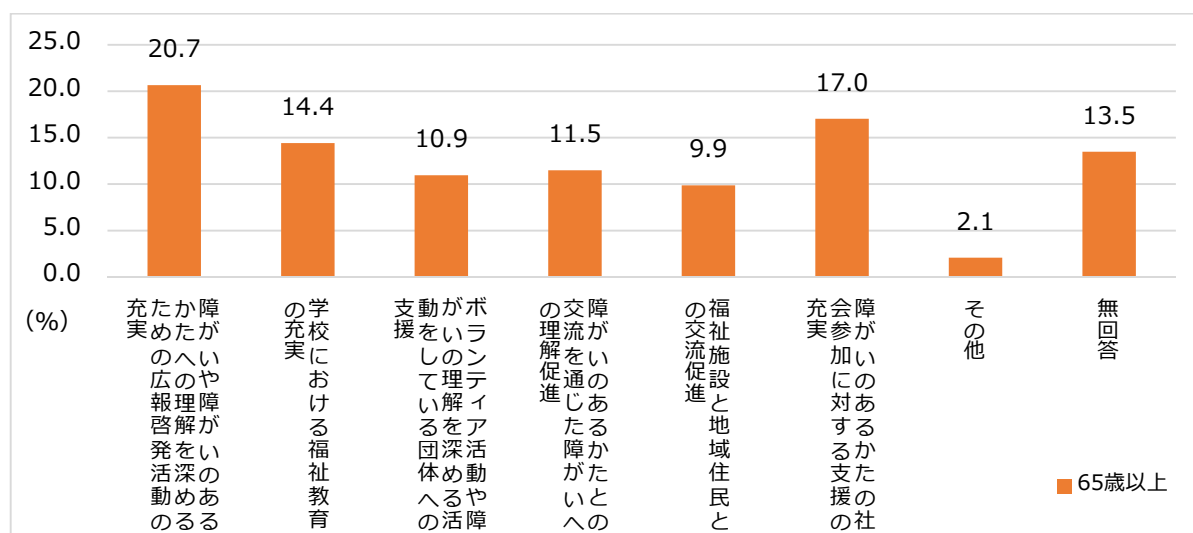
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

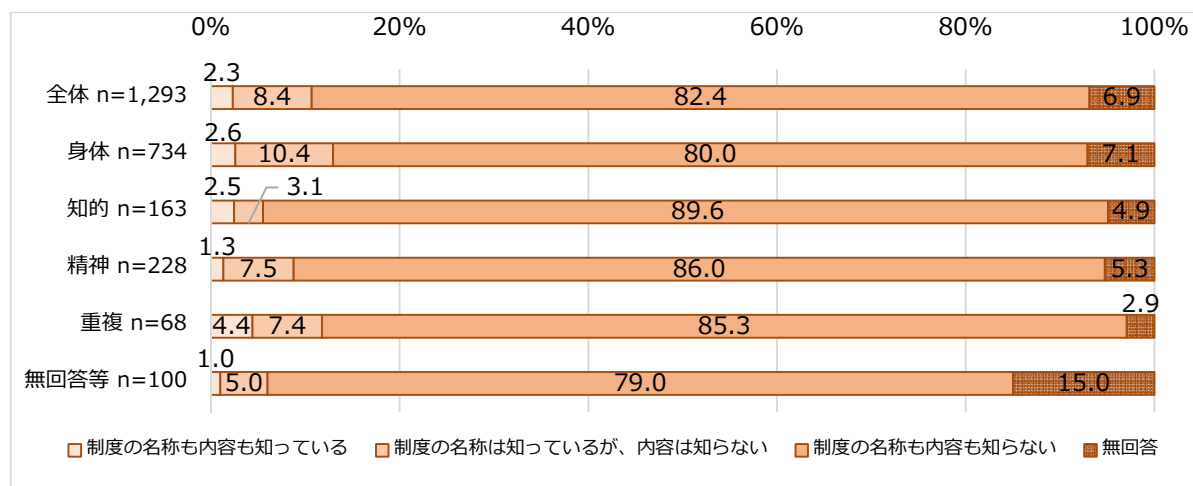


《65 歳以上》

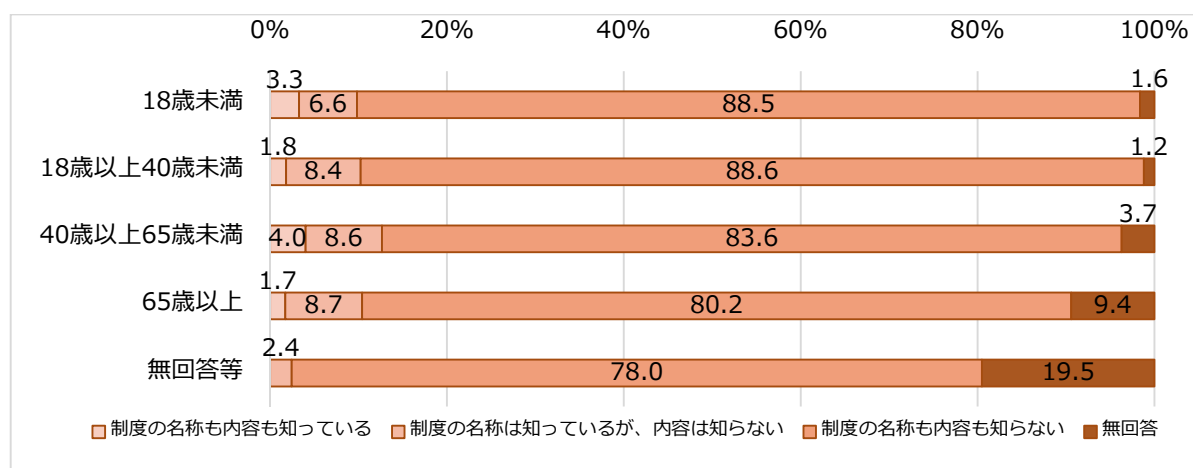


問 32 あなたは、令和 2 年 4 月 1 日に施行された「青森市手話言語の普及及び多様な意思疎通の促進に関する条例」をご存じですか。

- 青森市手話言語の普及及び多様な意思疎通の促進に関する条例を知っているかについては、「条例の名称も名称も知らない」が 82.4%と最も多く、次いで「条例の名称は知っているが、内容は知らない」が 8.4%、「条例の名称も内容も知っている」が 2.3%となっています。

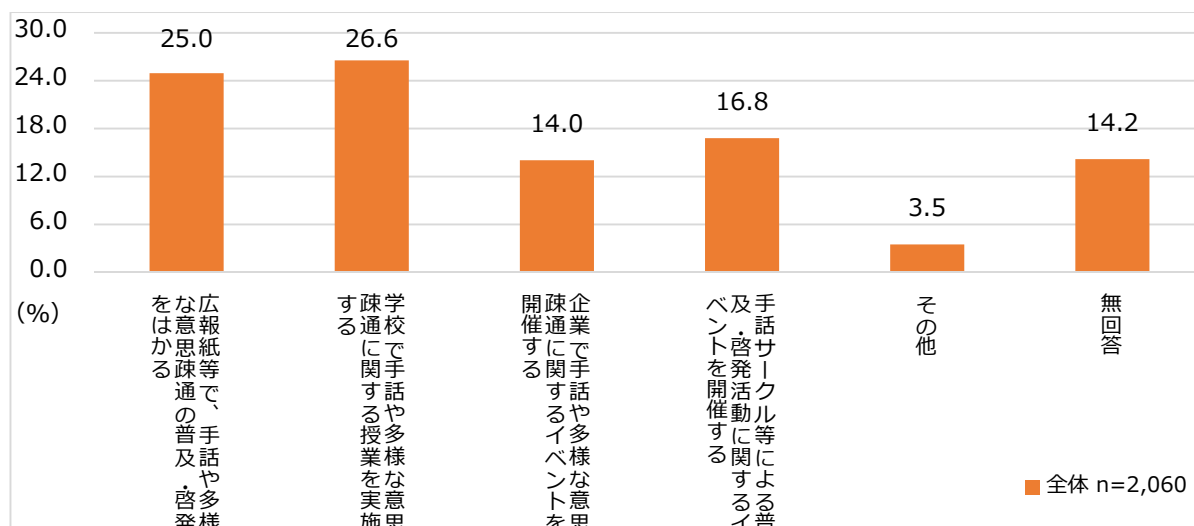


- 年齢別においても、全体の傾向と同様となっています。



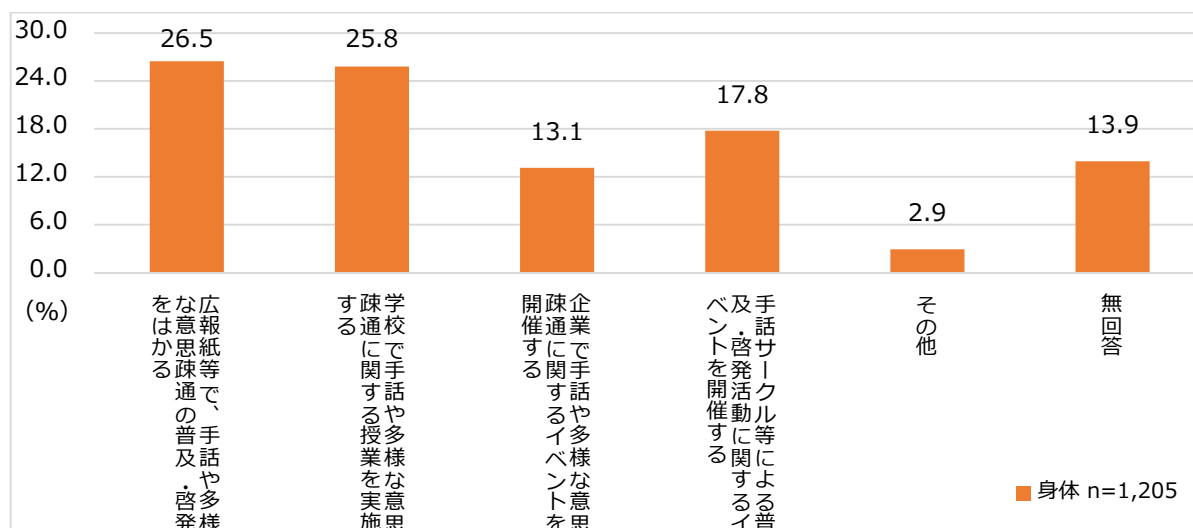
問 33 あなたは、手話や多様な意思疎通の普及・啓発を促進するために、こういった取組が必要だと思いますか。

- 手話や多様な意思疎通の普及・啓発を促進するために、こういった取組が必要かについては、「学校で手話や多様な意思疎通に関する授業を実施する」が 26.6%と最も多く、次いで「広報紙等で、手話や多様な意思疎通の普及・啓発をはかる」が 25.0%、となっています。

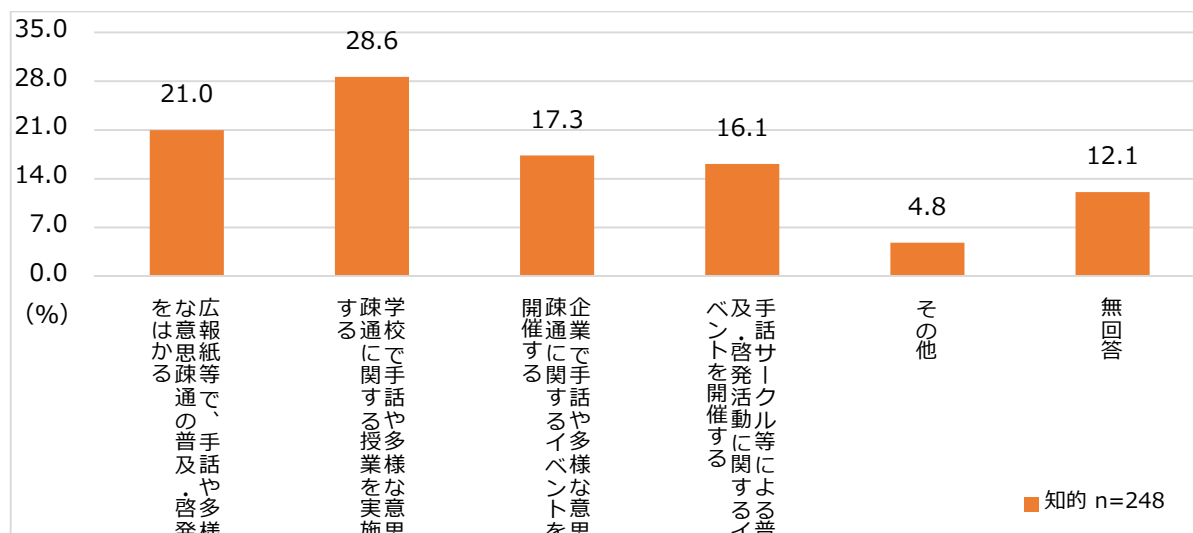


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「企業で手話や多様な意思疎通に関するイベントを開催する」の割合が多くなっています。

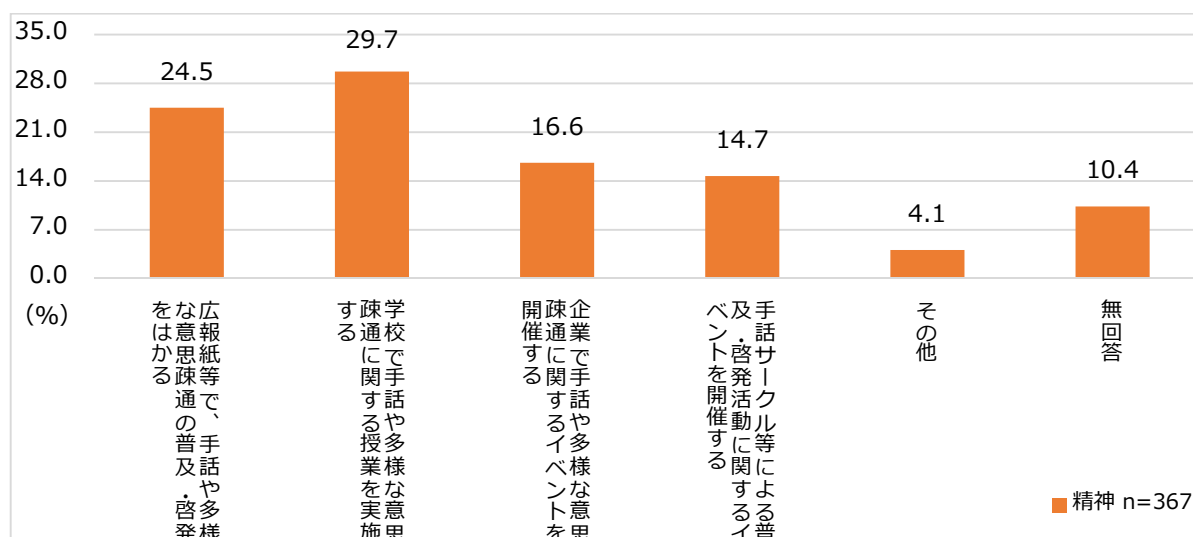
《身体障がい》



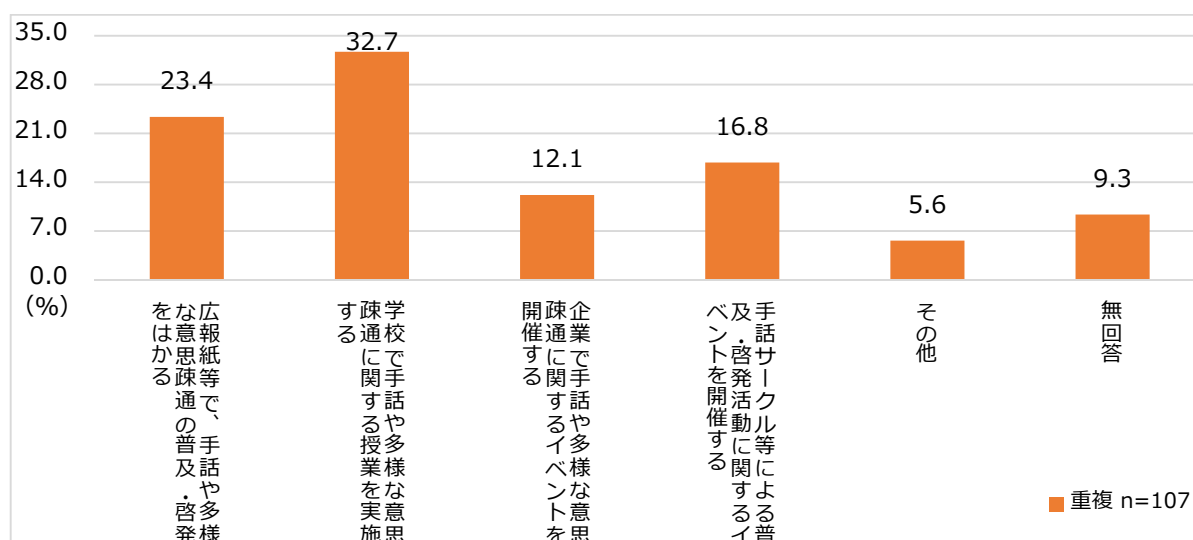
《知的障がい》



《精神障がい》

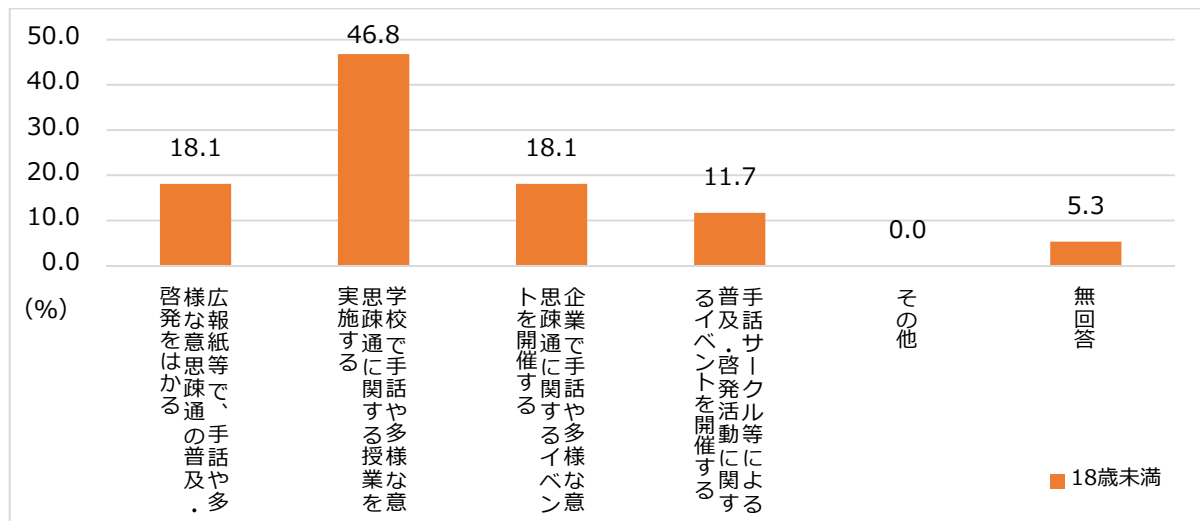


《重複障がい》

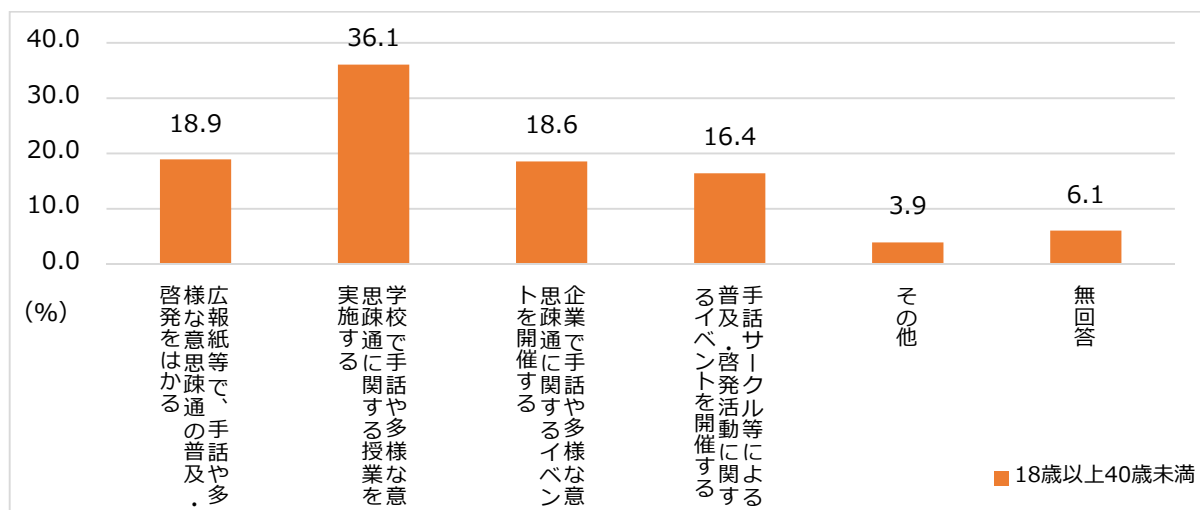


- 年齢別にみると、18 歳未満で「学校で手話や多様な意思疎通に関する授業を実施する」の割合が多くなっています。

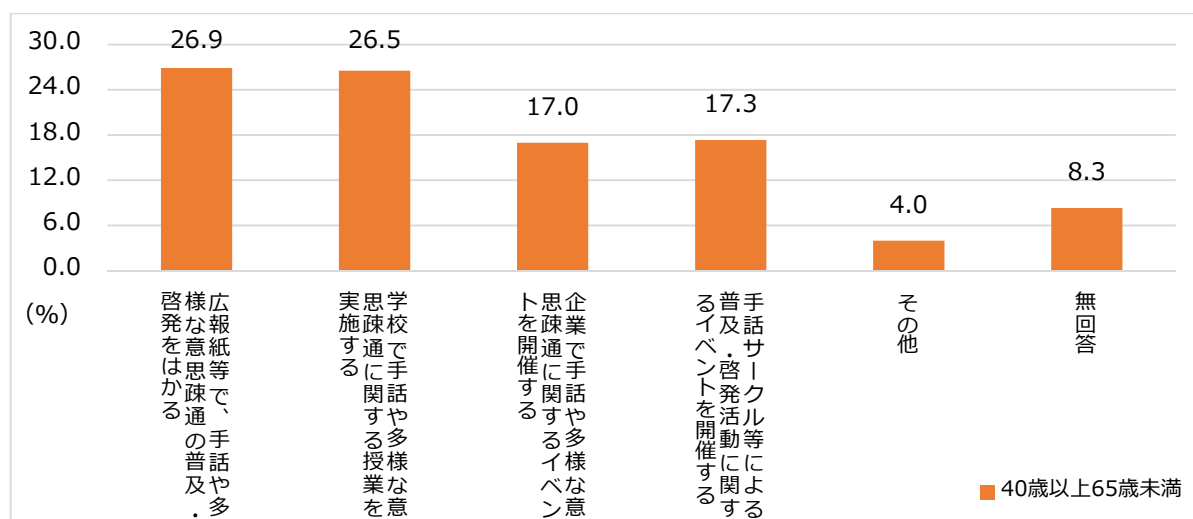
《18 歳未満》



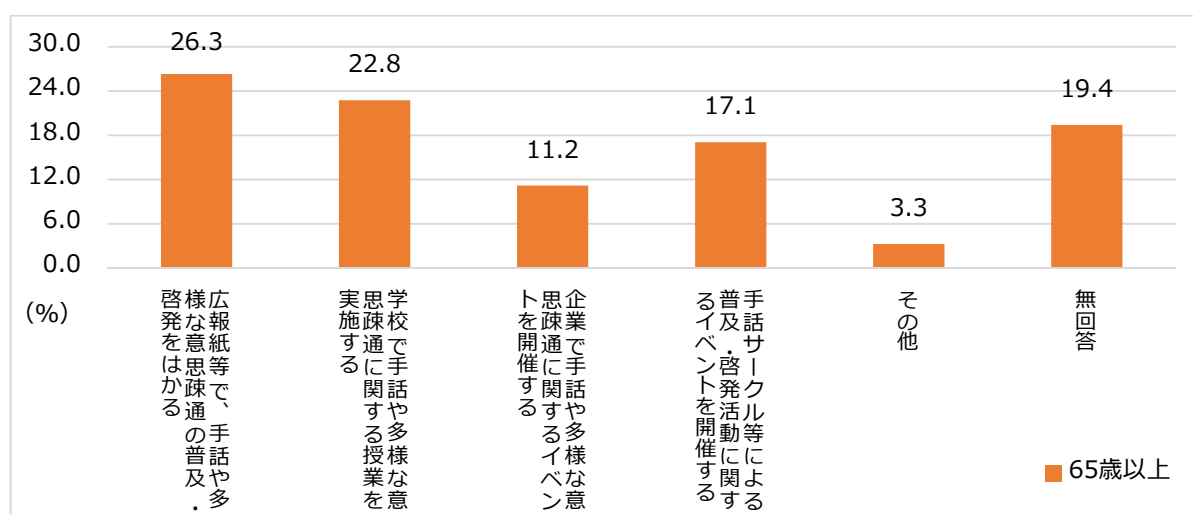
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

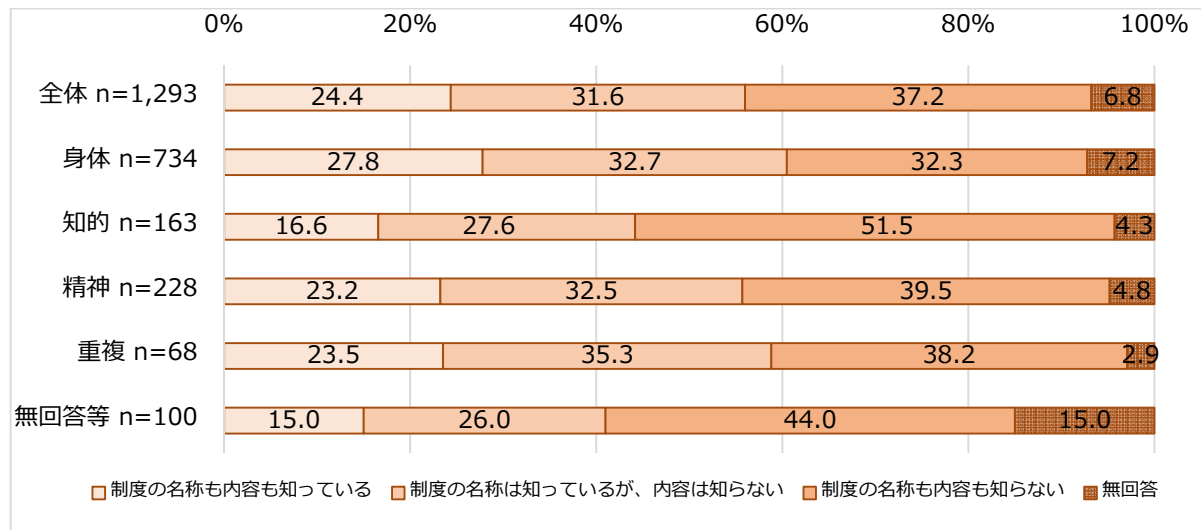


《65 歳以上》

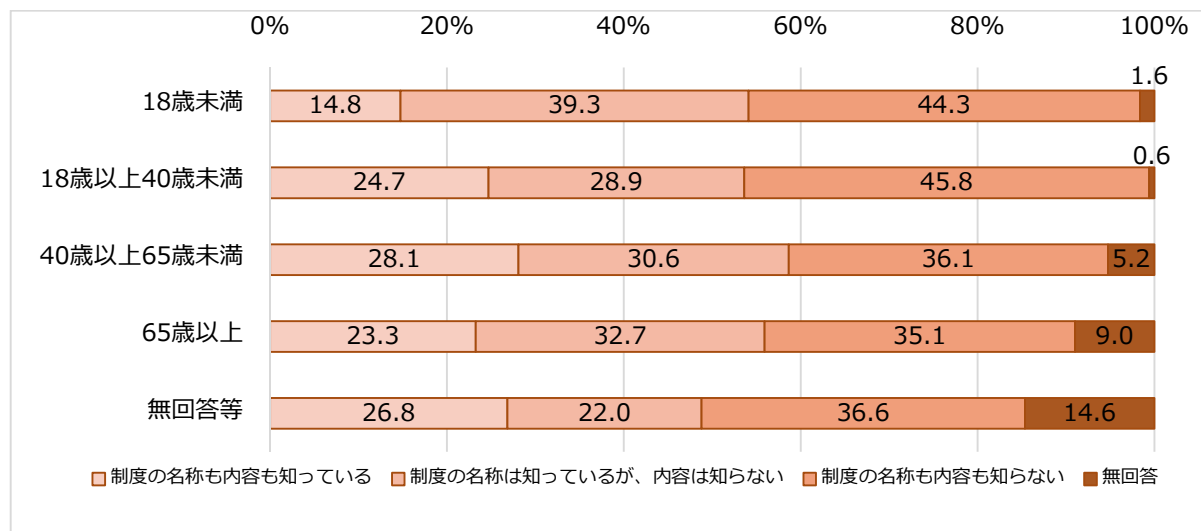


問 34 あなたは成年後見制度をご存じですか。

- 成年後見制度については、「制度の名称も内容も知らない」が 37.2%と最も多く、「制度の名称は知っているが、内容は知らない」が 31.6%、「制度の名称も内容も知っている」が 24.4%となっています。



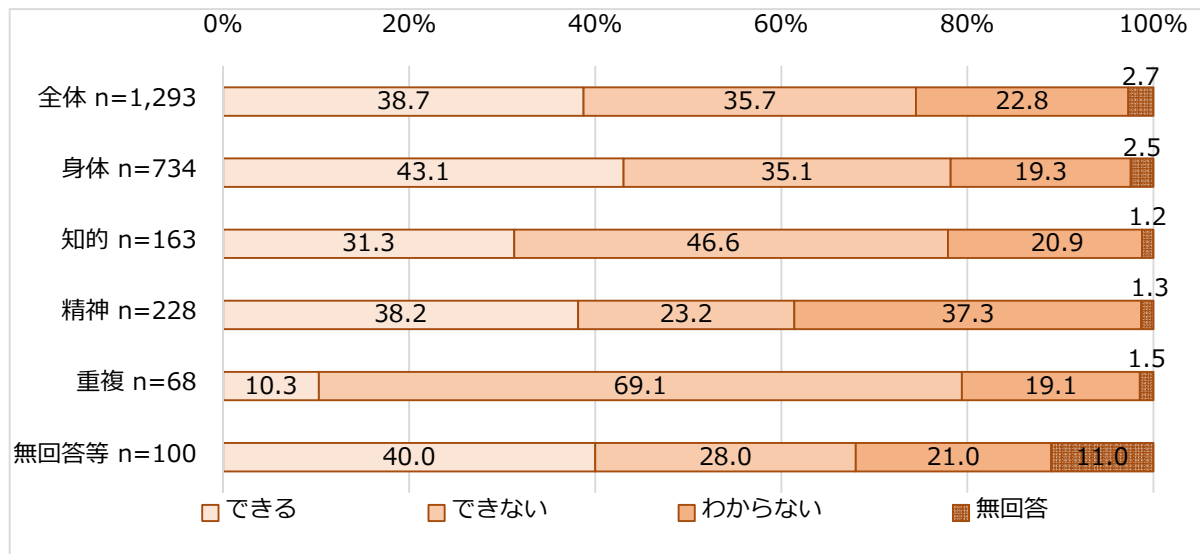
- 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満では「制度の名称は知っているが、内容は知らない」の割合が多くなっています。



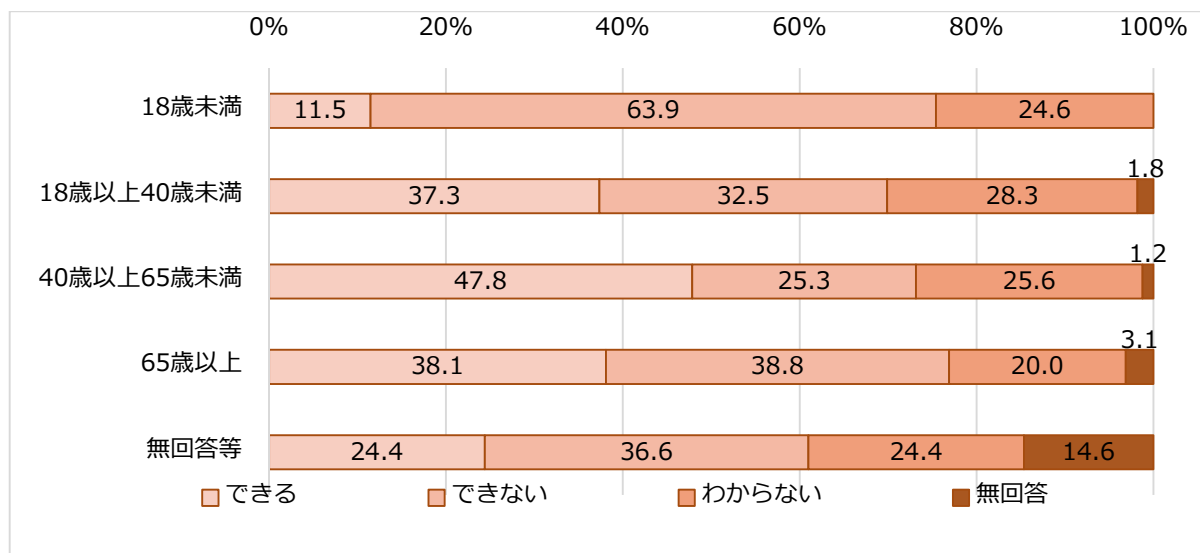
1-10 災害時の避難等について

問 35 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。

- 火事や地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が 38.7%と最も多く、次いで「できない」が 35.7%、「わからない」が 22.8%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「できない」の割合が多くなっています。精神障がいでは「わからない」の割合が多くなっています。

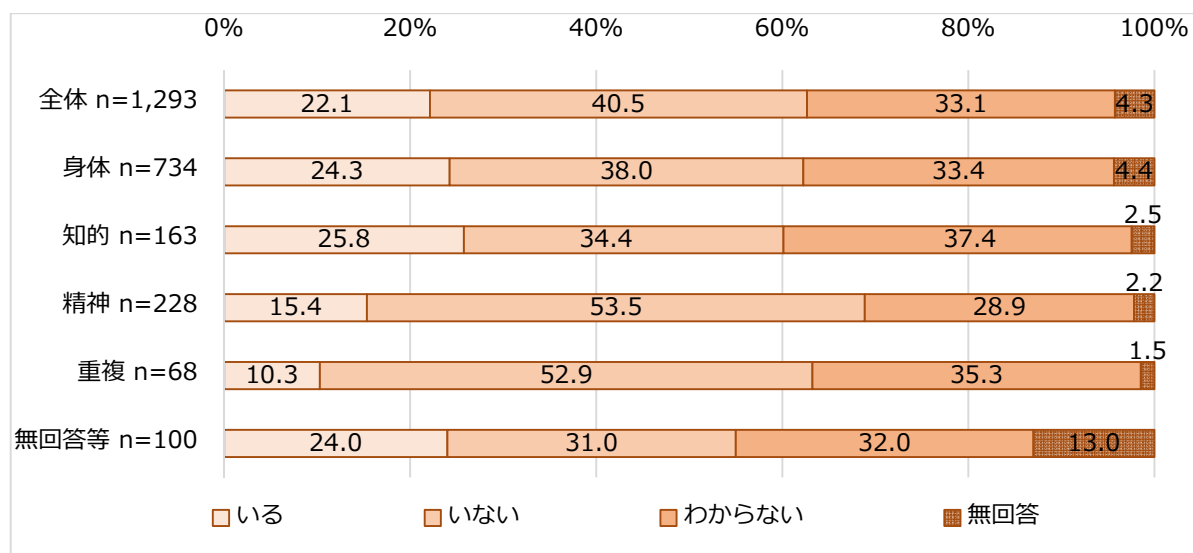


- 年齢別にみると、18歳未満、65歳以上で「できない」の割合が多くなっています。

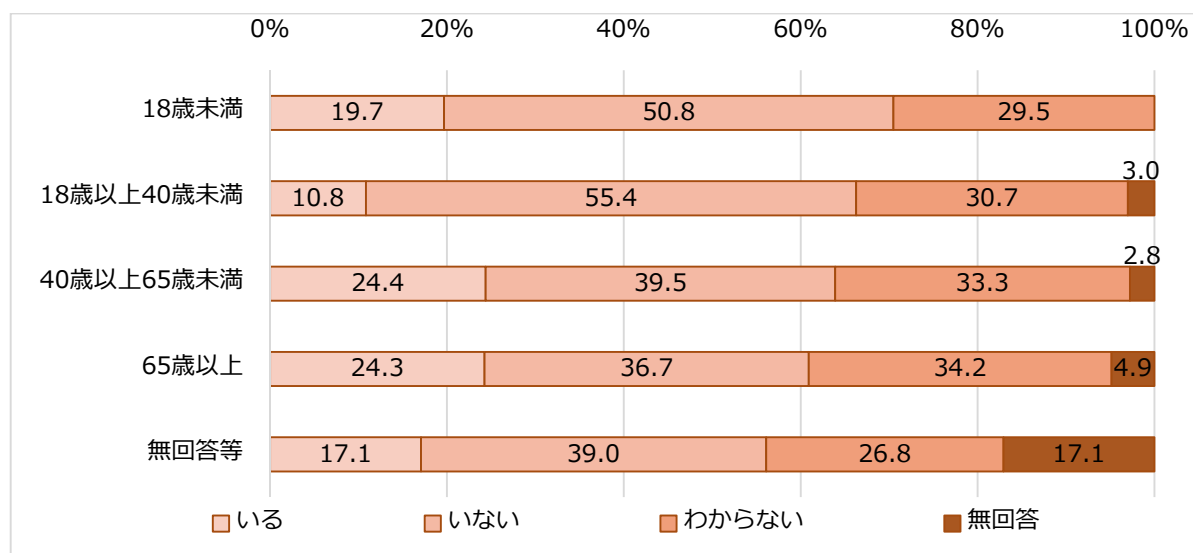


問 36 火事や地震等の災害時に、家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

- 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいるかについては、「いない」が40.5%と最も多く、次いで「わからない」が33.1%、「いる」が22.1%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「いない」の割合が多くなっています。

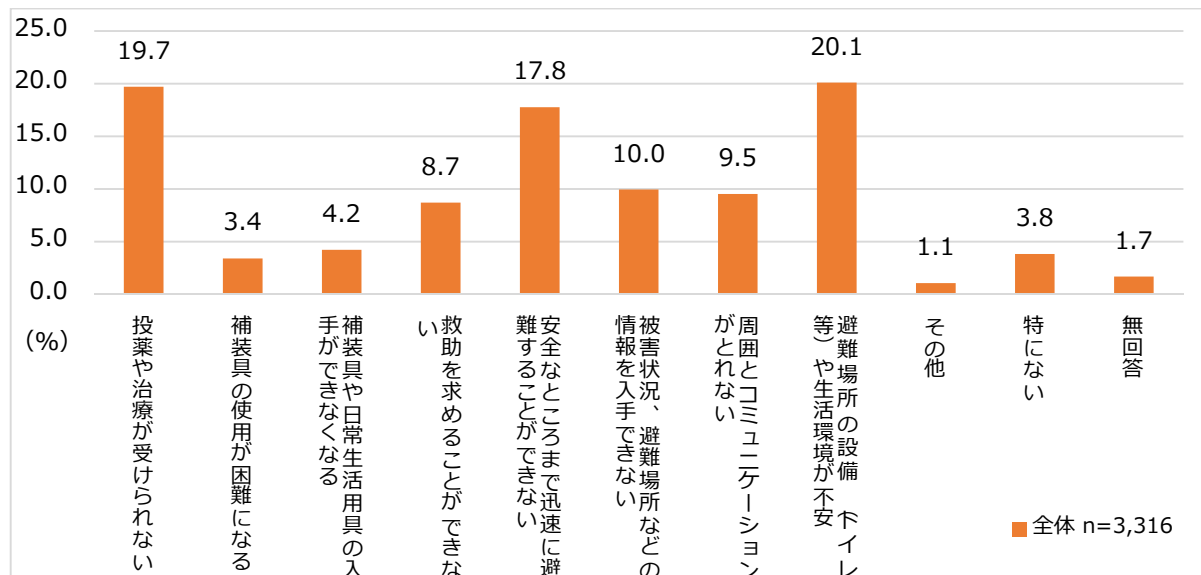


- 年齢別にみると、18歳以上40歳未満で「いない」の割合が多くなっています。



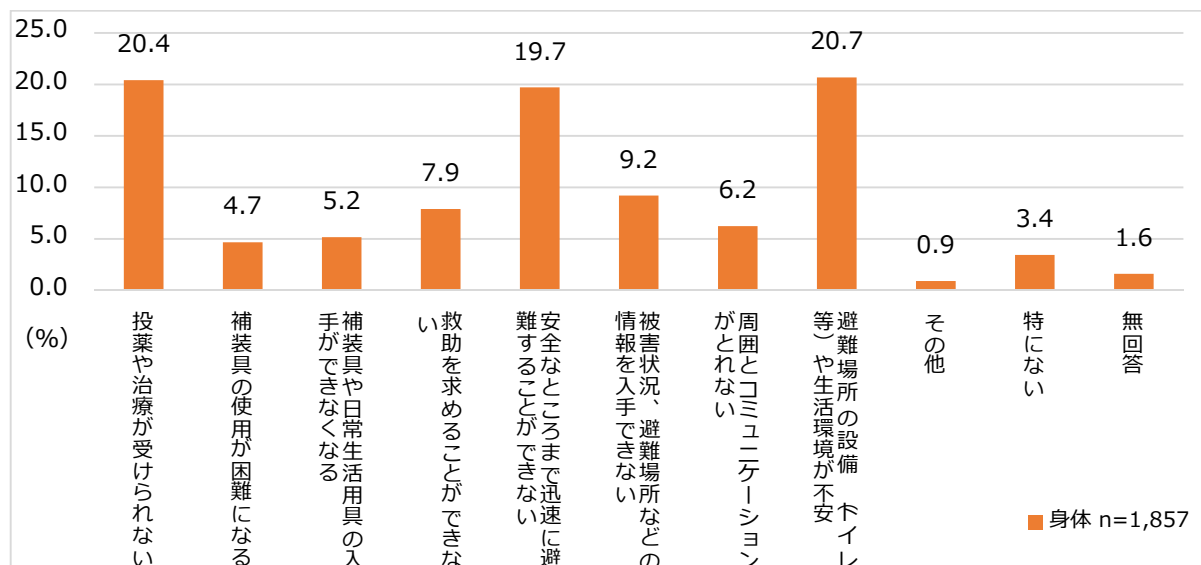
問 37 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。

- 火事や地震等の災害時に困ることについては、「避難所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が20.1%と最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」が19.7%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が17.8%となっています。

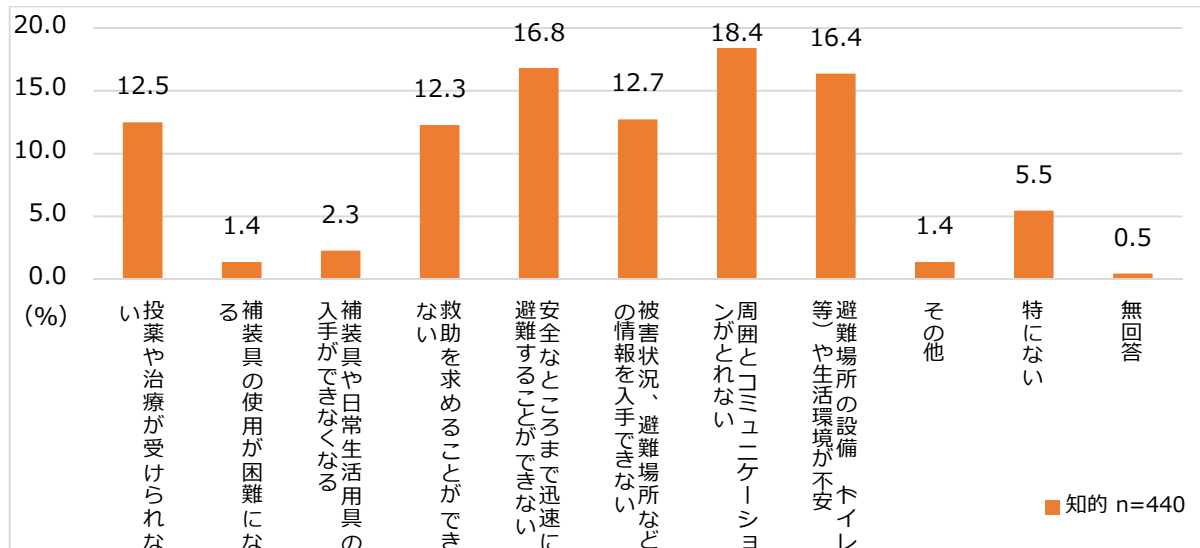


- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「周囲とコミュニケーションがとれない」の割合が多くなっています。

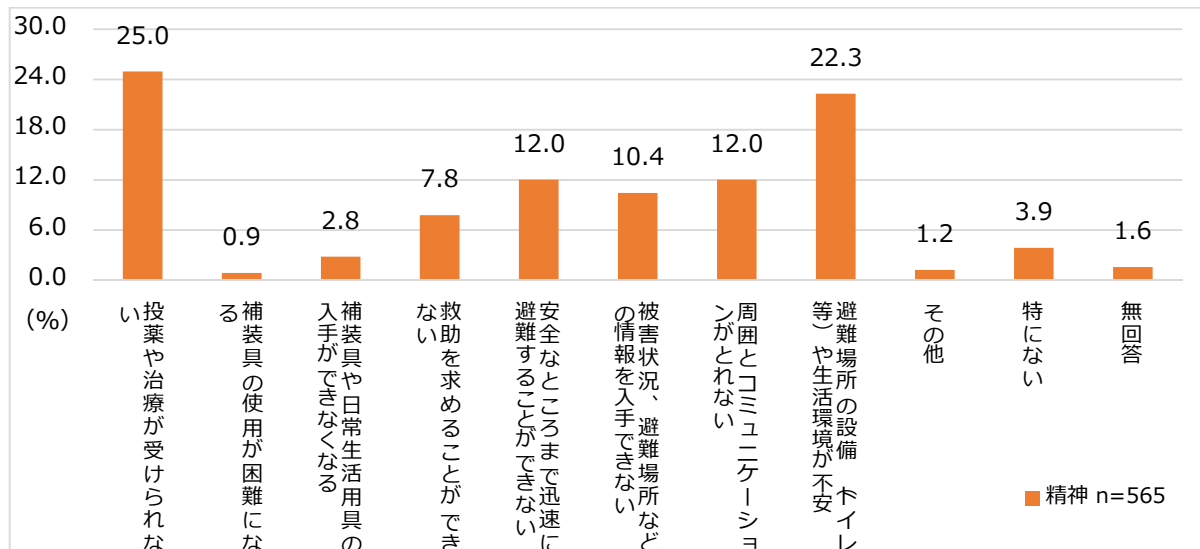
《身体障がい》



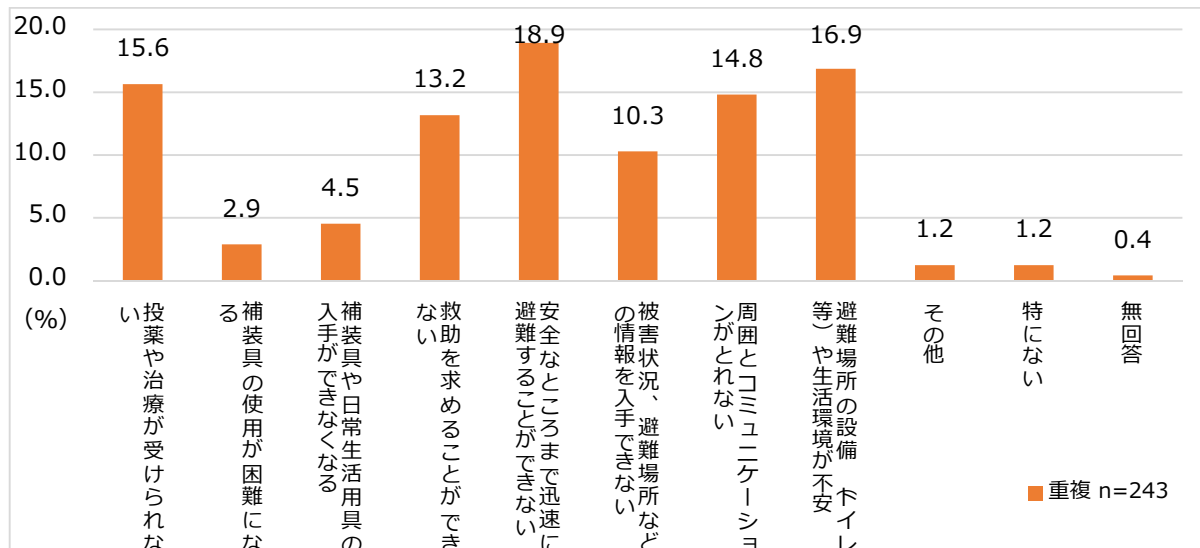
《知的障がい》



《精神障がい》

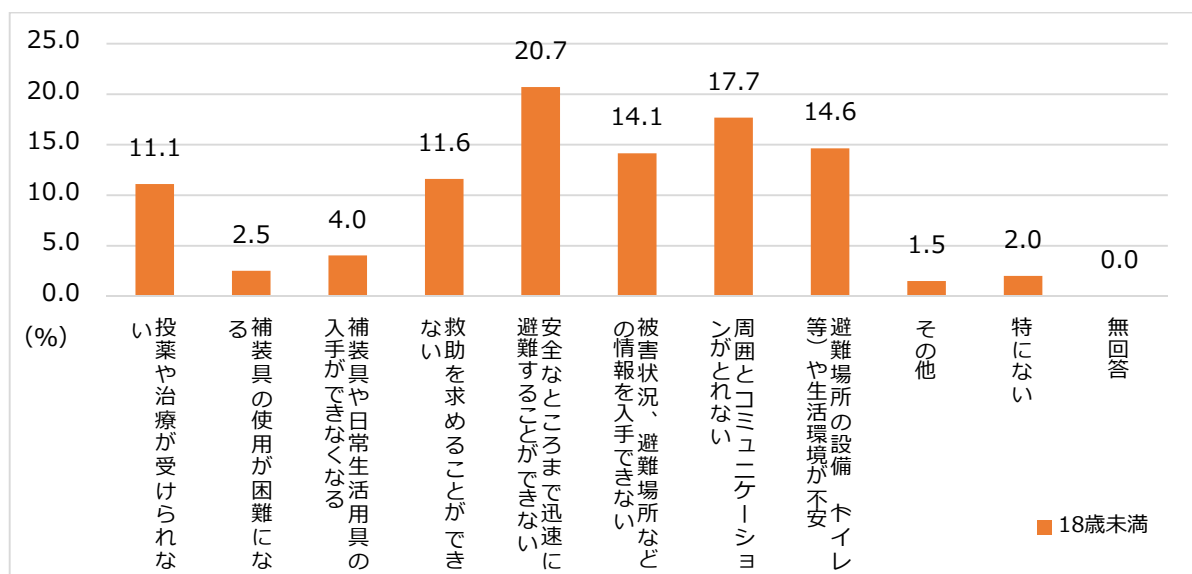


《重複障がい》

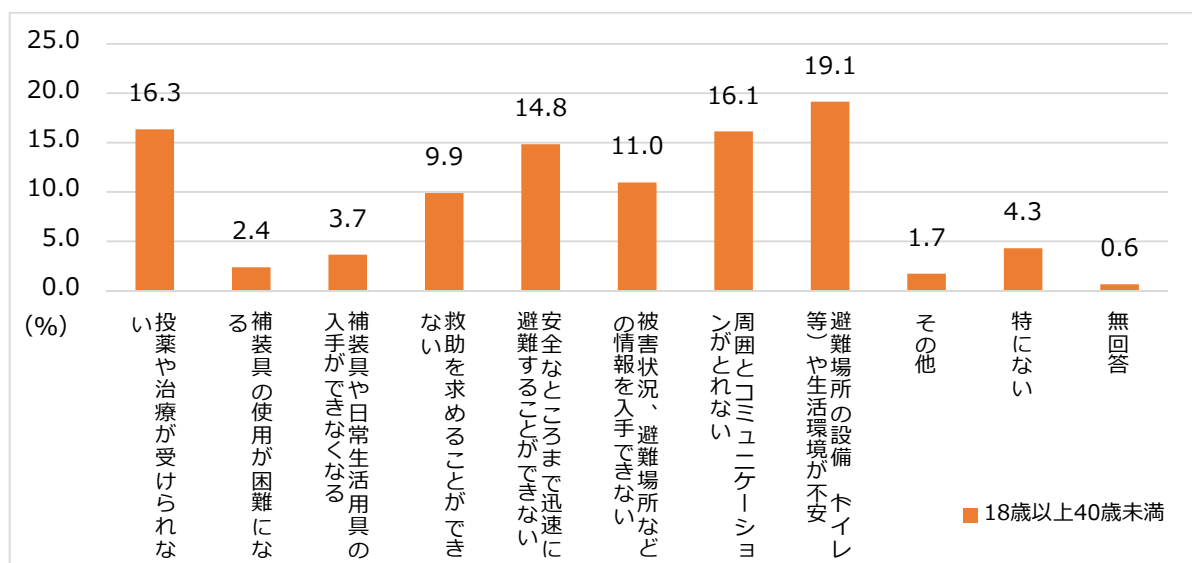


- 年齢別にみると、18 歳未満、65 歳以上で「安全なところまで迅速に避難することができない」の割合が多くなっています。40 歳以上 65 歳未満で「投薬や治療が受けられない」の割合が多くなっています。

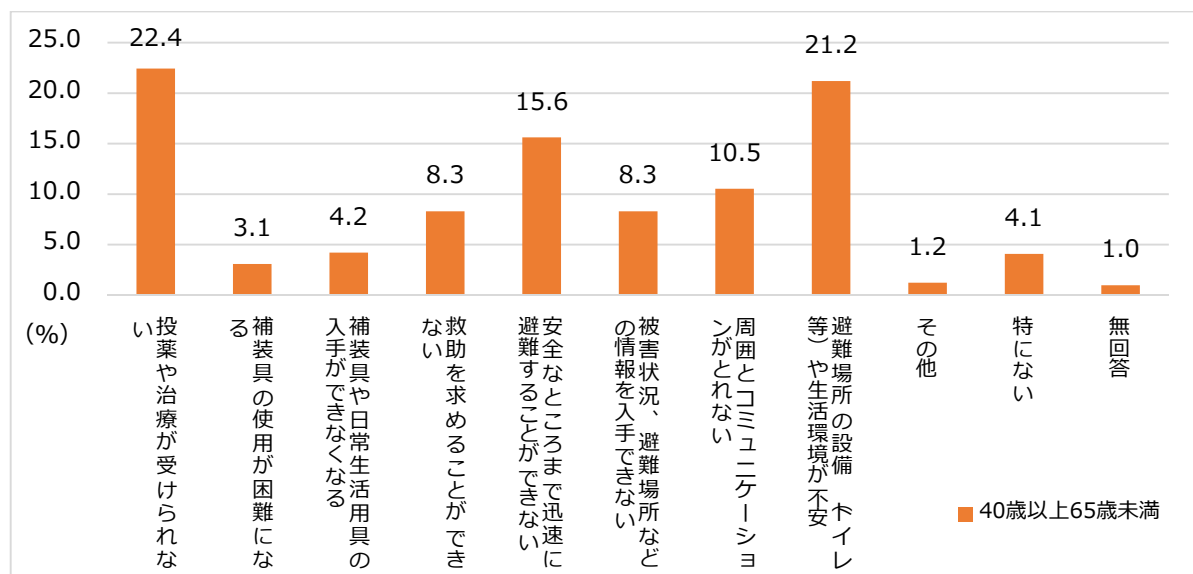
《18 歳未満》



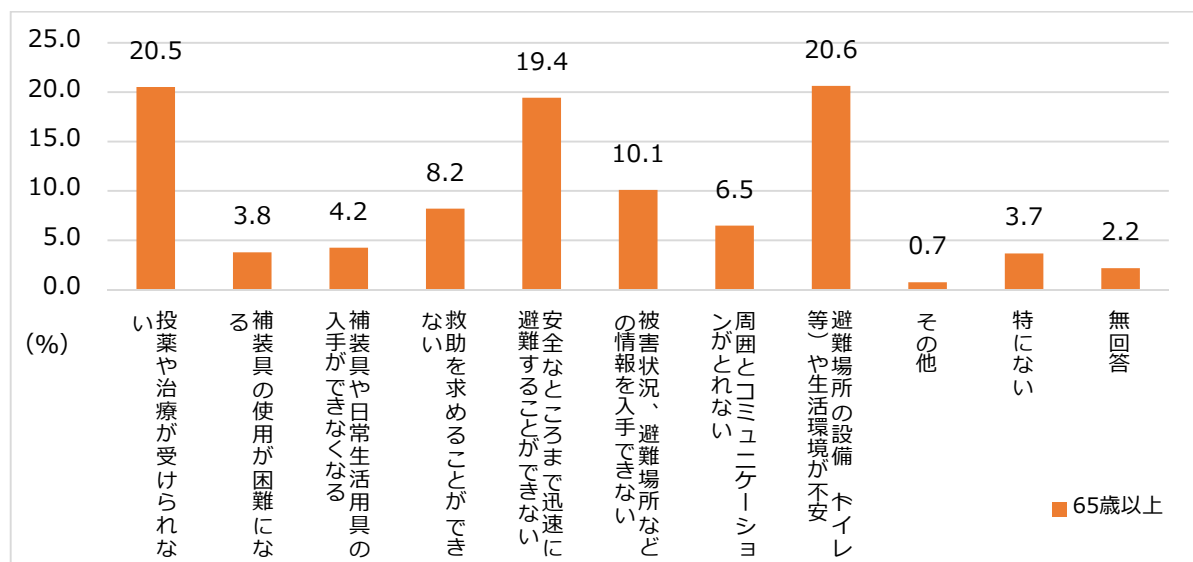
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》

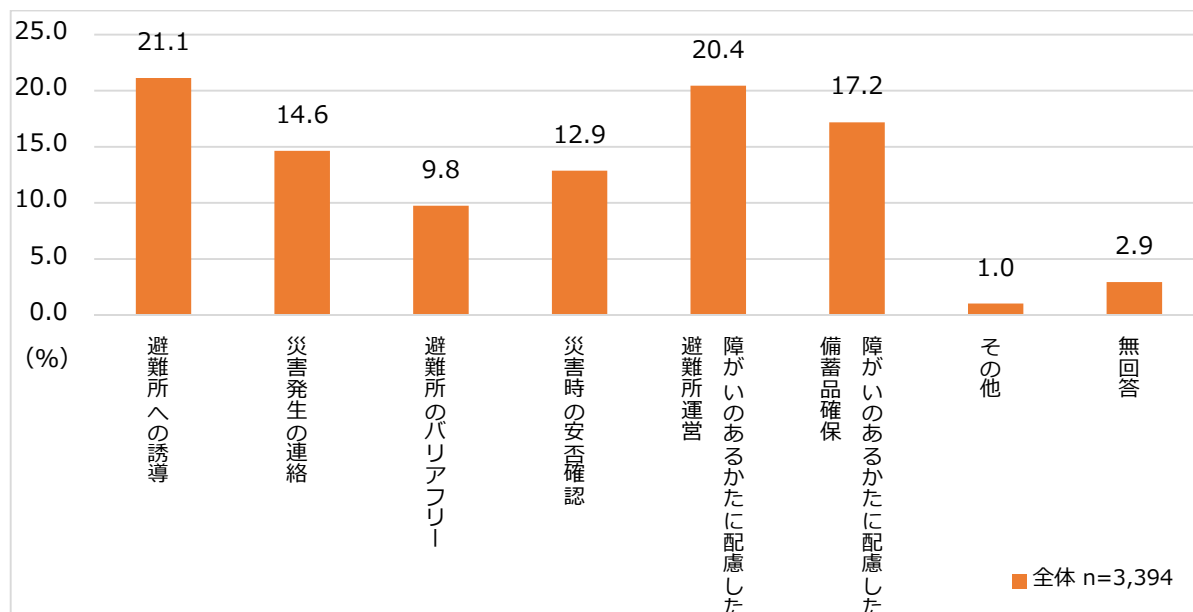


《65 歳以上》



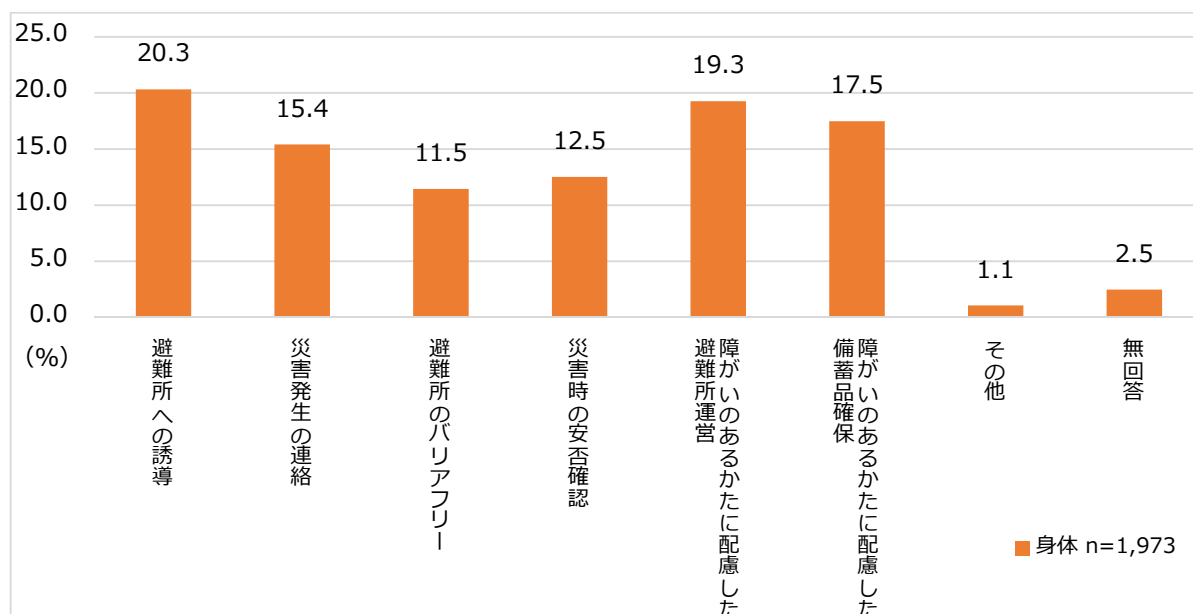
問 38 災害時の支援体制について、どのようなことを希望しますか。

- 災害時の支援体制については、「避難所への誘導」が 21.1%と最も多く、「障がいのあるかたに配慮した避難所運営」が 20.4%、「障がいのあるかたに配慮した備蓄品確保」が 17.2%となっています。

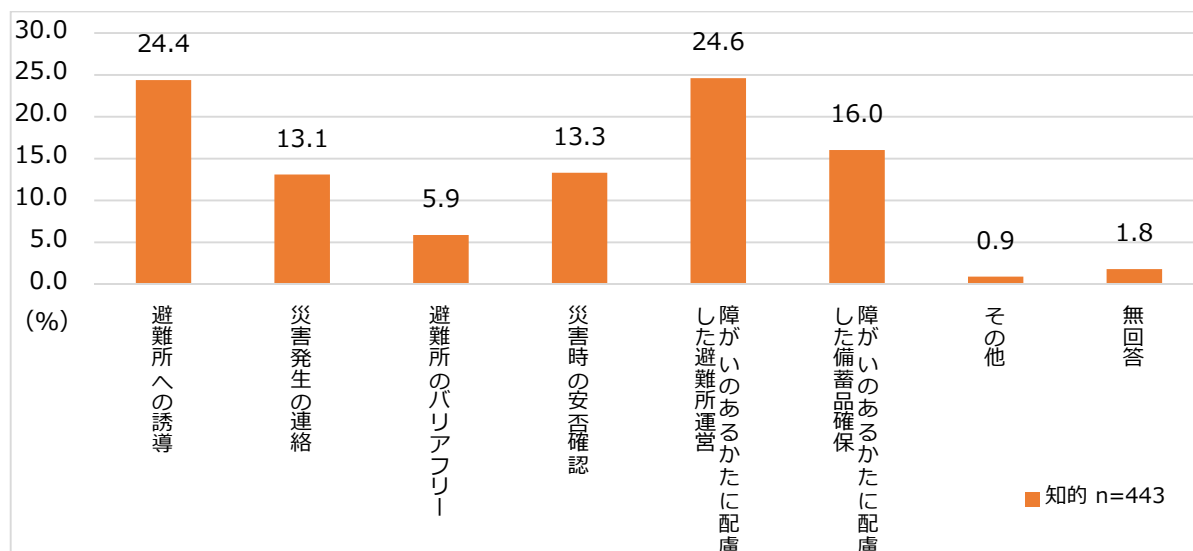


- 障がい別にみると、全体の傾向として「避難所への誘導」「障がいのあるかたに配慮した避難所運営」の割合が多くなっています。

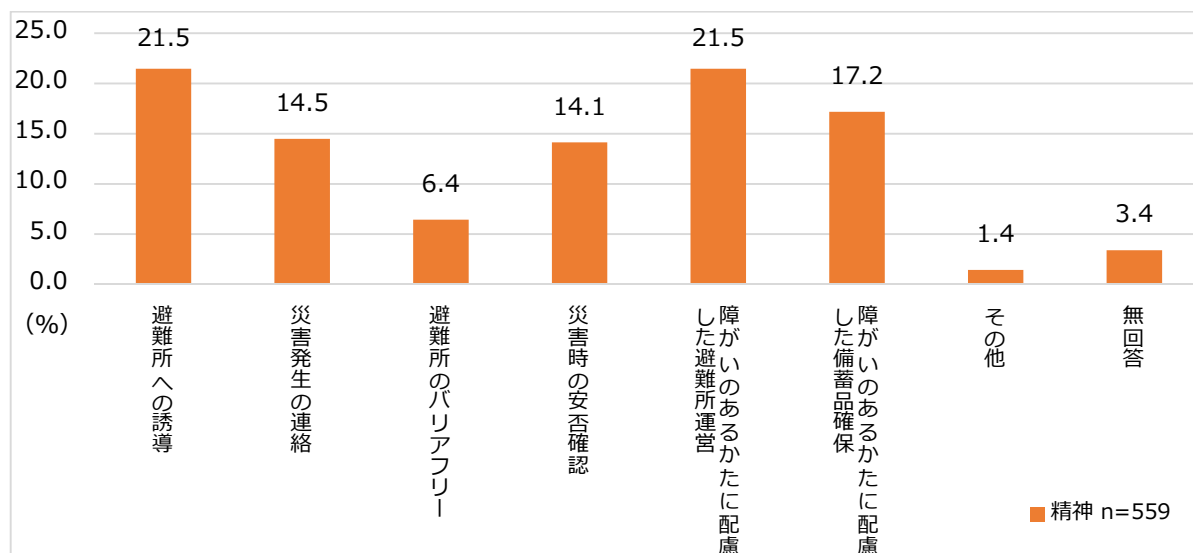
《身体障がい》



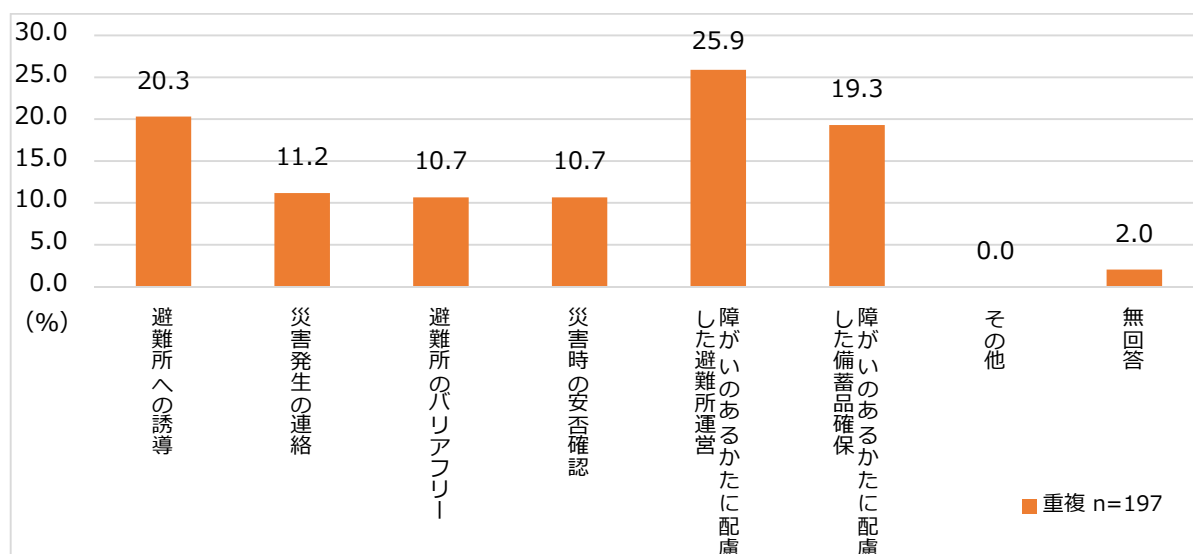
《知的障がい》



《精神障がい》

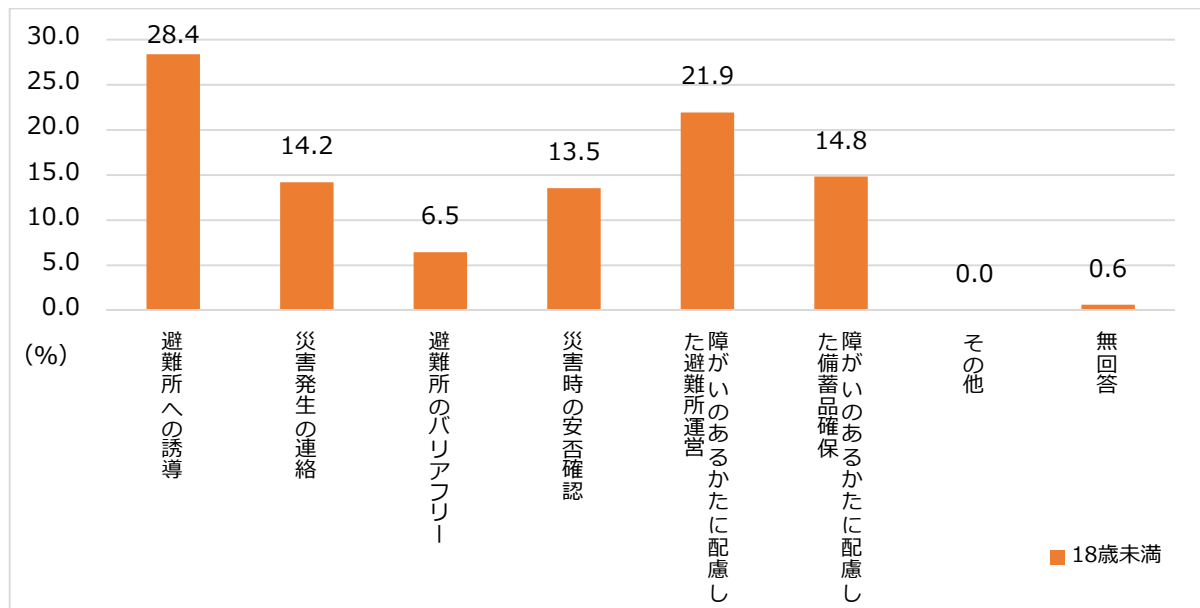


《重複障がい》

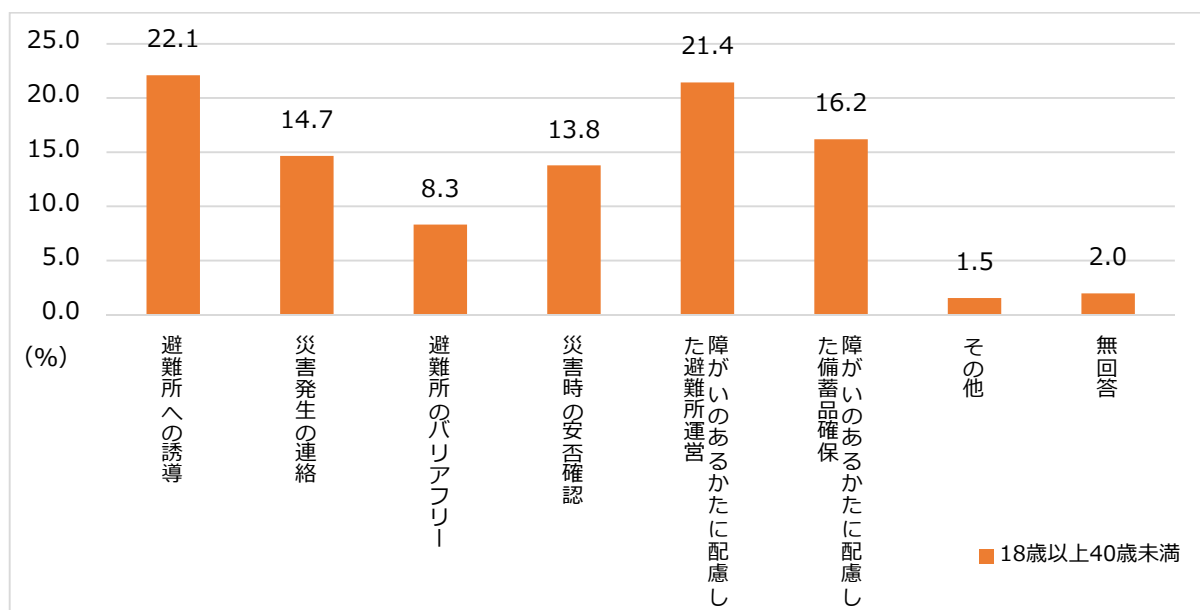


- 年齢別にみると、40 歳以上 65 歳未満では「障がいのあるかたに配慮した備蓄品確保」の割合が多くなっています。

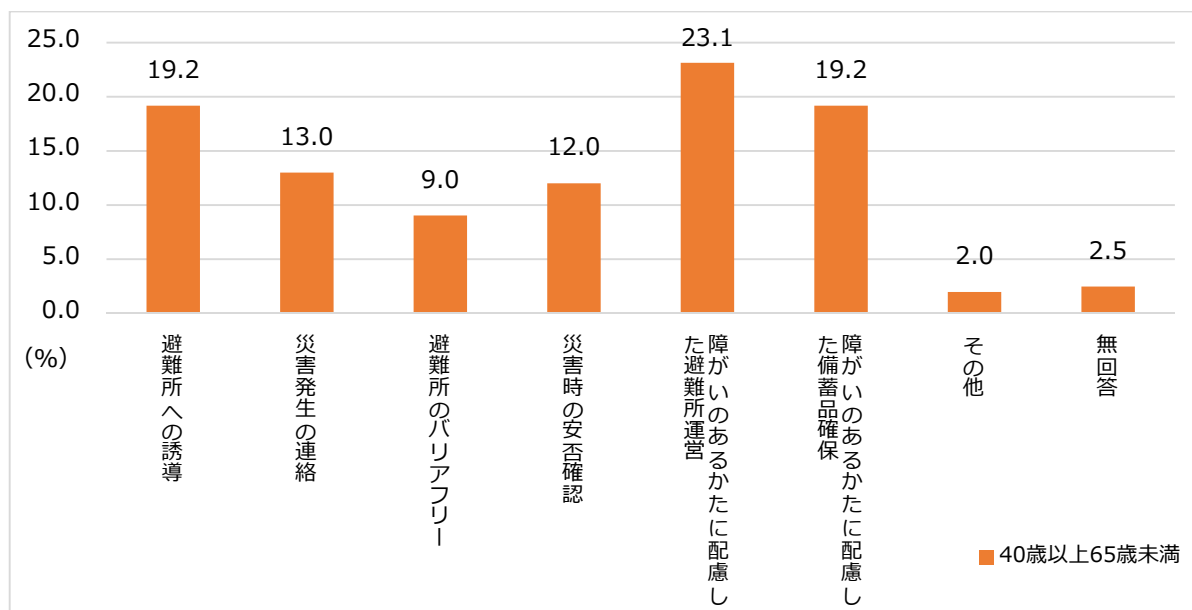
《18 歳未満》



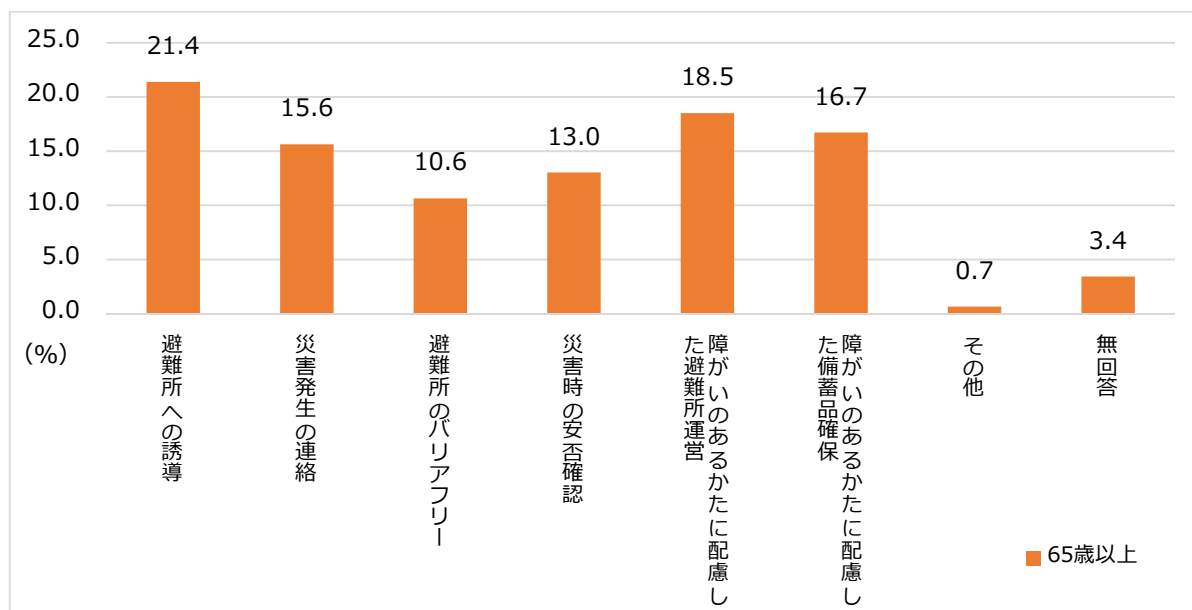
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



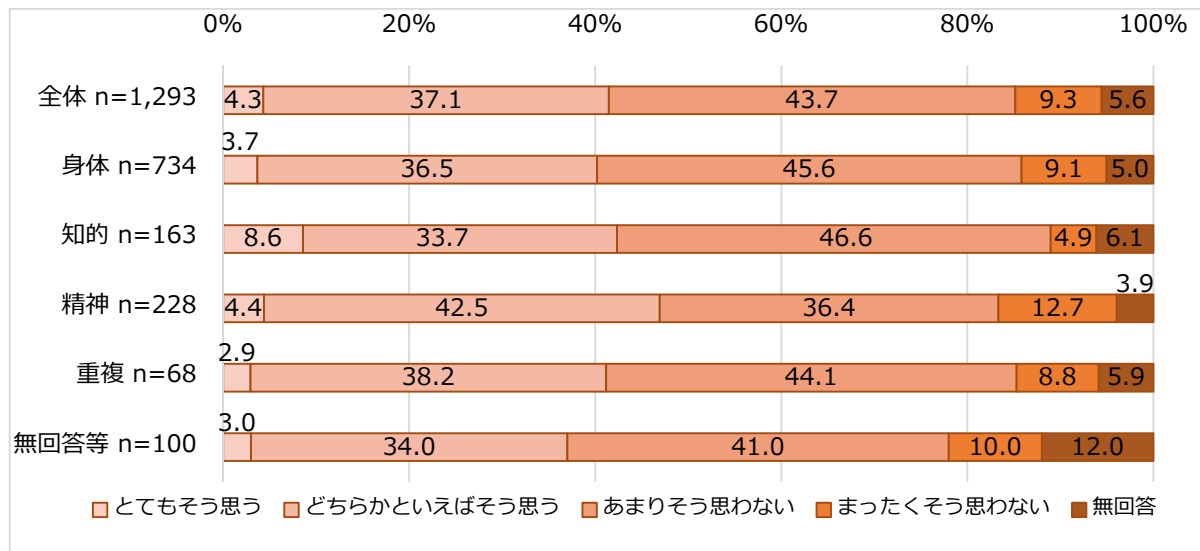
《65 歳以上》



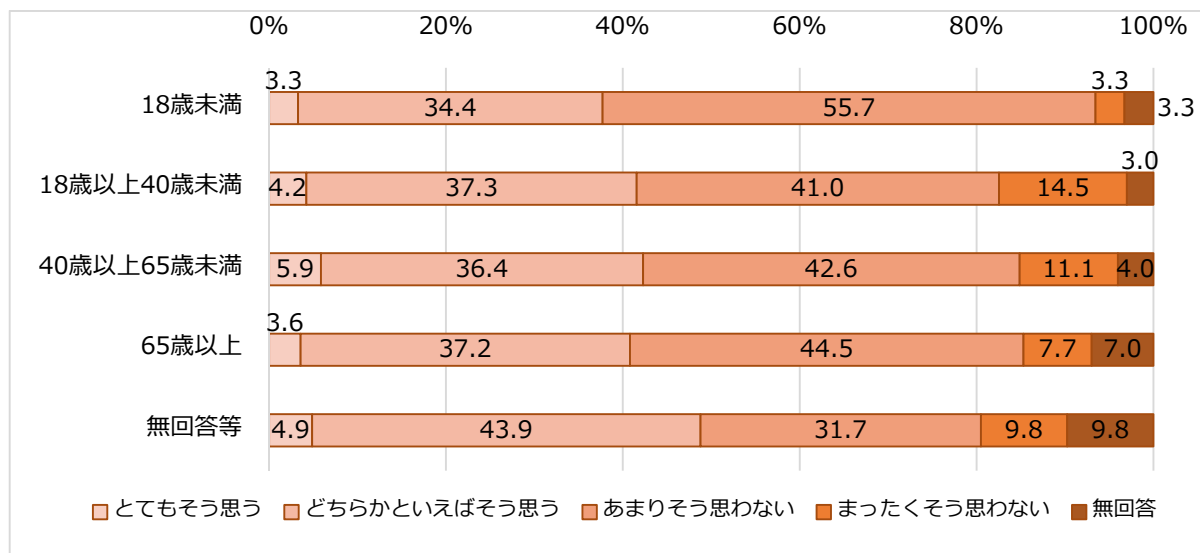
1-11 その他の事項について

問 39 あなたは、青森市は障がいのあるかたにとって暮らしやすいまちだと思いますか。

- 障がいのある方にとって暮らしやすいまちかどうかについては、「あまりそう思わない」が43.7%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が37.1%、「まったくそう思わない」が9.3%、「とてもそう思う」が4.3%となっています。
- 障がい別にみると、「あまりそう思わない」の割合が多くなっています。

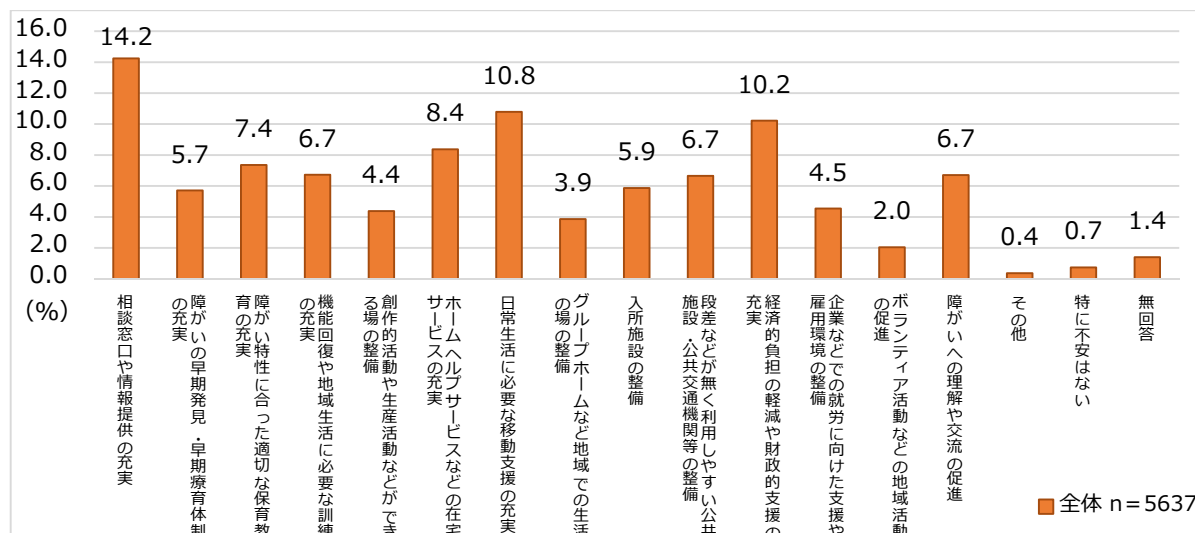


- 年齢別にみると、「あまりそう思わない」の割合が多くなっています。



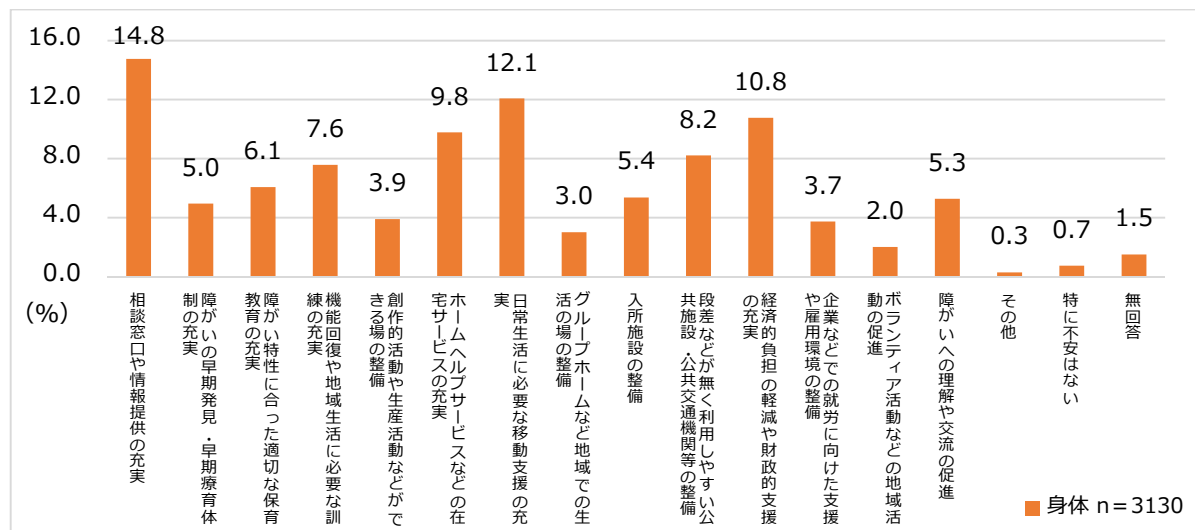
問 40 障がいのあるかたが地域で自立して生活を送るために、重要だと思うことは何ですか。

- 障がいのあるかたが地域で自立して生活を送るために重要だと思うことについては、「相談窓口や情報提供の充実」が 14.2%と最も多く、「日常生活に必要な移動支援の充実」が 10.8%、「経済的負担の軽減や財政的支援の充実」が 10.2%、「ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実」8.4%となっています。

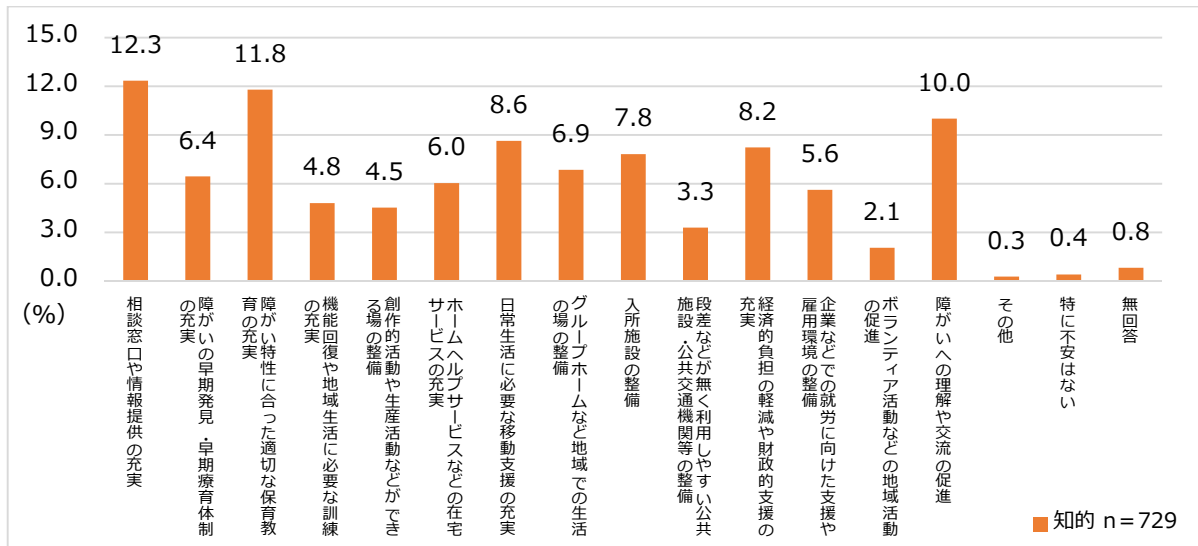


- 障がい別にみると、身体障がいでは、「日常生活に必要な移動支援の充実」の割合が多く、知的障がい、精神障がいでは、「障がいへの理解や交流の促進」の割合が多くなっています。

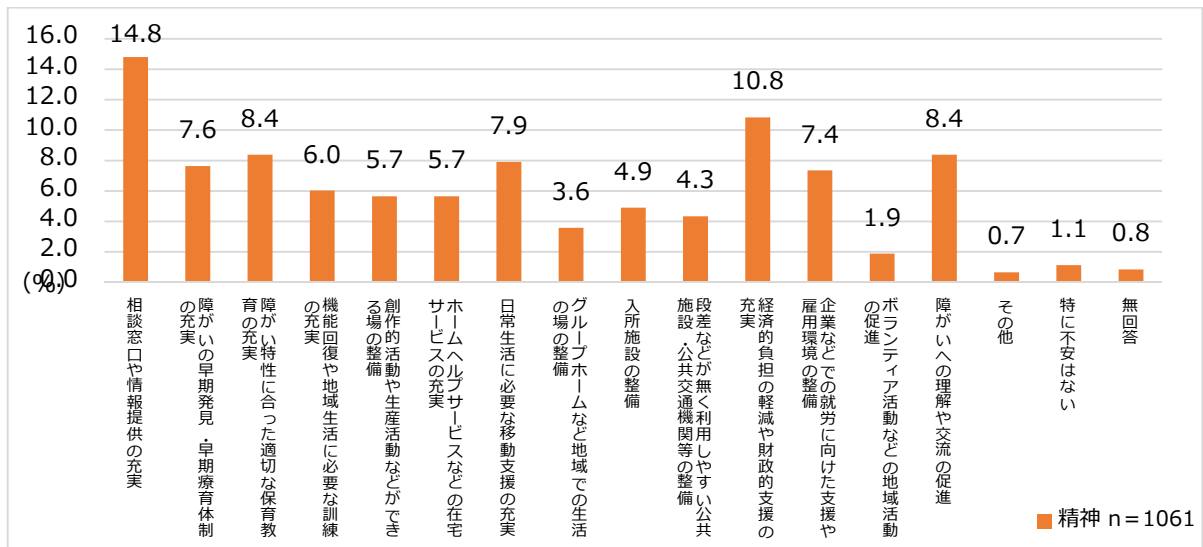
《身体障がい》



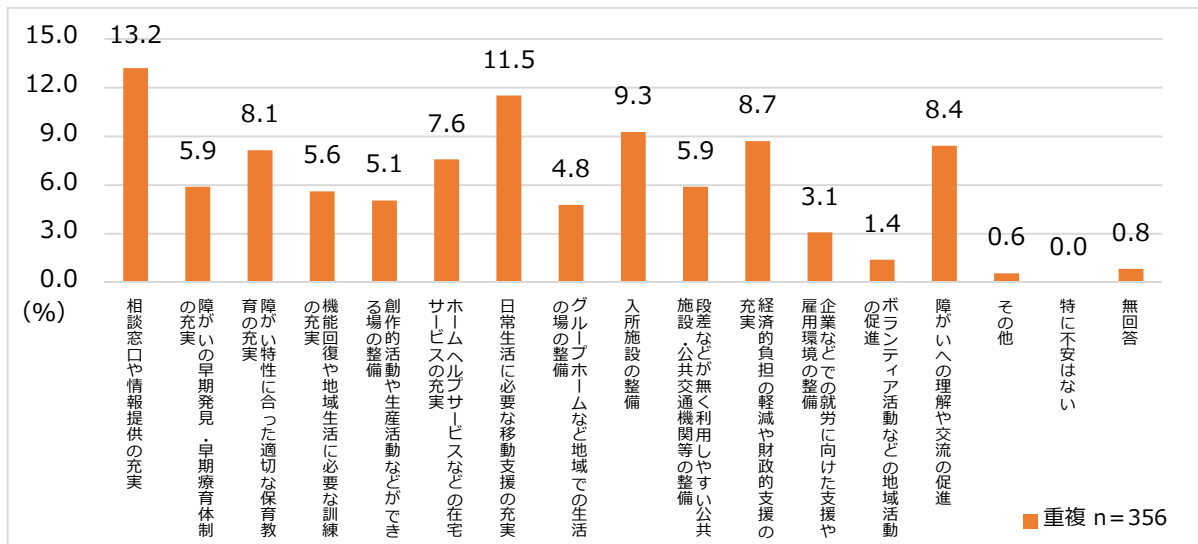
《知的障がい》



《精神障がい》

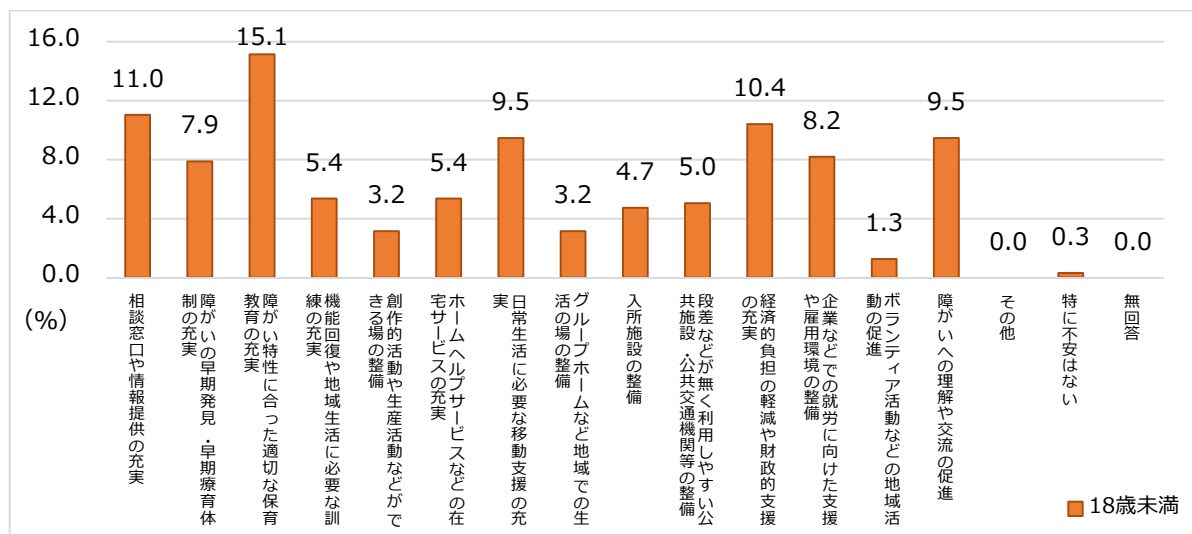


《重複障がい》

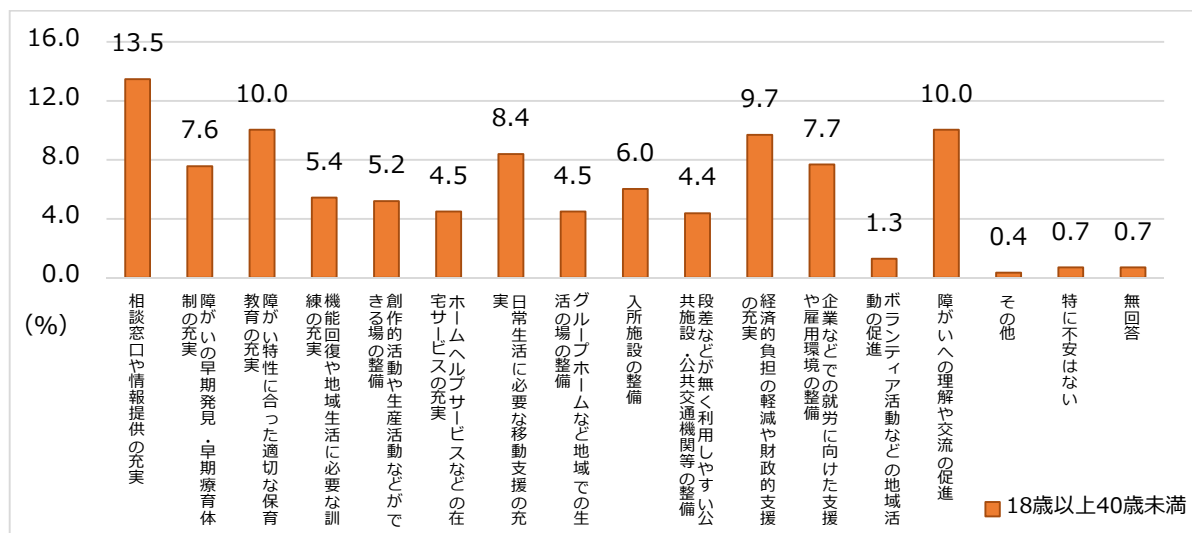


- 年齢別にみると、40 歳未満では「障がい特性に合った適切な保育教育の充実」の割合が多くなっています。40 歳以上では「ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実」の割合が多くなっています。

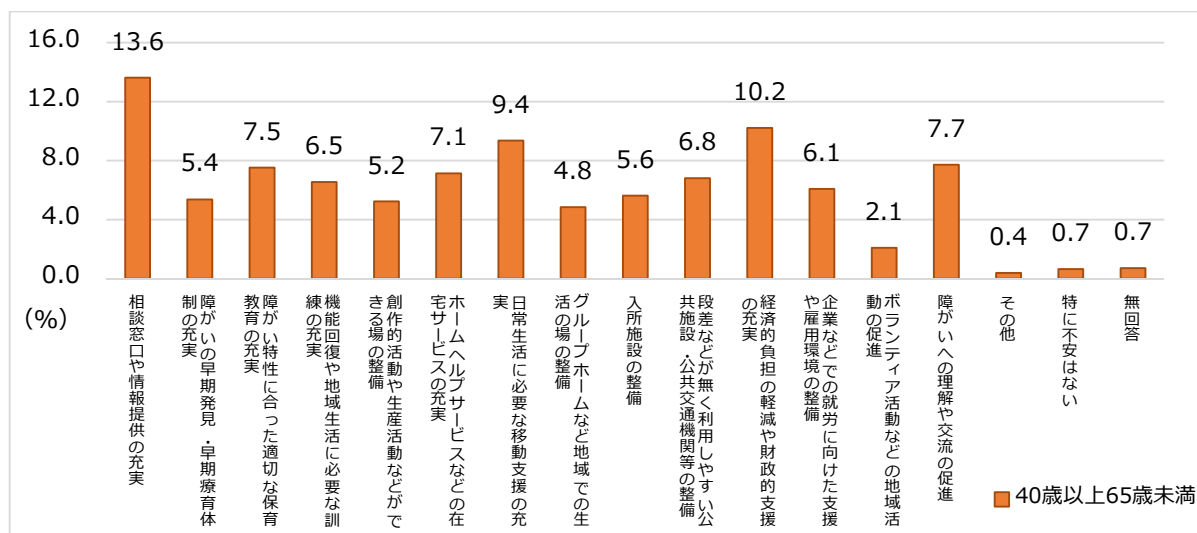
《18 歳未満》



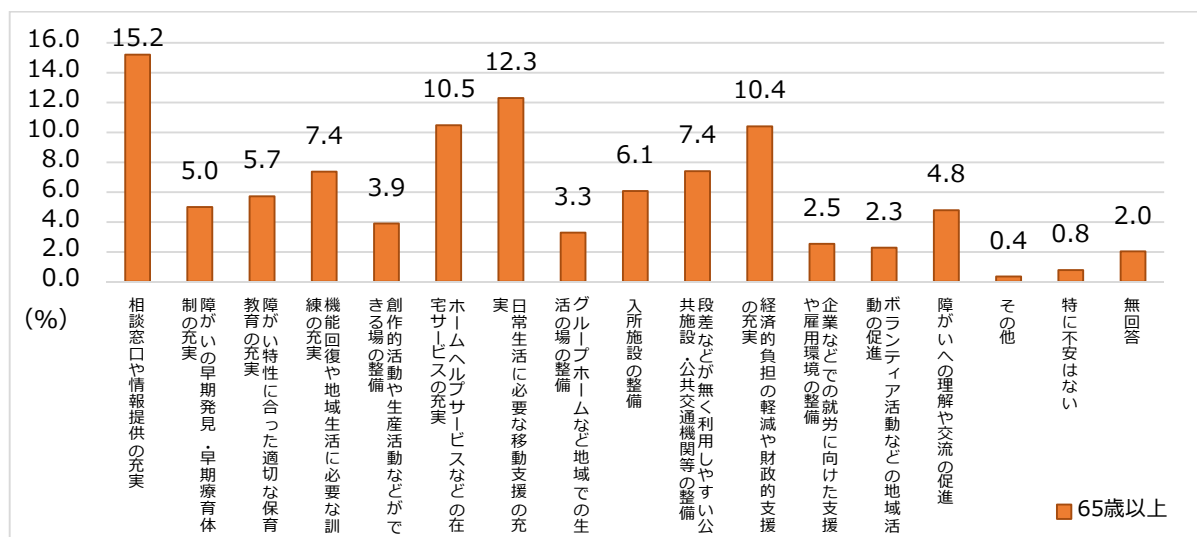
《18 歳以上 40 歳未満》



《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上》



2 事業所調査

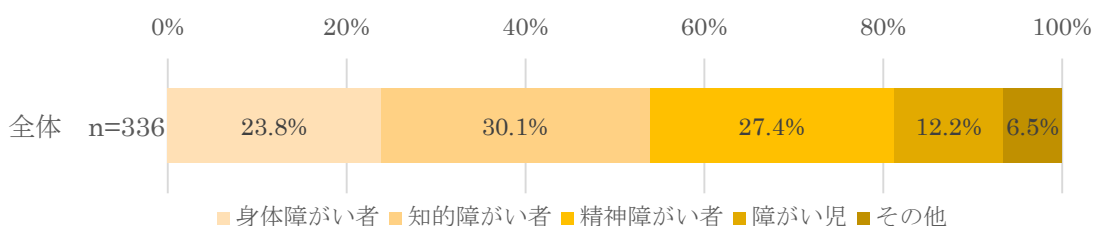
問1 基本情報について

(1) 貴事業所の概要を記入してください。

※ 法人等の名称、事業所の名称や連絡先等の項目であるため省略

(2) 貴事業所が提供しているサービスの主な対象者はどれですか。(当てはまるもの全てに○)

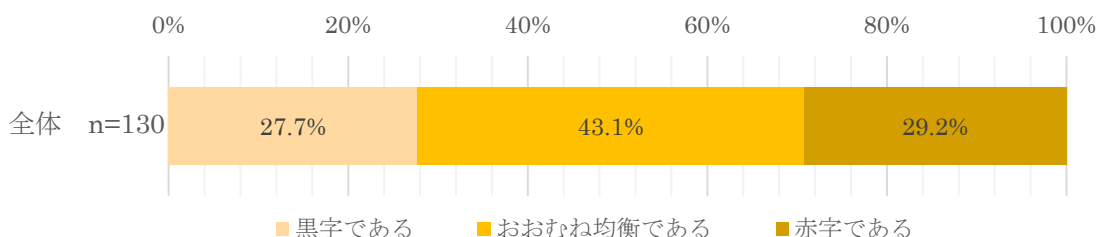
■ サービスの主な対象者については、障がい別の隔たりは少なく、おおむね均衡となっています。



問2 運営状況について

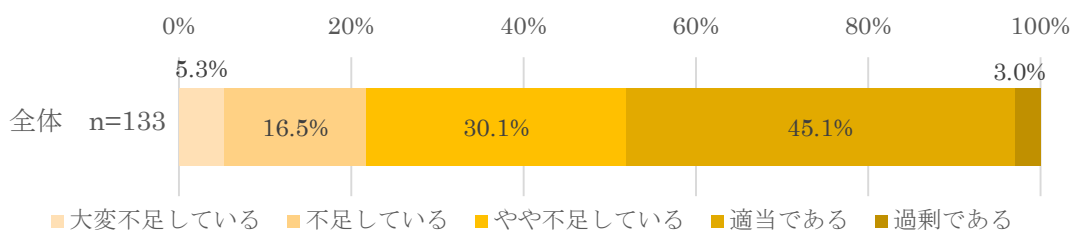
(1) 貴事業所の年間収支状況は次のうちどれですか。(1つに○)

■ 年間収支状況については、「おおむね均衡である」が43.1%と最も多く、次いで「赤字である」が29.2%、「黒字である」が27.7%となっています。



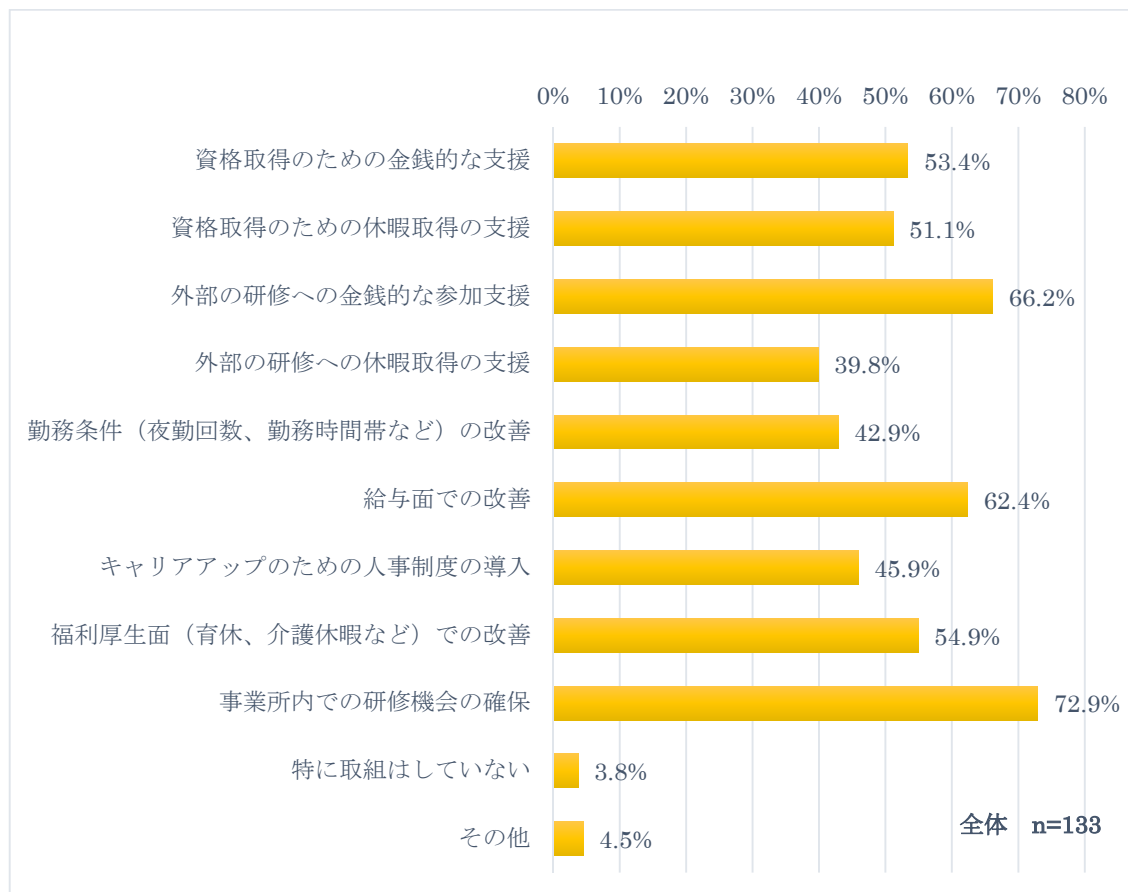
(2) 貴事業所の業務量に対する職員の過不足は次のうちどれですか。(1つに○)

■ 業務量に対する職員の過不足については、「適当である」が45.1%と最も多く、次いで「やや不足している」が30.1%、「不足している」が16.5%、「大変不足している」が5.3%となっています。



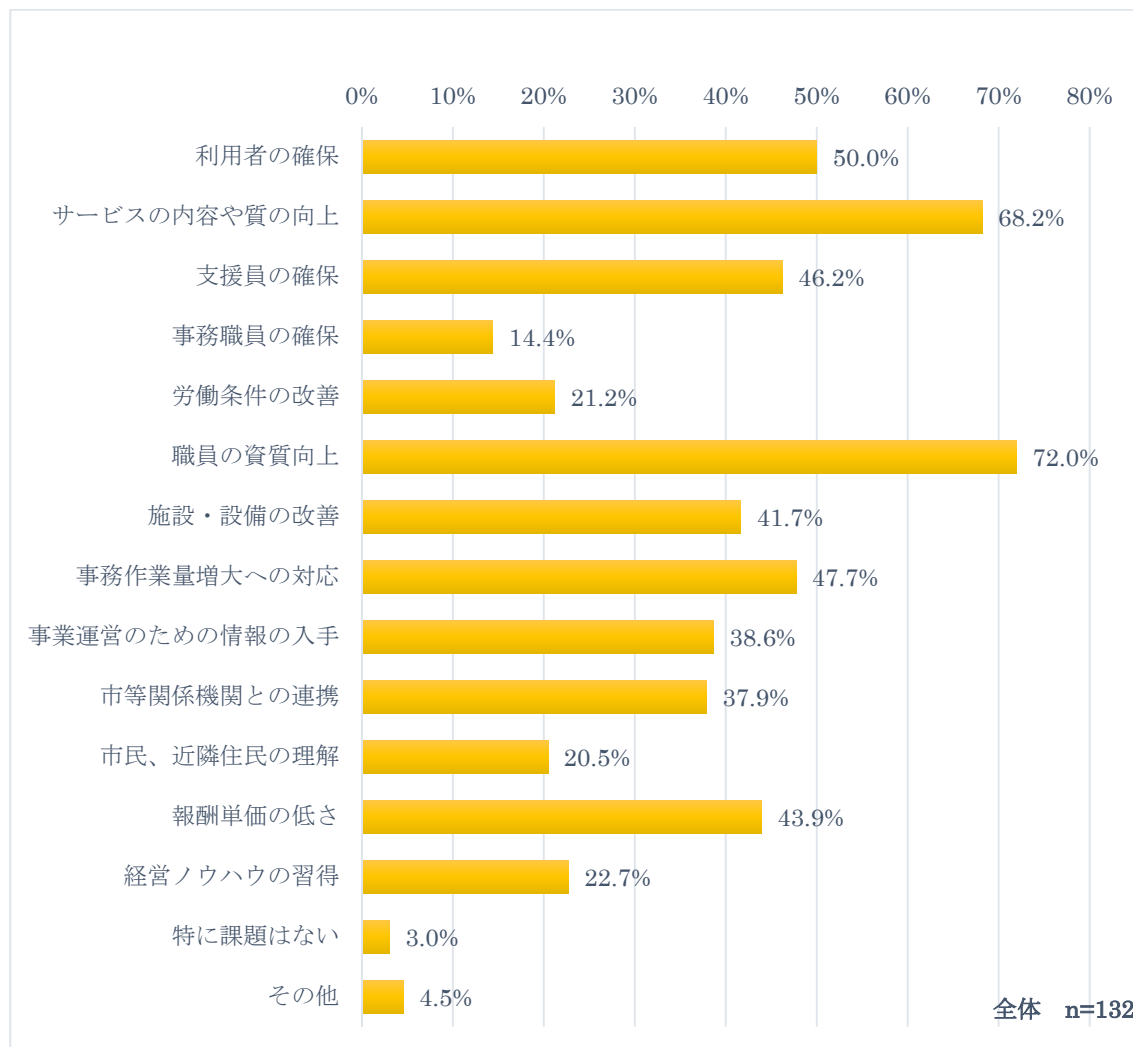
(3) 貴事業所で職員定着のために行っている取組は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 職員定着のために行っている取組については、「事業所内での研修機会の確保」が 72.9%と最も多く、次いで「外部の研修への金銭的な参加支援」が 66.2%、「給与面での改善」が 62.4%となっています。



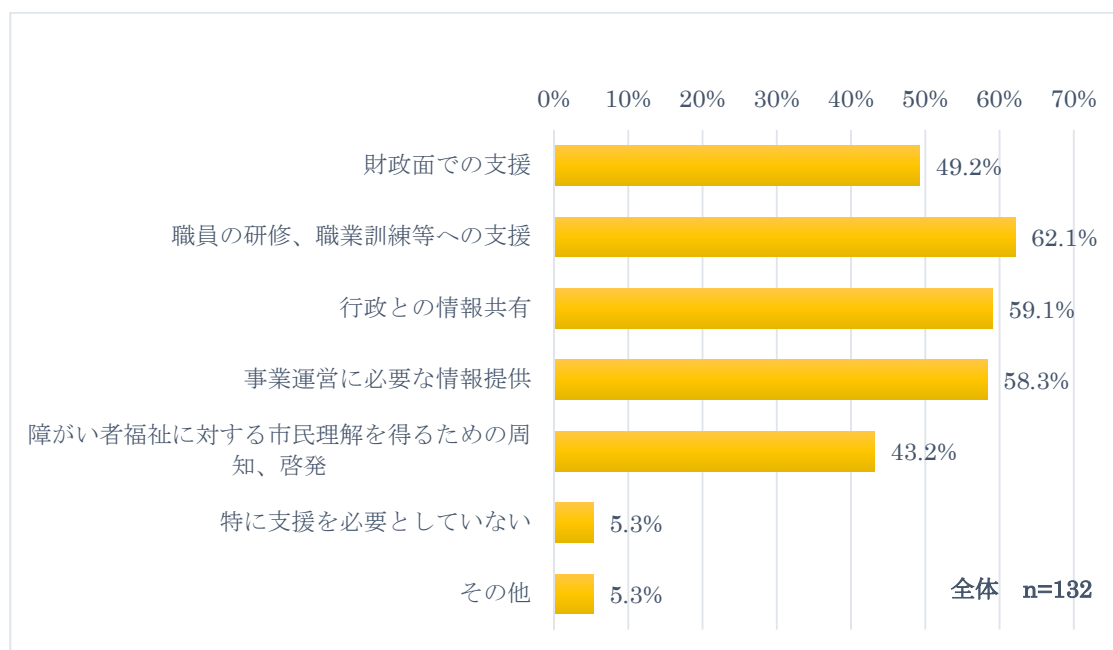
(4) 貴事業所で円滑な事業運営のために改善したい課題は何ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 円滑な事業運営のために改善したい課題については、「職員の資質向上」が72.0%と最も多く、次いで「サービスの内容や質の向上」が68.2%、「利用者の確保」が50.0%、「事務作業量増大への対応」が47.7%、「支援員の確保」が46.2%となっています。



(5) 今後の事業運営にあたって、行政等の関係機関のどのような支援が必要でしょうか。(当てはまるもの全てに○)

- 行政等の関係機関のどのような支援が必要かについては、「職員の研修、職業訓練等への支援」が 62.1%と最も多く、次いで「行政との情報共有」が 59.1%、「事業運営に必要な情報提供」が 58.3%、「財政面での支援」が 49.2%、「障がい者福祉に対する市民理解を得るための周知、啓発」が 43.2%となっています。



問3 利用者数及び今後の動向等について

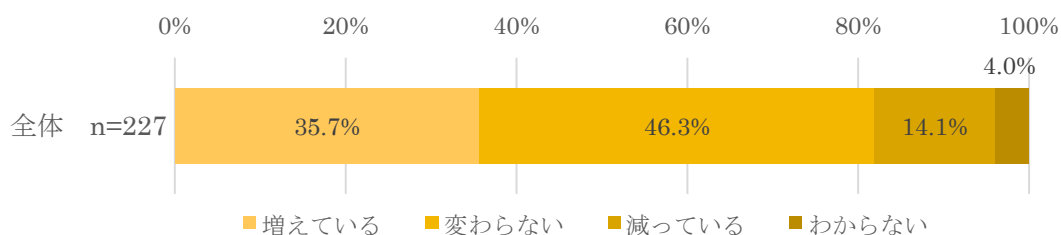
(1) 貴事業所が提供しているサービスについて、定員及び利用者数(契約者数)を記入してください。また、利用者数のうち、青森市の支給決定者についても記入してください。

サービスの種類	回答事業所数 (箇所)	平均定員 (人)	平均利用者数 (人)	うち青森市分 (人)
居宅介護	19	-	10.7	9.9
重度訪問介護	4	-	4.0	4.0
同行援護	2	-	8.0	8.0
行動援護	2	-	2.0	2.0
生活介護	22	13.2	20.0	12.0
自立訓練(機能訓練)	3	35.0	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	7	21.6	8.5	11.5
宿泊型自立訓練	2	16.5	15.5	12.0
就労移行支援	4	15.0	10.0	9.0
就労継続支援A型	16	15.0	10.0	9.0
就労継続支援B型	31	18.5	17.9	17.2
就労定着支援	2	-	12.5	10.5
療養介護	0	-	-	-
自立生活援助	0	-	-	-
短期入所	5	0.8	0.8	0.8
共同生活援助	16	25.3	24.3	9.2
施設入所支援	7	31.4	36.1	0.3
計画相談支援	15	-	117.5	65.7
地域移行支援	4	-	1.8	1.7
地域定着支援	1	-	1.0	1.0
児童発達支援	7	11.4	15.1	14.1
放課後等デイサービス	18	9.4	22.2	22.1
保育所等訪問支援	1	0.0	7.0	5.0
医療型児童発達支援	1	10.0	9.0	6.0
居宅訪問型児童発達支援	1	-	0.0	0.0
障害児相談支援	10	0.0	6.7	6.2
外出介護サービス	3	0.0	8.0	8.0
日中一時支援事業	11	3.7	21.0	20.5

(2) 現在提供しているサービス、または、今後提供を検討しているサービスについて、利用者の動向及びその対応策、また、その対応策の実施予定時期について記入してください。(選択肢から1つだけ選んで番号を記入してください)

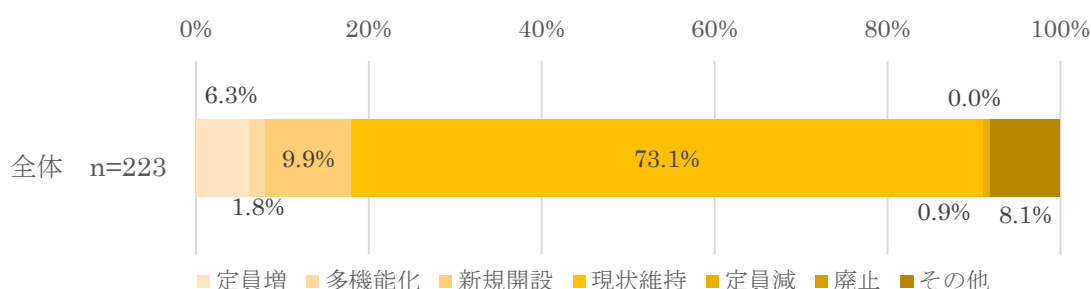
【利用者の動向】

- 利用者の動向については、「変わらない」が46.3%で最も多く、次いで「増えている」が35.7%、「減っている」が14.1%となっています。



【対応策】

- 対応策については、「現状維持」が73.1%で最も多く、次いで「新規開設」が9.9%となっています。廃止と答えた事業所はありませんでした。



問 4 地域生活への移行について

- (1) 青森市の支給決定者のうち、退所されたかたの人数について、年度ごとに記入してください。(死亡を除く)

《施設入所支援事業における地域移行の実績》

(単位：人)

移行先	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
自宅	0	4	0
グループホームなど	4	1	0
アパートなど	0	0	0
その他	4	1	2

- (2) 青森市の支給決定者のうち、今後、退所が見込まれるかたの人数を記入してください。(死亡を除く)

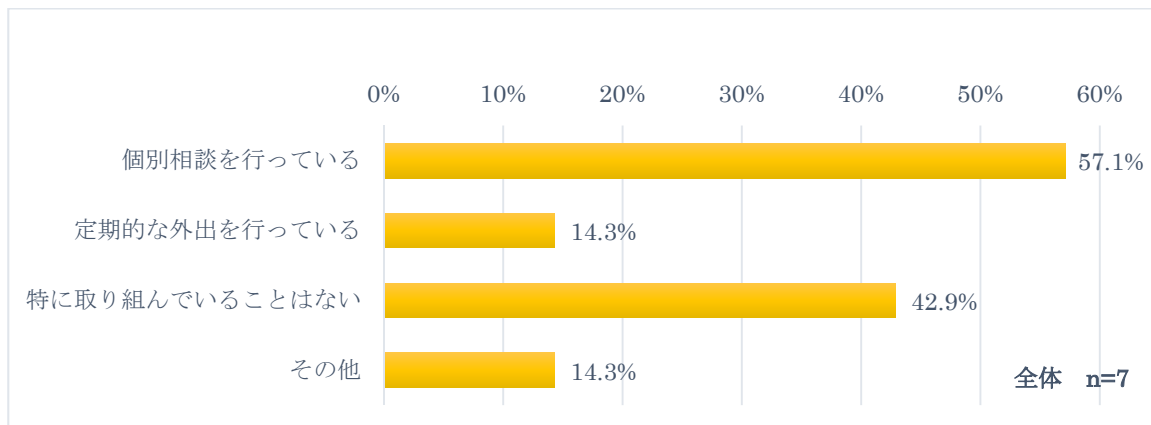
《施設入所支援事業における地域移行の見込》

(単位：人)

移行先	令和 2 年度	令和 3～5 年度 (年度平均)
自宅	0	0
グループホームなど	0	0
アパートなど	0	0
その他	0	0

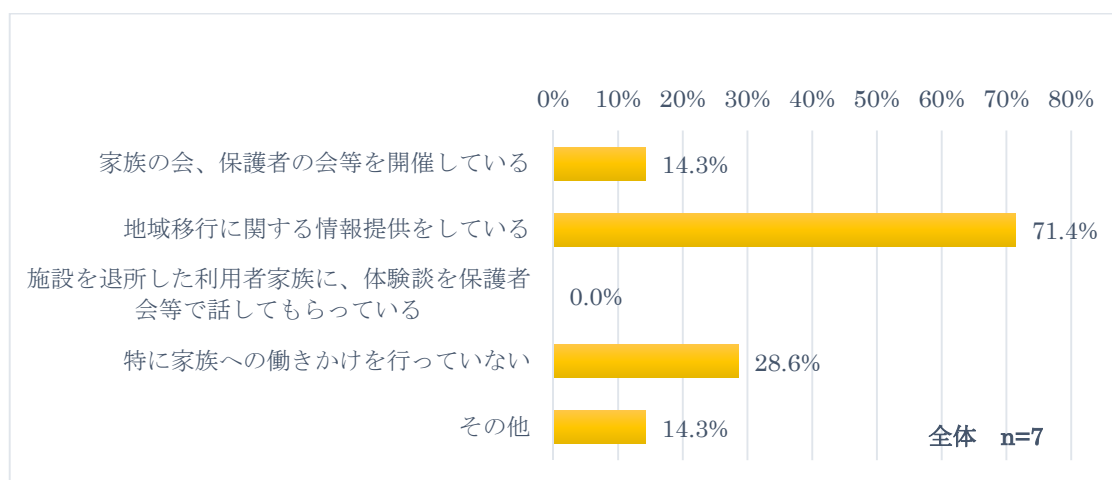
- (3) 地域移行に向けて、利用者の意識を高めるための動機づけについて取り組んでいることがありますか。(当てはまるもの全てに○)

- 施設入所支援事業を提供する事業者における地域移行に向けた利用者の動機づけの取組については、「個別相談を行っている」事業所が 57.1%、次いで「特に行っていることはない」が 42.9%、「定期的な外出を行っている」が 14.3%となっています。



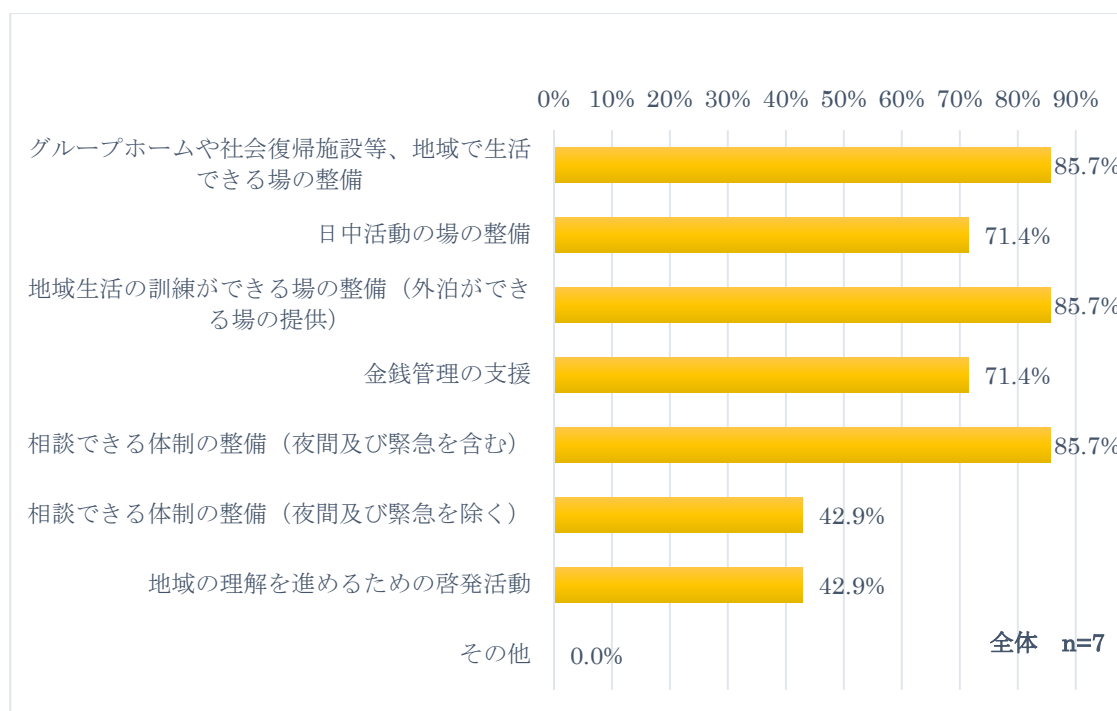
(4) 地域移行への取り組みを進める際、貴事業所では、利用者の家族の理解を得るために、家族に対してどのような働きかけを行っていますか。(当てはまるもの全てに○)

- 家族に対する働きかけについては、回答のあった7事業所のうち71.4%が「地域移行に関する情報提供をしている」に取り組んでいるほか、「家族会、保護者の会等を開催している」事業所が14.3%、一方で「特に家族への働きかけを行っていない」事業所が28.6%ありました。



(5) 地域移行に向けて、必要な条件は何だと思われますか。(当てはまるもの全てに○)

- 地域移行に向けて必要な条件については、「相談できる体制の整備（夜間及び緊急を含む）」、「グループホームや社会復帰施設等、地域で生活できる場の整備」、「地域生活の訓練ができる場の整備（外泊ができる場の提供）」がいずれも85.7%となっています。



問5 貴事業所からの一般就労への移行について

- (1) 青森市の支給決定者のうち、一般就労されたかたの人数について、年度ごとに記入してください。

《就労移行支援事業等における一般就労の実績》

(単位：人)

サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
就労移行支援	16	11	21
就労継続支援 A 型	14	27	27
就労継続支援 B 型	1	3	3
生活介護	0	0	1
自立訓練(機能訓練)	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	0	1	0

- (2) 青森市の支給決定者のうち、今後、一般就労が見込まれるかたの人数について記入してください。

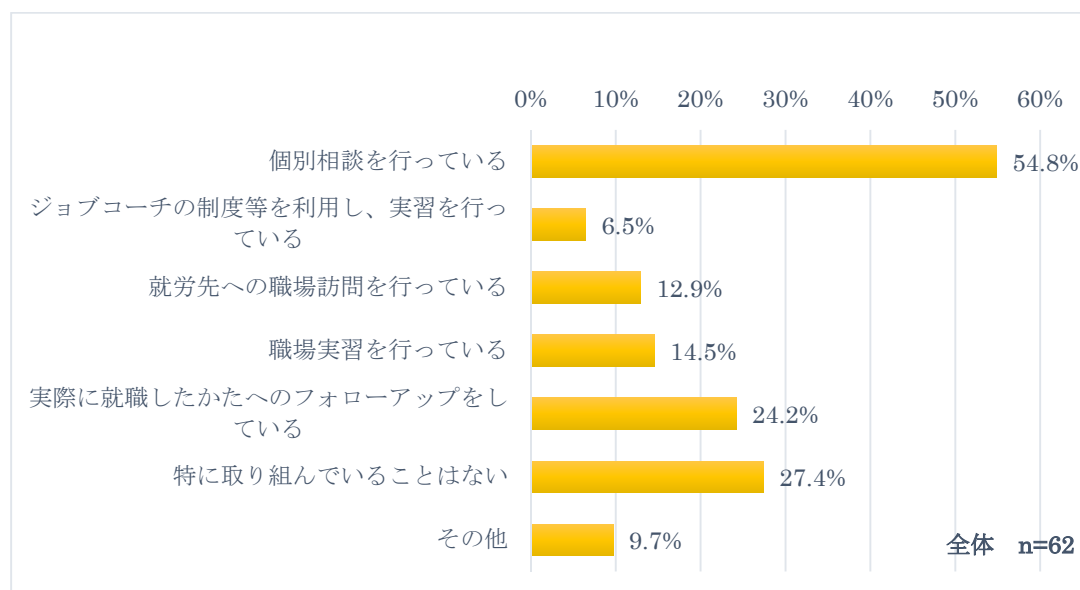
《就労移行支援事業等における一般就労の見込》

(単位：人)

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3～5 年度 (年度平均)
就労移行支援	11	16
就労継続支援 A 型	7	11
就労継続支援 B 型	1	4
生活介護	0	0
自立訓練(機能訓練)	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	0

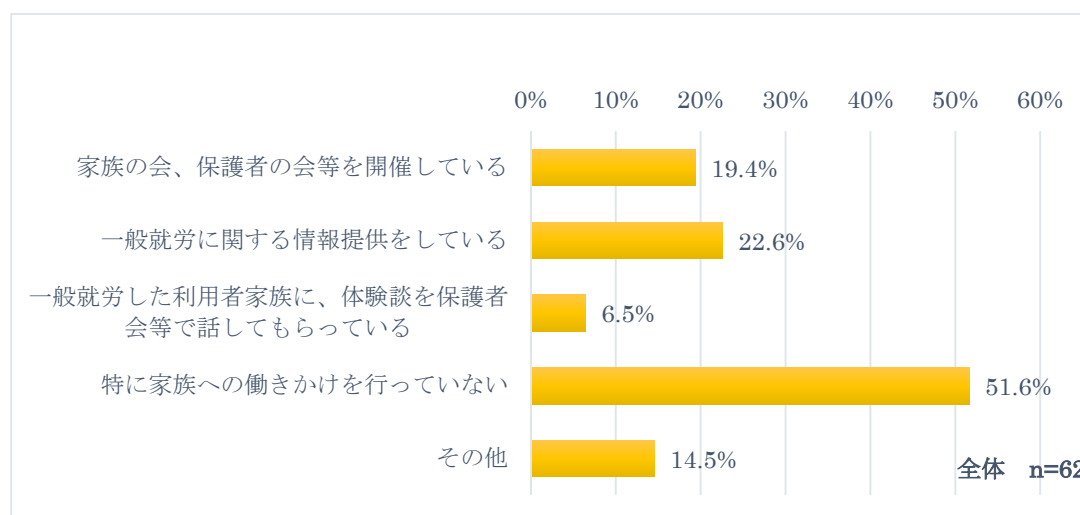
(3) 一般就労に向けて、利用者の意識を高めるための動機づけについて取り組んでいることがありますか。(当てはまるもの全てに○)

- 一般就労に向けた利用者の動機づけの取組については、「個別相談を行っている」が54.8%と最も多く、次いで「特に取り組んでいることはない」が27.4%となっています。



(4) 一般就労への取組を進める際、貴事業所では、利用者の家族の理解を得るために、家族に対してどのような働きかけを行っていますか。(当てはまるもの全てに○)

- 利用者の家族の理解を得るための働きかけについては、「特に家族への働きかけを行っていない」が51.6%と最も多く、次いで「一般就労に関する情報提供をしている」が22.6%となっています。



問6 貴事業所の重症心身障がい児（重度の肢体不自由と重度の知的障がい
が重複した障がい児）の受け入れについて

- (1) 青森市の支給決定者のうち、重症心身障がい児の受入人数について、年度ごとに記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の実績》

(単位：人)

サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
児童発達支援	1	1	0
放課後等デイサービス	22	24	24
保育所等訪問支援	0	0	0
医療型児童発達支援	5	5	5
居宅訪問型児童発達支援	-	0	0
障害児相談支援	10	9	10

- (2) 青森市の支給決定者のうち、今後、重症心身障がい児の受入が見込まれる人数について記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の見込》

(単位：人)

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3～5 年度 (年度平均)
児童発達支援	0	0
放課後等デイサービス	14	13
保育所等訪問支援	0	0
医療型児童発達支援	2	4
居宅訪問型児童発達支援	0	0
障害児相談支援	10	10

問7 貴事業所の医療的ケア（痰吸引や経管栄養など）児の受け入れについて

- (1) 青森市の支給決定者のうち、医療的ケア児の受入人数について、年度ごとに記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の実績》

(単位：人)

サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
児童発達支援	0	0	0
放課後等デイサービス	2	3	2
保育所等訪問支援	0	0	0
医療型児童発達支援	3	4	6
居宅訪問型児童発達支援	-	0	0
障害児相談支援	6	5	5

- (2) 青森市の支給決定者のうち、今後、医療的ケア児の受入が見込まれる人数について記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の見込》

(単位：人)

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3～5 年度 (年度平均)
児童発達支援	0	0
放課後等デイサービス	4	7
保育所等訪問支援	0	0
医療型児童発達支援	3	3
居宅訪問型児童発達支援	0	0
障害児相談支援	5	5

(3) 医療的ケア児を受け入れるための課題は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 医療的ケア児を受け入れるための課題については、「看護師など人員体制の確保」と「設備が不足している」が36.8%と最も多く、次いで「ノウハウがない」が31.6%となっています。

